

HP Client Automation

Core

Starter Edition

Windows® オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン : 7.50

ユーザー ガイド

製造パート番号 : なし

ドキュメントのリリース日 : 2009 年 5 月

ソフトウェアのリリース日 : 2009 年 5 月



ご注意

保証

HP の製品およびサービスで保証されるのは、製品およびサービスに添付される明確な保証文で説明されているものだけです。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

権利の制限

コンピュータ ソフトウェアの機密保持所有、使用、または複製を行う場合には、HP からの正規のライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従い、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および市販品の技術データは、各販売業者の標準営業許可のもとに米国政府にライセンスされています。

著作権

© Copyright 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Apache Software License、Version 1.1

この製品には Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。

Copyright © 1999-2001 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

Microsoft®、Windows®、および Windows® XP は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER

Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER

Copyright © 1983, 1993

The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License
Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License
Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar
Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

Lab PullParser
Copyright © 2002 The Trustees of Indiana University. All rights reserved

この製品には、Indiana University Extreme! Lab が開発したソフトウェアが含まれています詳細
については、<http://www.extreme.indiana.edu/> を参照してください。

ドキュメントの更新

本書のタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとに変ります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版のドキュメントを使用していることを確認したりするには、次の URL に移動してください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトでは、HP Passport に登録し、サインインする必要があります。HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport サインインのページの **[New users - please register]** のリンクをクリックしてください。

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版や新版を受け取ることができます。詳細については、HP 営業担当者までご連絡ください。

サポート

次の HP Software のサポート Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトには、HP Software の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ先情報が掲載されています。

HP Software オンライン サポートでは、お客様自身が問題を解決するために有益な情報を提供します。ビジネスを管理するために必要な対話型技術サポート ツールに素早く効率的にアクセスする方法を提供しています。サポートを受けるお客様は、サポート Web サイトを使用して次のことができます。

- 関心がある知識ドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート連絡先の確認
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア顧客とのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

多くのサポート エリアは、HP Passport のユーザー登録とサインインを必要とします。サポート契約が必要なエリアもあります。HP Passport ID に登録するには、次を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

1 はじめに	17
このマニュアルについて.....	17
2 はじめに	19
Web ベースの HPCA Console へのアクセス.....	19
クイック スタート タスク.....	20
タスク 1: デバイスのインポート.....	22
タスク 2: HPCA Agent の配布.....	23
タスク 3: スケジュールの設定.....	23
タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得.....	24
タスク 5: グループの作成.....	25
タスク 6: ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布.....	26
タスク 7: レポートの生成と表示.....	27
3 ダッシュボードの使用	29
ダッシュボードの概要.....	30
ダッシュボード デバイス.....	33
HPCA オペレーション ダッシュボード.....	34
クライアント接続.....	35
サービス イベント.....	36
ドメイン別 12 か月サービス イベント.....	38
パッチ管理ダッシュボード.....	40
ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー).....	40
ブリテン別デバイス適用状況.....	42
ステータス別デバイス適用状況 (オペレーション ビュー).....	44
Microsoft セキュリティ ブリテン.....	45
最も脆弱性の高い製品.....	46

4 管理	49
デバイス管理	50
ターゲット デバイスの前提条件	50
HPCA の Windows XPE 要件	51
全般	53
デバイス	54
デバイスのインポート	57
[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布	57
HPCA Agent の削除	58
ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索	58
パッチ適用状況の探索	58
リモート制御	59
電源管理	60
アウトバンド管理	61
デバイスを削除	61
デバイスの詳細	62
現在のジョブ	64
過去のジョブ	64
HPCA Agent の手動インストール	64
HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール	65
HP シンクライアント デバイスへの Agent の手動インストール	66
HP Registration and Loading Facility	68
グループ管理	72
全般	72
グループ タイプ	73
グループ	74
グループの作成	76
グループへの HPCA Agent の配布	76
HPCA Agent のグループからの削除	77
グループのソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索	77
グループのパッチ適用状況の探索	78
電源管理	78
グループの削除	78
グループの詳細	79
[グループの詳細] ウィンドウのタスク	81
スタティック グループでのデバイスの追加と削除	81
グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除	81

グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期	82
グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除	83
グループへのパッチの配布	83
現在のジョブ	84
過去のジョブ	84
ソフトウェア管理	85
全般	85
ソフトウェア	86
ソフトウェアの配布	88
グループ エンタイトルメントの追加	88
サービスのインポート	89
サービスのエクスポート	89
HPCA からのソフトウェアの削除	90
ソフトウェアの詳細	90
現在のジョブ	93
過去のジョブ	93
パッチ管理	95
Microsoft Update Catalog: OS とサービス パックの最低要件	95
Microsoft 自動更新に関する重要な情報	96
全般	98
パッチ	99
パッチの配布	100
グループ エンタイトルメントの追加	100
サービスのインポート	100
サービスのエクスポート	101
パッチの詳細	101
現在のジョブ	103
過去のジョブ	104
OS 管理	105
全般	105
オペレーティング システム	106
オペレーティング システムの配布	107
ローカル サービスの起動 (LSB: Local Service Boot) を使用した	
OS イメージの配布	111
PXE を使用した OS イメージの配布	112
サービス CD を使用した OS イメージの配布	113
グループ エンタイトルメントの追加	114

サービスのインポート	114
サービスのエクスポート	115
オペレーティング システムのライブラリからの削除	115
オペレーティング システムの復元	115
OS の詳細	118
現在のジョブ	120
過去のジョブ	120
ジョブ管理	120
全般	121
現在のジョブ	121
ジョブ コントロール	121
Job Status	122
ジョブの詳細	124
過去のジョブ	125
5 レポートの使用	127
レポートの概要	128
レポート間の移動	129
レポートのタイプ	131
インベントリ管理レポート	132
HP ハードウェア レポート	133
パッチ管理レポート	133
詳細な情報への掘り下げ	134
レポートのフィルタ	134
ダイナミック レポート グループの作成	137
6 オペレーション	139
インフラストラクチャ管理	140
サポート	140
ログ ファイルのダウンロード	140
データベース メンテナンス	141
アウトバンド管理	141
プロビジョニングと設定情報	142
DASH 設定関連ドキュメント	142
DASH 設定ユーティリティ	143
デバイス管理	143

グループ管理	144
警告の通知	145
パッチ管理	145
同期を実行	145
取得履歴を表示	146
7 設定	147
ライセンス	147
アクセス制御	148
Core コンソールのアクセス制御	148
[ユーザー] パネル	149
[ロール] パネル	151
インフラストラクチャ管理	152
プロキシ設定	152
SSL	153
SSL サーバー	153
SSL クライアント	154
データベース設定	154
サイトおよびサービス	155
サーバー	156
ロケーション	162
デバイス管理	165
警告中	165
CMI	165
S.M.A.R.T.	166
信頼できるプラットフォーム モジュール	167
パッチ管理	168
データベース設定	169
取得ジョブ	169
アウトバンド管理	172
使用可能性	172
デバイス タイプの選択	173
DASH デバイス	173
vPro デバイス	173
両方	174

デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション.....	174
vPro システム保護の設定	174
OS 管理.....	175
設定	176
配布	176
ダッシュボード.....	177
HPCA 操作.....	177
パッチ管理	178
8 ウィザード.....	181
デバイス インポート ウィザード	182
エージェント配布ウィザード	183
エージェント削除ウィザード	184
ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード.....	185
パッチの適用状況探索ウィザード.....	186
電源管理ウィザード	187
グループ作成ウィザード.....	188
ソフトウェア配布ウィザード	191
サービス インポート ウィザード	192
サービス エクスポート ウィザード.....	192
ソフトウェア同期ウィザード	193
パッチ配布ウィザード.....	194
サービス エンタイトルメント ウィザード	195
ソフトウェア削除ウィザード	195
OS 配布ウィザード.....	196
インフラストラクチャ配布ウィザード	198
インフラストラクチャ削除ウィザード.....	198
インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザード.....	199
9 OS イメージの準備と取得	201
シンクライアント イメージの準備と取得	201
Windows XPe OS イメージ.....	202
タスク 1 – XPe 参照マシンの準備	202
タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行.....	202
Windows CE OS イメージ.....	205

タスク 1 – CE 参照マシンの準備	205
タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行.....	206
Embedded Linux OS イメージ	208
タスク 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備	208
タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行.....	209
OS イメージのパブリッシュおよび配布.....	212
10 Publisher の使用	213
HP Softpaq のパブリッシュ	214
BIOS 設定のパブリッシュ	216
BIOS 設定ファイルの作成.....	217
シンクライアントのパブリッシュ	218
シンクライアントのコンポーネントの選択でのパブリッシュ.....	218
シンクライアントの OS イメージでのパブリッシュ	220
パブリッシュされたサービスの表示.....	222
HP Client Automation Administrator Agent Explorer	222
11 Application Self-Service Manager の使用.....	223
Application Self-Service Manager へのアクセス	224
Application Self-Service Manager の概要.....	224
グローバル ツールバー	226
メニュー バー.....	226
カタログ リスト	227
仮想カタログ.....	227
サービス リスト.....	227
Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用.....	228
ソフトウェアのインストール.....	229
カタログのリフレッシュ	230
情報の表示.....	230
ソフトウェアの削除.....	231
ソフトウェアの検証.....	232
ソフトウェアの修復.....	232
履歴の表示.....	232
バンド幅の調整	233
ステータスの表示.....	233
ユーザー インターフェイスのカスタマイズ.....	235

全般オプション	235
サービス リスト オプション	237
表示のカスタマイズ	238
接続オプション	240
HPCA System Tray アイコン	241
[HPCA ステータス] ウィンドウ	242
12 Personality Backup and Restore	245
要件	246
オペレーティング システム	246
ディスク容量	246
ソフトウェア	247
ユーザー状態移行ツール	247
サポートされるファイル、アプリケーション、および設定	248
Microsoft USMT 3.0.1 の入手とインストール	248
Microsoft USMT 3.0.1 の入手	249
管理対象デバイスでの USMT 3.0.1 のインストール	249
移行ファイル	249
ルールの編集	250
Core Server への移行ルールの保存	250
ScanState コマンドラインと LoadState コマンドライン	250
HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用	251
パーソナリティのバックアップ	252
保管されたファイルおよび設定	253
パーソナリティの復元	253
トラブルシューティング	256
バックアップまたは復元が正常に完了しなかった	256
ユーザーがパスワードを忘れたためデータを復元できない	256
13 よく寄せられる質問	259
HPCA Console にはどうやってアクセスしますか?	260
どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか?	260
コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか?	260
自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか?	261
インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか?	261
管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか?	262

パッチ取得はどのようにして自動化できますか?.....	262
パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか?.....	263
管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか?.....	263
ライセンス キーはどのようにして更新しますか?.....	264
OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか?..	264
ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか?.....	265
コンソールを使用せずに HPCA Agent をインストールするには、どのようにしますか?..	265
Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか?...	265
setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか?.....	266
全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか?.....	266
ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか?..	267
デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか?.....	267
OS イメージを取得するには、どのようにしますか?.....	267
OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか?.....	268
OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか?.....	268
OS イメージを配布するには、どのようにしますか?.....	268
14 トラブルシューティング	271
ログ ファイル.....	271
エージェント配布の問題.....	273
OS 配布の問題.....	274
Application Self-Service Manager の問題.....	275
電源管理の問題.....	275
パッチ管理の問題.....	276
HPCA Server のトラブルシューティング.....	276
HPCA Core コンポーネントのトラブルシューティング.....	276
HPCA Cpre の設定ファイル.....	276
HPCA Core のログ ファイル.....	279
ブラウザの問題.....	280
F5 キーを使用してページをリフレッシュできない.....	280
Internet Explorer 6 と SSL を使用して HTTP 1.1 を有効化できない.....	280
リモート制御を使用するとブラウザでエラーが発生する.....	281
ダッシュボードの問題.....	282
ダッシュボード レイアウト設定の削除.....	282

ダッシュボード ペインのロード状態が終了しない	282
RSS クエリに失敗する	283
その他の問題	284
レポートを開けない	284
追加のパラメータが HPCA ジョブのウィザードで無視される	285
仮想マシンが起動しない	286
クエリが限界に達しました	286
A HPCA Core Server と HPCA Satellite Server での SSL 設定	289
SSL の構成要素	289
HPCA 環境での SSL	290
リモート サービスへの SSL 通信のサポート	290
コンシューマへのセキュアな通信サービスの提供	290
Console の SSL 証明書フィールド	291
SSL サーバー	291
SSL クライアント	292
B 2 バイト文字のサポートについて	293
サポートされる言語	293
ロケールの変更	294
Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート	294
索引	295

1 はじめに

HP Client Automation < ライセンス タイプ。は、PC ソフトウェア設定管理ソリューションです。OS イメージの配布、パッチの管理、リモート コントロール、HP ハードウェアのドライバや BIOS の更新、およびソフトウェアの配布と利用状況の測定などのソフトウェアおよび HP ハードウェア管理機能すべてを、Web ベースの統合コンソールから提供します。

このマニュアルについて

このガイドでは、HP Client Automation console、Publisher、Application Self-Service Manager、および Image Preparation Wizard を使用するための詳細な情報を提供し、手順について説明します。

HPCA Core および Satellites サーバーのインストールと初期設定の要件および方法については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門およびコンセプト ガイド』を参照してください。

2 はじめに

HPCA のインストールと設定が完了し、Web ベースの HPCA Console (コンソール) を使用してお使いの環境のクライアント マシンの管理を始める準備ができました。

この章では、HPCA を使用して企業内のクライアント マシンの管理を始める前に、完了しておく必要のある重要なタスクについて説明します。

- Web ベースの HPCA Console へのアクセス 19 ページ
- クイック スタート タスク 20 ページ

Web ベースの HPCA Console へのアクセス

HPCA Server にはコンソールが付属しており、そこからさまざまな管理タスクや設定タスクを実行できます。これらのタスクの詳細については、139 ページの「オペレーション」および 147 ページの「設定」を参照してください。

HPCA Console は、次の 3 つの方法のいずれかを使用して起動およびアクセスすることができます。

- サーバーがインストールされているマシンで、[HP Client Automation Console] デスクトップ アイコンをダブルクリックします。
- HPCA Server がインストールされているマシンで、Windows の [スタート] メニュー パスに移動します ([HP Client Automation] > [Client Automation Console])。
- 環境内の任意のデバイスで Web ブラウザを開き、次の URL に移動します。

http://HPCA_host:3466/

ここで、HPCA_host は、HPCA がインストールされているサーバーの名前です。

どの方法でも HPCA Console が起動され、ログイン認証情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。

プロンプトが表示されたら、ユーザー名とパスワードを指定し、[**サインイン**] をクリックします。デフォルトのユーザー名は **admin**、デフォルトのパスワードは **secret** です。

デフォルトのユーザー名とパスワードの変更方法、コンソールへのアクセス権限リストにユーザーを追加する方法については、147 ページの「**設定**」を参照してください。セキュアな通信のためにコンソールで **SSL** を有効にする方法については、153 ページの「**SSL**」を参照してください。

重要

- ウィザードを実行したり警告を表示するときに、**HPCA Console** が別のブラウザ インスタンスを開く場合があります。これらのウィザードや警告にアクセスするには、ブラウザのポップアップブロック設定で [許可されたサイト] に **HPCA** を指定します。
- セキュリティのため、**HPCA** では、20 分間操作を行わないと、自動的に現在のユーザーがログアウトされます。コンソールの使用を続けるには、再度ログインする必要があります。
- コンソールの [**レポート**] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、**Java Runtime** または **Java Virtual Machine** が必要です。**Java** は、<http://java.com/en/index.jsp> からインストールできます。
- **Windows 2003 Server:** Windows 2003 Server オペレーティング システムがインストールされたデバイスで **HPCA** にローカル アクセスできるようにするには、**ローカル エリア ネットワーク (LAN)** の設定で [**ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない**] を有効にする必要があります。

クイック スタート タスク

この章では、環境を素早くセットアップし、すぐに **HPCA** を使用してクライアント デバイスを管理できるようにする一連のタスクについて説明します。その他にも管理、レポート、パッチ管理、配布、および操作機能を使用できますが、これらの初期クイック スタート タスクは、ユーザーが **HPCA** の機能を知り、インストール後、できるだけ早く使用を開始できるようにすることを目的に設計されています。

次のクイック スタート タスクがあります。これらのタスクは、説明された順序に沿って実行する必要があります。

タスク 1: デバイスのインポート 22 ページ

クライアント デバイスを **HPCA** 環境にインポートして、デバイスが **HPCA Server** に認識されるようにします。

タスク 2: HPCA Agent の配布 23 ページ

HPCA Agent をクライアント デバイスに配布およびインストールして、**HPCA** で制御できるようにします。

タスク 3: スケジュールの設定 23 ページ

インベントリ確認やパッチ管理のスケジュールを設定します。

タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得 24 ページ

HPCA の管理対象デバイスへの配布用にソフトウェア パッケージを準備し、パッチ取得スケジュールに従って自動的にパッチをダウンロードします。ソフトウェア パッケージとパッチは、それぞれのライブラリに格納されます。

タスク 5: グループの作成 25 ページ

ソフトウェアとパッチを効率よく配布するために、ターゲット デバイスのグループを作成します。

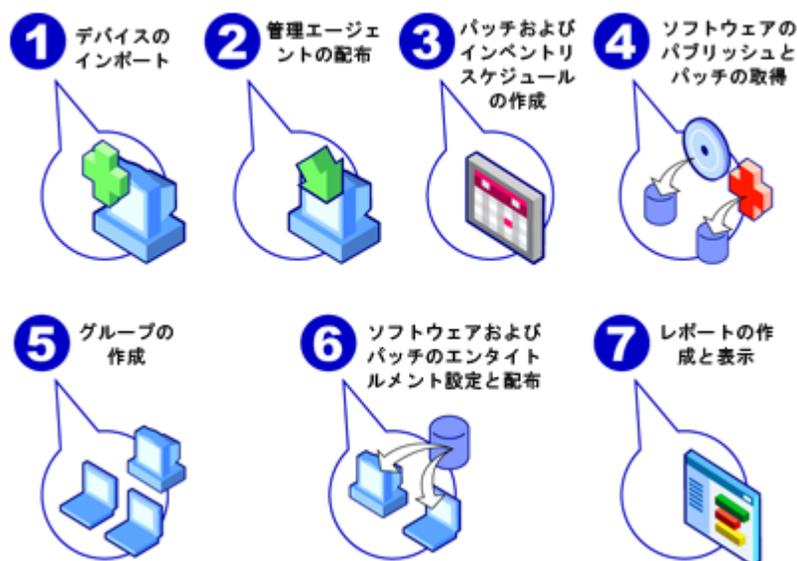
タスク 6: ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布 26 ページ

ユーザーとデバイスにソフトウェア パッケージのエンタイトルメントを設定することで、ユーザーがいつどのソフトウェアをダウンロードするかを選択できるようになります。通常、パッチはユーザーの介入や認識なしにダウンロードされます。

タスク 7: レポートの生成と表示 27 ページ

印刷および配布が可能なレポートを生成および表示します。レポートは、カスタマイズ可能で、**HPCA** 管理対象デバイスに関するさまざまな情報に基づいています。

図 1 クイック スタート タスクの概要



タスク 1: デバイスのインポート

使用環境にある HPCA の管理対象デバイスを (HPCA に) インポートする必要があります。これにより、それらのデバイスが HPCA によって認識されるため、インベントリ情報を収集したり、ソフトウェアやパッチを配布したりできるようになります。

- 1 [管理] タブで、[デバイス管理]、[全般] タブの順に選択し、[インポート] をクリックして「デバイス インポート ウィザード」を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

▶ ほとんどのタスクは、[現在のジョブ] タブおよび [過去のジョブ] タブまたは [ジョブ管理] セクションで監視できるジョブを生成します。

デバイスがインポートされたら、「タスク 2: HPCA Agent の配布」に進んでソフトウェア、パッチ、およびインベントリの管理を行います。

タスク 2: HPCA Agent の配布

デバイスがインポートされたら、**HPCA Agent** を配布します。

- 1 [管理] タブで、[デバイス管理]、[全般] タブの順に選択し、**[配布]** をクリックして「エージェント配布ウィザード」を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、インポートしたデバイスに **HPCA Agent** を配布します。

Windows Vista に関する注意事項

ローカルに定義された管理者に対しては、**Windows Vista** デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、**Windows Vista** デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の認証情報を、**HPCA Console** を通じて **HPCA Agent** の配布中に指定する必要があります。

デバイスがドメインの一部でない場合、ローカルの管理者にアクセスを許可するために、追加の手順を実行する必要があります (Microsoft サポート技術情報の記事、「[Error message when you try to access an administrative share on a Windows Vista-based computer](#)」に詳しく解説されています)。

これらの変更が終了したら、デバイスを再起動します。

これでデバイスの管理を開始できました。「**タスク 3: スケジュールの設定**」に進んで、インベントリの収集、パッチの適用状況スキャン、およびパッチの取得を行います。

タスク 3: スケジュールの設定

インベントリおよびパッチ取得のスケジュールを開始するには、「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」と [設定] タブを使用します。

インベントリ スケジュールを設定するには

- 1 [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブで、デバイスの左側にあるチェックボックスをオンにして、1 つ以上のデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集 

はじめに**

- 3 185 ページの「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」の手順に従って、デバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。

パッチ取得のスケジューリングおよび設定を行うには

[設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得の設定およびスケジュールを設定します。

- 1 [パッチ管理] セクションを展開し、**[取得]** をクリックします。
- 2 [スケジュール] タブを使用して、パッチ取得のスケジュールを指定します。
- 3 [設定] タブで、必要な **Microsoft** ブリテンと **HP SoftPaq** 取得の設定を指定します。



Microsoft パッチ管理は、**HPCA Standard Edition** でのみ使用できます。

パッチ適用状況探索スケジュールを設定するには

- 1 [デバイス管理] 領域の [デバイス] タブで、デバイスの左側にあるチェックボックスをオンにして、1つ以上のデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集 ** をクリックし、**[パッチの適用状況の探索]** を選択して、「**パッチの適用状況探索ウィザード**」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、該当するデバイスとグループに対するパッチ適用状況スケジュールを作成します。

スケジュールを設定したら、「**タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得**」に進みます。

タスク 4: ソフトウェアのパブリッシュとパッチの取得

管理対象のデバイスにソフトウェアやパッチを配布する前に、ソフトウェア ライブラリおよびパッチ ライブラリにソフトウェアやパッチを格納する必要があります。

- 1 ソフトウェアを **HPCA** データベースにパブリッシュするには、**Publisher** を使用します。

- ソフトウェア サービスの設定およびパブリッシュを行う側のマシンで **Publisher** を起動します。詳細については、**Publisher** のオンラインヘルプ、または 213 ページの「**Publisher** の使用」を参照してください。

▶ **Starter** ライセンスには、**HP SoftPak** および **BIOS** 設定をパブリッシュするためのオプションが含まれます。また、シンクライアントに限り、ソフトウェアおよび **OS** イメージをパブリッシュするオプションが含まれます。

Standard ライセンスには、ソフトウェアおよびオペレーティングシステム イメージをパブリッシュするためのオプションに加え、これらのオプションが含まれます。

2 HP または Microsoft からパッチを取得して、パッチ ライブラリに格納します。

- [管理] タブの [パッチ管理] セクションにある [全般] タブで、**[取得]** をクリックします。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。パッチは、前の手順、23 ページの「**タスク 3: スケジュールの設定**」で設定した取得スケジュールに従って、自動的にダウンロードされます。

▶ パフォーマンスの問題を避けるため、最初は、パッチを評価用の非プロダクション環境にある **HPCA Server** に取得します。

各ライブラリでソフトウェアおよびパッチが利用可能になったら、「**タスク 5: グループの作成**」に進み、配布用のソフトウェアおよびパッチのエンタイトルメントを設定します。

タスク 5: グループの作成

ソフトウェアまたはパッチを配布するには、ターゲット デバイスを含むグループを作成してから、ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメントをそのグループに設定します。

- [グループ管理] の [全般] タブで、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。「**グループ作成ウィザード**」が起動します。ウィザードの手順に従って、静的グループを作成します。

HPCA では、発見されたデバイス (探索グループ) または選択されたインベントリ条件 (レポート グループ) に基づいて、ダイナミック デバイス グループもオプションでサポートされます。これらのグループは、グループ作成ウィザードを使用しても作成できます。詳細については、72 ページの「**グループ管理**」を参照してください。

グループが作成されたら、「**タスク 6: ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布**」に進み、そのグループのデバイスにエンタイトルメントを設定します。

タスク 6: ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定と配布

[グループ管理] 領域の [グループ] タブで、グループの表示名をクリックして [グループの詳細] ウィンドウを開きます。ここで、ソフトウェアまたはパッチのエンタイトルメント設定および配布ができます。



ソフトウェアおよびパッチを配布するには、**HP Client Automation Standard** が必要です。**HP Client Automation Starter** では、BIOS 設定および **HP Softpaq** の配布ができます。

ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

ソフトウェアのエンタイトルメント設定と配布を行うには、[グループの詳細] の [ソフトウェア] タブを使用します。

- 1 **[ソフトウェア エンタイトルメントの追加]**  をクリックして、ソフトウェア サービスを選択し、そのグループで利用できるようにします。エンタイトルメントが設定されたソフトウェアは、[ソフトウェア] タブの [ソフトウェア エンタイトルメント] テーブルに表示され、**Application Self-Service Manager** のエンドユーザーから利用できるようになりますが、自動的に配布されることはありません。これにより、管理対象ソフトウェア カタログを作成できるため、ユーザーは、いつどのオプションのソフトウェア サービスを配布するかを決定できます。
- 2 ソフトウェアを配布するには、配布するソフトウェアを選択して、**[ソフトウェアの配布]**  ボタンをクリックします。「ソフトウェア配布ウィザード」が開きます。ウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにソフトウェアを配布します。配布されたソフトウェアは、エンドユーザーのデバイスに自動的にインストールされます。

パッチのエンタイトルメント設定および配布を行うには

[グループの詳細] の [パッチ] タブを使用して、パッチのエンタイトルメント設定と配布を行います。

- 1 **[パッチ エンタイトルメントの追加]**  をクリックして、パッチを選択し、そのグループで利用できるようにします。エンタイトルメントを設定したパッチが、[パッチ エンタイトルメント] テーブルに表示されます。

- 2 パッチを配布するには、配布するパッチを選択して、[**パッチの配布**]  ボタンをクリックします。「**パッチ配布ウィザード**」が開きます。ウィザードの手順に従って、そのグループのデバイスにパッチを配布します。

- ▶ パッチの適用状況の強制は、「**パッチ配布ウィザード**」を使用して設定できます。
- ▶ エンタイトルメントを設定したパッチは、**Application Self-Service Manager** カタログに表示されません。

HPCA を使用して、ソフトウェアおよびパッチの配布を行いました。次に、「**タスク 7: レポートの生成と表示**」セクションの手順に従って、レポートの作成について学びます。

タスク 7: レポートの生成と表示

管理対象デバイスの情報に基づいて、レポートの生成と表示を行うには、[**レポート**] タブを使用します。

- 手早くレポートの例を生成するには、[**インベントリ情報**] 領域の [**管理対象デバイスを表示**] をクリックして、HPCA Agent がインストールされている全デバイスのリストを表示します。

デバイスのリストが作成されると、左のオプションを使用して、またはデバイスカラムの詳細のいずれかをクリックして、追加のフィルタを適用できます。

- レポートが生成されたら、[**新しいダイナミック レポート グループの作成**]  をクリックして、そのレポートにデバイスのダイナミック グループを作成します。「**グループ作成ウィザード**」が起動します。ウィザードの手順に従って、レポート グループを作成します。

3 ダッシュボードの使用

ダッシュボードを使用すると、お使いの環境のステータスをさまざまな方法で迅速に評価できます。ダッシュボードでは、[レポート]領域における特定のタイプの情報が視覚的に表現されます。保有している HPCA ライセンスのタイプによって、特定のダッシュボードが使用できます。この章は、次の各トピックで構成されています。

- [ダッシュボードの概要 30 ページ](#)
- [HPCA オペレーション ダッシュボード 34 ページ](#)
- [パッチ管理ダッシュボード 40 ページ](#)

ダッシュボードの概要

HPCA Console には、企業内のステータスの概要を簡単に表示および評価できるダッシュボードが含まれます。

- 34 ページの「[HPCA オペレーションダッシュボード](#)」には、HPCA インフラストラクチャで行われた作業の量が表示されます。
- 40 ページの「[パッチ管理ダッシュボード](#)」には、ネットワーク内のデバイスで検出されたパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。

各ダッシュボードにはそれぞれ 2 つのビューがあります。

表 1 ダッシュボードのビューのタイプ

タイプ	説明
エグゼクティブ ビュー	マネージャを対象とした高レベルの要約情報です。企業の履歴情報などが含まれます。
オペレーション ビュー	日常業務に HPCA を使用する一般ユーザーを対象とした詳細情報です。特定デバイス、サブネット、脆弱性、および特定の適応状況またはセキュリティツールの問題に関する情報が含まれます。

各ビューには数多くの情報ペインがあります。HPCA を設定して、これらのペインをすべて表示したり一部を表示したりできます。詳細については、177 ページの「[ダッシュボード](#)」を参照してください。

各ダッシュボードには、統計の要約と関連レポートへのリンクが掲載されたホームページが含まれます。これらのリンクのいずれかをクリックすると、別のブラウザ ウィンドウが開き、によりレポートが表示されます。

大部分のダッシュボード ペインでは、情報をグラフまたはグリッド形式で表示できます。グリッド表示では、現在のソートパラメータがカラム見出し内で  アイコンで表示されます。ソートパラメータを変更するには、別のカラム見出しをクリックします。ソート順を逆にするには、カラム見出しを再度クリックします。カラムを移動するには、カラム見出しセルの背景部分をクリックして、カラムを移動先までドラッグします。

大部分のダッシュボード ペインでは、棒グラフまたは円グラフの色分けされた領域や線グラフのデータ ポイントにカーソルを置くと、詳細情報が表示されます。また、大部分のペインでは、レポートをドリル ダウンしてより詳細な情報を得ることができます。

各ペインの左下隅のタイム スタンプは、その情報の取得元からの最新のリフレッシュ日時を示しています。

図 2 タイム スタンプ



ダッシュボード ペインでは、現地のタイム ゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポート パックでは、GMT または現地時間のどちらかを使用するかを設定できます。

ダッシュボード ペインでは、次のアクションを実行できます。

表 2 ダッシュボード ペインのアクション

アイコン	説明
	情報をグラフ形式で表示します。
	情報をグリッド形式で表示します。
	該当グラフの凡例を表示します。
	データの取得元からデータをリフレッシュします。個々のペインのデータをリフレッシュするには、それぞれのペインのリフレッシュ アイコンをクリックします。すべてのペインをリフレッシュするには、ダッシュボードの右上隅のリフレッシュ アイコンをクリックします。 HPCA Console セッションがタイムアウトした場合、ダッシュボードのペインは自動的にリフレッシュされません。データベースから最新の情報を取得するには、再度サインインしてから手動で各ペインをリフレッシュする必要があります。
	ダッシュボード内のすべてのペインの表示を出荷時の設定にリセットします。

表 2 ダッシュボード ペインのアクション

アイコン	説明
	HPCA データが含まれているペインについて、対応するレポートを表示します。外部 Web サイトまたは RSS フィードからの情報が含まれているペインの場合は、情報元の Web サイトに移動します。
	「クイック ヘルプ」ボックスまたはツール チップが開きます。このボタンを 1 回クリックすると、該当ダッシュボード ペインの簡単な説明が表示されます。再度クリックすると、クイック ヘルプ テキストが非表示になります。
	該当ペインに関する状況に応じたオンライン ヘルプ トピックが開きます。このコントロールは、クイック ヘルプ テキストが表示されている場合にのみ使用できます。
	ダッシュボード ペインを最小化します。
	ダッシュボード ペインを最大化します。
	最大化されたペインを元のサイズに戻します。

あるダッシュボード ペインを最小化すると、その他のペインはダッシュボードのウィンドウに合うようにサイズが拡大します。同様に、あるダッシュボード ペインを最大化すると、その他のペインは下に隠れます。最小化されたペインを元に戻すには、ダッシュボードの下部にあるペインの名前が表示されたグレーのボタンをクリックします。この例では、24 時間のサービス イベント ペインが最小化されています。

図 3 ダッシュボード ペインを復元するボタン

24 時間のサービスイ...

ペインをドラッグ アンド ドロップして、ダッシュボード ウィンドウ内でペインの配置を変更できます。ただし、ダッシュボードの外にはドラッグできません。

ダッシュボード内の各ペインのサイズや配置を変更して外観をカスタマイズした場合、または 1 つ以上のペインのグラフとグリッドのビューを切り替えた場合、このカスタマイズは次回の HPCA Console へのサインイン後にも適用されます。ダッシュボードのレイアウト設定は、お使いのコンピュータのローカル フラッ

シユ共有オブジェクト (ブラウザ **cookie** など) として格納されます。この設定は、明示的に削除する場合を除き保存されます。詳細については、282 ページの「ダッシュボード レイアウト設定の削除」を参照してください。



いずれかのダッシュボードの表示中に **F5** ファンクション キーを押すと、ブラウザが **HPCA Console** をリロードした後にそのダッシュボードのページに戻ります。

ダッシュボード デバイス

デバイスにより、特定のタイプのデバイスに対してダッシュボードの各ペインに表示される情報を制限できます。デフォルトでは次の 3 種類のデバイスが使用可能です。

- グローバル – すべてのデバイス (フィルタは適用されません)。
- モバイル – ラップトップやその他のモバイル コンピューティング デバイスです。これには、次のシャーシタイプのすべてのデバイスが含まれます。
 - ポータブル
 - ラップトップ
 - ノートブック
 - ハンドヘルド
 - サブ ノートブック
- 仮想 – 仮想デバイスです。これには、ベンダーおよびモデルのプロパティが **VMware** であるすべてのデバイスが含まれます。

デバイスを適用するには、コンソールの左上隅の [デバイス] ボックスでデバイスを選択します。



表示されるデータの特性により、一部のダッシュボード ペインでは、デバイスの設定が適用されません。[モバイル] または [仮想] デバイスを選択した場合、これらが適用されないペインの上部に、次の強調表示のメッセージが表示されます。

フィルタまたはデバイスが適用できません

また、デバイスの設定が適用されないペインは外枠がオレンジ色になります。

デバイスを選択すると、HPCA Console 内のすべてのダッシュボード パネルに設定が適用されますが、例外として上記の「フィルタまたはデバイスが適用できません」が表示されたペインには適用されません。デバイスは個別のダッシュボード ペインには適用できません。

HPCA オペレーション ダッシュボード

このダッシュボードには、企業内の HPCA インフラストラクチャで行われる作業が表示されます。表示されるのは次の 3 点です。

- HPCA クライアント接続の数
- 発生したサービス イベント (インストール、アンインストール、更新、修復および検証) の数
- HPCA で実行された操作のタイプ (OS、セキュリティ、パッチまたはアプリケーション)

また、2 つの期間のクライアント接続およびサービス イベントの指標が表示されます。エグゼクティブ ビューには、最新の 12 か月が表示されます。操作ビューには、最新の 24 時間が表示されます。どちらのビューにも、次の情報ペインが含まれます。

[クライアント接続 35 ページ](#)

[サービス イベント 36 ページ](#)

エグゼクティブ ビューには、次のペインも含まれます。

[ドメイン別 12 か月サービス イベント 38 ページ](#)

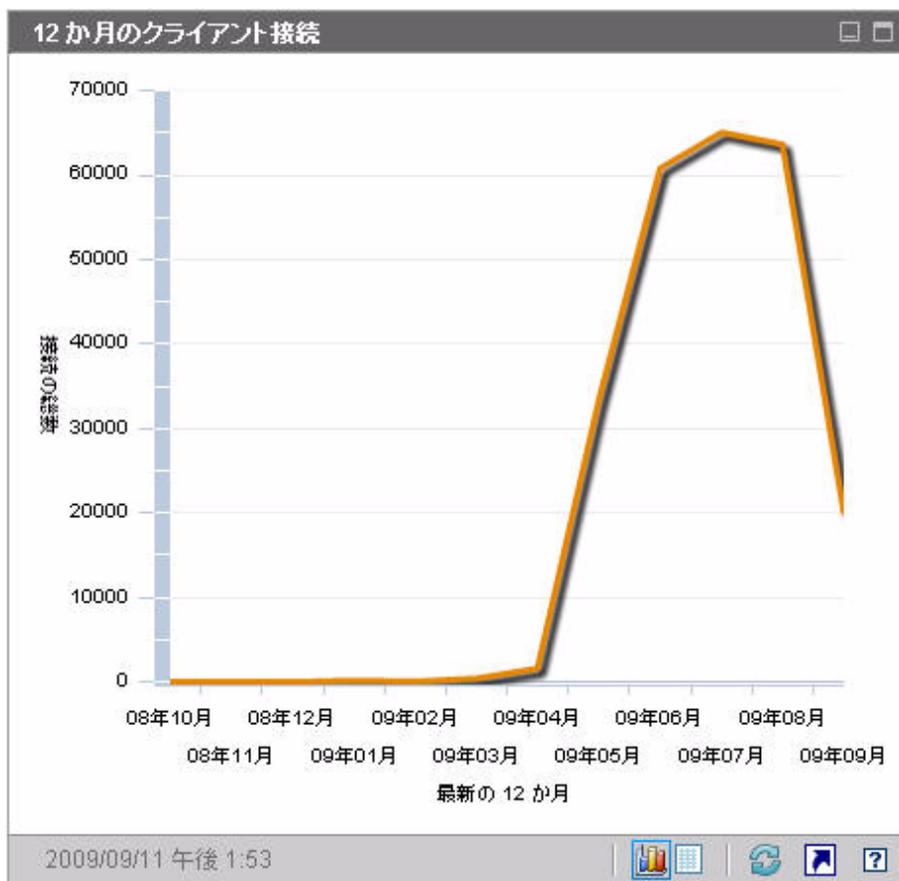
デフォルトではこれらのペインがすべて表示されます。ダッシュボードでは、これらの任意のペインの表示 / 非表示を切り替えることができます。177 ページの「ダッシュボード」を参照してください。

- ▶ 左側のナビゲーションペインの [HPCA 操作] をクリックすると、[HPCA 操作] ホームページが表示されます。このページには統計と関連レポートへのリンクが掲載されています。

クライアント接続

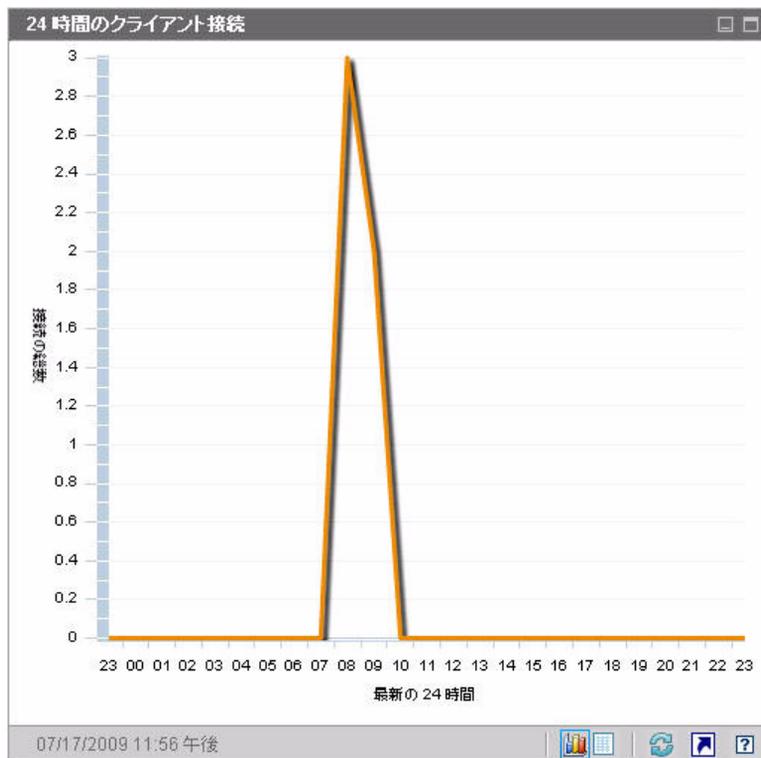
このペインのグラフ表示には、過去 12 か月（エグゼクティブ ビュー）または 24 時間（オペレーション ビュー）に発生した HPCA Agent クライアント接続の数が表示されます。データポイントの上にカーソルを置くと、その月または時間の合計接続数が表示されます。

図 4 12 か月のクライアント接続



このペインのグリッド表示では、過去 12 か月の各月に完了したクライアント接続の合計数がリストされます。

図 5 24 時間のクライアント接続



▶ ダッシュボード ペインでは、現地のタイムゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポート パックでは、GMT または現地時間のどちらを使用するかを設定できます。

このペインのグリッド表示では、過去 24 時間の各時間帯に完了したクライアント接続の数がリストされます。

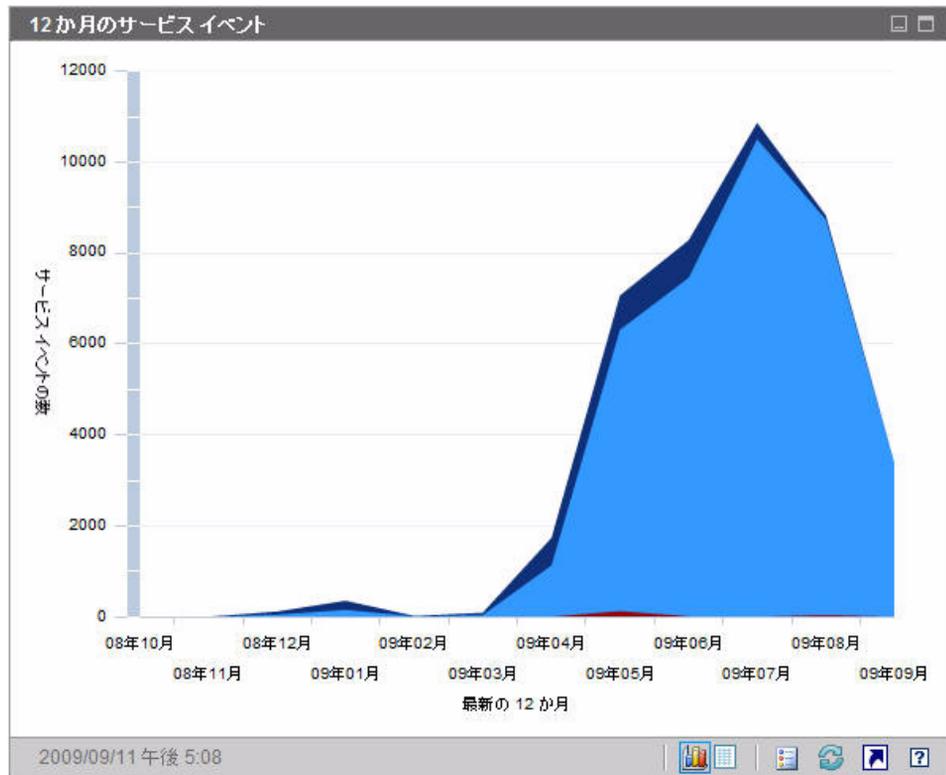
サービス イベント

このペインのグラフ表示では、過去 12 か月 (エグゼクティブ ビュー) または 24 時間 (オペレーション ビュー) に企業のクライアント デバイスにおいて HPCA で完了したサービス イベントの数が表示されます。これらのサービス イベントには、HPCA により次の作業が行われたアプリケーションの数が含まれます。

- インストール済み
- アンインストール済み
- 更新済み
- 修復済み
- 検証済み

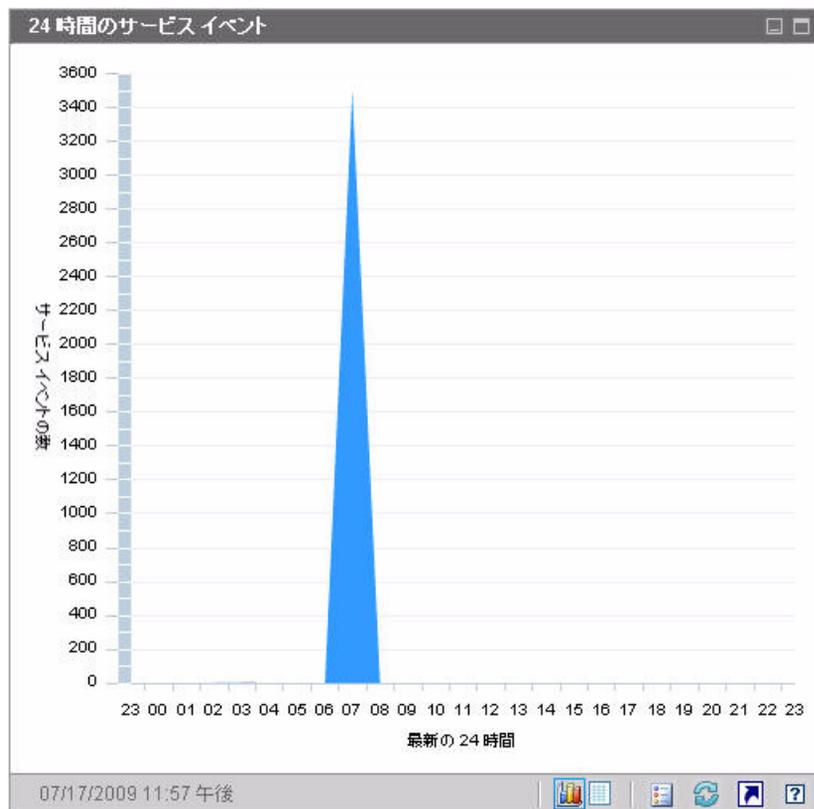
データ ポイントの上にカーソルを置くと、特定の月または時間に完了したサービス イベント数が表示されます。

図 6 12 か月のサービス イベント



このペインのグリッド表示では、過去 12 か月の各月に HPCA で完了した各種 サービス イベントの数がリストされます。

図7 24時間のサービスイベント



ダッシュボード ペインでは、現地のタイムゾーンを使用して日時が表示されます。[レポート] タブで利用可能なレポートでは、デフォルトでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。ただし、個々のレポート パックでは、GMT または現地時間のどちらかを使用するかを設定できます。

このペインのグリッド表示では、過去 24 時間の各時間帯に HPCA により開始された各種サービス イベントの数がリストされます。

ドメイン別 12 か月サービス イベント

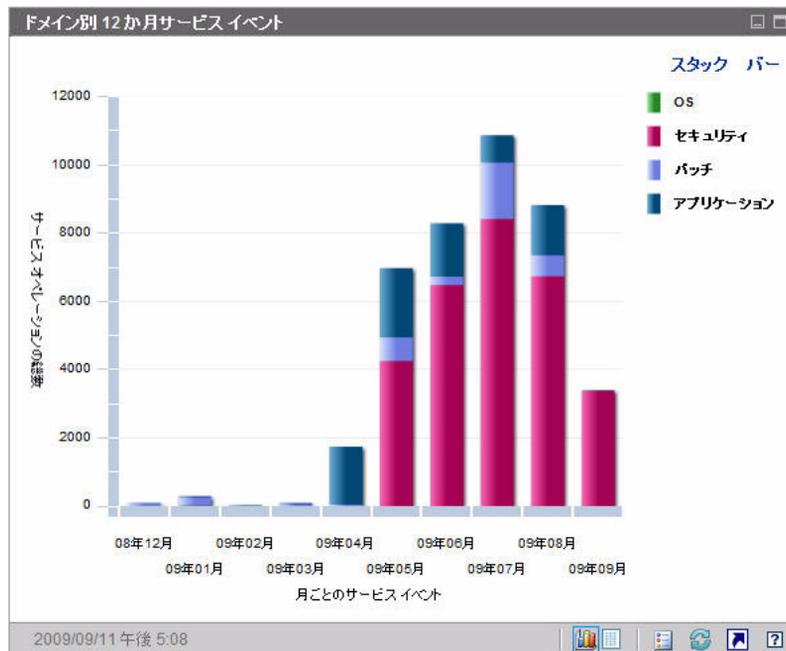
このペインのグラフ表示では、過去 12 か月の各月に HPCA により実行された次のサービスの数が表示されます。

- オペレーティング システム (OS) の操作
- セキュリティ オペレーション
- パッチ オペレーション

- アプリケーション オペレーション

取得可能なデータが 12 か月以下の場合、このグラフに表示されるバーの数は少なくなります。

図 8 ドメイン別 12 か月サービス イベント



このグラフには、2 とおりのデータ表示方法があります。

- スタック –異なるタイプのサービス イベントが、各月に対応した単一のバー内に垂直にスタックされます(図示)。
- バー –月ごとに各タイプのサービス イベントが個別のバーで表示されます。

グリッド表示では、過去 12 か月の各月に HPCA により実行された各種サービスの数がリストされます。

パッチ管理ダッシュボード

パッチ管理ダッシュボードには、ネットワーク内の管理対象デバイスで検出された任意のパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。

パッチ管理ダッシュボードのエグゼクティブビューには、次の2つの情報ペインがあります。

- ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブビュー) 40 ページ
- ブリテン別デバイス適用状況 42 ページ

オペレーションビューには、次の3つの情報ペインがあります。

- ステータス別デバイス適用状況 (オペレーションビュー) 44 ページ
- **Microsoft** セキュリティ ブリテン 45 ページ
- 最も脆弱性の高い製品 46 ページ

ダッシュボードでは、これらの任意のペインの表示 / 非表示を切り替えることができます。177 ページの「ダッシュボード」を参照してください。



[ホーム] タブの左側のナビゲーションペインで [パッチ管理] をクリックすると、パッチ管理のホーム ページが表示されます。このページには統計と関連レポートへのリンクが掲載されています。

ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブビュー)

このペインのグラフビューには、パッチポリシーに現在適合しているネットワーク内のデバイスのパーセンテージが表示されます。円グラフ内の色付きの扇形は、次の状態を表します。

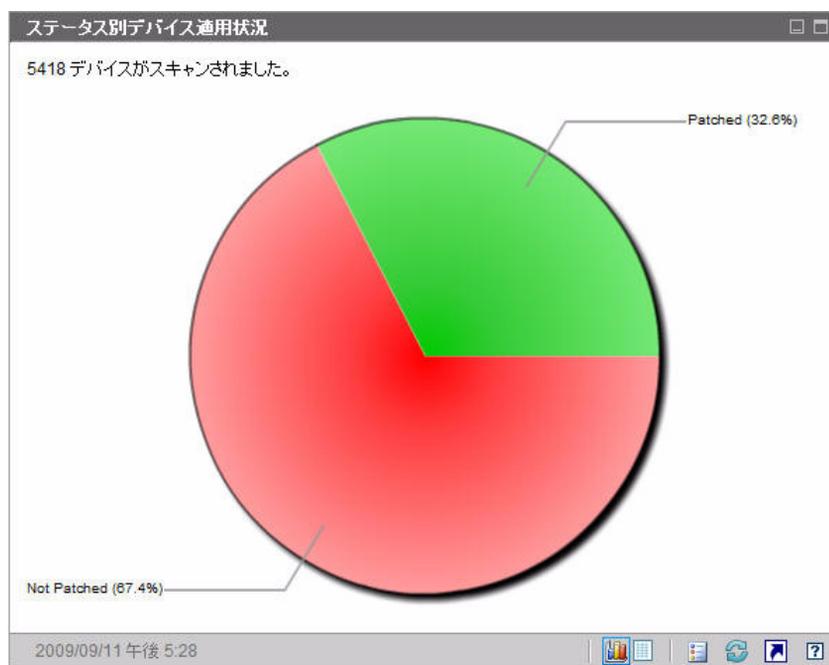
- パッチ適用済み (緑)
- パッチ未適用 (赤)

44 ページの「ステータス別デバイス適用状況 (オペレーションビュー)」に似ていますが、オペレーションビューにはさらに詳しい情報が表示されます。

表 3 ステータス別デバイス適用状況ビュー

エグゼクティブビュー	オペレーションビュー
パッチ適用済み	パッチ適用済み 警告
パッチ未適用	パッチ未適用 再起動の保留 その他

図 9 ステータス別デバイス適用状況



特定のカテゴリのデバイス数を表示するには、カーソルを円グラフの色付き部に移動します。

円グラフ内の色付きの扇形をクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。レポートには、クリックした扇形に対応するパッチ適用状況ステータスのすべてのデバイスが表示されます。

このペインのグリッド ビューには、円グラフに表示されているそれぞれの適用状況にあるネットワーク デバイスの数が表示されます。

ブリテン別デバイス適用状況

このペインのグラフ ビューには、ネットワーク内で最大数のデバイスに影響するパッチ脆弱性が 10 種類表示されます。垂直軸には、これらの脆弱性についてのパッチ ブリテン番号の一覧が表示されます。水平軸は影響を受けたデバイスの数を表し、対数尺度を使用します。



特定のブリテンが 1 つのデバイスにのみ影響する場合、グラフ ビューにそのブリテンのデータは表示されません。これは、対数目盛りの既知の制限です。ただし、グリッド表示ではデータが表示されます。

ブリテンの名前と影響を受けるデバイスの数を表示するには、カーソルを色付きのいずれかの棒上に合わせます。

図 10 ブリテン別デバイス適用状況



グラフの色付き棒の 1 つをクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。このレポートには、このパッチ脆弱性を持つ管理対象デバイスが表示されます。

グリッド ビューには、検出された上位 10 件のパッチ脆弱性に関する次の情報が表示されます。

- ブリテン – この脆弱性の Microsoft セキュリティブリテン
- 説明 – ブリテンのタイトル
- パッチ未適用 – このパッチ脆弱性を持つデバイスの数

初期状態のテーブルは、[パッチ未適用] を基準にソートされています。ソートパラメータを変更するには、対応するカラム見出しをクリックします。

特定のブリテンについての詳細を表示するには、ブリテン番号をクリックしてください。

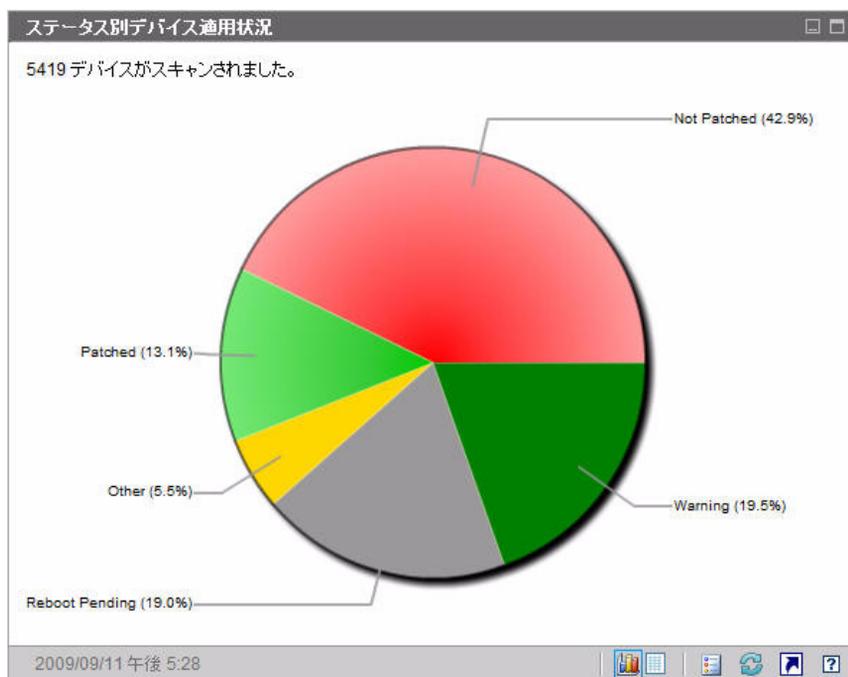
ステータス別デバイス適用状況 (オペレーション ビュー)

このペインのグラフ ビューには、パッチ ポリシーに現在適合しているネットワーク内のデバイスのパーセンテージが表示されます。特定のカテゴリのデバイス数を表示するには、カーソルを円グラフの色付き部に移動します。

このペインは、「ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー)」ペインに似ています。このペインにはより詳細な情報が表示され、使用される色は **Patch Manager** の場合と同じです。

- パッチ適用済み (薄緑)
- パッチ未適用 (赤)
- 再起動の保留 (薄いグレイ)
- 警告 (深緑)
- その他 (黄)
- 適用できません (濃いグレイ)

図 11 ステータス別デバイス適用状況 (オペレーションビュー)



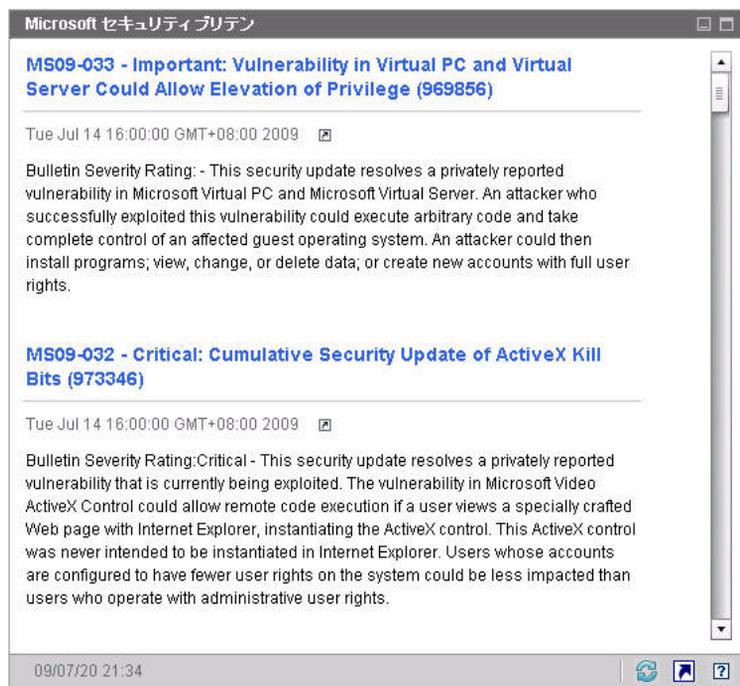
円グラフ内の色付きの扇形をクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウが開き、フィルタされたレポートが表示されます。レポートには、クリックした扇形に対応するパッチ適用状況ステータスのすべてのデバイスが表示されます。

グリッド ビューには、円グラフに表示されているそれぞれの適用状況にあるネットワーク デバイスの数が表示されます。

Microsoft セキュリティ ブリテン

このペインには、最新の Microsoft セキュリティブリテンが表示されます。デフォルトでは、この情報は Microsoft Corporation から RSS フィードによって提供されます。フィードの URL は、[設定] タブを使用して変更できます (177 ページの「ダッシュボード」を参照してください)。

図 12 Microsoft セキュリティ ブリテン



特定のブリテンの詳細を表示するには、ブリテン名のすぐ下にある  アイコンをクリックします。

このペインにはグラフ表示はありません。

最も脆弱性の高い製品

このペインはデフォルトで無効になっています。有効にする方法については、177 ページの「[ダッシュボード](#)」を参照してください。

このペインのグラフ ビューには、ネットワーク内で最多のパッチ脆弱性が存在するソフトウェア製品が表示されます。垂直軸には、ソフトウェア製品の一覧が表示されます。水平軸は、企業内の適用可能な管理対象デバイス全体でまだ適用されていない、特定の製品に関するパッチの合計数が反映されます。次に例を示します。

ABC という製品にパッチを含むブリテンが 6 件あるとします。

— 10 個の管理対象デバイスで 6 件のパッチすべてを必要としている

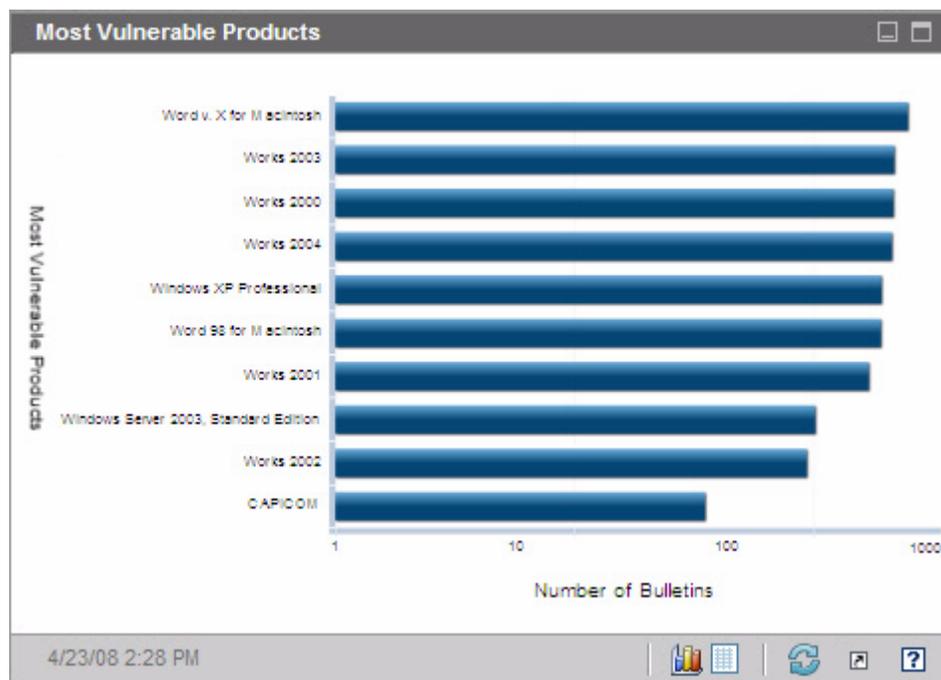
- 20 個の管理対象デバイスでそれらのパッチのうちの 3 件を必要としている
- 50 個の管理対象デバイスでそれらのパッチのうち 1 件のみを必要としている

$$\text{ABC のブリテンの数} = (10 \times 6) + (20 \times 3) + (50 \times 1) = 170$$

このグラフでは対数スケールを使用するため、特定の製品のブリテンの数が 1 の場合、その製品のデータはグラフ ビューに何も表示されません。これは、対数目盛りの既知の制限です。ただし、グリッド表示ではデータが表示されます。

特定のソフトウェア製品にパッチが適用されていないデバイスの数を表示するには、カーソルを色付きのいずれかの棒上に合わせます。

図 13 最も脆弱性の高い製品



グリッド ビューには、製品ごとに次の情報が表示されます。

- 製品 – ソフトウェア製品の名前
- パッチ未適用 – 特定の製品の適用可能なすべてのデバイスでパッチが適用されていないブリテンの数
- 適用可能なデバイス – この製品がインストールされているデバイスの数

- 適用可能なブリテン – この製品に関連する **Microsoft** セキュリティブリテンの数

初期状態のテーブルは、[パッチ未適用]を基準にソートされています。ソートパラメータを変更するには、対応するカラム見出しをクリックします。

4 管理

[管理]タブには、環境を管理するのに使用するツールが備えられています。次のセクションでは、ユーザーがコントロールできる管理領域について説明します：

- [デバイス管理 50 ページ](#)
- [グループ管理 72 ページ](#)
- [ソフトウェア管理 85 ページ](#)
- [パッチ管理 95 ページ](#)
- [OS 管理 105 ページ](#)
- [ジョブ管理 120 ページ](#)

デバイス管理

[デバイス管理]セクションを使用して、デバイスのインポート、HPCA Agent の配布、インベントリの探索、パッチの管理、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモートコントロール、アプリケーション利用状況の収集、および全管理対象デバイスに基づいたレポートの表示ができます。

デバイス管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- [全般 53 ページ](#)
- [デバイス 54 ページ](#)
- [現在のジョブ 64 ページ](#)
- [過去のジョブ 64 ページ](#)

ターゲット デバイスの要件および手動インストールの手順については、次のセクションで説明します。

- [ターゲット デバイスの前提条件 50 ページ](#)
- [HPCA Agent の手動インストール 64 ページ](#)

ターゲット デバイスの前提条件

HPCA Agent をターゲット デバイスに配布する前に、このセクションの内容を確認してください。ターゲット デバイスのサポートされるプラットフォームについては、このリリースに付属の『リリース ノート』を参照してください。

- HPCA の管理対象のシンクライアント デバイスには、Windows CE、XPE、または Embedded Linux をインストールしておく必要があります。
- ファイルと印刷の共有を有効にします。
- Active Directory に参加していない Windows XP Professional を実行するデバイスについては、簡易ファイルの共有を無効にする必要があります。
- TPM 対応システムでは、Infineon Driver version 2.00 以降が必要です。
- ターゲット クライアント デバイスに個人向けファイアウォールがインストールされている場合、受信トラフィックに対して次のポートを除外します。

TCP 3463 および TCP 3465

- 次のポートを除外して、管理エージェントのリモート配布を可能にします。

TCP 139 および 445

UDP 137 および 138

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、これらのポートを除外できます。

- さらに、次のプログラム ファイルをファイアウォールから除外する必要があります。C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent の中:

RadUIShell.exe

Radexecd.exe

nvdkit.exe

nvdtk.exe

- C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ManagementAgent 中:
nvdkit.exe



これらのデバイスの管理には、BIOS に有効なシリアル番号とマシン UUID が含まれている必要があります (アセット タグの設定も推奨します)。これらの設定を行わないと、OS の配布が正しく実行されない場合があります。

HPCA の Windows XPe 要件

Windows XPe シンクライアントデバイスには、**Symantec Endpoint Protection** エージェントがプレインストールされています。したがって HPCA が動作するには、HPCA 実行可能ファイルに 1 つと HPCA ポートに 1 つ、合計 2 つのルールを作成する必要があります。

HPCA 実行可能ファイルのルールを作成するには

File-Based Write Filter を実行している場合は、手順を始める前にこの書き込みフィルタを無効にし、再起動する必要があります。この場合、次のコマンドを実行します。

```
fbwfmgr.exe /disable
```

- 1 管理者として Windows XPe へログオンします。
- 2 システム トレイの Symantec アイコンを右クリックして、**[Advanced Rules]** を選択します。
- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 **[全般]** タブで

- 説明 **[Allow HPCA Agent]** を追加します。
 - **[Allow this traffic]** を選択します。
- 5 [アプリケーション] タブで **[ブラウズ]** をクリックして、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent から次のアプリケーションを追加します。
- Nvdkit
 - Radconct
 - Radpinit
 - Radexecd
 - Radstgrq
 - Radsched
 - Radgetproxy
 - Radntfyc
 - Radidgrp
 - Ralf
 - prepwiz.exe
-  prepwiz 実行可能ファイルは、HPCA Image Capture CD からのみ入手できます。これは、HPCA メディアの Image Capture ISO から作成されます。実行可能ファイルを追加するには、この .iso を使用できるようにする必要があります。
- 6 **[OK]** をクリックして、新しいルールを保存します。
- 7 **[OK]** をクリックして終了します。

HPCA ポートのルールを作成するには

- 1 システム トレイの Symantec アイコンを右クリックして、**[Advanced Rules]** を選択します。
- 2 **[追加]** をクリックします。
- 3 [全般] タブで
 - 説明 **[Allow HPCA Ports]** を追加します。
 - **[Allow this traffic]** を選択します。

- 4 [Ports and Protocols] タブの [Protocol:] で [TCP] をクリックし、[Local:] に 3463 と 3465 を追加します。
- 5 [OK] をクリックして、新しいルールを保存します。
- 6 [OK] をクリックして終了します。

両方のルールを作成したら、システム トレーの [Enhanced Write Filter] (EWF) アイコンを右クリックして、[適用] を選択します。再起動するという指示が表示されます。これで、変更がフラッシュ メモリに書き込まれます。

File-Based Write Filter を使用している場合は、この書き込みフィルタを有効にし、再起動する必要があります。この場合、次のコマンドを実行します。

```
fbwfmgr.exe /enable
```

再起動後に、Symantec Endpoint Protection ユーティリティで両方のルールが使用可能であり、かつ有効になっている (両方のルールで [Allow this traffic] が選択されている) ことを確認します。

全般

[全般] タブを使用して、デバイスの追加、HPCA Agent の配布、現在および過去のデバイス管理ジョブの表示ができます。



Console から HPCA Agent を配布する代わりに、管理するエンドユーザーのマシンに手動でインストールすることもできます。詳細については、64 ページの「HPCA Agent の手動インストール」を参照してください。

ワークスペースの [要約] セクションには、データベース内のデバイスの数、管理対象デバイス (HPCA Agent がインストールされているデバイス) の数、および現在のジョブの合計数が表示されます。

デバイスをインポートするには

- [共通のタスク] 領域で [インポート] をクリックします。「デバイス インポート ウィザード」が起動します。

182 ページのウィザードの手順に従って、新しいデバイスを HPCA に追加します。

HPCA Agent を配布するには

- [共通のタスク] 領域で [配布] をクリックします。「エージェント配布 ウィザード」が起動します。

183 ページのウィザードの手順に従って、データベースにあるデバイスに HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent の注意事項

- HPCA Agent は、Windows Vista および Windows Server 2008 デバイスには、サイレントモードでのみ配布されます。
- リモート デバイスに HPCA Agent を配布するには、管理共有へのアクセスが必要です。Windows XP には簡易ファイルの共有 (SFS) というセキュリティ機能が備えられており、これらの共有へのアクセスをブロックします。ワークグループの一部である Windows XP デバイスでは、SFS はデフォルトで有効になっています。また、Active Directory ドメインに参加するデバイスでは、SFS は自動的に無効となります。

ターゲット デバイスが Windows XP を実行しており、Active Directory ドメインに参加していない場合、SFS をオフにして、HPCA Agent のインストールを許可する必要があります。SFS 設定方法の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「[Windows XP でファイル共有を設定する方法](#)」を参照してください。

- HPCA Agent は、ほとんどのシンクライアント デバイスにはリモートで配布できません。HPCA メディアの \Media\client\default ディレクトリにある適切なインストールプログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

デバイス

[デバイス] タブには、HPCA にインポートされた全デバイスの表が表示されます。

- ▶ HPCA がインストールされると、ホスト サーバーは自動的にデバイス リストに追加されます。このデバイス定義は、HPCA が必要としており、削除できません。

新しくインポートされた (7 日以内にインポートされた) デバイスは、デバイス名の右に、括弧付きの「新規作成」という単語が表示されるので識別できます。

- ▶ HPCA Agent が配布されるまでは、デバイス リストではデバイス情報の一部しか利用できません。

[デバイス] ツールバーを使用して、デバイスのインポート、HPCA Agent の配布または削除、デバイスの電源オプションの管理、デバイスのリモート コントロール、およびインベントリ、アプリケーション利用状況またはパッチ適用状況の探索ができます。

- ▶ Console から HPCA Agent を配布する代わりに、管理するエンドユーザーのマシンに手動でインストールすることもできます。詳細については、64 ページの「[HPCA Agent の手動インストール](#)」を参照してください。

デバイス リストのカラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりできます。

- ▶ お使いの環境にあるコンピュータ名に 15 文字を超える名前がある場合、HPCA を使用して HPCA Agent の配布またはグループの作成を行うと、予期しない結果になる場合があります。コンピュータ名は 15 文字以下にすることを推奨します。詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「[Microsoft NetBIOS コンピュータの命名規則](#)」を参照してください。

デバイスのリストを絞り込むには、[検索] 機能を使用します。最初の検索ボックスには、常にコンソールの現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが表示されます。2 番目のボックスには、クエリをカスタマイズするために使用する検索パラメータを指定します。

クエリ結果を表示すると、[フィルタ結果]  が、表の一番下に表示されます。

表 4 [デバイス] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – デバイス リストを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	管理対象デバイスのインポート – 「デバイス インポート ウィザード」を起動します。
	管理エージェントの配布 – 「エージェント配布ウィザード」を起動します。
	管理エージェントの削除 – 「エージェント削除ウィザード」を起動します。

表 4 [デバイス] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	<p>インベントリの収集： ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 – 「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」を起動します。 パッチ適用状況の探索 – 「パッチの適用状況探索ウィザード」を起動します。</p>
	<p>電源管理 – 「電源管理ウィザード」を起動します。</p>
	<p>リモート制御 – [リモート制御] インターフェイス ウィンドウを起動します。</p>
	<p>アウトバンド デバイスの詳細を表示 – 選択したデバイスの [アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウを起動します。このオプションは、[アウトバンド管理] が有効になっている場合にのみ利用できます。有効化については、172 ページの「アウトバンド管理」を参照してください。詳細については、『HP Client Automation Out of Band Management ガイド』を参照してください。</p>
	<p>デバイスを削除 – デバイス リストからデバイスを削除します。デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されないことに注意してください。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、141 ページの「データベース メンテナンス」を参照してください。</p>

次のタスクが [デバイス] タブから実行できます。

- デバイスのインポート 57 ページ
- [デバイス] タブからの HPCA Agent の配布 57 ページ
- HPCA Agent の削除 58 ページ
- ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 58 ページ
- パッチ適用状況の探索 58 ページ
- リモート制御 59 ページ
- 電源管理 60 ページ

- [アウトバンド管理 61 ページ](#)
- [デバイスを削除 61 ページ](#)
- [デバイスの詳細 62 ページ](#)

デバイスのインポート

「デバイス インポート ウィザード」では、名前または IP アドレスによるデバイスの手動インポートや、Active Directory または別の LDAP 準拠ディレクトリ内、あるいはネットワーク ドメインに含まれるデバイスの探索ができます。

- HPCA にデバイスをインポートするには、**[管理対象デバイスのインポート]**  ボタンをクリックします。「デバイス インポート ウィザード」が起動します。

182 ページの手順に従って、新しいデバイスを HPCA に追加します。

[デバイス] タブからの HPCA Agent の配布

「エージェント配布ウィザード」を使用して、HPCA Agent をユーザー環境にあるデバイスに配布します。



Windows Vista デバイスへの HPCA Agent の配布

ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があり、そのドメインの管理者の認証情報は、HPCA Console による HPCA Agent の配布中に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順を実行し、ローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。Microsoft サポート技術情報の記事「ワークグループのメンバーである別の Windows Vista ベース コンピュータから Windows Vista ベースのコンピュータ上に管理の共有にアクセスしようとする」と、エラー メッセージ: ログオン失敗: ユーザーのログオンできません」を参照してください。

HPCA Agent を配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、HPCA Agent を配布するデバイスを選択します。

- **[管理エージェントの配布]**  ボタンをクリックして、「エージェント配布ウィザード」を起動します。

- 2 183 ページのウィザードの手順に従って、選択したデバイスに HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent の削除

HPCA データベースにあるデバイスから HPCA Agent を削除するには、「エージェント削除ウィザード」を使用します。

HPCA Agent を削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、HPCA Agent を削除するデバイスを選択します。
- 2 **[管理エージェントの削除]**  ボタンをクリックして、「エージェント削除ウィザード」を起動します。
- 3 184 ページの手順に従って、選択したデバイスから HPCA Agent を削除します。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索

「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」を使用して、HPCA データベースにあるデバイスに関するインベントリを探索します。

ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索するデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ボタンをクリックして、**[ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索]** を選択し、「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてインベントリを探索します。
- 4 **[レポート]** タブを使用して、インベントリ レポートを表示します。

パッチ適用状況の探索

「パッチの適用状況探索ウィザード」を使用して、HPCA 環境にあるデバイスの適用状況ステータスを判別します。

パッチ適用状況を探るには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、パッチ適用状況をクエリするデバイスを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、「パッチの適用状況探索ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスについてパッチ適用状況を確認します。
- 4 **[レポート]** タブを使用して、パッチ適用状況レポートを表示します。

リモート制御

[リモート制御] インターフェイスを使用して、任意のデバイスとのリモートセッションを開始します。インターフェイスにより、RDP または VNC のいずれかをインストールし、有効にしているデバイスに接続できます。HPCA では、**Virtual Network Computing (VNC)** または **リモート デスクトップ プロトコル (RDP)** がリモート システムにインストールされているかどうか、それぞれポート 5800 および 3389 に接続することにより検出されます。いずれかのポートに接続できると、HPCA ではこのうちの 1 つがインストールされ実行中であるとみなされ、そのオプションが利用可能なリモート接続方式として表示されます。

- **Windows リモート デスクトップ プロトコル** は、Windows クライアントデバイスで利用可能なマルチチャンネル対応のプロトコルです。RDP を使用して、RDP が有効なデバイス (Windows XP など) にリモートで接続できます。HPCA では、リモート デバイス上のポート 3389 に接続することでこのプログラムが検出されます。



Windows リモート デスクトップを使用すると、ActiveX コントロールをインストールするように要求される場合があります。これは、Windows リモート デスクトップが適切に機能するのに必要です。また、ローカル デバイスに接続するようにも要求されます。これは必須ではありません。

- **VNC クライアント**は、別のコンピュータをリモートで制御するのに使用されるデスクトップ共有システムです。VNC を使用して、VNC がインストールされ有効になっているクライアント デバイスにリモート接続します。



VNC を使用するには、Internet Explorer 用の Sun Java プラグインをインストールする必要があります。このプラグインは、<http://java.com/en/index.jsp> からダウンロードできます。

管理対象デバイスにインストールしている VNC Server では、ポート 5800 で動作する VNC Java アプレットがサポートされている必要があります。これを確認するには、ブラウザを開いて、「<http://hostname:5800>」と入力します。アプレットがインストールされている場合、ログイン ページが開きます。

リモート セッションを開始するには

- 1 リストからデバイスを選択して、[**リモート制御**]  ボタンをクリックし、[リモート制御] インターフェイス ウィンドウを起動します。
- 2 利用可能なオプションからリモート制御方法を選択します。HPCA によって検出されたプログラムのみが利用可能です。
- 3 Windows リモート デスクトップを選択する場合、リモート セッション ウィンドウ用に [**解像度**] を選択する必要があります。
- 4 [**接続**] をクリックします。リモート セッションが新しいウィンドウで開始されます。
- 5 [**閉じる**] をクリックして、ウィザードを終了します。
- 6 リモート セッションを終了したら、ウィンドウを閉じてデバイスとの接続を解除します。

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動したりするには、電源管理ウィザードを使用します。

- 管理するデバイスを選択して、[**電源管理**]  ボタンをクリックし、「電源管理ウィザード」を起動します。

ウィザードの手順に従って、選択したデバイスに対して電源管理ジョブを作成します。

アウトバンド管理

HPCA Console にあるアウトバンド管理 (OOBM) 機能を使用すると、システム電源またはオペレーティング システムの状態に関係なく、アウトバンド管理操作を実行できます。

インバンド管理は、コンピュータの電源がオンでオペレーティング システムが稼働しているときに実行される操作を指します。

アウトバンド管理は、コンピュータが次のいずれかの状態のときに実行される操作を指します。

- コンピュータは電源に接続されているが稼働していない (オフ、スタンバイ、休止)
- オペレーティング システムがロードされていない (ソフトウェア障害またはブートの失敗)
- ソフトウェア ベースの管理エージェントが使用できない

HPCA Console では、Intel の vPro デバイスおよび DASH 対応デバイスのアウトバンド管理がサポートされます。

デバイスのアウトバンドの詳細を表示するには：

- 1 [管理] タブの [デバイス管理] に移動して、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 操作するデバイスを選択して、[**アウトバンド デバイスの詳細を表示**]  ツールバー アイコンをクリックします。

選択したデバイスの [アウトバンド デバイスの詳細] ウィンドウが開きます。

このオプションは、アウトバンド管理が有効な場合のみ使用できます。詳細については、172 ページの「アウトバンド管理」を参照してください。詳細については、『HP Client Automation Out of Band Management ガイド』を参照してください。

デバイスを削除

HPCA データベースからデバイスを削除するには、[デバイス] ツールバーを使用します。

HPCA からデバイスを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するデバイスを選択します。

- 2 **[デバイスを削除]**  ボタンをクリックして、HPCA からデバイスを削除します。

 デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポートデータは削除されません。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、141 ページの「[データベース メンテナンス](#)」を参照してください。

デバイスの詳細

[デバイス] タブでデバイス名をクリックすると、[デバイスの詳細] ウィンドウが開きます。[デバイスの詳細] ウィンドウには、選択したデバイスに基づく設定モデルが表示されます。

[デバイスの詳細] ウィンドウを使用して、以下を行います。

- デバイスのプロパティの表示
- デバイス グループのメンバーシップの表示と変更
- エンタイトルメントの表示
- レポートの要約の表示
- HPCA Agent の配布
- デバイス管理ジョブの作成

[デバイスの詳細] ウィンドウでは次の領域が利用できます。

全般

[全般] タブは、デバイスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブには、デバイス名、オペレーティング システム、シリアル番号、IP アドレス、エージェントのステータス、前回ログオン ユーザー、および作成日と変更日などの情報が表示されます。これらの情報の中には、HPCA Agent が配布されるまで利用できないものがあります。

▶ [前回ログオン ユーザー] では、**Console** ログイン経由でデバイスに最後にログオンしたユーザー アカウントがレポートされます。複数のユーザーがログオンしている場合は、最後にログオンしたユーザーのみが記録されます。[前回ログオン ユーザー] は、リモート デスクトップ接続のログインや、現在のユーザー間の切り替えでは更新されません。

[**詳細プロパティ**] セクションでは、トラブルシューティング時に役立つ可能性のあるその他のデバイス情報が利用可能です。セクションを展開してこの情報を表示するには、[詳細プロパティ] タイトル バーの右側にあるアイコンをクリックします。

グループ

[グループ] タブは、現在のデバイスが所属する全グループを表示します。

OS

[OS] タブには、デバイスのグループ メンバーシップに基づいて、デバイスにエンタイトルメントが設定されたオペレーティング システムがすべて表示されます。付属のツールバーを使用して、**OS** イメージを配布します。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて表示します。ツールバー ボタンを使用して、現在のデバイスにソフトウェアを配布したり、デバイスからソフトウェアを削除したりします。

パッチ

[パッチ] タブは、グループ メンバーシップに基づいて、エンタイトルメントが設定されたパッチをすべて表示します。ツールバーを使用して、現在のデバイスへパッチを配布します。

▶ パッチは、配布されたら削除できません。

レポート

[レポート] タブには、表示しているデバイスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCA Console** の [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] には、アクティブなデバイス管理ジョブおよびスケジュールされたデバイス管理ジョブがすべて表示されます。デバイス管理ジョブは、個々のデバイスを対象とし、**HPCA** データベースのデバイスに対して、**HPCA Agent** の配布や削除、およびソフトウェアの管理に使用できます。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

「ジョブ コントロール」 および 「**Job Status**」 については、121 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション) を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] は、完了したデバイス管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

 完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

HPCA Agent の手動インストール

通常は、**HPCA Console** を使用してターゲット クライアント デバイスに **HPCA Agent** が配布され、これにより **HPCA** でデバイスの管理が可能になります。

一方、ネットワークに常時接続されているとは限らないクライアント デバイスを管理する場合、**HPCA Agent** は手動でインストールできます。そのために、**HPCA** メディアには別のインストール ファイルが収録されています。クライアント デバイスにインストールされた **HPCA Agent** は自動的に **HPCA** データベースに追加されます。

HPCA Agent を手動でインストールするには

- 1 ターゲット デバイスで、HPCA メディアを挿入します。
- 2 コマンドラインを使用して、HPCA メディアの Media\client\default\win32 ディレクトリに移動します。
- 3 「**setup-standard.cmd host**」と入力します。この場合の host は HPCA Server のホスト名または IP アドレスです。
- 4 **Enter** キーを押します。HPCA Agent がインストールされ、これでデバイスが HPCA で管理できるようになります。

HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール

HP **Registration and Loading Facility (RALF)** (68 ページの「[HP Registration and Loading Facility](#)」を参照) がインストール済みで、HPCA インフラストラクチャに登録されている場合は、HPCA Agent を通常の方法でシンクライアント デバイスに配布できます。57 ページの「[\[デバイス \] タブからの HPCA Agent の配布](#)」または 76 ページの「[グループへの HPCA Agent の配布](#)」を参照してください。

ただし、HPCA Agent を手動でインストールする場合は、HPCA Agent をインストールした後に、(RALF がない場合には) HPCA メディアに収録されているファイルを使用して RALF をインストールする必要があります。

Windows XPE では、HPCA Agent をインストールすると RALF が自動的にインストールされます。その他のシンクライアント デバイスでは、Agent をインストールしてから RALF をインストールします。次のセクションで手順について詳しく説明します。

▶ RALF のインストールでは、「hpcaserver」または RALF インストールパラメータを使用して定義したホスト名を、DNS に含める必要があります。Agent を HPCA Console からインストールする場合は、HPCA Server のホスト名も DNS に含める必要があります。

- [HP シンクライアント デバイスへの Agent の手動インストール](#) 66 ページ
- [HP Registration and Loading Facility](#) 68 ページ

HP シン クライアント デバイスへの Agent の手動インストール

Linux ベースのシン クライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには HPCA Agent には、/opt ファイル システム上に最低 5 MB の空き領域が必要です。

- 1 ターゲットの HP シン クライアント デバイスに **root** としてログインします。ThinPro を実行している場合は、**xterm** 用のカスタム接続の作成が必要になることがあります(下記参照)。
- 2 **/opt/hpca** という名前の新しいディレクトリを作成します。
- 3 HPCA メディアの該当する Linux シン クライアントのサブディレクトリから、/tmp ファイル システムの一時ディレクトリにインストール メディアをコピーします。
- 4 作業中のディレクトリを新しい一時ディレクトリに変更して、次のように入力しインストールを実行します。

```
./install -i HPCA_Server
```

この場合の **HPCAS_Server** は HPCA Server のホスト名または IP アドレスです。

HPCA Agent がインストールされます。

- 5 デバイスに **RALF** がすでにある場合は、Agent のインストールが完了したらデバイスを再起動します。

RALF がない場合は、デバイスに **RALF** をインストールします。69 ページの「Linux (Debian または ThinPro) に **RALF** を手動でインストールするには」を参照してください。

Linux ベースのシン クライアントから HPCA Agent を削除するには

- 1 ターゲットの HP シン クライアント デバイスに **root** としてログインします。
- 2 現在のディレクトリを /opt/hpca/agent に変更します。
- 3 「./uninstall」と入力し、**Enter** キーを押します。
Agent が削除されます。

xterm 用のカスタム接続を作成するには

ThinPro オペレーティング システムを使用している場合は、**xterm** 接続を作成するために、カスタム接続の作成が必要になることがあります。

- 1 左下隅の HP メニューで [**シャットダウン**] を選択します。

- 2 **[Thin Client Action]** ドロップ ダウンで **[Switch to admin mode]** を選択し、管理者パスワード (デフォルトのパスワードは **root**) を指定します。注意: **Control Center** の背景が青から赤に変化します。
- 3 **[Control Center]** で **[追加]** ドロップダウン リストをクリックし、**[カスタム]** オプションを選択します。
- 4 **[名前]** を **[xterm]** に設定します。
- 5 **[コマンド]** に次を入力して実行します。
`sudo xterm -e bash &`
- 6 **[完了]** をクリックします。

これで、**xterm** セッションを開くために使用できる接続ができました。

Windows XPE シン クライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには

Windows XPE で **Agent** をインストールすると、**RALF** が自動的にインストールされます。**Agent** のインストールが完了したら、別個に **RALF** をインストールする必要はありません。

デバイスに **RALF** がすでにある場合は、**Agent** のインストールを実行する前に **RALF** サービスを停止します。

- 1 **Windows XPE** シン クライアント デバイスから **HPCA** メディアにアクセスします。
- 2 **HPCA** メディアで、`Media\client\default\win32xpe` に移動します。
- 3 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 4 インストールの手順に従います。
- 5 **HPCA Server** の IP アドレスとポート番号のプロンプト画面が表示されたら、それらを入力します。

HPCA Agent がインストールされます。

サイレントモードで **Windows XPE** に **Agent** をインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
Setup.exe NVD OBJZMASTER_ZIPADDR=<server_ip>  
NVD OBJZMASTER_ ZDSTSOCK=<server_port> /qn
```

任意で次のログ パラメータを追加できます。

```
/l*v <log file>
```

Windows XPE シンクライアントから HPCA Agent を削除するには

Windows XPE から HPCA Agent を削除するには、インストールプログラム `setup.exe` を使用します。

- 1 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 2 **[削除]** を選択します。
- 3 **[OK]** をクリックします。
HPCA Agent が削除されます。

Windows CE シンクライアントに HPCA Agent を手動でインストールするには

- 1 Windows CE シンクライアントデバイスから HPCA メディアにアクセスします。
- 2 HPCA メディアで、`Media\client\default\win32ce` に移動します。
- 3 **Standard.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 HPCA Server のホスト名または IP アドレスを入力して、**[OK]** をクリックします。
HPCA Agent がインストールされます。
- 5 デバイスに RALF がすでにある場合は、Agent のインストールが完了したらデバイスを再起動します。

RALF がない場合は、Windows CE デバイスに RALF をインストールします。70 ページの「Windows CE 6.0 に RALF をインストールするには」を参照してください。

Windows CE シンクライアントから HPCA Agent を削除するには

- Windows のコントロールパネルアプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用して、HPCA Agent を Windows CE から削除します。

HP Registration and Loading Facility

HPCA Registration and Loading Facility (RALF) は、HPCA Core インフラストラクチャで管理されるシンクライアントデバイスに使用できる Agent のコンポーネントです。RALF によって、HPCA インフラストラクチャへのデバイスの自動登録、およびメイン Console から開始される HPCA Agent のインストールの管理が行われます。RALF は HPCA Agent の一部ですが、HP シンクライアントの出荷時イメージにプレインストールされているので、起動時に登録が行われます。使用している出荷時イメージに含まれていない場合は、次回の OS 配布で使用されるゴールドイメージでインストールおよび設定ができます。RALF をインストールする場合は、OS 配布の前に HPCA Agent もインストールする必要があります。

RALF の設定と操作

RALF は最新の HP シン クライアント イメージにプレインストールされて出荷されています (ThinConnect を実行しているものを除く)。「hpcaserver」と定義されたデフォルトの HPCA Server のホスト名を使用して設定されます。この名前に合わせて HPCA Server をインストールできますが、実際の HPCA Server ホスト名の定義では、この名前を DNS エイリアスとして使用することの方が一般的です。また、以下で説明するコマンドライン オプションを使用して RALF を再設定し、異なるホスト名を定義することもできます。

インストールすると、RALF は HPCA Server を定期的にプローブする Windows サービスまたは Linux デーモンとして動作します。このプローブは 24 時間行われ、その後に RALF はシャットダウンします。この 24 時間プローブは、再起動後にまた開始されます。Server に接続すると、RALF により HPCA インフラストラクチャにデバイスが登録され、HPCA Agent をインストールするリクエストが受け入れられるまで待機の状態になります。Agent がインストールされると、RALF により定期的に Server に接続され、デバイス登録属性の確認が行われます。

Linux (Debian または ThinPro) に RALF を手動でインストールするには

Linux デバイスに RALF をインストールするには、root 権限が必要です。

- 1 HPCA メディアで、Media\client\default\linuxtc\hpcaralf に移動します。
- 2 インストール メディアを Linux デバイスの /tmp にコピーします。
- 3 現在のディレクトリを /temp ディレクトリに変更します。
- 4 インストール コマンドを実行します。
 - a Debian デバイスの場合
 - `dpkg -i hpcaralf.deb` を実行します。
 - b ThinPro デバイス (読み取り専用のルート ファイル システムを使用) の場合
 - `fsunlock` を実行します (ファイル システムを書き込み可能としてマウントするため)。
 - `/usr/share/hpkg/.hpkg_util -i hpcaralf.deb` を実行します。
 - `fslock` を実行します (ファイル システムを読み取り専用として再マウントするため)。
- 5 インストールが完了した後、デバイスを再起動するか、`/etc/init.d/hpcaralf` を実行して、RALF を初期化します。

このスクリプト (`/etc/init.d/hpcaralf`) を使用して、デバイスの RALF デーモンの開始および停止ができます。

XPE および WES (Windows Embedded Standard) に RALF を手動でインストールするには

Windows XPE では、HPCA Agent をインストールすると RALF も同時にインストールされるため、別個に RALF をインストールする必要はありません。

- 1 HPCA メディアで、media\client\default\win32xpe\HPCARALF ディレクトリに移動します。
- 2 HPCARalf75.msi ファイルを使用して、Windows XPE デバイスに RALF をインストールします。

サイレント インストールを実行するには、次のコマンドラインを使用します。

```
msiexec /i HPCARalf75.msi RALF_HOST=<HOSTNAME>RALF_PORT=  
<portnumber> /qn
```

Windows CE 6.0 に RALF をインストールするには

- 1 HPCA メディアで、media\client\default\win32ce\HPCARALF ディレクトリに移動します。
- 2 ralf.X86.cab ファイルを使用して、Windows CE デバイスに RALF をインストールします。
- 3 HPCA Server の IP アドレスとポート番号のプロンプト画面が表示されたら、それらを入力します(デフォルトは「hpcaserver」と「3466」)。

RALF コマンドラインパラメータ

RALF では、次のコマンドライン オプションがサポートされます。これらは主に内部的に使用されるものなので、ここには参照用として記載します。

```
ralf.exe [-probe] [-host <host>] [-port <port>] [-debug]  
[-trace] [-version]  
[-confinit] (Linux)  
[-reginit] (Windows)  
[-help]
```

表 5 RALF コマンドライン オプション

オプション	説明
probe	HPCA プローブを起動します。
host	プローブおよび登録に使用する任意の HPCA Server ホストを指定します。
port	プローブおよび登録に使用する任意の HPCA Server ポートを指定します。

オプション	説明
<code>reginit</code>	(Windows) テスト環境の RALF アプリケーション レジストリ エントリを定義します。
<code>confinit</code>	(Linux) テスト環境の RALF アプリケーション設定ファイルを定義します。
<code>debug</code>	デバッグ ログ レベルを指定します。
<code>trace</code>	トレース ログ レベルを指定します。
バージョン	RALF のバージョンが表示されます。
ヘルプ	RALF についての情報が表示されます。

グループ管理

[グループ管理] セクションを使用して、デバイス グループの作成と管理を行います。デバイス グループの作成は、管理を容易にし、管理対象デバイスにソフトウェアおよびパッチを配布するのに必要です。

グループ管理のタブについては、以下のセクションで説明しています。

- [全般 72 ページ](#)
- [グループ 74 ページ](#)
- [現在のジョブ 84 ページ](#)
- [過去のジョブ 84 ページ](#)

全般

[全般] 領域を使用して、新しいグループの作成、既存のグループの管理、および現在および完了したグループ管理ジョブの表示を行います。

グループには、管理対象デバイスと管理対象外デバイスを含めることができます。

新しいスタティック グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、[**新しいスタティック グループの作成**] をクリックし、「グループ作成ウィザード」を起動します。
ウィザードの手順に従って、新しいデバイス グループを作成します。

新しいダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

- [共通のタスク] 領域で、[**新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成**] をクリックし、「グループ作成ウィザード」を起動します。
ウィザードの手順に従って、新しいデバイス探索グループを作成します。

新しいダイナミック レポート グループを作成するには

- HPCA Console の [レポート] タブを使用してクエリを定義し、次に [**新しいダイナミック レポート グループの作成**] ボタンをクリックして、「グループ作成ウィザード」を開始します。

次のセクション「[グループ タイプ](#)」では、HPCA 内で利用可能なさまざまなタイプのグループについて説明します。

グループ タイプ

HPCA では、デバイスの管理に次のグループ タイプを使用します。

内部

内部グループは HPCA によって提供されます。たとえば、全デバイス グループには、デフォルトではインポートされた全デバイスが含まれています。

スタティック

個々のデバイスを選択して、スタティック グループを作成します。スタティック グループにデバイスを追加したり、スタティック グループからデバイスを削除するには、[[グループの詳細](#)] ウィンドウを使用して、グループ メンバーシップを手動で変更する必要があります。スケジュールまたはその他のグループ パラメータを使用してスタティック グループのメンバーシップを変更することはできません。

探索

探索グループには、グループ作成ウィザードの実行中に設定したパラメータに従って、外部ソース (LDAP、ネットワーク探索) から得た管理対象および管理対象外デバイスの動的なリストが含まれています。探索されたデバイスは、自動的に HPCA デバイス リストに追加されます。

レポート

レポート クエリで返されたデバイスのリストからレポート グループを作成します。レポート グループは、グループ管理ジョブを使用して、自動的に更新されます。

デフォルトでは、HPCA には次のレポート グループがあります。

- 全 Windows Vista デバイス
- 全 Windows XP Professional デバイス
- 全 Windows 2000 Professional デバイス
- 全 TPM 対応デバイス

これらのグループは、毎日更新され、ダイナミック グループの要件に合致した新しい管理対象デバイスが発見されると自動的に追加されます。

グループ

[グループ] タブには、作成された全グループが表示されます。7日以内に作成されたグループは、グループ名の右に、括弧付きの「新規作成」という単語が表示されます。

- グループに特有の情報を表示するには、表示名リンクをクリックします。
- グループリストをソートするには、カラムの見出しをクリックします。
- グループ内のデバイスについてインベントリ、パッチ、および電源管理ジョブを作成するには、ツールバー ボタンを使用します。
- デバイスのリストを絞り込むには、**[検索]**機能を使用します。最初の検索ボックスには、**Console**の現在のセクションで利用可能なカラムの見出しが表示されます。2番目のボックスには、クエリをカスタマイズするための検索パラメータを指定します。クエリ結果を表示すると、**[フィルタ結果]**  が、表の一番下に表示されます。

作成したグループは、デバイスのインベントリ、場所、または指定した他の条件に基づいて、どのデバイスがどのソフトウェアおよびパッチを受け取るかを判断できます。デバイスを追加する前に、必ずグループの作成を計画してください。

表 6 [グループ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – グループ リストを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	新しいグループの作成 – 「グループ作成ウィザード」を起動します。
	管理エージェントの配布 – 「エージェント配布ウィザード」を起動します。
	管理エージェントの削除 – 「エージェント削除ウィザード」を起動します。

表 6 [グループ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	<p>インベントリの収集： ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 – 「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」を起動します。 パッチ適用状況の探索 – 「パッチの適用状況探索ウィザード」を起動します。</p>
	<p>電源管理 – 「電源管理ウィザード」を起動します。</p>
	<p>デバイスを削除 – デバイス リストからデバイスを削除します。デバイス リストからデバイスを削除しても、デバイスのレポート データは削除されないことに注意してください。レポート データは、[設定] を使用して削除する必要があります。詳細については、141 ページの「データベース メンテナンス」を参照してください。</p>

次のタスクが [グループ] タブで実行できます。

- グループの作成 76 ページ
- グループへの HPCA Agent の配布 76 ページ
- HPCA Agent のグループからの削除 77 ページ
- グループのソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索 77 ページ
- グループのパッチ適用状況の探索 78 ページ
- 電源管理 78 ページ
- グループの削除 78 ページ
- グループの詳細 79 ページ
- [グループの詳細] ウィンドウのタスク 81 ページ
- スタティック グループでのデバイスの追加と削除 81 ページ
- グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除 81 ページ
- グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 82 ページ
- グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除 83 ページ

- グループへのパッチの配布 83 ページ

グループの作成

スタティック グループを作成するには

- **[新しいグループの作成]**  ボタンをクリックして、**[新しいスタティック グループの作成]** を選択します。「グループ作成ウィザード」が起動します。グループは、管理対象および管理対象外デバイスについて作成できます。
ウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいスタティック グループを作成します。

ダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

- **[新しいグループの作成]**  ボタンをクリックして、**[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]** を選択します。「グループ作成ウィザード」が起動します。
ウィザードの手順に従って、ソフトウェアとパッチの配布用の新しいダイナミック ディスカバリ グループを作成します。

グループへの HPCA Agent の配布

エージェント配布ウィザードを使用して、**HPCA Agent** をグループに配布します。

HPCA Agent の注意事項

- **HPCA Agent** の配布には、デバイスの認証情報（管理者権限を持つユーザー名およびパスワード）が必要です。**HPCA Agent** をグループに配布するには、そのグループ内の全デバイスが、同じ認証情報を共有する必要があります。
- **HPCA Agent** は、ほとんどのシンクライアント デバイスにはリモートで配布できません。**HPCA** メディアの `\Media\client\default` ディレクトリにある適切なインストールプログラムを使用して、手動でインストールする必要があります。

デバイスのグループに HPCA Agent を配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、管理するグループ、または **HPCA Agent** を再配布するグループを選択します。

-
- 2 **【管理エージェントの配布】**  ボタンをクリックして、「エージェント配布ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、HPCA Agent を配布します。

HPCA Agent のグループからの削除

エージェント削除ウィザードを使用して、デバイスのグループから HPCA Agent を削除します。

デバイスのグループから HPCA Agent を削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、Agent を削除するグループを選択します。
- 2 **【管理エージェントの削除】**  ボタンをクリックして、「エージェント削除ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したグループ内の全デバイスから HPCA Agent を削除します。

グループのソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してインベントリを探索します。

デバイスのグループに対してソフトウェア / ハードウェア インベントリを探索するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、インベントリを探索するグループを選択します。
- 2 **【インベントリの収集】**  ボタンをクリックして、**【ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索】** を選択し、「ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、各グループ内のデバイスのインベントリ ステータスを判別します。
- 4 HPCA Console の [レポート] タブを使用して、選択したグループに関するインベントリ レポートを表示します。

グループのパッチ適用状況の探索

パッチ適用状況探索ウィザードを使用して、デバイスのグループに対してパッチ適用状況を探します。

デバイスのグループに対してパッチ適用状況を探するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、パッチ適用状況探索の対象とするグループを選択します。
- 2 **[インベントリの収集]**  ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、「エージェント配布ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したグループ内のデバイスのパッチ適用状況を探します。
- 4 **HPCA Console** の **[レポート]** タブを使用して、選択したグループに関するパッチ適用状況レポートを表示します。

電源管理

デバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動したりするには、電源管理ウィザードを使用します。

- 1 管理するグループを選択して、**[電源管理]**  ボタンをクリックし、「電源管理ウィザード」を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、選択したグループに対して電源管理ジョブを作成します。

グループの削除

[グループ] ツールバーを使用して、**HPCA** からグループを削除します。グループを削除しても、そのグループに属するデバイスは削除されません。

HPCA からグループを削除するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、削除するグループを選択します。
- 2 **[グループの削除]**  ボタンをクリックして、**HPCA** からグループを削除します。

グループの詳細

グループ名をクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、グループのプロパティの表示、デバイスのメンバーシップの表示と変更、エンタイトルメントの表示と変更、レポートの要約の表示、およびグループ管理ジョブの作成を行います。次の領域が利用可能です。

全般

[全般] タブには、グループに利用可能な共通のタスクが表示されます。その他の設定タスクにアクセスするには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブでは、グループタイプ、グループ名、および説明に加えて、ダイナミックグループ用のその他のプロパティが表示されます。有効なグループタイプは次のとおりです。

- **スタティック** : [グループの詳細] の [デバイス] セクションを使用して、手動でデバイスのメンバーシップを更新します。
- **レポートおよび探索** : グループメンバーシップを更新するには、[現在のジョブ] タブのジョブ制御を使用して、探索ジョブを実行します。
- **内部** : グループメンバーシップは変更できません。

[保存] をクリックして、[グループプロパティ] セクションに対する変更を適用します。

ダイナミックレポートグループを表示する場合は、[レポートのフィルタ条件] セクションに元々グループを作成するのに使用された条件を表示できます。この情報は、読み取り専用です。条件を変更する場合は、ダイナミックレポートグループを新しく作成する必要があります。フィルタ条件は、反復スケジュール、または未実行の後ほど実行するスケジュールを持つグループに対してのみ表示可能であることを注意してください。一度のみ実行するスケジュールを持ち、すでに実行されたグループに対しては、「フィルタ情報は利用できません」と表示されます。

ダイナミック探索グループを表示する場合は、[探索のプロパティ] セクションにダイナミックグループのプロパティを表示できます。

デバイス

[デバイス] タブに表示されたデバイスは、そのグループの現在のメンバーです。

- **スタティック** グループのデバイスメンバーシップは手動で編集する必要があります。

- [現在のジョブ] タブのジョブ コントロールを使用して、ダイナミック レポートまたは探索グループのメンバーシップ リフレッシュ スケジュールを変更します。

OS

[OS] タブに表示されるオペレーティング システムのイメージは、グループにエンタイトルメントが設定されています。ツールバー ボタンを使用して、グループ固有の OS エンタイトルメント設定および配布のタスクを完了します。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブに表示されるソフトウェアは、グループにエンタイトルメントが設定されています。ソフトウェア エンタイトルメントの追加または削除は、既存のデバイス メンバーすべておよびグループに追加されるデバイスすべてに影響します。

ツールバー ボタンを使用して、エンタイトルメントの追加や削除、ソフトウェアの同期、およびグループのデバイスでのソフトウェアの配布や削除を行います。

- ▶ ソフトウェア エンタイトルメントを削除しても、グループ内のデバイスからソフトウェアが自動的に削除されることはありません。ソフトウェアを削除するには、ターゲット デバイスを選択し、[ソフトウェアの削除] ボタンを使用します。ソフトウェアの削除後、エンタイトルメントを削除することで、そのソフトウェアを使用できないようにできます。

パッチ

[パッチ] タブには、グループに対してエンタイトルメントを持っているすべてのパッチが表示されます。

ツールバー ボタンを使用して、グループに対するパッチ エンタイトルメントの追加や削除、およびグループのデバイスへのパッチの配布を行います。

- ▶ パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

レポート

[レポート] タブには、グループ別のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCA Console** の [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] タブには、そのグループについて現在アクティブなジョブ、およびスケジュールされているジョブがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、利用可能なジョブを管理します。

[グループの詳細] ウィンドウのタスク

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、次のタスクを完了します。

- スタティック グループでのデバイスの追加と削除 81 ページ
- グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除 81 ページ
- グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期 82 ページ
- グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除 83 ページ
- グループへのパッチの配布 83 ページ

スタティック グループでのデバイスの追加と削除

[グループの詳細] ウィンドウを使用して、スタティック グループのメンバーシップを更新します。

スタティック グループにデバイスを追加するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[**デバイス**] タブをクリックします。
- 2 [**デバイスの追加**]  をクリックします。
- 3 開いたウィンドウで、追加するデバイスを選択して、[**デバイスの追加**] をクリックします。

スタティック グループからデバイスを削除するには

グループからデバイスを削除すると、そのグループ メンバーシップのみが削除されます。デバイスは、デバイス リストからは削除されません。

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[**デバイス**] タブをクリックします。
- 2 削除するデバイスを選択して、[**デバイスを削除**]  をクリックします。

グループでのソフトウェア エンタイトルメントの追加と削除

グループのデバイスに対してソフトウェアのエンタイトルメントを追加および削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにソフトウェアのエンタイトルメントを設定するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[**ソフトウェア**] タブをクリックします。

- 2 **【エンタイトルメントの追加】**  をクリックします。[ソフトウェア エンタイトルメント] ウィンドウが開きます。
- 3 グループにエンタイトルメントを設定するソフトウェアを選択して、**【エンタイトルメントの追加】** をクリックします。

グループからソフトウェアのエンタイトルメントを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**【ソフトウェア】** タブをクリックします。
- 2 エンタイトルメントを削除するソフトウェアを選択して、**【エンタイトルメントの削除】**  をクリックします。

グループでのソフトウェアの配布、削除、および同期

グループのデバイスに対してソフトウェアを配布、削除、および同期するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにソフトウェアを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**【ソフトウェア】** タブをクリックします。
- 2 配布するソフトウェアを選択して、**【ソフトウェアの配布】**  をクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスにソフトウェアを配布するには、191 ページの「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従います。

グループからソフトウェアを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**【ソフトウェア】** タブをクリックします。
- 2 グループ内の管理対象デバイスから削除するソフトウェアを選択して、**【ソフトウェアの削除】**  をクリックします。
- 3 グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除するには、195 ページの「ソフトウェア削除ウィザード」の手順に従います。

ソフトウェアを同期するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、**【ソフトウェア】** タブをクリックします。
- 2 **【ソフトウェアの同期】**  をクリックして、「ソフトウェア同期ウィザード」を起動します。

- 3 ウィザードの手順に従って、そのグループのソフトウェア同期スケジュールを設定します。

これで、エンタイトルメントを持っているすべてのソフトウェアが、グループの現在のメンバーおよびグループに後で追加されるメンバーに確実にインストールされます。

グループでのパッチ エンタイトルメントの追加と削除

グループのデバイスに対してパッチのエンタイトルメントを追加および削除するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループに対してパッチのエンタイトルメントを設定するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 **[エンタイトルメントの追加]**  をクリックして、[パッチ エンタイトルメント] ウィンドウを起動します。
 - ▶ エンタイトルメントを設定していないパッチだけが、[パッチ エンタイトルメント] ウィンドウに表示されます。エンタイトルメントがすでに設定されたパッチは表示されません。
- 3 グループにエンタイトルメントを設定するパッチを選択して、**[エンタイトルメントの追加]** をクリックします。

グループからパッチ エンタイトルメントを削除するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 エンタイトルメントを削除するパッチを選択して、**[エンタイトルメントの削除]**  をクリックします。

グループへのパッチの配布

グループのデバイスにパッチを配布するには、[グループの詳細] ウィンドウを使用します。

グループにパッチを配布するには

- 1 [グループの詳細] ウィンドウで、[パッチ] タブをクリックします。
- 2 配布するパッチを選択し、**[パッチの配布]**  をクリックして、「パッチ配布ウィザード」を起動します。

- 3 194 ページのウィザードの手順に従って、グループ内の管理対象デバイスにパッチを配布します。

▶ パッチは、配布後はデバイスから削除できません。

現在のジョブ

[現在のジョブ]には、アクティブなグループ管理ジョブおよびスケジュールされたグループ管理ジョブがすべて表示されます。グループ管理ジョブは、特定のグループを対象にし、そのグループのデバイスに配布されたソフトウェアの管理、および作成したダイナミック レポートや探索グループのデバイスのリフレッシュを行います。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。「ジョブ コントロール」および「**Job Status**」については、121 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したグループ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

▶ 完了したジョブは完了の1分後に過去のジョブ リストに移動されます。

ソフトウェア管理

ソフトウェア サービスおよびソフトウェア管理ジョブを管理するには、[ソフトウェア管理] セクションを使用します。ソフトウェアは、管理対象デバイスのグループにエンタイトルメントが設定されてから、**HPCA Console** を使用して管理者によって配布されるか、**Application Self-Service Manager** を使用してエンドユーザーによってインストールされます。

- ▶ **HPCA Starter** は、BIOS 設定と **HP SoftPaq** の配布に限られています。ソフトウェアを配布するには、**HPCA Standard** が必要です。

[ソフトウェア管理] セクションには、次のタブがあります。

- **全般 85 ページ**
- **ソフトウェア 86 ページ**
- **現在のジョブ 93 ページ**
- **過去のジョブ 93 ページ**

全般

[全般] タブを使用して、ソフトウェアのパブリッシュ、管理対象デバイスへのソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布、現在および過去のソフトウェア管理ジョブの表示の方法を学びます。

[要約] セクションには、**HPCA** データベースで現在利用可能なソフトウェア サービスの数および現在のソフトウェア管理ジョブの数が表示されます。

ソフトウェアをパブリッシュするには

- **Publisher** を使用して、ソフトウェアを **HPCA** にパブリッシュします。パブリッシュされたソフトウェアは、ソフトウェア ライブラリに表示されます。
ソフトウェア サービスの選択および設定を行う側のマシンに **Publisher** をインストールします。ソフトウェアを **HPCA** にパブリッシュする方法については、213 ページの「**Publisher の使用**」を参照してください。

ソフトウェアのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 [共通のタスク] 領域で [配布] をクリックします。「ソフトウェア配布ウィザード」が起動します。

- 2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアのエントリーメント設定および配布を行います。

ソフトウェア

[ソフトウェア] タブには、**HPCA** にパブリッシュされたソフトウェアがすべて表示されます。

ツールを使用して、ソフトウェア データのリフレッシュ、管理対象デバイスへのソフトウェアの配布、およびライブラリからのソフトウェアの削除を行います。また、ソフトウェアをソフトウェア ライブラリからインポートしたり、ソフトウェア ライブラリへエクスポートしたりできます。

HPCA には、次のデフォルトのソフトウェア サービスがあります。

 これらのデフォルトのサービスは、ソフトウェア ライブラリから削除できません。

- **CCM_PUBLISHER – HP Client Automation Administrator Publisher**

Publisher の別のインストール方法。このサービスを使用して、ソフトウェアの取得およびパブリッシュ、**OS** イメージ、**BIOS** 設定、および **HP SoftPaq** のパブリッシュを行う元のデバイスへ **Publisher** を配布します。

- **CCM_TPM_ENABLEMENT – TPM Enablement**

このサービスでは、互換性がある **HP** デバイスの **TPM (Trusted Platform Module)** チップの使用および所有権が初期化されます。その場合、[デバイス管理] セクションの [設定] タブの設定が使用されます。設定オプションについては、167 ページの「信頼できるプラットフォーム モジュール」を参照してください。このサービスをインストールすると、次のタスクが実行されます。

- **BIOS** での **TPM** チップの有効化
- 指定された **BIOS** 管理者パスワードの設定
- **TPM** の所有権および所有者のパスワードのセットアップ
- 緊急復旧トークンおよびパスの初期化
- パスワード リセット トークンとパス、およびバックアップ アーカイブパスの設定

TPM Enablement サービスが配布された後、デバイスは、ユーザー レベルの初期化を実行できます（初期化は、エンドユーザーが HP ProtectTools Security Manager インターフェイスを使用して行います）。



TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細については、ご使用のデバイスの HP ドキュメントを参照してください。

表 7 [ソフトウェア] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – ソフトウェア ライブラリを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	ソフトウェアの配布 – 「ソフトウェア配布ウィザード」を起動します。
	グループ エンタイトルメントの追加 – 「サービス エンタイトルメントウィザード」を起動します。
	サービスのインポート – 「サービス インポート ウィザード」を起動します。
	サービスのエクスポート – 「サービス エクスポート ウィザード」を起動します。
	ソフトウェアの削除 – ライブラリからのソフトウェアを削除します。

以下のタスクが [ソフトウェア] タブから実行できます。

- [ソフトウェアの配布 88 ページ](#)
- [グループ エンタイトルメントの追加 88 ページ](#)
- [サービスのインポート 89 ページ](#)
- [サービスのエクスポート 89 ページ](#)

- [HPCA からのソフトウェアの削除 90 ページ](#)
- [ソフトウェアの詳細 90 ページ](#)

ソフトウェアの配布

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、ソフトウェアをグループまたはデバイスに配布します。

ソフトウェアのエントタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 配布するソフトウェアを選択し、[**ソフトウェアの配布**]  をクリックして、「ソフトウェア配布ウィザード」を起動します。
- 2 [191 ページ](#)のウィザードの手順に従って、管理対象デバイスへソフトウェアのエントタイトルメント設定および配布を行います。

Windows Vista デバイスのアクティブなセッションでアプリケーションを実行するには

Vista デバイス上でのユーザーの介入を必要とするアプリケーションの配布を許可するには、**runasuser** メソッド修飾子を使用します。

- [ソフトウェアの詳細] ウィンドウで、[プロパティ] タブを開いて修飾子 **runasuser** をインストール コマンド ラインの先頭に追加します。次に例を示します。

```
runasuser setup.exe
```

または、パブリッシュ時にこの修飾子を [メソッド] プロパティの [リソース インストール メソッド] に追加して含めることもできます。



メソッド修飾子 **runasuser** は修飾子 **hide** と一緒には使用できません。これらは互いに矛盾する修飾子です。

グループ エンタイトルメントの追加

ソフトウェア ライブラリで利用可能なソフトウェアは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、グループ エンタイトルメントを追加するソフトウェアを選択します。

- 2 **【グループ エンタイトルメントの追加】**  をクリックして、「サービス エンタイトルメント ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに、ソフトウェアのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

HPCA では、ソフトウェア サービスをソフトウェア ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリ内にある必要があります。

(デフォルトは C:\ProgramFiles\Hewlett-Packard\HPCA\Data\ServiceDecks)

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境のソフトウェア ライブラリにインポートして、管理対象デバイスに配布します。

サービスをインポートするには

- 1 **【サービスのインポート】**  をクリックして、「サービス インポート ウィザード」を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、サービスをソフトウェア ライブラリにインポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされたソフトウェア サービスは、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たとえば、テスト環境内の)他の HPCA Server のソフトウェア ライブラリへのインポートに利用できます。

サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートするソフトウェアを選択します。
- 2 **【サービスのエクスポート】**  をクリックして、「サービス エクスポート ウィザード」を起動します。

- 3 ウィザードの手順に従って、そのサービスを **HPCA Server** マシンの **ServiceDecks** ディレクトリにエクスポートします。

HPCA からのソフトウェアの削除

HPCA データベースからソフトウェアを削除するには、[ソフトウェア] ツールバーを使用します。

ソフトウェア ライブラリからソフトウェアを削除するには

- 1 削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[ソフトウェアの削除]**  ボタンをクリックします。

ソフトウェアの詳細

ソフトウェア名をクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェア サービス プロパティの表示、エンタイトルメントの表示や変更、ソフトウェアの配布や削除、およびレポートの要約の表示を行います。

全般

[全般] タブには、ソフトウェアに利用可能な共通のタスクが表示されます。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

ソフトウェア カテゴリやコマンド ラインのインストールまたはアンインストールなど、ソフトウェアの詳細を変更するには、[プロパティ] タブを使用します。

- **説明**
ソフトウェアの詳細な説明を入力します。これは必須のフィールドです。
- **ソフトウェア カテゴリ**
ソフトウェアのタイプを定義するためのカテゴリを指定します。ソフトウェア カテゴリは、ソフトウェア ライブラリに表示され、ソート オプションとして利用できます。
- **カタログの表示**
管理対象デバイスのカタログにこのソフトウェアを表示するかどうかを選択します。カタログにソフトウェアを表示すると、エンドユーザーは、そのソフトウェアをインストールまたは削除できます。

- **再起動の設定**
ソフトウェアがインストールされた後、管理対象デバイスの再起動が必要かどうか、およびエンドユーザーに再起動を要求するかどうかを選択します。
 - **作成者**
ソフトウェアの作成者（たとえば、Hewlett-Packard など）。
 - **ベンダー**
ソフトウェアのベンダー（たとえば、Hewlett-Packard など）。
 - **Web サイト**
ソフトウェアについての情報を参照できる URL。
 - **事前アンインストール コマンド ライン**
ソフトウェアがデバイスから削除される前に実行するコマンド。たとえば、ソフトウェア削除のコマンドを実行する前に、いくつかのレジストリ キーを削除する必要がある場合があります。
 - **インストール コマンド ライン**
ソフトウェアをインストールするために実行するコマンド。
 - **アンインストール コマンド ライン**
ソフトウェアがデバイスから削除された後に実行するコマンド。
- ▶ ソフトウェアの詳細に変更を加えた後は、必ず **[保存]** をクリックしてください。

グループ

[グループ] タブには、選択されたソフトウェアについてエンタイトルメントが設定されているグループがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、グループ エンタイトルメント、グループへのソフトウェアの配布、およびグループからのソフトウェアの削除を管理します。

- グループにエンタイトルメントを設定するには、**[ソフトウェア エンタイトルメントの追加]**  ボタンをクリックします。
- グループのエンタイトルメントを削除するには、グループを選択し、**[ソフトウェア エンタイトルメントの削除]**  をクリックします。
- 選択したソフトウェアをグループに配布するには、グループを選択し、**[ソフトウェアの配布]**  ボタンをクリックします。

「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従って、選択したソフトウェアを配布します。

- グループからソフトウェアを削除するには、グループを選択し、**[ソフトウェアの削除]**  ボタンをクリックします。
 「ソフトウェア削除ウィザード」の手順に従って、グループ内の管理対象デバイスからソフトウェアを削除します。
- グループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、グループを選択して、**[インベントリの収集]**  ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。
 「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」の手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- グループのパッチ適用状況を探索するには、グループを選択して、**[インベントリの収集]**  ボタンをクリックし、**[パッチ適用状況の探索]** を選択します。
 「パッチの適用状況探索ウィザード」の手順に従って、パッチ適用状況を探索します。
- グループの電源をオン、オフ、および再起動するには、グループを選択して、**[電源管理]**  ボタンをクリックします。
 「電源管理ウィザード」の手順に従って、デバイスを管理します。

デバイス

[デバイス] タブには、選択されたソフトウェアについてエンタイトルメントが設定されているデバイスがすべて表示されます。リストの一番上のツールバーを使用して、デバイスでソフトウェアを配布および削除します。

- デバイスにソフトウェアを配布するには、デバイスを選択し、**[ソフトウェアの配布]**  ボタンをクリックします。
 「ソフトウェア配布ウィザード」の手順に従って、ソフトウェアを配布します。
- デバイスからソフトウェアを削除するには、デバイスを選択し、**[ソフトウェアの削除]**  ボタンをクリックします。
 「ソフトウェア削除ウィザード」の手順に従って、ソフトウェアを削除します。

- 管理対象デバイスのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ボタンをクリックし、**[ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索]** を選択します。
「ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード」の手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。
- デバイスのパッチ適用状況の探索と強制を行うには、デバイスを選択して、**[インベントリの収集]**  ボタンをクリックし、**[パッチ適用状況の探索と強制]** を選択します。
「パッチの適用状況探索ウィザード」の手順に従って、パッチ適用状況の探索と強制を行います。
- デバイスの電源をオン、オフ、および再起動するには、デバイスを選択して、**[電源管理]**  ボタンをクリックします。
「電源管理ウィザード」の手順に従って、デバイスの電源を管理します。

レポート

[レポート] タブには、表示しているソフトウェアに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCA Console** の [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ]には、現在アクティブなソフトウェア管理ジョブおよびスケジュールされたソフトウェア管理ジョブがすべて表示されます。ソフトウェア管理ジョブは、**HPCA** データベースの管理対象デバイスでソフトウェアのエンタイトルメント設定、配布、および削除を行うために使用します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。

「ジョブ コントロール」および「**Job Status**」については、121 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したソフトウェア管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更したり、表の一番上にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプしたりすることができます。

- ▶ 完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

パッチ管理

パッチ、HP SoftPaq およびパッチ管理ジョブを管理するには、[パッチ管理]領域を使用します。

パッチと HP SoftPaq は、HPCA 管理者によって管理対象デバイスのグループにエンタイトルメントが設定され、配布されます。配布は、管理者が定義した適用状況スケジュールに基づいて自動的に実行できます。168 ページの「[パッチ管理](#)」を参照してください。

Publisher を使用してパブリッシュされた HP SoftPaq は、ソフトウェア ライブラリに格納されています。一方、取得した HP SoftPaq はパッチ ライブラリに格納されています。

[パッチ管理] セクションには、次のタブがあります。

- [全般 98 ページ](#)
- [パッチ 99 ページ](#)
- [現在のジョブ 103 ページ](#)
- [過去のジョブ 104 ページ](#)



Microsoft パッチ管理には、HP Client Automation Standard が必要です。HP Client Automation Starter では、HP SoftPaq を管理できません。

Microsoft Update Catalog: OS とサービス パックの最低要件



このセクションに記載されているハイパーリンクはすべてこのマニュアルの出版の時点で実行可能な最新のリンクです。

HPCA のパッチ管理で利用する **Microsoft Update Catalog** および **Windows Update** テクノロジーに必要なオペレーティング システムとサービス パックの最低要件については、Microsoft の Web サイトを参照してください。このマニ

アルを作成している時点で、サポートされる Microsoft オペレーティング システムのバージョンと言語については、Microsoft Update ホーム ページ <http://update.microsoft.com/microsoftupdate/v6/default.aspx> で確認できます。

▶ より新しいセキュリティ パッチをインストールするために、新しい Microsoft セキュリティ パッチが必要なので、HPCA Agent マシンに Windows インストーラ バージョン 3.1 が必要です。Windows インストーラ 3.1 の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「**Windows インストーラ 3.1 v2 (3.1.4000.2435) について**」を参照してください。

Microsoft 自動更新に関する重要な情報

自動更新は Microsoft Windows オペレーティング システムの機能で、ユーザーは必要な更新プログラムまたはパッチがないかどうかを確認するために、自分のシステムをスキャンできます。自動更新では、更新プログラムおよびパッチのダウンロードおよびインストールも行うことができます。この機能では、現在、次の設定オプションを使用できます。

- 更新を自動的にダウンロードするが、インストールは手動で実行する
- 更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない
- 自動更新を無効にする

▶ **[自動更新を無効にする]** オプションを使用することをお勧めします。



これらの各オプションを使用した場合の影響や結果について理解することが重要です。システムでいずれかのオプションを選択する前に、次のセクションを参照してください。

自動更新についての考慮事項

自動更新と HPCA Patch Manager では、基本の Windows コンポーネントと **Windows Update Agent (WUA)** を使用してデバイスをスキャンし、更新をインストールします。このマニュアルを作成している時点で、複数のパッチ管理製品で WUA を使用している場合に生じる既知の問題があります。そのため、**Patch Manager** を使用して更新プログラムの配布とインストールを行う場合は、このセクションの情報に従って自動更新を設定してください。この設定を行わない場合、問題が発生する可能性があります。

自動更新を [**更新を通知するのみで、自動的なダウンロードまたはインストールを実行しない**] に設定する場合、HPCA Agent で更新をスキャンおよびインストールしている間、ユーザーは自動更新のダウンロードプロセスを開始できません。自動更新プロセスが手動で開始されると、管理対象デバイスのいずれかのプロセスが更新のダウンロードおよびインストールに失敗します。

これは、Patch Manager に特有の動作ではありません。他のパッチ管理製品が WUA を使用しようとしたときに WUA がすでに使用中の場合も、同じことが起こります。Microsoft は、この問題を修正する予定です。このマニュアルを作成している時点で、関連する Microsoft サポート技術情報の記事は次のとおりです。

- Microsoft サポート技術情報の記事 910748「**SMS 2003 Inventory Tool の Microsoft Updates (ITMU) 更新プログラムが失敗、クライアント コンピュータを更新する自動更新と ITMU の両方が構成されている場合**」
- Microsoft サポート技術情報の記事 931127「**Windows Update または Microsoft Update では、CopyToCache メソッドを呼び出すユーティリティの使用時、Windowsupdate.log ファイルのエラー メッセージが表示されます**」
- 企業でウイルス スキャナをインストールし、それを有効にしている場合は、Microsoft サポート技術情報の記事 922358「**同じコンピュータに McAfee ウイルス対策プログラムがインストールされているときに Microsoft Systems Management Server 2003 Inventory Tool for Microsoft Updates を実行できません**」を参照してください。この記事では、フォルダ %Windir%\SoftwareDistribution をウイルス スキャンの対象から除外する必要性について説明しています。Microsoft のこのドキュメントは特定の Microsoft パッチ管理テクノロジーに言及していますが、Windows Update Agent の同じ制限事項が、Windows Update Agent テクノロジーを利用する HPCAS Patch Manager を使用している企業にも該当します。
- 自動更新がサポートする製品には HPCA でサポートされないものがあるため、[**自動更新を無効にする**] を選択すると、使用可能な更新がまったく通知されないことがあります。

WUA は、Windows の自動更新サービスを使用します。これは、ターゲットデバイスで [**自動**] または [**手動**] に設定する必要があります。Windows の自動更新サービスは、必要に応じて WUA によって起動されるまで停止状態です。自動更新の詳細については、次の Microsoft サポート技術情報の記事を参照してください。

- 「**Windows XP での自動更新の構成方法および使用方法**」
- 「**Windows 2000 で自動更新を設定する方法と使用方法**」

全般

[全般] タブを使用して、パッチの取得と配布、現在および過去に完了したパッチ管理ジョブの参照ができます。

[要約] セクションには、HPCA データベースで現在利用可能なパッチおよび現在のパッチ管理ジョブの数が表示されます。

Microsoft のパッチおよび HP SoftPaq は、[設定] タブの [パッチ管理] セクションで指定した情報に基づいて、それぞれのソースから取得されます。詳細については、168 ページの「[パッチ管理](#)」を参照してください。

パッチを取得するには

- [共通のタスク] 領域で [取得] をクリックします。

パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに追加されます。管理者が設定した取得スケジュールに従って、追加のパッチが自動的にダウンロードされます。

パッチは、HPCA Console からのみ管理対象デバイスに配布されます。パッチは、Application Self-Service Manager のソフトウェア カタログでは利用できません。

パッチを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で、[配布] をクリックして、「[パッチ配布ウィザード](#)」を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、選択したグループのデバイスにパッチを配布します。

パッチ

パッチ ライブラリには、[設定] タブの [パッチ管理] セクションの設定に基づいて取得されたパッチと HP SoftPaq が含まれています。これらのパッチおよび HP SoftPaq は、管理対象デバイスにエンタイトルメント設定および配布できます。詳細については、168 ページの「パッチ管理」を参照してください。

表 8 [パッチ ライブラリ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – パッチ ライブラリをリフレッシュします。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	パッチの配布 – 「パッチ配布ウィザード」を起動します。
	グループ エンタイトルメントの追加 – 「サービス エンタイトルメントウィザード」を起動します。
	サービスのインポート – 「サービス インポート ウィザード」を起動します。
	サービスのエクスポート – 「サービス エクスポート ウィザード」を起動します。
	ソフトウェアの削除 – ライブラリからパッチを削除します。 パッチが削除されると、そのパッチに対するすべてのエンタイトルメントも削除されますが、配布先のデバイスからは削除されません。

[パッチ] タブから次のタスクを実行できます。

- [パッチの配布](#) 100 ページ
- [グループ エンタイトルメントの追加](#) 100 ページ
- [サービスのインポート](#) 100 ページ
- [サービスのエクスポート](#) 101 ページ
- [パッチの詳細](#) 101 ページ

パッチの配布

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、管理対象デバイスに配布できます。

パッチを配布するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、配布用のパッチを選択します。
- 2 **[パッチの配布]**  ボタンをクリックして、「パッチ配布ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、パッチを配布します。

グループ エンタイトルメントの追加

パッチ ライブラリで利用可能なパッチは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。エンタイトルメントにより、「パッチ配布ウィザード」で設定したスケジュールを使用して、パッチ適用状況を強制できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、グループ エンタイトルメント用のパッチを選択します。
- 2 **[グループ エンタイトルメントの追加]**  ボタンをクリックして、「サービス エンタイトルメント ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択するデバイスのグループに、パッチのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

HPCA では、パッチ サービスをパッチ ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリ内に格納されている必要があります。

(デフォルトはC:\ProgramFiles\Hewlett-Packard\HPCA\Data\ServiceDecks)

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境でサービスを承認したら、サービス エクスポート ウィザードを使用して、**HPCA Server** の製品版の **ServiceDecks** ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスを製品版パッチ ライブラリにインポートし、パッチを管理対象デバイスに配布します。

サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  ボタンをクリックして、「サービス インポート ウィザード」を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、サービスをパッチ ライブラリにインポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされたパッチ サービスは、**HPCA Server** の **ServiceDecks** ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たとえば、テスト環境内の)他の **HPCA** パッチ ライブラリへのインポートに利用できます。

サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートするパッチを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  ボタンをクリックして、「サービス エクスポート ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、そのサービスを **HPCA Server** の **ServiceDecks** ディレクトリにエクスポートします。

パッチの詳細

パッチの説明をクリックして、[パッチの詳細] ウィンドウを開きます。[パッチの詳細] ウィンドウを使用して、パッチ サービスのプロパティの表示、エンタイトルメントの表示および変更、およびレポートの要約の表示を行います。次の領域が利用可能です。

全般

[全般] タブには、パッチ サービスに利用可能な共通のタスクが表示されます。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ]タブには、ブリテン番号、ブリテンの説明とタイプ、公開日と改訂日、およびベンダー情報のリンクが表示されます。

グループ

[グループ]タブには、選択したパッチにエンタイトルメントが設定されているグループがすべて表示されます。ツールバー ボタンを使用して、各グループ内の管理対象デバイスでパッチのエンタイトルメントやインストール状態を変更します。

- グループにエンタイトルメントを設定するには、[グループエンタイトルメントの追加]  をクリックします。
- グループからエンタイトルメントを削除するには、グループを選択し、[グループエンタイトルメントの削除]  ボタンをクリックします。
- グループにパッチを配布するには、グループを選択し、[パッチの配布]  をクリックします。
「パッチ配布ウィザード」の手順に従って、選択したパッチを配布します。
- デバイスのグループのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、グループを選択して、[インベントリの収集]  ボタンをクリックし、[ソフトウェア/ハードウェアインベントリの探索]を選択します。
「ソフトウェア/ハードウェアインベントリウィザード」の手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェアインベントリを探索します。
- デバイスのグループのパッチ適用状況を探るには、グループを選択して、[インベントリの収集]  ボタンをクリックし、[パッチの適用状況の探索]を選択します。
「パッチの適用状況探索ウィザード」の手順に従って、パッチ適用状況を探ります。
- デバイスのグループの電源をオン、オフ、または再起動するには、グループを選択して、[電源管理]  ボタンをクリックします。
「電源管理ウィザード」の手順に従って、デバイスを管理します。

デバイス

[デバイス] タブに表示されるデバイスは、選択したパッチに対してエンタイトルメントが設定されています。ツールバー ボタンを使用して、デバイスにパッチを配布します。

- デバイスにパッチを配布するには、デバイスを選択し、[**パッチの配布**]  ボタンをクリックします。

「**パッチ配布ウィザード**」の手順に従って、パッチを配布します。



パッチは、配布されたら削除できません。

- デバイスのソフトウェアおよびハードウェアのインベントリを探索するには、デバイスを選択して、[**インベントリの収集**]  をクリックし、[**ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索**] を選択します。

「**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**」の手順に従って、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリを探索します。

- デバイスのパッチ適用状況を探るには、デバイスを選択して、[**インベントリの収集**]  ボタンをクリックし、[**パッチの適用状況の探索**] を選択します。

「**パッチの適用状況探索ウィザード**」の手順に従って、パッチ適用状況を探ります。

- デバイスの電源をオン、オフ、および再起動するには、デバイスを選択して、[**電源管理**]  ボタンをクリックします。

「**電源管理ウィザード**」の手順に従って、デバイスを管理します。

レポート

[レポート] タブには、表示しているパッチに固有のレポートの要約が表示されません。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCA Console** の [**レポート**] タブを使用します。

現在のジョブ

デバイスにセキュリティ パッチを配布するには、パッチ管理ジョブが使用されます。[現在のジョブ] には、アクティブなジョブおよびスケジュールされたジョブのリストが表示されます。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。

ツールバーを使用して、現在スケジュールされているジョブとアクティブなジョブを管理します。

「ジョブ コントロール」および「**Job Status**」については、121 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了したパッチ管理ジョブをすべて表示します。ジョブのステータスをより詳細に表示するには、ジョブの説明をクリックしてください。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

OS 管理

[OS 管理] セクションを使用して、クライアント デバイスが使用するオペレーティング システム (OS) を管理します。このセクションの領域で、OS の配布、サービスのインポートとエクスポート、およびエンタイトルメント設定などのタスクを実行できます。

次のセクションでは、OS 管理の各タブについて説明します。

- [全般 105 ページ](#)
- [オペレーティング システム 106 ページ](#)
- [現在のジョブ 120 ページ](#)
- [過去のジョブ 120 ページ](#)



HP Client Automation Starter では、シンクライアント オペレーティング システムの管理のみが可能です。拡張された OS 管理には、**HP Client Automation Standard** が必要です。

全般

[全般] タブを使用して、オペレーティング システムをパブリッシュする方法、管理対象デバイスに対するオペレーティング システムのエンタイトルメント設定と配布を行う方法、現在と過去の OS 管理ジョブを表示する方法に関する情報を見つけることができます。

[要約] セクションには、HPCA データベースで現在利用可能なオペレーティング システム サービスの数と現在の OS 管理ジョブの数が表示されます。

OS イメージを取得してパブリッシュするには

OS イメージを OS ライブラリで利用できるようにするには、OS イメージを HPCA にパブリッシュする必要があります。Image Preparation Wizard を使用して OS イメージを取得し、Publisher を使用して HPCA にパブリッシュします。

- **Image Preparation Wizard** を使用して、OS イメージの準備と取得を行います。イメージの準備と取得の詳細については、[第 9 章、「OS イメージの準備と取得」](#) または **Image Preparation Wizard** のオンライン ヘルプを参照してください。
- **Publisher** を使用して、オペレーティング システム イメージを HPCA にパブリッシュします。パブリッシュされたオペレーティング システム サービスは、[オペレーティング システム] タブに表示されます。オペレーティング システムのパブリッシュの詳細については、[213 ページの「Publisher の使用」](#) または **Publisher** のオンライン ヘルプを参照してください。

OS イメージを配布するには

- 1 [共通のタスク] 領域で **[配布]** をクリックします。「OS 配布ウィザード」が起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスに対してオペレーティングシステムのエンタイトルメント設定と配布を行います。

ターゲット デバイスの要件や配布シナリオなど、オペレーティングシステムの配布の詳細については、107 ページの「オペレーティングシステムの配布」を参照してください。

オペレーティング システム

[オペレーティング システム] タブでは、HPCA にパブリッシュされた利用可能なオペレーティング システムすべてが表示できます。

付属のツールを使用して、オペレーティング システム データのリフレッシュ、管理対象デバイスへのオペレーティング システムの配布、またはライブラリからのオペレーティング システムの削除を行います。また、オペレーティング システム サービスをオペレーティング システム ライブラリからインポートしたり、オペレーティング システム ライブラリへエクスポートしたりできます。

新しくパブリッシュされた (7 日以内にパブリッシュされた) サービスは、説明の右に、括弧付きの新規作成という単語 "(新規作成)" が表示され、識別ができます。

表 9 [OS ライブラリ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	データのリフレッシュ – OS ライブラリを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり、表示したり、保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	オペレーティング システムの配布 – 「OS 配布ウィザード」を起動します。
	グループ エンタイトルメントの追加 – 「サービス エンタイトルメントウィザード」を起動します。

表 9 [OS ライブラリ] ツールバーのタスク

ボタン	説明
	サービスのインポート – 「サービス インポート ウィザード」を起動します。
	サービスのエクスポート – 「サービス エクスポート ウィザード」を起動します。
	オペレーティング システムの削除 – ライブラリからオペレーティング システムを削除します。

[オペレーティング システム] タブでは、次のタスクを実行できます。

- オペレーティング システムの配布 107 ページ
- ローカル サービスの起動 (LSB: Local Service Boot) を使用した OS イメージの配布 111 ページ
- PXE を使用した OS イメージの配布 112 ページ
- サービス CD を使用した OS イメージの配布 113 ページ
- グループ エンタイトルメントの追加 114 ページ
- サービスのインポート 114 ページ
- サービスのエクスポート 115 ページ
- オペレーティング システムのライブラリからの削除 115 ページ
- オペレーティング システムの復元 115 ページ
- OS の詳細 118 ページ

オペレーティング システムの配布

オペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布を行うには

- 1 配布するオペレーティング システム サービスを選択して、**[オペレーティング システムの配布]**  ボタンをクリックします。「OS 配布ウィザード」が起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、管理対象デバイスに対してオペレーティング システムのエンタイトルメント設定と配布を行います。

オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードの選択については、175 ページの「OS 管理」の [設定] タブを参照してください。

配布シナリオおよび OS 配布のターゲット デバイス要件は、以下のセクションを参照してください。

配布シナリオ

お使いの環境のデバイスにオペレーティング システムを配布する方法は、いくつかの変数によって異なります。次の表は、複数の OS イメージ配布シナリオおよびデバイスにオペレーティング システムを配布する手順を説明しています。

表 10 配布シナリオ

デバイスの状態	配布の手順
管理対象 (Agent をインストール済み)	デバイスがすでに管理されている場合 <ul style="list-style-type: none">• デバイスをグループに追加• グループにオペレーティング システムのエントリーメントを設定 (エントリーメント設定がまだの場合)• OS 配布ウィザードを使用して OS を配布 注意: OS 配布プロセスの間に LSB を使用する場合、PXE やサービス CD を準備する必要はありません。
非管理対象 (Agent が未インストール)	非管理対象デバイスに OS がインストールされている場合 <ul style="list-style-type: none">• デバイスに HPCA Agent を配布• 上の管理対象デバイスに関する手順を参照 非管理対象デバイスに OS がインストールされていない場合 <ul style="list-style-type: none">• ベアメタル デバイスへの OS の配布については、下記の手順を参照してください。

表 10 配布シナリオ

デバイスの状態	配布の手順
ベアメタル(OSが未インストール)	<p>(ハードディスクの復旧など)デバイスが以前管理されていた場合</p> <ul style="list-style-type: none"> グループメンバーシップおよびOSエンタイトルメントがまだ有効です。PXE またはサービス CD を使用して OS を配布 <p>デバイスが以前管理されたことがない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> PXE またはサービス CD でデバイスを起動 MAC アドレスの変化形をデバイス名として使用して HPCA にデバイスを追加 新しいデバイスを OS エンタイトルメントを持つグループに追加 <p>注意: OS は、全デバイスグループに接続されている場合、自動的にインストールされます。複数の OS が全デバイスに接続されている場合、インストールする OS を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デバイスが再起動され、サービス CD または PXE が OS の配布を続けます。 <p>注意: ベアメタルデバイスへの OS の配布には、LSB は使用できません。</p>

ターゲットデバイスの要件

ターゲットデバイスは、オペレーティングシステムをインストール、置き換え、または更新するワークステーションです。次の要件を満たす必要があります。

- HPCA によって配布される OS を実行する場合に関して、Microsoft (Windows オペレーティングシステムの場合) またはマシンのメーカーにより公表されているハードウェアおよび BIOS の最低要件を満たしている。
- ターゲットデバイスでは、DHCP サーバーに接続し、IP アドレスを取得できる。
- ポリシー用に、マシンのモデル、メーカーおよび一意の識別子のレポートを作成する場合、またはこれらを利用する場合、BIOS はシステム管理用の SMBIOS 仕様をサポートする必要があります。ターゲットデバイスが SMBIOS をサポートしていない場合、そのマシンでポリシーを指定するのに利用できる基準は MAC アドレスだけです。
- 英語、フランス語、またはドイツ語のキーボードを使用している。

- RAM が 128 MB 以上ある。
- ネットワーク (PXE) ブートを使用している場合、以下が必須です。
 - **Boot Server** から起動できる。このためには、ハードディスクの前にネットワークから起動するように BIOS を設定しておく必要があります。
 - PXE をサポートするネットワーク インターフェイス カード (NIC) が装着されている。ネットワーク カードには PXE 対応のものがありますが、実際は、ネットワーク ブート ROM を追加した PXE をサポートするだけです。これらのカードに、ネットワーク ブート ROM が装備されている必要があります。以前の 3Com カードには、ファームウェアの MBA 4.3 へのアップグレードおよび PXE スタック バージョン 2.2 を必要とするものがあります。
 - Microsoft Sysprep を使用するため、ターゲット デバイスが参照マシンと同じか互換性のある **HAL (Hardware Abstract Layer)** を装備していることを確認する。HAL.DLL のバージョンが同じマシンは、同じ **Hardware Abstraction Layer** を共有しています。マシンの HAL を判別する方法の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事、「**Windows 2000 のハードウェア抽象層のトラブルシューティング**」を参照してください。HAL.DLL をチェックできない場合は、正常に配布できることを確認するため、テスト環境でターゲット マシンにイメージを配布できます。
- IDE または SCSI (Adaptec のみ) ブート ドライブ インターフェイスを装備している必要があります。
- 参照マシンの ACPI 特性 (HAL で示される ACPI と非 ACPI など) とブート ドライブ インターフェイスが一致する。
- 参照マシンで取得された HAL で示される Programmable Interrupt Controller の機能と互換性がある (**Advanced Programmable Interrupt Controller (APIC)** HAL は APIC 機能のないマシンでは動作しませんが、**PIC (標準のオンボード Programmable Interrupt Controller)** HAL は APIC 機能を備えたマシンで動作します)。比較的新しい HP/Compaq コンピュータでは、多くの場合、APIC が実装されています。
- NTFS および FAT32 ファイル システムをサポートする。
- Windows XPe および CE のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンに配布できます。たとえば、256 MB のイメージは、256 MB または 512 MB のターゲット デバイスに配布できます。

- **Embedded Linux** のイメージは、サイズが同じフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンにしか配布できません。たとえば、**256 MB** のイメージは、**256 MB** のフラッシュ ドライブを装備したターゲット デバイスにしか配布できません。



OS イメージを配布すると、ターゲット デバイスのハード ドライブおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされる場合があります。次のシナリオは、イメージ配布プロセスで、影響を受けるパーティションと影響を受けないパーティションについて説明しています。

2 つのパーティションを持つ 1 台の HDD

- ブート パーティションにイメージが配布され、もう 1 つのパーティションは影響を受けません。

1 つのパーティションを持つ 1 台の HDD

- ハード ドライブにイメージが配布され、すべての既存のデータが上書きされます。

各 1 つのパーティションを持つ 2 台の HDD

- 1 台目のハード ドライブにイメージが配布され、このドライブ上のすべての既存のデータが上書きされます。2 台目のハード ディスクは影響を受けません。

各 2 つのパーティションを持つ 2 台の HDD

- 1 台目のハード ドライブのブート パーティションにイメージが配布され、もう 1 つのパーティションおよび 2 台目のハード ドライブは影響を受けません。

シンクライアントの出荷時イメージの配布

サポートされているシンクライアントのオペレーティング システム、**Windows XP Embedded (XPE)**、**Windows CE**、または **Embedded Linux** の出荷時イメージを配布する場合は、以下の点に注意してください。

- イメージがデバイスに配布された後は、**HPCA Agent** をインストールしてデバイスの管理を開始する必要があります。インストールの指示については、**65 ページ**の「**HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール**」を参照してください。

ローカル サービスの起動 (LSB: Local Service Boot) を使用した OS イメージの配布

[ローカル サービスの起動]により、**HPCA** は、ネットワークから起動されていないデバイスの OS を管理できます。

ローカル サービスの起動を使用するとき、既存のマシンは **PXE** 対応である必要はありません。また、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を **BIOS** でローカルに設定する必要はありません。

OS 配布の前提要件については、**108 ページ**の「**配布シナリオ**」を参照してください。

ローカル サービスの起動を使用して OS イメージを配布するには

- 1 配布用のイメージを選択し、[オペレーティング システムの配布]  ボタンをクリックして「OS 配布ウィザード」を起動します。
- 2 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル サービスの起動] を選択します。
- 3 これで、LSB ソフトウェアがターゲット デバイスにインストールされます。次に選択した OS をインストールします。複数の OS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、インストールする OS を選択するプロンプトが表示されます。

PXE を使用した OS イメージの配布

PXE ベースの環境により、HPCA は、ネットワークから起動されるターゲット デバイスの OS を管理できます。OS 配布の前提要件については、108 ページの「配布シナリオ」を参照してください。

PXE の使用は、ネットワークから起動しているクライアントにブート イメージを提供する DHCP サーバー、およびこれらのファイルを提供する TFTP サーバーの設定からなります。

- DHCP サーバーおよび TFTP サーバーは、OS 配布に PXE を使用する前に、設定する必要があります。設定の指示は製品のドキュメントを参照してください。

PXE が設定されている場合、ターゲット デバイスがネットワークから起動する、またはプライマリ ブート デバイスとして PXE が有効になっていることを確認してください。この状態になるために必要な調整を設定に加えてください（たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **ESC** キーを押し、起動順序の設定を変更できます）。

これで、OS イメージを配布する準備ができました。

PXE を使用して OS イメージを配布するには

- 1 PXE が設定されていることを確認します。
- 2 配布用のイメージを選択し、[オペレーティング システムの配布]  ボタンをクリックして「OS 配布ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、[ローカル CD または PXE サーバー] を選択します。

ウィザードが終了したら、DHCP サーバーで指定した設定を使用して、ターゲット デバイスが再起動されます。

OS イメージがターゲット デバイスに配布、インストールされました (複数の OS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、インストールする OS を選択するように要求されます)。

サービス CD を使用した OS イメージの配布

サービス CD を使用して、まだオペレーティング システムがインストールされていないターゲット デバイス (ベアメタル マシン) をローカルに起動します。

ImageDeploy.iso を使用してサービス CD を作成します。このファイルは、HPCA メディアの \Media\iso\roms\ ディレクトリにあります。

LSB は、まだ OS をインストールしていないデバイスには使用できないので、OS 配布のためベアメタル マシンを起動するには、サービス CD または PXE サーバーのいずれかを使用する必要があります。

サービス CD は、ターゲット デバイスでローカルに作成して利用可能にする必要があります。

OS 配布の前提要件については、108 ページの「[配布シナリオ](#)」を参照してください。

サービス CD を使用して OS イメージを配布するには

- 1 ターゲット デバイスにサービス CD を挿入し、CD から起動します。
- 2 入力を要求されたら、HPCA Server の IP アドレスまたはホスト名とポート番号を入力し、**Enter** キーを押して続行します。たとえば、「HPCA.acmecorp.com:3466」や「192.168.1.100:3469」と入力します。ポート 3466 は、OS のイメージングと配布用に予約されています。

デバイスは、HPCA Server に接続され、MAC アドレスのバリエーションをデバイス名として使用して、デバイス リストに追加されます。サービス CD が HPCA Server に接続されると、「このマシンにローカル OS がないか、OS が無効です。」と「マシンは使用できず、管理者がポリシーを指定して Wake On LAN を実行するまでシャットダウンされます。」というメッセージが表示されます。

- 3 HPCA Console で、[OS 管理] セクションを使用して新しいデバイスをグループに追加します。

- 4 [OS 管理] セクションで、配布用のイメージを選択し、**[オペレーティング システムの配布]**  ボタンをクリックして「**OS 配布ウィザード**」を起動します。
- 5 ウィザードの指示に従い、配布方法の選択では、**[ローカル CD または PXE サーバー]** を選択します。
- 6 ウィザードが完了したら、再びサービス CD を使用して、ターゲット デバイスを再起動します。この再起動の間に、OS イメージが検出され配布されます。イメージのサイズおよびネットワークのバンド幅により、これには **10 ~ 15 分** かかる場合があります (複数の OS イメージがデバイスにエンタイトルメント設定されている場合、どの OS をインストールするか選択するように指示されます)。
- 7 イメージの配布が終了したら、ターゲット デバイスを再起動し、**Windows** を起動します。**Sysprep** プロセスが、新しいイメージを起動し、初期化します。

グループ エンタイトルメントの追加

OS ライブラリで利用可能な OS イメージは、デバイスのグループにエンタイトルメントを設定できます。

グループ エンタイトルメントを追加するには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスを使用して、グループ エンタイトルメントの OS イメージを選択します。
- 2 **[グループ エンタイトルメントの追加]**  ボタンをクリックして、「**サービス エンタイトルメント ウィザード**」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、ウィザードを使って選択するデバイスのグループに選択したイメージのエンタイトルメントを設定します。

サービスのインポート

HPCA は、OS サービスを OS ライブラリにインポートできます。サービスをインポートするには、サービス インポート デッキが、**HPCA Server** の **ServiceDecks** ディレクトリ内にある必要があります。

テスト環境を構築してある場合に、サービスのインポートは便利です。テスト環境で特定のサービスを承認したら、プロダクション環境の **HPCA Server** の **ServiceDecks** ディレクトリにそのサービスをエクスポートします。次に、サービス インポート ウィザードを使用して、そのサービスをプロダクション環境の OS ライブラリにインポートし、そのオペレーティング システムを管理対象デバイスに配布します。

サービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  ボタンをクリックして、「サービス インポート ウィザード」を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、サービスを OS ライブラリにインポートします。

サービスのエクスポート

パブリッシュされた OS イメージのサービスは、HPCA Server の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートされたサービスは、(たとえば、テスト環境内の)他の HPCA Server ライブラリへのインポートで使用できます。

サービスをエクスポートするには

- 1 最初のカラムのチェック ボックスをオンにして、サービスとしてエクスポートする OS イメージを選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  ボタンをクリックして「サービス エクスポート ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、そのサービスを HPCA Server マシンの ServiceDecks ディレクトリにエクスポートします。

オペレーティング システムのライブラリからの削除

[OS] ツールバーを使用して、HPCA データベースからソフトウェアを削除します。

オペレーティング システム ライブラリからオペレーティング システム サービスを削除するには

- 1 削除する OS を選択します。
- 2 **[オペレーティング システムの削除]**  ボタンをクリックします。

オペレーティング システムの復元

OS Manager を使用すると、最後の手段としてオペレーティング システムを復元できます。オペレーティング システムを復元するとオペレーティング システムは動作するようになりますが、データがすべて失われるため、コンピュータ名の変更や Agent のインストールなどのカスタマイズを実行することが必要になります。

前提条件

- イメージ配布メディア
- ネットワークに格納され、動作しているオペレーティング システム。

オペレーティング システムを復元するには

- 1 製品 HPCA メディアの \Media\iso\roms フォルダにある ImageDeploy.iso から作成した CD-ROM を挿入します。
- 2 ターゲット デバイスを起動します。
- 3 使用するサービス OS を尋ねられたら、[_SVC_LINUX_] または [SVC_PEX86_] を選択します。
- 4 メッセージが複数表示されてから、以下の選択肢のあるメニューが表示されます。
 1. Service OS networking (オプションを選択しない場合デフォルトの選択肢)
 2. キャッシュ パーティションから OS をインストールする (Enterprise ライセンスのみ)
 3. CD または DVD から OS をインストールする (Enterprise ライセンスのみ)
- 5 操作の対応する数字を入力します。オプション 2 および 3 では、Enterprise ライセンスが必要になります。Service OS networking の場合は、ネットワークに接続する必要があります。

Linux サービス OS を使用することを選択した場合に DHCP が検出されると、OS Manager Server の IP アドレスの入力を要求され、その後適切な OS イメージがデバイスにインストールされます。

または

DHCP が見つからない場合、適切な OS イメージがマシンにインストールされる前に、以下のようなネットワーク情報が要求されます。

- ターゲット デバイスの IP アドレス。
- デフォルト ゲートウェイ
- サブネット
- サブネット マスク
- DNS アドレス。
- OS Manager Server IP アドレス

ネットワーク情報を USB ドライブまたはフロッピー ディスクに保存することを選択します。これを行うには、次の .ini ファイルを準備します。

— romsinfo.ini

このファイルには、OS Manager Server に関する情報が含まれています。情報は、もっとも重要な情報から重要でない情報への順に並べられています。左側で OS Manager Server との一致が見つかり、その右側の情報が使用されます。

romsinfo.ini ファイルのサンプルは次のとおりです。

```
[ROMSInfo]
192.128.1.99=192.168.123.* ,
192.168.124.* ,192.128.125.*
osm.usa.hp.com=192.168.*
osm.hp.com=*
```

1 行目は、マシンがリストされたサブネット (192.168.123.*, 192.168.124.*, 192.128.125.*) にあるかどうかをチェックします。アスタリスクは、ワイルドカードとして使用します。一致が見つかり、マシンは、左側に指定されている IP アドレス (例、192.128.1.99) の OS Manager Server を使用します。

一致するものが見つからない場合、ファイルの 2 行目が使用されます。これは、マシンが 192.168.* で始まるサブネット内にあるかどうかをチェックします。サブネット内にある場合、マシンは **osm.usa.hp.com** を使用して、OS Manager Server を見つけます。

今回も一致するものがない場合、ファイルの 3 行目が使用されます。これは、どのサブネットにマシンが属しているかに関係なく、**osm.hp.com** を使用して、マシンが使用する OS Manager を見つけることを示しています。

```
[ServiceCD]
source=net
netif=eth0
```

1 行目はイメージを取得する場所を示しています。有効な値は、**net**、**cd**、または **cache** です。この情報の入力を要求するメッセージを表示しない場合、これを使用します。

2 行目は使用する NIC を決定します。NIC カードが複数あり、かつこのパラメータを指定しない場合、発見された最初の NIC カードが使用されます。有効な値は、**eth0** ~ **eth3** です。

— netinfo.ini

ここでは、ネットワークの情報があります。セクションが 1 つ以上ある場合 ([SubnetDisplayName2] など)、使用する情報の入力を要求されます。

- ▶ addr を使用して、IP アドレスの範囲を指定できます。これにより、複数のマシンで使用できる USB ドライブまたはフロッピー ディスクに情報を保存できます。

```
[SubnetDisplayname1]
addr=192.168.123.50-192.168.123.69
gateway=192.168.123.254
subnet=192.168.1.0
netmask=255.255.255.0
dns=192.168.123.1
```

- ▶ DNS が不明な場合は、.ini ファイルのキーワード dns= をそのままにしてください。

復元用 CD-ROM を挿入し、デバイスの起動開始直後に USB ドライブまたはフロッピー ディスクを挿入します。設定が完了すると、「Network configuration successful.」というメッセージが表示されます。

OS の詳細

いずれかのオペレーティング システム サービス ID のリンクをクリックして、[OS の詳細] ウィンドウを開きます。[OS の詳細] ウィンドウで、OS のプロパティの表示、エンタイトルメントの表示や変更、レポートの要約の表示、または OS 管理ジョブの作成が可能です。[OS の詳細] ウィンドウには、次の領域があります。

全般

[全般] タブは、その OS サービスに利用可能な共通のタスクを表示します。その他の設定タスクを表示するには、他の管理領域タブをクリックします。

プロパティ

[プロパティ] タブを使用して、オペレーティング システム サービスの詳細を変更します。

- **説明**

このオペレーティング システム サービスについて表示される説明。このフィールドは必須です。

- **作成者**

OS サービス作成者を入力する省略可能なフィールド。

- **ベンダー**

OS ベンダーを入力する省略可能なフィールド。

- **Web サイト**

このサービスに関連した URL を入力する省略可能なフィールド。

[保存] をクリックして、変更を適用します。

グループ

[グループ] タブのグループは、オペレーティング システムにエンタイトルメントが設定されています。ツールバーを使用し、表示されたグループについて、エンタイトルメントの管理、OS の配布、ソフトウェアおよびハードウェア インベントリの探索、またはパッチ適用状況の探索を行います。

- 追加するグループにエンタイトルメントを設定するには、[グループ エンタイトルメントの追加]  ボタンをクリックします。
- グループからエンタイトルメントを削除するには、[グループ エンタイトルメントの削除]  ボタンをクリックします。
- 特定のグループにオペレーティング システムを配布するには、グループを選択し、[オペレーティング システムの配布]  ボタンをクリックします。これにより、「OS 配布ウィザード」が起動します。196 ページのウィザードの手順に従って、選択した OS を配布します。

デバイス

[デバイス] タブのデバイスは、オペレーティング システムにエンタイトルメントが設定されています。ツールバーを使用して、特定のデバイスに OS を配布します。

- 特定のデバイスにオペレーティング システムを配布するには、デバイスを選択し、[オペレーティング システムの配布]  ボタンをクリックします。これにより、「OS 配布ウィザード」が起動します。196 ページのウィザードの手順に従って、選択した OS を配布します。

レポート

[レポート]タブでは、そのオペレーティング システム サービスに固有のレポートの要約が表示されます。詳細なレポートを表示するには、メイン **HPCA Console** の [レポート] タブを使用します。

現在のジョブ

[現在のジョブ]は、現在アクティブな OS 管理ジョブまたはスケジュールされた OS 管理ジョブをすべて表示します。OS 管理ジョブは、HPCA データベースの管理対象デバイスでオペレーティング システム サービスのエンタイトルメント設定と配布を行うために使用します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

「ジョブ コントロール」および「**Job Status**」については、121 ページの「現在のジョブ」(「ジョブ管理」セクション)を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ]は、完了した OS 管理ジョブをすべて表示します。

カラムの見出しをクリックして、ソート順を変更できます。または、表の上部にあるナビゲーション ボタンを使用して、特定のセクションへジャンプできます。

▶ 完了したジョブは完了の 1 分後に ([現在のジョブ] タブから) 過去のジョブ リストに移動されます。

ジョブ管理

[ジョブ管理]セクションを使用して、現在のジョブおよび過去のジョブをすべて表示し、管理します。要約情報で、現在アクティブな管理ジョブおよびスケジュールされている管理ジョブの合計数が表示されます。

ジョブ管理のタブについては、次のセクションで説明しています。

- 全般 121 ページ
- 現在のジョブ 121 ページ
- 過去のジョブ 125 ページ

全般

[全般] タブを使用して、現在および過去の全ジョブの表示、およびアクティブなジョブおよびスケジュールされているジョブの合計数を表示します。

現在のジョブ

[現在のジョブ] は、アクティブなまたはスケジュールされた全ジョブのリストを表示します。ジョブのステータスの詳細を表示するには、ジョブの ID リンクをクリックします。

ツールバー ボタンを使用して、現在スケジュールされているジョブ、またはアクティブなジョブを管理します。次のセクションでは、使用できるジョブ コントロールと詳細ウィンドウについて説明します。

- [ジョブ コントロール 121 ページ](#)
- [Job Status 122 ページ](#)
- [ジョブの詳細 124 ページ](#)

ジョブ コントロール

既存のジョブを管理するには、ジョブ リストの一番上にあるジョブ コントロールを使用します。各コントロールに関する説明は、下の表を参照してください。

表 11 ジョブ コントロール

アイコン	説明
	データのリフレッシュ – ジョブ リストを更新します。
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	ジョブの開始。
	無効になったり一時停止された ジョブの再開 。
	現在アクティブ、開始を待機中、および停止を待機中の ジョブの一時停止 。ジョブのステータスは [一時停止] に設定されます。

表 11 ジョブ コントロール

アイコン	説明
	現在アクティブまたは一時停止の ジョブの停止 。ジョブのステータスは停止を待機中に設定されます。
	ジョブのスケジュール再設定 。
	ジョブの削除 。

Job Status

各ジョブに関する情報は、[ステータス]カラムを参照します。次の表は、各ジョブステータスメッセージを説明しています。

表 12 ジョブステータスの説明

アイコン	ステータス	説明
	エラーで終了	ジョブは完了したが、いくつかエラーが発生した。詳細を表示するには、ジョブ ID リンクをクリックします。
	成功	ジョブは、エラーもなく正常に終了した。
	アクティブ	ジョブが現在実行中。
	一時停止	ジョブは現在、一時停止。
	開始を待機中	ジョブは、スケジュールされ、実行を待機中。
	停止を待機中	ジョブは現在、停止のプロセスの途中。
	失敗	ジョブが正常に終了しなかった。
	無効	ジョブが停止または一時停止された。
	休止状態	ターゲットデバイスがオフライン。ジョブは、デバイスがオンラインに戻ると再開されます。

各ジョブの管理にジョブコントロールを使用するとき、予想される結果を確認するには、次の表を参照してください。

表 13 ジョブステータスと予想されるジョブコントロールのアクション

	 開始	 再開	 一時停止	 停止	 スケジュール再設定	 削除
 エラーで終了	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 成功	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 アクティブ	なし	なし	ステータスが一時停止に変化	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	なし
 一時停止	なし	ステータスが一時停止ステータスの前の状態に変化	なし	ステータスが停止を待機中に変化	更新を適用	なし
 開始を待機中	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除

表 13 ジョブ ステータスと予想されるジョブ コントロールのアクション

	 開始	 再開	 一時停止	 停止	 スケジュール再設定	 削除
 停止を待機中	なし	なし	ステータスが一時停止に変化	なし	更新を適用	なし
 失敗	ステータスが現在アクティブに変化	なし	ステータスが無効化に変化	なし	更新を適用	ジョブの削除
 無効	なし	ステータスが無効化ステータスの前の状態に変化	なし	なし	更新を適用	ジョブの削除

ジョブ コントロールは、[現在のジョブ] タブにあるジョブにしか利用できません。これには、現在アクティブなジョブおよび反復スケジュールを設定したジョブが含まれます。[過去のジョブ] タブにある完了したジョブはコントロールできないので、再び実行する必要がある場合は再作成します。

ジョブの詳細を表示するには、ジョブ ID リンクをクリックします。新しいウィンドウが開き、それぞれの「[ジョブの詳細](#)」が表示されます。

 ジョブが一時停止されても、ジョブのアクション（配布、収集など）は、現在対象となっているデバイスについては続行されます。アクションが完了すると、ジョブは、再開されるまで他のデバイスでは実行されません。

ジョブの詳細

ジョブ ID リンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、そのジョブに特有の情報が表示されます。ジョブ タイプに応じて、[ジョブの詳細] ウィンドウに下で説明するタブが表示されます。

詳細

[詳細] タブには、すべてのジョブ情報が表示されます。

ターゲット

[ターゲット] タブには、ジョブが作成された全デバイスが表示されます。

サービス

[サービス] タブには、そのジョブのターゲット デバイス用のソフトウェア、パッチ、またはオペレーティング システムがすべて表示されます。

ジョブ メッセージの詳細については、[第 14 章、「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

過去のジョブ

[過去のジョブ] には、完了した管理ジョブがすべて表示されます。ジョブのステータスの詳細を確認するには、ジョブ ID リンクをクリックして[[ジョブの詳細](#)] ウィンドウを開きます。



完了したジョブは完了の 1 分後に過去のジョブ リストに移動されます。

5 レポートの使用

[レポート]領域には、多くの種類のレポートの要約と詳細が表示されます。保有している **HPCA** ライセンスのタイプによって、特定のレポートが使用できます。この章では、次のトピックについて説明します。

- レポートの概要 128 ページ
- レポート間の移動 129 ページ
- レポートのタイプ 131 ページ
 - インベントリ管理レポート 132 ページ
 - パッチ管理レポート 133 ページ
- レポートのフィルタ 134 ページ
- ダイナミック レポート グループの作成 137 ページ

レポートの概要

HPCA Console の [レポート] タブには、次のレポートの収集に対するリンクが表示されます。

- インベントリ管理レポート
- パッチ管理レポート

それぞれの収集には、特定のタイプのデータまたは特定の視聴者に焦点を当てたレポートのグループが含まれています。これらのレポートには、ダッシュボードに値を設定するために使用されるデータも表示されます。

次のレポートは、すべてのエディションの HPCA で使用可能です。

レポート パック	レポート タイプ	説明
rpm.kit	パッチ管理	パッチ ポリシーへの準拠デバイスと非準拠デバイス
rim.kit	インベントリ	現在 HPCA で管理されているデバイス



[レポート] セクションのグラフィカル レポートを表示するには、**Java Runtime Environment (JRE)** または **Java Virtual Machine (JVM)** が必要です。詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://java.com/en/index.jsp>

レポート間の移動

[レポート]タブをクリックすると、[レポートのホーム ページ]が表示されます。ここに示すように、ホーム ページには、インベントリ管理、パッチ管理(インストールされて有効になっている場合)

現在のレポート ビュー: レポートのホーム ページ

適用状況管理情報

インポートされたSCAP 規則: 522
SCAP スキャン済みデバイス: 673 のうち 1000
前回のスキャン日: 2009-09-10 15:46:06
前回の取得日: 2009-09-10 06:29:59

レポートのクイックリンク
SCAP 規則を表示
スキャン済みデバイスを表示
上位の失敗した SCAP 規則を表示

インベントリ情報

インベントリの要約
管理対象デバイス: 1000
管理対象サービス: 31
今日接続されたデバイス: 0

レポートのクイックリンク
管理対象デバイスを表示
管理対象サービスを表示
デバイスの要約を表示

クイック検索

インベントリ情報
次の条件でデバイスを検索
名前

サービスを検索:

パッチ情報

適用状況の要約
管理対象デバイス: 5419
管理対象のプリテン: 6
前回の取得: 2009-03-14 11:01:56

レポートのクイックリンク
デバイスの適用状況を表示
プリテンの適用状況を表示
取得の概要を表示

セキュリティツール管理情報

STMによるスキャン済みデバイス: 0 のうち 1000
前回のスキャン日:
前回の取得日:

レポートのクイックリンク
スキャン済みデバイスを表示
製品の要約を表示

脆弱性管理情報

インポートされた脆弱性: 65
スキャン済みデバイス: 1000 のうち 1000
前回のスキャン日: 2009-09-10 15:41:50
前回の取得日: 2009-09-09 15:41:27

レポートのクイックリンク
OVAL 定義を表示
スキャン済みデバイスを表示
脆弱性のトップを表示

[レポートのホーム ページ] では、次の 3 種類の方法で詳細な情報を見つけることができます。

- クイックリンクを使用して頻繁に要求されるレポートを開く。
- クイック検索を使用して特定のデバイスまたはサービスについてのインベントリ情報を検索する。この機能は、インベントリ レポート（たとえば、管理対象デバイス）のみに適用されます。
- 左のナビゲーション ツリーの [レポート ビュー] セクションにあるリンクを使用して、特定のレポートを開きます。

[レポート ビュー] では、現在のデータ セットで表示するレポート ウィンドウのセットと、各ウィンドウに関連した初期設定（最小化や最大化、各ウィンドウのアイテム数など）が定義されます。初めてレポートにアクセスするときには、デフォルト ビューが適用されます。現在のビューは、グローバル ツールバーの右に表示されます。[レポート ビュー] は、変更やカスタマイズが可能です。

レポートが表示されているとき、[レポート] ページでは次のアクションを実行できます。

表 14 レポートのアクション

アイコン	説明
	レポート ビュー内を 1 ページ戻る。
	レポートのホーム ページに戻る。
	データをリフレッシュする。リフレッシュは、フィルタを適用または削除するときにも実行されます。
	このレポートをお気に入りのリストに追加する。
	このレポートへのリンクを電子メールで送る。
	「クイック ヘルプ」ボックスまたはツール チップが開きます。これは、フィルタにのみ適用されます。
	このレポートを印刷する。

表 14 レポートのアクション

アイコン	説明
	レポート ビューのデータ部分を折りたたむ。
	レポート ビューのデータ部分を展開する。
	このレポートのグラフィカル ビューを表示する。
	このレポートのグリッド (詳細) ビューを表示する。
	レポートのコンテンツをカンマ区切り値 (CSV) ファイルにエクスポートする。このファイルのデータは、実際にはカンマではなくタブで区切られます。ただし、ファイル拡張子は CSV です。
	レポートのコンテンツを Web クエリ (IQY) ファイルにエクスポートする。

レポートに青色テキストで表示されるアイテムには、さまざまな機能があります。

- 詳細を表示 – このアイテムに関してより詳細な情報まで掘り下げる
- このレポート ビューを起動 – このアイテムに基づいて新しいレポートを開く
- 検索条件に追加 – このアイテムに基づいて、現在のレポートに追加フィルタを適用する
- ベンダーのサイトに移動 – このブリテンの掲示板をポストしたベンダーの Web サイトに移動する

マウス カーソルを青色テキストのアイテム上に置くと、そのアイテムをクリックするとどのようなアクションが行われるかがツール チップに表示されます。



デフォルトでは、レポートでグリニッジ標準時 (GMT) が使用されます。個々のレポート パックは、GMT またはローカル時刻のいずれかを使用するように設定できます。

レポートのタイプ

HPCA Console では、次のタイプのレポートを使用できます。

- [インベントリ管理レポート 132 ページ](#)
- [パッチ管理レポート 133 ページ](#)

ここでは、それぞれのレポートについて簡単に説明します。

インベントリ管理レポート

インベントリ管理レポートには、HPCA の全デバイスに関するハードウェアとソフトウェアの情報が表示されます。これには、HP 固有のハードウェア用レポート、詳細と要約のデバイス コンポーネント、ブレード サーバー、TPM チップセットと SMBIOS 情報、Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (S.M.A.R.T.) 警告が含まれます。

レポート オプションを表示するには、インベントリ管理レポートのレポートビューを展開します。たとえば、S.M.A.R.T 警告や HP 固有のレポートなどのいくつかの特定のデータは、HPCA コンポーネントを設定して初めて利用できるように注意してください。設定の詳細については、165 ページの「[デバイス管理](#)」を参照してください。

一般的な管理対象デバイス レポートには、次のテーブル見出しがあります。

- **詳細** – このデバイスの [デバイスの要約] ページを開く。
- **前回の接続** – デバイスが最後に接続された日時。
- **HPCA Agent ID** – デバイス名。
- **HPCA Agent のバージョン** – 現在インストールされている Management Agent のバージョン。
- **デバイス** – デバイス名。
- **前回ログオン ユーザー** – デバイスへのログオンで使用された最後のユーザーアカウント。複数のユーザーがログオンしている場合は、最後にログオンしたユーザーのみが記録されます。現在ログオンしているユーザーを切り替えても、これには影響しません。
- **IP アドレス** – デバイスの IP アドレス。
- **MAC アドレス** – デバイスの MAC アドレス。
- **オペレーティング システム** – デバイスにインストールされているオペレーティング システム。
- **OS レベル** – 現在のオペレーティング システム レベル (サービス パック 2 など)。

HP ハードウェア レポート

HP ハードウェア レポートは、インベントリ レポートのサブセットで、互換性のある HP デバイスの **HP Client Management Interface (CMI)** で取得された簡易警告情報が含まれます。

HP ハードウェア レポートは、インベントリ管理レポートの下のハードウェア レポート ビューに配置されます。

選択したレポート ビューに基づいて具体的な警告タイプまたは **BIOS** 設定を検索するには、[レポート] ウィンドウの一番上に表示される追加のデータ フィルタ検索ボックスを使用します。

パッチ管理レポート

パッチ管理レポートには、管理対象デバイスのパッチ適用状況情報や、パッチおよび **Softpaq** の取得情報が表示されます。

- **概要レポート** – 概要レポートには、お使いの環境で管理されているデバイスとブリテンのパッチ適用状況のスナップショットを視覚的に示す円グラフまたは棒グラフが表示されます。このレポートでは、すべてのデバイス、パッチ適用状態別のデバイス、ブリテン、およびベンダー別のブリテンの適用状況が要約されます。この要約レポートから、より詳細な適用状況レポートまで掘り下げ、フィルタを追加できます。
- **適用状況レポート** – **HPCA Agent** は、製品とパッチの情報を **HPCA** に送ります。この情報は利用可能なパッチと比較され、管理対象デバイスの脆弱性を削除するためパッチを必要とするかどうか調査されます。適用状況レポートには、お使いの環境で検出されたデバイスに該当する情報しか表示されません。
- **パッチ取得レポート** – 取得ベースのレポートには、ベンダーの **Web** サイトからのパッチ取得プロセスの成功および失敗が表示されます。
- **リサーチ レポート** – リサーチ ベースのレポートには、ソフトウェア ベンダーの **Web** サイトから取得したパッチに関する情報が表示されます。リサーチベースのレポートでは、フィルタ バーが利用できます。

パッチ管理レポートの使用の詳細については、95 ページの「[パッチ管理](#)」を参照してください。

詳細な情報への掘り下げ

多くのレポートでは、特定のデバイス、脆弱性、適用状況ベンチマーク、またはセキュリティ製品について、極めて詳細な情報まで掘り下げることができます。

データグリッドに[詳細] () アイコンが表示されている場合にはいつでも、クリックして詳細情報を表示できます。

また、一部のレポートでは、特定のカラムのデバイスの数をクリックすることにより、より詳細な情報まで掘り下げられます。

レポートのフィルタ

レポートの多くでは、含まれるデータが膨大な量になります。レポートに 1 つ以上のフィルタを適用することにより、表示されるデータ量を減らすことができます。一度適用されたフィルタは、明示的に削除されるまで有効な状態が維持されます。

フィルタには、次の基本的な 3 つのタイプがあります。

- ディレクトリ / グループ フィルタを適用すると、特定のデバイスまたはデバイス グループのデータを表示できます。
- インベントリ管理フィルタを適用すると、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティング システム、または **HPCA** オペレーション ステータスなどの共通の特性とともに、デバイス グループのデータを表示できます。
- レポート固有のフィルタは、特定のレポート ビュー内で利用可能なデータにのみ適用されます。たとえば、適用状況管理フィルタは適用状況管理レポートに対してのみ適用されます。

フィルタは、フィルタ対象のデータ タイプがレポートに含まれる場合にのみ機能します。

現在のレポートのデータに関係しないフィルタの適用を試みても、そのフィルタによる影響は生じません。逆に、レポート内のデータが正しくないように見える場合は、誤ったフィルタが適用されていないことを確認してください。

概要レポートのほとんどは、元々含まれるデータ量が少ないため、フィルタを適用できません。

レポートにフィルタを適用するには

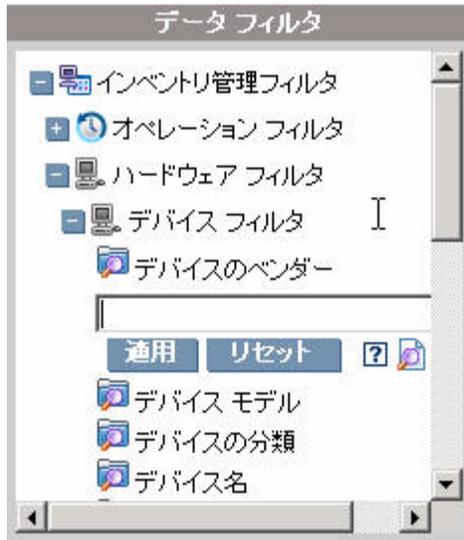
- 1 左のナビゲーションツリーの [データ フィルタ] セクションで、使用するフィルタ グループを展開します。
- 2 省略可能 : 適用する特定のフィルタについて、 (表示 / 非表示) ボタンをクリックしてフィルタのコントロールを表示します。
- 3 テキスト ボックスでフィルタ条件を指定するか、 (条件) ボタンをクリックしてリストから条件を選択します (表示された場合。すべてのフィルタでリストが表示されるとは限りません)。

フィルタの作成時には、ワイルドカード文字を使用できます。次の表に、検索文字列の入力時に使用可能な文字の説明を示します。

表 15 特殊文字とワイルドカード

文字	機能	デバイスのベンダーフィルタの例	一致するレコード
* または %	特定のテキスト文字列を含むすべてのレコードに一致する	HP*	「HP」で始まるすべてのレコード
		%HP%	「HP」を含むすべてのレコード
? または _	任意の 1 文字に一致にする	Not?book	「Not」で始まり「book」で終わるすべてのレコード
		Note_ook	「Note」で始まり「ook」で終わるすべてのレコード
!	フィルタを否定する	!HP*	「HP」で始まらないすべてのレコード

たとえば、フィルタに関連付けるデバイスのテキストボックスに「HP%」と指定すると、フィルタはベンダー名に HP を含むすべてのデバイスに一致します。



- 4 **【適用】** ボタンをクリックします。レポートがリフレッシュされます。フィルタを削除するには、**【リセット】** ボタンをクリックします。

フィルタをレポートに適用すると、レポート ヘッダーに次のようにフィルタが表示されます。

 **Search Criteria:**
 **Device Filters**
 **Device Vendor (HP%)**

一度適用されたフィルタは、明示的に削除されるまで有効な状態が維持されます。フィルタ名の左側にある  ([削除] ボタン) をクリックして、現在のレポートからフィルタを削除できます。



また、現在表示されているレポートのデータ フィールドをクリックすることにより、「インライン」フィルタを作成することもできます。

ダイナミック レポート グループの作成

ダイナミック レポート グループには、レポート クエリの結果として返されたデバイスが含まれています。ダイナミック レポート グループは、最初にレポート クエリにデバイスのリストを生成し、次に**グループ作成ウィザード**を使用することによって作成できます。

ダイナミック レポート グループを作成するには

- 1 レポート クエリを使用してデバイスのリストを生成します。
たとえば、**[インベントリ管理レポート]**で**[オペレーション レポート]**を展開し、**[管理対象デバイスを表示]**をクリックします。
- 2 デバイス リストをフィルタして、グループに含めるデバイスだけにします。詳細な手順については、134 ページの「**レポートのフィルタ**」を参照してください。
- 3 グループに追加するデバイスのリストがある場合は、**[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  ボタンをクリックして、**グループ作成ウィザード**を開始します。
- 4 ウィザードの手順に従って、デバイスのダイナミック グループを作成します。

ダイナミック レポート グループについて

- ダイナミック レポート グループのメンバーシップは、元のリストを作成するため使用したクエリで定義された条件に合うデバイスに依存します。メンバーシップは、グループ作成ウィザードで指定するスケジュールに基づいて更新されます。または、**[グループの詳細]**ウィンドウを使用して変更できます。
- 既存のレポート グループの条件は変更できません。既存のレポート グループと名前は同じけれども異なる条件を持つグループを作成する場合は、まず既存のグループを削除し、新しいデバイス クエリを作成し、グループ作成ウィザードを使用して新しい条件を持つ新しいグループを作成します。

6 オペレーション

[オペレーション] タブでは、インフラストラクチャ タスクを管理したり、コンポーネント サービスのステータスを表示したり、一部のパッチ管理タスクを実行したりすることができます。詳細については、次のセクションで説明します。

- [インフラストラクチャ管理 140 ページ](#)
- [アウトバンド管理 141 ページ](#)
- [パッチ管理 145 ページ](#)

インフラストラクチャ管理

[インフラストラクチャ管理] オペレーションは、次のセクションで説明します。

- サポート 140 ページ
- データベース メンテナンス 141 ページ

サポート

[サポート] 領域には、現在インストールされているライセンス情報が表示されます。また、設定ファイル、ログ ファイル、およびオペレーティング システム情報を含む圧縮ファイル (zip) を生成したりダウンロードしたりすることもできます。詳細については、140 ページの「[ログ ファイルのダウンロード](#)」を参照してください。

これらのファイルは、HP サポートでトラブルシューティングに必要なになった場合に使用可能になります。

ログ ファイルのダウンロード

弊社サポート センターに連絡すると、ログ ファイルの提供を求められる場合があります。用意されているリンクを使用して、現在のサーバー ログ ファイルの圧縮ファイルをダウンロードし保存します。

ログ ファイルをダウンロードするには

- 1 [トラブルシューティング] 領域で、[[現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード](#)] リンクをクリックします。新しいウィンドウが開きます。
- 2 ログファイルが準備できたら、[[logfiles.zip をダウンロードします](#)] をクリックします。
- 3 表示メッセージに応じて [[保存](#)] をクリックし、圧縮ファイルをコンピュータに保存します。
- 4 ファイルを保存する場所を指定して、[[OK](#)] をクリックします。
- 5 ログ ファイルがコンピュータにダウンロードされ、1 つの ZIP 形式ファイルで保存されます。



Internet Explorer のセキュリティ設定により、これらのファイルをダウンロードできない場合があります。信頼できるサイトに HPCA Console の URL を追加するか、またはファイルのダウンロード時にダイアログを表示しないように Internet Explorer の設定を変更することをお勧めします。

データベース メンテナンス

[データベース メンテナンス] 領域には、HPCA にレポート データが格納されているすべてのデバイスが表示されます。[メンテナンス] ツールバーを使用して、データベースに既に存在しない可能性のあるデバイスのレポート データをクリーンアップします。

デバイスのレポート データを削除するには

- 1 [メンテナンス] 領域で、レポート データを削除するデバイスを選択します。
- 2 [レポート データの削除]  ボタンをクリックします。
- 3 レポート データがデータベースから削除されます。

デバイスのレポート データが削除されると、そのデータはレポートの生成に利用できなくなります。

- ▶ アクティブに管理されているデバイスのレポート データを削除する場合、レポート データの矛盾を避けるため、削除してから、そのデバイスに管理エージェントを再配布します。

アウトバンド管理

アウトバンド (OOB) 管理は、[設定] タブを使用して有効にします。OOB 管理の設定については、147 ページの「設定」を参照してください。

OOB 管理の使用方法の詳細については、『HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド』を参照してください。

次のセクションでは、コンソールで実行できる OOB 管理タスクについて説明します。

- [プロビジョニングと設定情報](#) 142 ページ
- [デバイス管理](#) 143 ページ
- [グループ管理](#) 144 ページ

- 警告の通知 145 ページ

プロビジョニングと設定情報

vPro デバイスや DASH デバイスを検出したり管理したりできるようにするには、事前にそれらのデバイスをプロビジョニングする必要があります。vPro デバイスが、最初にネットワークに接続されたときに自動的にプロビジョニングされなかった場合は、HPCA Console からこれらのデバイスをプロビジョニングできます。

HPCA Console からの vPro デバイスのプロビジョニングは、『HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド』の「Provisioning vPro Devices」の章で説明されています。DASH デバイスのみを管理することを選択した場合、このオプションはこのタイプのデバイスに関連しないため、[アウトバンド管理]の下にある[オペレーション]タブには表示されません。

詳細については、『HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド』の「Provisioning vPro Devices」の章を参照してください。

DASH 設定関連ドキュメント

ここでは、DASH 対応デバイスがこれらのデバイスに付随するドキュメントに従って既にプロビジョニングされていることを前提にしています。DASH 設定の情報は、「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC」のホワイトペーパーに記載されています。このホワイトペーパーは、この NIC をサポートする各製品の [Manuals (guides, supplements, addendums, etc)] のセクションにあります。

 この情報は、当社の DASH 対応デバイスにのみ関連しています。

このドキュメントにアクセスするには

- 1 www.hp.com に移動します。
- 2 [サポート & ドライバ] > [製品マニュアル、トラブルシューティング、修理など] を選択します。
- 3 この NIC をサポートする製品 (たとえば、dc5850) を入力します。
- 4 dc5850 モデルの 1 つを選択します。
- 5 [Manuals (guides, supplements, addendums, etc)] を選択します。

- 6 「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC」のホワイト ペーパーを選択します。

DASH 設定ユーティリティ

DASH 設定ユーティリティ (BMCC アプリケーション) は、この NIC をサポートする各製品のドライバ セクションにある **Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC** ドライバ **Softpaq** の一部です。

このユーティリティにアクセスするには

- 1 www.hp.com に移動します。
- 2 [サポート & ドライバ]>[ドライバ & ソフトウェア ダウンロード]を選択します。
- 3 この NIC をサポートする製品 (たとえば、**dc7900**) を入力します。
- 4 **dc7900** モデルの 1 つを選択します。
- 5 オペレーティング システムを選択します。
- 6 [ドライバ-ネットワーク]セクションまでスクロールし、**NetXtreme Gigabit Ethernet Plus NIC** ドライバを選択してダウンロードします。

デバイス管理

[デバイス管理] 領域では、複数の OOB デバイスおよび個々の OOB デバイスを管理できます。

[オペレーション] タブの [アウトバンド管理] の下で、[デバイス管理] をクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが表示されます。デバイス テーブルのツールバーにあるアイコンから、複数のデバイスに次のタスクを実行できます。

- データのリフレッシュ
- デバイス情報のリロード
- デバイスの探索
- デバイスの電源オン/オフおよび再起動
- vPro 警告のサブスクライブ
- vPro デバイスに関する共通ユーティリティの管理
- 選択された vPro デバイスへのシステム防御ポリシーの配布

- 選択された **vPro** デバイスへのヒューリスティック ワーム封じ込め情報の配布
- 選択された **vPro** デバイスへのエージェント ウォッチドッグの配布
- 選択された **vPro** デバイスへのエージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布

個々の **OOB** デバイスを管理するには、デバイス テーブル内のホスト名のリンクをクリックします。管理ウィンドウが開き、左側のナビゲーション ペインにいくつかのオプションが表示されます。使用可能なオプションは、選択した管理対象デバイスのタイプによって異なります。

詳細については、『**HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド**』の「**Device Management**」の章を参照してください。

グループ管理

[グループ管理] オプションでは、**Client Automation** ソフトウェアで定義された **vPro** デバイスのグループを管理できます。**vPro** デバイスを含む **Client Automation** グループに対して **OOB** 操作を実行できます。**vPro** デバイスのグループを管理することにより、さまざまな検出、自己回復、および保護タスクを実行できます。これには、電源管理、警告のサブスクリプションのほか、システム防御ポリシー、エージェント ウォッチドッグ、ローカルのエージェント ソフトウェア リスト、およびヒューリスティックの配布が含まれます。

[オペレーション] タブの [アウトバンド管理] の下で、[グループ管理] をクリックします。[グループ管理] ウィンドウが表示されます。グループ テーブルのツールバーにあるアイコンから、複数のグループに対して次のタスクを実行できます。

- データのリフレッシュ
- グループ情報のリロード
- グループの電源オン/オフおよび再起動
- **vPro** 警告のサブスクリプション
- 選択された **vPro** グループへのエージェント ソフトウェア リストとシステム メッセージの配布
- **vPro** デバイス グループのプロビジョニング
- 選択された **vPro** デバイスへのシステム防御ポリシーの配布および回収
- 選択された **vPro** グループへのエージェント ウォッチドッグの配布および回収
- 選択された **vPro** グループへのヒューリスティック ワーム封じ込め情報の配布および回収

ドリル ダウンしてグループ内の個々のデバイスを管理するには、テーブルの [説明] 列の下にあるグループ名のリンクをクリックします。[デバイス管理] ウィンドウが開き、選択されたグループに属するデバイスの一覧が表示されます。グループ内の複数のデバイスまたは個々のデバイスを管理できます。「デバイスの管理」を参照してください。

詳細については、『**HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド**』の「**Group Management**」の章を参照してください。

警告の通知

vPro デバイスの場合、デバイスに警告のサブスクリプションを割り当てていれば、プロビジョニング済みの vPro デバイスによって生成された警告を表示できます。警告の通知を監視すると、ネットワーク上のデバイスの状態についての適切な情報が得られます。

詳細については、『**HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド**』の「**Alert Notification**」の章を参照してください。

パッチ管理

パッチ管理オペレーション タスクは、次のセクションで説明します。

- [同期を実行 145 ページ](#)
- [取得履歴を表示 146 ページ](#)

同期を実行

このオペレーションによって、パッチ ライブラリに格納されているパッチ情報が SQL データベース内のパッチ情報と同期されます。

この同期は、パッチ取得後、および通常の HPCA オペレーションで自動的に実行されます。

ただし、カスタマー サポートから手動で同期を実行するように指示される場合があります。

データベースは、HPCA Core Console を使用して手動で同期できます。

を使用してデータベースを同期するには

- 1 [オペレーション] タブから、[パッチ管理] タスクを展開し、[同期を実行] をクリックします。
- 2 [サブミット] をクリックします。

取得履歴を表示

以前の取得の詳細を表示するには、パッチ取得ステータス ページを選択します。

7 設定

[設定] 領域では、コンソールへのユーザー アクセスの管理、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定、パッチ取得のスケジュールと設定の管理、ハードウェアの管理、および ODBC の設定を行うことができます。

▶ [設定] タブは、管理者ロール グループに属している ユーザーのみ使用できます。

[設定] タブの左側にあるナビゲーション領域のリンクを使用して、さまざまな設定オプションにアクセスします。これらのオプションについては、次のセクションで説明します。

Core の設定オプション

- [ライセンス 147 ページ](#)
- [Core コンソールのアクセス制御 148 ページ](#)
- [インフラストラクチャ管理 152 ページ](#)
- [サイトおよびサービス 155 ページ](#)
- [パッチ管理 168 ページ](#)
- [アウトバンド管理 172 ページ](#)
- [OS 管理 175 ページ](#)
- [ダッシュボード 177 ページ](#)

ライセンス

機能的な HPCA 環境を実現するには、HP によって発行された有効なライセンスが必要です。コンソールのこの領域でライセンス ファイルが保存され、インストールされているライセンスのエディション (**Starter**、**Standard**、または **Enterprise**) が表示されます。このセクションを使用して HPCA ライセンスを確認および更新することもできます。

新しいライセンスを適用するには

- 1 新しい `license.nvd` ファイルからライセンス情報をコピーして、**[ライセンスデータ]** テキスト ボックスに貼り付けます。
 - ▶ ライセンス ファイルからライセンス情報をコピーする場合、**[MGR_LICENSE]** という行より前のテキストは含めないでください。含めた場合、ライセンス情報がコンソールから読み取れなくなります。
- 2 **[保存]** をクリックします。更新されたライセンス情報が、**[現在のライセンス]** の後に表示されます。

アクセス制御

このパネルの管理制御は、**Core** コンソールと **Satellite** コンソールで異なります。

- ▶ **HPCA Starter** および **Standard** ライセンス エディションでは、**Satellite** コンソールは提供されません。
- **HPCA** 管理者は、**Core** コンソールのアクセス制御を使用してコンソールへのユーザー アクセスを設定および管理できます。148 ページの「**Core** コンソールのアクセス制御」を参照してください。

Core コンソールのアクセス制御

[アクセス制御] セクションを使用して、一意のカスタム ID とパスワードを持つ **コンソール ユーザー** (149 ページの「**[ユーザー] パネル**」を参照) のインスタンスを作成します。次に、**ロール** (151 ページの「**[ロール] パネル**」を参照) をユーザーに割り当てて、ユーザーがアクセスできるコンソールの領域と許可されている管理タスクを管理します。

[ユーザー] パネル

[ユーザー] パネルで、ユーザー インスタンスを作成してロールを各インスタンスに割り当てます。ロールによって、各ユーザーがアクセスできるコンソールの領域が決まります。ユーザーを削除したり、そのロールを変更したりできます。



管理ジョブには、ジョブを作成するため使用されたユーザー ID を表示する、[作成者] フィールドがあります。表示されるユーザー ID は、この領域で作成されたユーザー ID です。

- デフォルトでは、インストール後のデフォルトのコンソール ユーザーは **admin** の 1 人で、デフォルトのパスワードは **secret** です。この「フェイルセーフ」ユーザー アカウントにはコンソールへの完全なアクセス権があり、削除できません。
- HPCA Console ユーザーは、次で説明するように**内部**または**外部**のいずれかになります。

— 内部ユーザー

[ユーザー] パネルで作成するユーザーは、すべて「内部」ユーザーとして作成されます。これらのユーザーは、**Core** コンソールを使用して削除および更新できます。

— 外部ユーザー

Enterprise エディションの場合、HPCA 管理者は外部ディレクトリ (**LDAP** や **Active Directory** など) を使用してユーザーを追加したり、アクセスのパーミッションや認証情報を設定したりできます。これらの「外部」ユーザーは、**Core** コンソールでは作成、削除、または更新できません。これを行うには、管理者は **LDAP/AD** ツールを使用する必要があります。ただし、HPCA 管理者は認証用のディレクトリ ソースを設定できます。このソースは [ユーザー] パネルに表示されます。[ソース] カラムでは、ユーザーの取得元のディレクトリが参照されます。

- 現在アクティブなユーザーも削除できません。現在アクティブなユーザーを削除するには、ログアウトして、別のユーザーとしてログインしなおす必要があります。これで、以前にアクティブだったユーザーを削除できます。

次のセクションでは、[ユーザー] パネルで実行できる管理タスクの詳細について説明します。

コンソール ユーザーを作成するには

- 1 **[新しいユーザーの作成]** ボタン  をクリックして、ユーザー作成ウィザードを起動します。

- 2 ユーザーの手順に従って、コンソールユーザーを追加します。

▶ ユーザー ID の考慮事項

ユーザー ID には、スペース、スラッシュ (/)、またはバックスラッシュ (\) を含むことはできません。

- スペースまたはバックスラッシュが含まれている場合、「作成できません」というエラーメッセージが表示されます。
- スラッシュが含まれている場合、ユーザー ID が生成されるときに自動的に削除されます。たとえば、ユーザー ID が `jdoue/1` の場合、`jdoue1` になります。

パスワードの考慮事項

- パスワードの作成時は、ASCII 文字のみを使用してください。
- 現在のユーザーのパスワードを変更する場合、自動的にログアウトされます。そのユーザーとして新しいパスワードでログインします。

- 3 ユーザーを作成すると、次のことが可能になります。
 - 別のユーザーを作成する（このセクションの手順 1 を参照）。
 - ユーザー ID をクリックしてユーザーのプロパティを表示および変更する（次のセクションを参照）。
 - ユーザーにロールを割り当てる（このセクションの 151 ページの「[ロール]パネル」を参照）。

ユーザーのプロパティを表示および変更するには

このセクションの手順は「内部」ユーザーにのみ該当します。「外部」ユーザーのプロパティは Core コンソールでは変更できません。

- 1 内部ユーザーのユーザー ID をクリックして、そのプロパティを表示します。
- 2 [ユーザー プロパティ] ウィンドウで表示名や説明などのユーザーのプロパティを変更して、[パスワードの変更] ウィンドウにアクセスします。
- 3 **[保存]** をクリックし、変更を確定して保存します。
- 4 これにより、次のことが可能になります。
 - 別のユーザーを作成する（前のセクションの手順 1 を参照）
 - 別のユーザー ID をクリックしてそのプロパティを表示および変更する（このセクションの手順 1 を参照）
 - ユーザーにロールを割り当てる（このセクションの 151 ページの「[ロール]パネル」を参照）。

コンソール ユーザーを削除するには

このセクションの手順は「内部」ユーザーにのみ該当します。「外部」ユーザーのプロパティは **Core** コンソールでは変更できません。

- リストからユーザー ID を選択して、[ユーザーの削除]  をクリックします。

- ▶ 現在のユーザーは削除できません。
このユーザー ID を削除するには、ログアウトして、別の管理者としてログインしなおしてから削除を実行する必要があります。

[ロール] パネル

さまざまなレベルの管理者権限(ロール)をユーザーに割り当てることができます。ユーザーに付与するアクセスおよび管理のパーミッションに基づいて、ロールをユーザーに割り当てます。コンソール ユーザーのロールは次のとおりです。

- **管理者:** このユーザーには **Core** コンソールへの無制限のアクセス権限があり、すべての管理機能を実行できます。これは、「スーパーセット」ロールで、オペレータ ロールとレポーター ロールのすべての機能と権限が含まれています。
- **オペレータ :** このユーザーは、**Core** コンソールで管理タスク、操作タスク、およびレポート関連タスクを実行できます。このユーザーは [設定] タブにはアクセスできません。このロールには、レポーター ロールの機能と権限が含まれています。
- **レポーター :** このユーザーのパーミッションでは、**Core** コンソールでレポートデータの表示、コンパイル、および印刷のみを行うことができます。このユーザーは、[レポート] タブと [ダッシュボード] タブにのみアクセスできます。

- ▶ ユーザーには複数のロールを割り当てることができます。

ユーザーへのロールの割り当て

コンソールでは、次の 2 つのいずれかの方法で、ユーザーにロールを割り当てることができます。

- [ロール] パネルで、次の手順を実行します。
 - a テーブルのロールをクリックして [ロール プロパティ] ウィンドウを呼び出します。このウィンドウには、該当のロールに割り当てられているユーザーのリストが表示されます。
 - b ツールバーのボタンを使用して、ユーザーをロールに追加したり、ユーザーをロールから削除したりします。

- [ユーザー] パネルで、次の手順を実行します。
 - a テーブルのユーザー ID をクリックして [ユーザー プロパティ] ウィンドウを呼び出します。
 - b [ロール] タブをクリックします。
 - c ツールバーのボタンを使用して、ユーザーをロールに追加したり、ユーザーをロールから削除したりします。

インフラストラクチャ管理

[インフラストラクチャ管理] セクションでは、HPCA インフラストラクチャのさまざまな設定を行うことができます。詳細については、次のセクションを参照してください。

- [プロキシ設定 152 ページ](#)
- [SSL 153 ページ](#)
- [データベース設定 154 ページ](#)
- [サイトおよびサービス 155 ページ](#)

プロキシ設定

HPCA Core Server と外部のデータ ソースまたは受信者間の、インターネットベースの通信に使用するプロキシ サーバーの設定を指定するには、[プロキシ設定] 設定ページを使用します。

HTTP 通信と FTP 通信で別々のプロキシ設定を確立できます。HTTP プロキシサーバーは、Patch Manager の取得、HP Live Network のコンテンツの更新、および特定のダッシュボード ペインで使用される Real Simple Syndication (RSS) フィードに使用されます。これらの HTTP プロキシ設定がないと、たとえば Patch Manager の取得が失敗した場合に、ブリテン、パッチ、および Windows Update Agent (WUA) ファイルなどの関連項目をダウンロードできなくなります。

FTP プロキシサーバーは、HP Softpaq 取得を実行するために Patch Manager によって使用されます。

プロキシを設定するには

- 1 [設定] タブで、[インフラストラクチャ管理] 領域を展開し、[プロキシ設定] をクリックします。

- 2 設定するプロキシサーバーのタブ (**[HTTP]** または **[FTP]**) を選択します。
- 3 **[有効]** ボックスをオンにします。
- 4 プロキシサーバーに関する次の情報を入力します。
 - **ホスト**: プロキシサーバーのネットワーク アドレスの名前
 - **ポート**: プロキシサーバーがリスンするポート
 - **ユーザー ID**: プロキシサーバーで認証が必要な場合のユーザー ID
 - **パスワード**: プロキシサーバーで認証が必要な場合のプロキシ ユーザーのパスワード
- 5 **[保存]** をクリックして、変更内容を実装します。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ダイアログを確認します。

SSL

SSL を有効にすると、**Core** コンソールへのアクセスが保護されます。SSL を有効にすると、コンソールに接続している間に作成されるトランザクションが暗号化されます。

SSL を有効にしてサーバーとクライアントの証明書を定義するには、**[SSL]** セクションを使用します。

- [SSL サーバー 153 ページ](#)
- [SSL クライアント 154 ページ](#)

SSL サーバー

SSL サーバーの証明書は、**HPCA Server** のホスト名に基づいています。これにより、サーバーで **SSL** 接続が許可されます。これは、**Verisign** など既知の認証局によって署名される必要があります。

HPCA Server の SSL の有効化および設定を行うには

- 1 **[SSL を有効化]** の後にあるチェック ボックスをオンにします。
- 2 **[既存の証明書を使用]** または **[新しい証明書のアップロード]** のいずれかを選択します。
- 3 **[保存]** をクリックします。

SSL クライアント

認証局のファイルには、信頼された認証局の署名入り証明書が含まれています。これにより、**HPCA Server** は他の **SSL** 対応サーバーに接続するときに **SSL** クライアントとして機能できます。サーバーのインストールには、信頼された認証機関のデフォルトのセットが含まれています。これはほとんどの組織において十分な権限を持ちます。

CA 証明書ファイルを定義するには

- 1 **[ブラウズ]** をクリックして移動し、**CA 証明書ファイル** を選択します。
- 2 この証明書ファイルを既存の証明書に追加するのか、または既存の証明書をこの新しいファイルで置き換えるのかを選択します。
- 3 **[保存]** をクリックします。

データベース設定

Core サーバー オブジェクトの **SQL** データベースへの **ODBC** 接続を設定するには、**[データベース設定]** を使用します。

前提条件

Core データベースを作成し、そのデータベースの **ODBC** 接続を定義する必要があります。詳細については、製品マニュアルのインストール手順を参照してください。

メッセージングを設定するには

- 1 **[設定]** タブで、**[インフラストラクチャ管理]**、**[データベース設定]** の順にクリックします。
- 2 次のオプションを設定します。
 - **ODBC DSN:** Core データベースの **DSN** を選択します。
 - **ODBC のユーザー ID:** **DSN** のユーザー **ID** を指定します。
 - **ODBC のパスワード:** **ODBC** ユーザー **ID** に関連付けられているパスワードを指定します。
 - **サーバーのホスト:** データベースをホストするサーバーの名前を指定します。
 - **サーバーのポート:** サーバーのポート (デフォルトは **1433**) を指定します。
- 3 **[保存]** をクリックします。

サイトおよびサービス

インフラストラクチャ サーバーを実装すると、管理対象デバイスにデータキャッシング サービスを提供することにより、バンド幅を最適化し、ネットワーク パフォーマンスを向上させることができます。インフラストラクチャ サーバーは、[設定] タブの [インフラストラクチャ管理]、[サイト]、および [サービス] 領域を使用して配布および管理できます。

インフラストラクチャ サーバーを実装するには、次の手順を実行します。

- 1 デバイスをインフラストラクチャ サーバー リストに追加します。
158 ページの「[インフラストラクチャ サーバーを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 インフラストラクチャ サーバー サービスを配布します。
158 ページの「[インフラストラクチャ サービスを配布するには](#)」を参照してください。
- 3 ロケーションを作成して割り当てます。
163 ページの「[新しいロケーションを作成するには](#)」および **164** ページの「[ロケーションを割り当てるには](#)」を参照してください。

管理対象デバイスは、独自のサブネットに属するインフラストラクチャ サーバーに接続します。これは、そのサーバーに割り当てられたインフラストラクチャ ロケーションによって定義されています。デバイスは、データ転送タスクにこのサーバーを使用します。

[インフラストラクチャ管理] 領域には、次のセクションで説明されているように、2 つのタブが含まれています。

- [サーバー](#) **156** ページ
- [ロケーション](#) **162** ページ

サーバー

インフラストラクチャ サーバー グループにデバイスを追加してから、インフラストラクチャ サービスを配布して、インフラストラクチャ サーバーを定義します。サーバーの追加が終了したら、サーバーごとにインフラストラクチャ ロケーションを割り当てる必要があります。詳細については、162 ページの「[ロケーション](#)」を参照してください。

- ▶ インフラストラクチャ サーバーは、オペレーティング システム イメージを除く、リクエストされたデータをすべて自動的にキャッシュします。同期機能を使用して、HPCA Server 上のすべてのデータを事前に入力することもできます。詳細については、159 ページの「[インフラストラクチャ サーバーの同期](#)」を参照してください。

[インフラストラクチャ サーバー] ツールバーには、お使いの環境のインフラストラクチャ サーバーの定義および設定に使用できるボタンがあります。

表 16 [インフラストラクチャ サーバー] ツールバー ボタン

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ – リスト データのリフレッシュ
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	インフラストラクチャ サーバーの追加 – インフラストラクチャ サーバー グループへのデバイスの追加
	インフラストラクチャ サーバーの削除 – インフラストラクチャ サーバー グループからのデバイスの削除
	インフラストラクチャ サービスの配布 – インフラストラクチャ 配布ウィザードを起動します。

表 16 [インフラストラクチャ サーバー] ツールバー ボタン

ツールバー ボタン	説明
	インフラストラクチャ サービスの削除 – インフラストラクチャ削除ウィザードを起動します。
	選択されたインフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュの同期 – 選択されたサーバーのサービス キャッシュを HPCA Server と同期させます。
	デバイスの削除 – デバイスの削除

インフラストラクチャ サーバーは、インフラストラクチャ サーバー グループに追加されたデバイスで、インフラストラクチャ サービスがインストールされています。

次のセクションでは、インフラストラクチャ サーバーの定義と設定の方法を説明しています。

インフラストラクチャ サーバーの管理

インフラストラクチャ サーバーとして追加するデバイスを選択する場合、以下の考慮事項があります。

- デバイスには、パブリッシュされたサービスを保管するのに十分な領域が必要です。
- デバイスには、高性能の高速ネットワーク カード (データ転送速度 100 MB または 1 GB) が必要です。
- デバイスは、そのネットワークへのダウンロード トラフィックをローカライズするサブネット上に存在する必要があります。

ツールバーを使用して、インフラストラクチャ サーバー グループでのデバイスの追加および削除を行います。

▶ 使用するインフラストラクチャ サーバーのいずれかでファイアウォールが有効になっている場合は、次のポートを除外する必要があります。

- TCP 3463、139、445、および 3467
- UDP 137 および 138

Windows ファイアウォールのユーザーは、ファイルとプリンタの共有を選択し、TCP ポート 139 と 445、および UDP ポート 137 と 138 を除外できます。

インフラストラクチャ サーバーを追加するには

- 1 [インフラストラクチャ] ツールバーで、**[デバイスの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。**[HPCA インフラストラクチャ サーバー グループ メンバーシップ]** ウィンドウが開き、HPCA にインポートされた全デバイスのリストが表示されます。
- 2 リストからデバイスを選択して、**[デバイスの追加]** をクリックします。追加されたデバイスが、インフラストラクチャ サーバー リストに表示されます。

インフラストラクチャ サーバーを削除するには

- 1 [インフラストラクチャ] ツールバーで、インフラストラクチャ サーバー グループから削除するデバイスを選択します。
- 2 **[デバイスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。そのデバイスがグループから削除されます。



インフラストラクチャ サービスがインストールされたインフラストラクチャ グループからデバイスを削除する場合、サービスが削除されるまで、インフラストラクチャ サーバーとして機能し続けます。サービスを削除するには、**[インフラストラクチャ サービスの削除]** ツールバー ボタンを使用します。

デバイスを追加したら、インフラストラクチャ サービスの配布を開始できます。各サーバーでリモート データ キャッシングを開始するには、このサービスが必要です。

インフラストラクチャ サービスを配布するには

インフラストラクチャ サービスを配布して、インフラストラクチャ サーバー デバイスでリモート サービスを有効にします。

- 1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、インフラストラクチャ サーバー リストからデバイスを選択します。
- 2 **[インフラストラクチャ サービスの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、「インフラストラクチャ 配布ウィザード」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスにインフラストラクチャ サービスを配布します。インフラストラクチャ サービスが次のロケーションにインストールされます。

`System Drive:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ProxyServer`

インフラストラクチャ サーバーのローカル キャッシュで利用できないリソースをデバイスがリクエストするたびに、データが **HPCA Server** から取得され、インフラストラクチャ サーバーのダイナミック キャッシュに保存されて、クライアント デバイスに提供されます。サービスは、同期機能を使用してインフラストラクチャ サーバーにプレロードできます。詳細については、**159** ページの「**インフラストラクチャ サーバーの同期**」を参照してください。

インフラストラクチャ サービスを削除するには

- 1 左のカラムのチェック ボックスを使用して、インフラストラクチャ サーバー リストからデバイスを選択します。
- 2 **[インフラストラクチャ サービスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、「**インフラストラクチャ削除ウィザード**」を起動します。
- 3 ウィザードの手順に従って、選択したデバイスからインフラストラクチャ サービスを削除します。

インフラストラクチャ サーバーの作成が終了したら、「**ロケーション**」を定義し、その後、これらのサーバーを特定のサブネットに割り当てる必要があります。

インフラストラクチャ サーバーの同期

インフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュには、管理対象デバイスによって要求されるデータを事前に入力できます。通常、インフラストラクチャ サーバーは、クライアント デバイスから要求されると、オペレーティング システム イメージを除くデータを自動的にキャッシュします。同期機能を使用することで、**HPCA Server** 上の利用可能なすべてのデータをインフラストラクチャ サーバーのキャッシュにプレロードできます。

(インフラストラクチャ サーバーのサービスが配布された後に)[サーバーの詳細] ウィンドウの [キャッシュ] タブを使用して、どのデータをプレロードするかを選択できます。

▶ プレロードには、大規模なバイナリ ファイルのダウンロードが含まれるので、ネットワークの全体的なパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。可能な限り、最適なネットワーク パフォーマンスが優先事項とならない空き時間に同期を実行するようにしてください。

各サーバーの現在の同期ステータスを表示するには、インフラストラクチャ サーバーのリストにある **[前回の同期]** カラムを確認するか、[サーバーの詳細] ウィンドウの [一般] タブの [要約] セクションを参照してください。 **[前回の同期]** では、同期機能がサーバー上で最後にいつ開始されたかが記録されます。



インフラストラクチャ サーバーの最初の同期が行われると、HPCA Agent ID である <DeviceName>_PRELOAD を使用して、管理対象デバイス レポートに新しいエントリが追加されます。このエントリは、インフラストラクチャ サーバーのサービスのプレロードのステータスを表示するために特に存在し、関連デバイスの詳細なハードウェア情報は含まれていません。インフラストラクチャ サーバーからプレロードまたは削除されたサービスに関する情報は、管理対象デバイスのエントリの詳細リンクをクリックし、管理対象サービスを展開することで確認できます。これと同じ情報は、インフラストラクチャ サーバー用の [サーバーの詳細] ウィンドウの中で、[レポート] タブの [プレロードされたサービス] 以下からも確認できます。

どのデータをプレロードするかを選択するには

- 1 インフラストラクチャ サーバーのサービスの配布後に、インフラストラクチャ サーバーのリストの中からサーバーのリンクをクリックし、[サーバーの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 [キャッシュ] タブをクリックします。
- 3 ドロップダウン リストを使用して、HPCA Server からプレロードできるようにするサービスの有効 / 無効を切り替えます。デフォルトでは、プレロードはすべてのサービスに対して無効になっています。
- 4 [保存] をクリックして、変更を適用します。
- 5 最後に、[同期] をクリックし、インフラストラクチャ サーバーを利用可能なデータ エントリと即時に同期させます。

インフラストラクチャ サーバーを同期するには

[設定] タブ、および [インフラストラクチャ管理] セクションの [サーバー] タブにおいてインフラストラクチャ サーバーを同期させるのに使用できる方法には、次の 2 つがあります。

- 1 1 つ以上のサーバーを同期させるには、インフラストラクチャ サーバー リストを使用し、同期するすべてのサーバーを選択します。[選択されたインフラ

ストラクチャ サーバーのサービス キャッシュの同期



ツールバー ボタンをクリックし、選択されたすべてのサーバーを、HPCA Server からの最新のデータと同期させます。各サーバーにプレロードされているサービスは、各サーバーの [サーバーの詳細] ウィンドウの [キャッシュ] タブの設定内容に依存

します。
または

- 2 単一のサーバーを同期させるには、サーバーを選択し、ツールバー ボタンを使用するか、サーバー名をクリックして[サーバーの詳細]ウィンドウを開き、**[共通のタスク]**領域にある**[同期]**をクリックします。[キャッシュ]タブを使用して、どのサービスをプレロードするかを決定し、**[同期]**をクリックすることもできます。

インフラストラクチャ サーバーのキャッシュ内のプレロードされたサービスの要約を表示するには

- [サーバーの詳細]ウィンドウを開き、**[レポート]**タブをクリックします。
[レポート]タブにキャッシュ内で利用できるプレロードされたサービスおよびそれぞれのステータスが表示されます。
[イベント]カラムでは、次のような現在のステータスが説明されます。
 - **更新 (プレロード)** – サービスは、前回のキャッシュ同期で更新されました。
 - **インストール (プレロード)** – サービスが正常にプレロードされました (初期プレロード)。
 - **アンインストール (プレロード)** – サービスがプレロード キャッシュから削除されました。
 - **修復 (プレロード)** – サービス用のキャッシュは、ファイルが不明であるか無効なファイルを含んでおり、前回の同期で修復されました。

レポートには、プレロードされたサービスのみが表示されます。デフォルトの方法 (管理対象デバイスによって要求された際に自動的にキャッシュされる) によってインフラストラクチャ サーバーに保存されているサービスは、表示されません。

[サーバーの詳細] ウィンドウ

[サービスの詳細]ウィンドウにアクセスするには、インフラストラクチャ サーバー リストから任意のサーバー名のリンクをクリックします。

[サービスの詳細]ウィンドウからは、インフラストラクチャ サーバーの管理およびデバイス、サブネット、およびプレロードされたサービスに関するステータスやその他の詳細の表示が行えます。

全般

[全般]タブでは、[共通のタスク]セクションの中でサーバーに関する情報を表示し、インフラストラクチャ サービスの配布および「**インフラストラクチャ サーバーの同期**」サービス キャッシュなどのタスクを完了できます。

[要約]領域には、サーバーに割り当てられているロケーション(サブネット)の数、および更新のためにそのサーバーに接続しているデバイスの数が表示されます。ステータスには、インフラストラクチャ サービスのインストールの有無、およびサーバーのサービス キャッシュと **HPCA Server** とが前回いつ同期されたかが表示されます。

プロパティ

[プロパティ]タブを使用して、デバイスのすべての情報を表示します。その他の詳細情報を表示するには、[詳細プロパティ]セクションを展開します。

キャッシュ

[キャッシュ]タブでは、インフラストラクチャ サーバーのサービス キャッシュに保存されるサービスの種類を選択できます。詳細については、**159** ページの「[インフラストラクチャ サーバーの同期](#)」を参照してください。

ロケーション

[ロケーション]タブは、サーバーに割り当てるサブネットを定義します。サブネットの追加および割り当ての詳細については、**162** ページの「[ロケーション](#)」を参照してください。

デバイス

[デバイス]タブには、サーバーに現在割り当てられているすべてのデバイスが表示されます。このリストは、各デバイスの前回接続に基づいており、デバイスのサブネットが変更されたら、変化する場合があります。

レポート

[レポート]タブを使用して、サービスのプレロード要約を表示します。プレロードされたサービスのみが表示されます。(デバイスの要求後に)自動的にキャッシュされたサービスは表示されません。各プレロードステータスの詳細については、**159** ページの「[インフラストラクチャ サーバーの同期](#)」を参照してください。

ロケーション

[ロケーション]タブを使用して、既存のロケーションを表示したり、新しいロケーション(サブネット)を追加したりします(このロケーションには、インフラストラクチャ サーバーを後から割り当てます)。これにより、管理対象デバイスがローカルのインフラストラクチャ サーバー(同じサブネット内に存在する)に接続することが保証されます。

[ロケーション] ツールバーには、お使いの環境のロケーションの定義および設定に使用できるボタンがあります。

表 17 [インフラストラクチャ サーバー] ツールバー ボタン

ツールバー ボタン	説明
	データのリフレッシュ – リスト データのリフレッシュ
	CSV にエクスポート – 開いたり保存したりできる、コンマ区切りのリストを作成します。
	新しいロケーションの作成 – インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザードの起動
	ロケーションの自動作成 (インベントリ データに基づき) – 管理対象デバイスからのインベントリ データに基づいて、ロケーションのリストを作成します。
	ロケーションの削除 – 選択したインフラストラクチャ ロケーションを削除します。

ロケーション リストには、追加された各ロケーションの情報が含まれています。たとえば、割り当てられているサーバーやサブネット内に存在するデバイスの数などの情報です。任意の [サブネット アドレス] をクリックして、[ロケーションの詳細] ウィンドウを開きます。

HPCA に保存されているインベントリ データに基づいて、新しいインフラストラクチャ ロケーションを手動で作成するか、自動的に作成することができます。必要なインベントリ データを取得するには、管理エージェントが配布されている必要があります。

新しいロケーションを作成するには

- 1 **[新しいロケーションの作成]**  ツールバー ボタンをクリックして、「インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザード」を起動します。
- 2 ウィザードの手順に従って、新しいインフラストラクチャ ロケーションを作成します。

インベントリ データに基づいて新しいロケーションを作成するには

- 1 **[ロケーションの自動作成 (インベントリ データに基づき)]**  をクリックします。
- 2 **[OK]** をクリックします。

3 **【閉じる】**をクリックします。

インフラストラクチャ ロケーションのリストが更新されます。この方法では、見つかった新しいサブセットごとに1つのロケーションが作成されます。

ロケーションが追加されたら、サーバーを割り当てます。

ロケーションを割り当てるには

- 1 **【サーバー】**タブをクリックします。
- 2 ロケーションを割り当てるサーバーをクリックします。**【サーバーの詳細】**ウィンドウが開きます。
- 3 **【ロケーション】**タブをクリックします。
- 4 **【ロケーションの追加】**  ツールバー ボタンをクリックします。**【サーバーのロケーション】**ウィンドウが開きます。
- 5 インフラストラクチャ サーバーに割り当てるロケーションを選択し、**【ロケーションの追加】**をクリックします。
- 6 **【閉じる】**をクリックします。ロケーションの追加が完了したら、**【閉じる】**を再度クリックし、**【サーバーの詳細】**ウィンドウを閉じます。

以上の手順が完了すると、ロケーションがサーバーに割り当てられ、定義されたサブネット内で接続を行うデバイスは、リソースのニーズに対してそのサーバーにルーティングされます。

サーバーに割り当てられたロケーションは、**【ロケーションの削除】**  ツールバー ボタンを使用して削除できます。

サーバーからロケーションを削除するには

- 1 **【サーバー】**タブをクリックします。
- 2 ロケーションを削除するサーバーをクリックします。**【サーバーの詳細】**ウィンドウが開きます。
- 3 **【ロケーション】**タブをクリックします。
- 4 削除するロケーションを選択して、**【ロケーションの削除】**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 5 **【閉じる】**をクリックします。ロケーションの削除が完了したら、**【閉じる】**を再度クリックし、**【サーバーの詳細】**ウィンドウを閉じます。

ロケーションの詳細

ロケーションのサブネットアドレスをクリックして、[ロケーションの詳細] ウィンドウを開きます。

- **[プロパティ]** タブを使用して、ロケーションの説明を変更します。変更後、**[保存]** をクリックします。
- **[デバイス]** タブを使用してサブネット内に存在するすべてのデバイスをリストします。

デバイス管理

[デバイス管理] セクションを使用して、警告オプションおよび **Trusted Platform Module (TPM)** を設定します。

次のセクションでは、利用可能なデバイス管理オプションについて説明します。

- **警告中** 165 ページ
- **信頼できるプラットフォーム モジュール** 167 ページ

警告中

[警告中] セクションを使用して、**CMI** と **S.M.A.R.T.** の警告およびレポート オプションを設定します。

- **CMI** 165 ページ
- **S.M.A.R.T.** 166 ページ

CMI

CMI Softpaq は、**HPCA Agent** 配布の一部として、各 **HP** ターゲット デバイスにインストールされます。**HP Client Management Interface(CMI)** は、企業管理者や **IT** プロフェッショナルに、**HP** ビジネスクラス デスクトップ、ノートブックおよびワークステーションに対する高レベルの管理システムを提供します。

CMI のハードウェア固有の情報が取得され、レポートに利用できます。[レポート] タブの [表示オプション] セクションで **[HP 固有のレポート]** レポート ビューを使用して、**CMI** ハードウェア関連レポートを作成します。(CMI 関連のレポート オプションを表示するには、**[インベントリ管理レポート]**、**[ソフトウェア レポート]**、**[HP 固有のレポート]** の順で選択します)。

CMI に関する詳細は、次を参照してください。

<http://h20331.www2.hp.com/Hpsub/cache/284014-0-0-225-121.html>

[CMI] タブを使用して、HP CMI 設定を変更します。変更した設定は、管理対象のクライアントが次に HPCA インフラストラクチャに接続したときに、有効になります。



CMI は、特定の HP デバイス モデルでしか互換性がありません。互換性に関する情報は、デバイスの説明を参照してください。

CMI を設定するには

- 1 HPCA Console で、[設定] タブをクリックし、[デバイス管理] を選択します。
- 2 [CMI] タブをクリックします。
- 3 管理対象 HP デバイスから取得したクライアント警告についてレポートするには、[クライアント警告のレポート] ドロップダウン リストから [有効] を選択します。警告レポートはデフォルトでは無効になっています。[有効] を選択すると、[レポートする最低の重大度] ドロップダウン リストが使用できるようになります。
- 4 レポートする最低の警告重大度を選択します。
- 5 管理対象 HP デバイスのクライアント警告を有効にするには、[クライアント警告の表示] ドロップダウン リストから [有効] を選択します。警告はデフォルトでは無効です。[有効] を選択すると、[表示する最低の重大度] ダイアログと [警告ウィンドウのタイムアウト] ダイアログが使用できるようになります。
- 6 クライアント デバイスに表示する最低の警告重大度を選択します。
- 7 警告をクライアント デバイスに表示する秒数を入力します。デフォルトでは、警告は 5 秒間表示されます。
- 8 [保存] をクリックします。

S.M.A.R.T.

Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (S.M.A.R.T.) とは、コンピュータのハードディスクの監視システムで、信頼性のさまざまなインジケータについて検出およびレポートを行い、ドライブの問題に対する早期警告システムとして働きます。これらのイベントの検出は、Client Automation Management Agent の一部として、表示とレポートの両方の目的で有効化することができます。[設定] タブの [ハードウェア管理] 領域を使用して、S.M.A.R.T. 監視設定を構成します。S.M.A.R.T. 監視は、デフォルトでは無効です。

S.M.A.R.T. 監視の有効化および設定を行うには

- 1 HPCA Console で、[設定] タブをクリックし、[ハードウェア管理] を選択します。
- 2 [S.M.A.R.T.] タブをクリックします。
- 3 [S.M.A.R.T. 監視の有効化] ドロップダウン リストを使用し、[有効] を選択します。S.M.A.R.T. 監視は、デフォルトでは無効です。
- 4 [クライアント警告の表示] ドロップダウン リストを使用して、S.M.A.R.T. クライアント 警告の有効 / 無効を切り替えます。警告はデフォルトでは無効です。クライアント警告を有効化すると、管理対象デバイスでドライブに関する問題が検出されると、そのデバイス上に警告ウィンドウが表示されます。
- 5 [クライアント警告のレポート] ドロップダウン リストを使用して、S.M.A.R.T. クライアント 警告レポートの有効 / 無効を切り替えます。有効化されると、クライアント警告が取得され、レポートの目的で利用できるようになります。レポートはデフォルトでは無効になっています。
- 6 [保存] をクリックします。

[S.M.A.R.T. 監視の有効化] および [クライアント警告のレポート] を有効にした後は、HPCA Console の [レポート] 領域を使用して、S.M.A.R.T. レポートを作成します。警告レポートは、インベントリ管理レポートのレポート ビューに含まれています。S.M.A.R.T. 警告レポートを表示するには、[インベントリ管理レポート]、[ハードウェア レポート]、[詳細レポート] の順で選択します。

信頼できるプラットフォーム モジュール

[TPM] タブを使用して、互換性がある HP デバイスに Trusted Platform Module チップを設定します。CCM_TPM_ENABLEMENT サービスを配布して、TPM の所有権を初期化し、これらの設定を適用します。ソフトウェア配布に関する情報については、88 ページの「ソフトウェアの配布」を参照してください。



TPM セキュリティ チップを有効化および初期化するには、HP ProtectTools ソフトウェアをデバイスにインストールしておく必要があります。デバイス モデルによっては、このソフトウェアがプレインストールされているものや、別途ソフトウェアをダウンロードまたは購入する必要があるものがあります。詳細は、ご使用のデバイス モデルの HP ドキュメントを参照してください。

TPM は、HP ビジネス PC のマザーボードに取り付けられたハードウェア セキュリティ チップです。これは、HP ProtectTools Embedded Security の一部です。詳細は、次を参照してください。

<http://h20331.www2.hp.com/hpsub/cache/292199-0-0-225-121.html>

TPM を設定するには

- 1 HPCA Console で、[設定] タブをクリックし、[ハードウェア管理] を選択します。
- 2 [TPM] タブをクリックします。
- 3 BIOS Admin パスワードおよび TPM Owner パスワードを入力します。
- 4 緊急リカバリ トークンおよびパスワードリセット トークンを入力します。
- 5 [再起動の設定] を選択します。TPM チップが有効になった後で、デバイスが再起動されます。この設定は、エンドユーザーが行う対話のレベルを決定します。
 - 許可のみ – 再起動の後、ユーザーは有効化を許可する必要があります。
 - 許可または拒否 – 再起動の後、ユーザーは有効化を許可または拒否できません。
 - サイレント – ユーザーは、再起動の後に有効化の確認を求められません。
- 6 バックアップ アーカイブ、緊急リカバリ アーカイブ、および TPM パスワードリセット アーカイブのファイルパスを入力します。
- 7 [保存] をクリックします。

パッチ管理

パッチ管理を有効にして、パッチ データベースの ODBC パラメータを定義するには、[パッチ管理] セクションを使用します。Starter および Standard ユーザーはこのセクションを使用して、パッチおよび HP Softpaq の取得、パッチ取得スケジュールの設定、およびパッチ取得設定の定義を行うこともできます。

ユーザー環境でパッチの配布およびエンタイトルメント設定を行う方法の詳細については、194 ページの「パッチ配布ウィザード」を参照してください。

パッチ管理のオプションについては、次のセクションで説明します。

- データベース設定 169 ページ

- 取得ジョブ 169 ページ

データベース設定

コンソールの [パッチ管理] 領域とパッチ取得機能を使用するには、パッチを有効にする必要があります。

パッチ管理サービス (HPCA Patch Manager) を開始して、パッチ ライブラリに保存された情報と SQL データベースの情報を同期する機能を有効にするには、[データベース設定] 領域を使用します。

前提条件

- パッチ データベースを作成し、そのデータベースの ODBC 接続を定義する必要があります。詳細については、『HPCA Core および Satellite Servers 入門 およびコンセプト ガイド』を参照してください。

パッチの有効化および設定を行うには

- 1 **[有効]** を選択します (これにより、HPCA Patch Manager サービスが開始します)。
 - 2 パッチの [ODBC 設定] 領域で、次のオプションを設定します。
 - **ODBC DSN: Patch SQL** データベースの DSN を選択します。
 - **ODBC のユーザー ID:** DSN のユーザー ID を指定します。
 - **ODBC のパスワード:** ODBC ユーザー ID に関連付けられているパスワードを指定します。
 - 3 **[保存]** をクリックします。
 - 4 パッチの ODBC 設定を変更した場合、プロンプトに従って Patch Manager サービスを再開します。
- などのセキュリティ パッチの取得および管理はデフォルトで除外されています。

取得ジョブ

パッチ取得のスケジュールおよび設定を行うには、[取得ジョブ] セクションを使用します。

[スケジュール] タブを使用して、パッチの取得またはパッチ取得スケジュールの設定を行います。



最新のパッチを効率的に取得するため、パッチ取得スケジュールを 1 日に 1 度だけオフピーク時に実行するよう設定することを推奨します。

[現在のスケジュール] は、現在設定されているパッチ取得スケジュールを示します。

パッチを取得するには

- [パッチを今すぐ取得] をクリックして、現在のパッチ取得設定に基づき、パッチを取得します。パッチがダウンロードされ、パッチ ライブラリに保管されます。
- [パッチ管理] の [パッチ] タブで取得したパッチを確認します。

パッチ取得スケジュールを設定するには

- 1 付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
 - **実行**: 時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
 - **間隔**: 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
 - **開始日**: ドロップダウン リストを使用して、パッチ適用状況を探る日を選択します。
 - [現在のサーバー時刻] は、HPCA Server の現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、[保存] をクリックして、変更を適用します。

[現在のスケジュール] の後に、新しいスケジュールが表示されます。

[設定] タブを使用して、取得する Windows パッチおよび HP Softpaq の取得設定を設定します。パッチは、HP および Microsoft から取得します。Softpaq は、HP インスタント サポート技術を活用して取得します。

必須のフィールドにはアスタリスク (*) が付いています。

パッチ取得設定を行うには

- 1 [Microsoft ブリテン] 領域に入力します。
 - [有効] ドロップダウン リストで [はい] を選択して Microsoft ブリテンを取得します。

- **[取得するブリテン]** テキストボックスに、各探索期間にダウンロードするブリテンを入力します。ブリテンの範囲を指定するには、ワイルドカード文字を使用します (MS05* など)。複数のブリテン検索を同時に行うには、コンマで区切ります (MS05*, MS06* など)。
- **[取得する言語]** テキストボックスに、ダウンロードするパッチに利用可能な各言語バージョンの言語コードを入力します。次の表を使用して、適切な言語コードを確認します。複数の言語コードはスペースを入れずにコンマで区切ります (en,fr,ja など)。コードは大文字と小文字を区別します。

表 18 言語コード

言語 = コード	言語 = コード	言語 = コード
アラビア語 = ar	フランス語 = fr	ノルウェー語 (ブークモール) = no
中国語 (香港特別行政区) = zh-hk	ドイツ語 = de	ポーランド語 = pl
中国語 (簡体字) = zh-cn	ギリシャ語 = el	ポルトガル語 (ブラジル) = pt-br
中国語 (繁体字) = zh-tw	ヘブライ語 = he	ポルトガル語 (ポルトガル) = pt-pt
チェコ語 = cs	ハンガリー語 = hu	ロシア語 = ru
デンマーク語 = da	イタリア語 = it	スペイン語 = es
オランダ語 = nl	日本語 = ja	スウェーデン語 = sv
英語 = en	日本語 (NEC) = ja-nec	トルコ語 = tr
フィンランド語 = fi	韓国語 = ko	

2 **[HP Softpaq]** 領域に入力します。

- **[有効]** ドロップダウンリストで **[はい]** を選択して HP Softpaq を取得します。
- **[HP システム ID]** テキストボックスで、どのデバイス関連 HP SoftPaq を取得するか決定します。これには、テキストボックスに HP システム ID のリストを入力するか、またはテキストボックスの右にある **[データの取得]** ボタン  をクリックして、HPCA のデバイスに基づいたシステム ID のリストを自動的に作成します。

3 必要な場合は、**[接続の設定]** 領域に入力します。

- ブリテンの取得元の **[Proxy Server のアドレス]** を入力します (<http://proxyserver:8080/> など)。
- パッチを取得するときに使用する **[プロキシのユーザー ID]** および **[プロキシのパスワード]** を入力します。

▶ パッチ取得は、基本認証で設定されたプロキシサーバーからしか行えません。

4 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

▶ 最初のパッチ取得は、長時間かかる場合があります。

現在と過去の取得ジョブのステータスを表示するには、**[操作]** タブの **[パッチ管理]** 領域にある **[取得ジョブの表示]** ページに移動します。

アウトバンド管理

[設定] タブの **[アウトバンド (OOB) 管理]** 領域を使用して、OOB 管理を設定します。アウトバンド管理の使用法の詳細については、『**HP Client Automation Out of Band Management ユーザーガイド**』を参照してください。次に示す各セクションで利用可能な設定オプションを説明します。

- [使用可能性 172 ページ](#)
- [デバイスタイプの選択 173 ページ](#)
- [vPro システム保護の設定 174 ページ](#)

使用可能性

vPro または DASH デバイスでサポートされるアウトバンド管理機能を有効または無効にするには、**[アウトバンド管理の有効化]** 領域を使用します。

- アウトバンド管理機能を有効にするには、**[有効化]** チェックボックスをオンにします。

OOB 管理オプションを表示するには、**[操作]** タブの「**アウトバンド管理**」セクションを参照してください。

アウトバンド管理を有効にすると、通常の HPCA Console の Wake on LAN 機能に加えて、vPro または DASH デバイスに OOB 管理リモート操作機能を使用して接続できるようになります。

アウトバンド管理の使用方法の詳細については、『HP Client Automation Out of Band Management ユーザー ガイド』を参照してください。

デバイス タイプの選択

アウトバンド管理を有効にしたら、[デバイス タイプの選択] 領域を使用して、管理する OOB デバイスのタイプを選択します。

デバイス タイプごとに 3 つの選択肢からいずれかを選択できます。これらの選択肢について、次に示す各セクションで説明します。

- [DASH デバイス 173 ページ](#)
- [vPro デバイス 173 ページ](#)
- [両方 174 ページ](#)

選択したデバイス タイプに応じて、HPCA Console には、選択内容に関連するインターフェイスが表示されます (174 ページの「[デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション](#)」を参照)。

アウトバンド管理の使用方法の詳細については、『HP Client Automation Out of Band Management ユーザー ガイド』を参照してください。

DASH デバイス

DASH を選択した場合、DASH 管理者がすべてのデバイスに同じユーザー名とパスワードを設定していれば、DASH デバイスに共通の認証情報を入力することができます。

認証情報の入力を間違えたり、内容に変更があったりした場合は、次回このウィンドウにアクセスしたときに認証情報を変更できます。

vPro デバイス

vPro デバイスを選択した場合、vPro デバイスにアクセスするための SCS ログイン認証情報、および SCS サービスとリモート設定の URL を入力する必要があります。

認証情報の入力を間違えたり、内容に変更があったりした場合は、次回このウィンドウにアクセスしたときに認証情報を変更できます。

両方

両方のタイプのデバイスを選択した場合、DASH デバイスの共通認証情報を入力できます。また、vPro デバイスにアクセスするために必要な SCS ログイン認証情報、および SCS サービスとリモート設定の URL を入力する必要があります。

詳細については、『HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド』の管理タスクでのデバイス タイプの選択に関する章を参照してください。

デバイス タイプの選択によって決まる設定および操作オプション

デバイス タイプを選択したら、[設定] タブと [操作] タブに選択内容を反映したオプションが表示されます。次の表に、オプションの要約を示します。

表 19 設定と操作のオプション

	DASH	vPro
Configuration	追加オプションなし	vPro システム保護の設定
オペレーション	デバイス管理	vPro デバイスのプロビジョニング グループ管理 警告の通知

- ▶ デバイス タイプを選択したり、選択内容を変更したりしたときに、[設定] タブと [操作] タブのナビゲーション パネルにデバイス タイプ関連のオプションを表示するには、HPCA Console からログアウトし、再度ログインする必要があります。

vPro システム保護の設定

vPro デバイスおよびデバイス グループのシステム防御機能を管理するには、[vPro システム保護の設定] を定義する必要があります。

- ▶ この設定オプションは、vPro デバイス タイプを選択した場合にのみ表示されます。システム防御設定は、DASH デバイスには適用されません。

- **システム防御フィルタの管理**
vPro デバイスでは、システム防御フィルタを作成、変更、および削除できます。システム防御フィルタにより、ネットワーク上のパケットの流れが監視され、フィルタ条件が一致するとパケットのドロップやパケット レートの制限が可能になります。フィルタは、システム防御ポリシーに割り当てられ、ポリシーを有効化してネットワークを保護することができます。
- **システム防御ポリシーの管理**
vPro デバイスでは、システム防御ポリシーを作成、変更、および削除し、そのポリシーをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。システム防御ポリシーによって、ネットワークを選択的に分離し、vPro デバイスを悪意のあるソフトウェアの攻撃から保護することができます。
- **システム防御ヒューリスティック情報の管理**
vPro デバイスでは、ヒューリスティック仕様を作成、変更、および削除して、そのヒューリスティックをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。これらのヒューリスティックにより、ワームの侵入を示す状況が検出され、他のデバイスが感染しないようにそのデバイスが制御されることで、ネットワーク上のデバイスが保護されます。
- **システム防御ウォッチドッグの管理**
vPro デバイスでは、エージェント ウォッチドッグを作成、変更、および削除して、そのウォッチドッグをネットワーク上の複数の vPro デバイスに配布できます。エージェント ウォッチドッグは、vPro デバイス上のローカルエージェントが存在しているかどうかを監視します。ローカルエージェントの状態に変更があった場合にエージェント ウォッチドッグが取るアクションを指定できます。

詳細については、『HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド』の管理タスクでの vPro システム防御の設定に関する章を参照してください。

HPCA Console で vPro デバイスのシステム防御機能を管理できるようにするために [設定] タブで実行する管理タスクはこれで終わりです。オペレータまたは管理者ロールのユーザーは、[操作] タブに移動して、ネットワークの OOB デバイスの管理を始めることができます（「[オペレーション](#)」の章を参照）。

OS 管理

オペレーティング システム サービス機能を設定するには、[オペレーティング システム] 領域を使用します。

- [設定 176 ページ](#)
- [配布 176 ページ](#)

設定

オペレーティング システム サービスを使用すると、エージェントが **HPCA Server** に接続し、OS エンタイトルメントおよびプロビジョニング情報を取得できます。**Core** でこのサービスが無効になっている場合、この情報をリクエストする **Satellite** またはエージェントはこの情報を使用できません。

- オペレーティング システム サービスを有効にするには、チェック ボックスを選択してから **[保存]** をクリックします。

OS 配布中、ネットワーク内のデバイスのブートを計画している場合は、最初に **Core** と一緒にインストールされた **Boot Server (PXE/TFTP)** を有効にする必要があります。これにより、**Core** サーバーで、**Boot Server (PXE)** と **Boot Server (TFTP)** という 2 つの **Windows** サービスが開始されます。

- **Boot Server (PXE/TFTP)** を有効にするには、チェック ボックスを選択してから **[保存]** をクリックします。

配布

[OS 管理] セクションを使用して、オペレーティング システム配布の設定を行います。

OS 配布モードを設定するには

- 1 [設定] タブの [OS 管理] セクションで、[OS 配布モード] を選択します。

- **ユーザーに確認する (有人)** - 配布プロセスを続行するには、オペレーティング システムの配布中にユーザーが管理対象デバイスがある場所にいる必要があります。
- **ユーザーに確認しない (無人)** - オペレーティング システムの配布中に、管理対象デバイスではダイアログ ウィンドウが表示されません。ユーザーとの対話は必要ありません。



オペレーティング システム イメージを配布すると、ターゲットデバイスのハードディスクおよびパーティションの数によっては、既存のデータが上書きされることがあります。[**ユーザーに確認しない (無人)**] を選択する場合、新しいオペレーティング システムを配布する前に、既存のデータを必ずバックアップしてください。

2 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。



OS 配布モードを変更すると、すべての新規およびスケジュール済み OS 配布ジョブに影響を与えます。

ダッシュボード

ダッシュボードを設定するには、次に示す **[設定]** タブの **[ダッシュボード]** 領域を使用します。

「**HPCA 操作**」ダッシュボードでは、一定期間に発生したクライアント接続数とサービス イベント数に関する情報が提供されます。

「**パッチ管理**」ダッシュボードでは、企業内のクライアント デバイスのパッチ ポリシー適用状況に関するデータが提供されます。

デフォルトでは、有効になるのはダッシュボード ペインの一部です。管理者権限のあるユーザーは、すべてのペインを有効または無効にできます。

HPCA 操作

HPCA 操作ダッシュボードには、企業内で HPCA が実行中の作業が表示されます。また、2 つの期間のクライアント接続およびサービス イベントの指標が表示されます。エグゼクティブ ビューには、最新の 12 か月が表示されます。操作ビューには、最新の 24 時間が表示されます。どちらのビューにも、次の情報ペインが含まれます。

クライアント接続 [35 ページ](#)

サービス イベント [36 ページ](#)

エグゼクティブ ビューには、次のペインも含まれます。

ドメイン別 12 か月サービス イベント [38 ページ](#)

デフォルトではこれらのペインがすべて表示されます。設定を使用して、ダッシュボードに表示するペインを指定できます。これらのペインの詳細については、[34 ページの「HPCA オペレーションダッシュボード」](#)を参照してください。

HPCA 操作ダッシュボードを設定するには次の手順を実行します。

1 **[設定]** タブで、**[ダッシュボード]** をクリックします。

- 2 [ダッシュボード]の下で、**[HPCA 操作]**をクリックします。
デフォルトではこのダッシュボードが有効になっています。無効にするには、**[HPCA オペレーション ダッシュボードの有効化]**ボックスをオフにし、**[保存]**をクリックします。
- 3 **[HPCA 操作]**の下で、**[エグゼクティブ ビュー]**または**[操作ビュー]**をクリックします。
- 4 ダッシュボードに表示するペインごとにボックスを選択します。ペインごとに必要な関連 HPCA 設定に関する情報を表示するには、**[?] アイコン**を使用します。
- 5 **[保存]**をクリックして、変更内容を実装します。

パッチ管理

パッチ管理ダッシュボードには、ネットワーク内の管理対象デバイスで検出された任意のパッチ脆弱性に関する情報が表示されます。デフォルトでは、パッチ管理ダッシュボードは無効になっています。

パッチ管理ダッシュボードのエグゼクティブ ビューには、次の 2 つの情報ペインがあります。

- ステータス別デバイス適用状況 (エグゼクティブ ビュー) 40 ページ
- ブリテン別デバイス適用状況 42 ページ

オペレーション ビューには、次の 3 つの情報ペインがあります。

- ステータス別デバイス適用状況 (オペレーション ビュー) 44 ページ
- Microsoft セキュリティ ブリテン 45 ページ
- 最も脆弱性の高い製品 46 ページ

設定を使用して、ダッシュボードに表示するペインを指定できます。これらのペインの詳細については、40 ページの「パッチ管理ダッシュボード」を参照してください。

パッチ管理ダッシュボードを設定するには

- 1 [設定] タブで、**[ダッシュボード]**をクリックします。
- 2 [ダッシュボード]の下で、**[パッチ管理]**をクリックします。

デフォルトでは、このダッシュボードは無効になっています。このダッシュボードを有効にするには、[**パッチ管理ダッシュボードの有効化**] ボックスをオンにして、[**保存**] をクリックします。

- 3 [**パッチ管理**] の下で、[**エグゼクティブ ビュー**] または [**オペレーション ビュー**] のいずれかをクリックします。
- 4 ダッシュボードに表示するペインごとにボックスを選択します。ペインごとに必要な関連 **HPCA** 設定に関する情報を表示するには、 アイコンを使用します。

[**Microsoft セキュリティ ブリテン**] (**オペレーション ビュー**) ペインには追加情報が必要です。 **Microsoft セキュリティ ブリテン RSS フィードの URL** を指定します (現在有効なデフォルトの **URL** が提供されます)。また、[**コンソール設定**] ページでプロキシ サーバーを有効にする必要がある場合もあります。

- 5 [**保存**] をクリックして、変更内容を実装します。

8 ウィザード

HPCA Console の使用中は、多くのウィザードを使用してさまざまな管理機能を実行しますこのセクションでは、各ウィザードの個別の手順について説明します。



ウィザードには、コントロール パネルの複数の領域から起動できるものがあります。

- デバイス インポート ウィザード [182 ページ](#)
- エージェント配布ウィザード [183 ページ](#)
- エージェント削除ウィザード [184 ページ](#)
- ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード [185 ページ](#)
- パッチの適用状況探索ウィザード [186 ページ](#)
- 電源管理ウィザード [187 ページ](#)
- グループ作成ウィザード [188 ページ](#)
- ソフトウェア配布ウィザード [191 ページ](#)
- サービス インポート ウィザード [192 ページ](#)
- サービス エクスポート ウィザード [192 ページ](#)
- ソフトウェア同期ウィザード [193 ページ](#)
- パッチ配布ウィザード [194 ページ](#)
- サービス エンタイトルメント ウィザード [195 ページ](#)
- ソフトウェア削除ウィザード [195 ページ](#)
- OS 配布ウィザード [196 ページ](#)
- インフラストラクチャ配布ウィザード [198 ページ](#)
- インフラストラクチャ削除ウィザード [198 ページ](#)

- インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザード 199 ページ



ウィザードを実行したり警告を表示したりするときに、**HPCA Console** が別のブラウザ インスタンスを開くことがありますこれらのウィザードや警告にアクセスするには、ブラウザのポップアップ ブロック設定で [許可されたサイト] にこのコンソールを含める必要があります。

デバイス インポート ウィザード

デバイス インポート ウィザードを使用して、**HPCAS** データベースでのデバイスの探索および追加を行いますデバイスは、インポートされると、183 ページの「エージェント配布ウィザード」を使用して管理の対象とすることができます。

デバイス インポート ウィザードを使用してデバイスをインポートするには

- 1 ウィザードを起動するには、[デバイス管理] セクションの [全般] タブにある [インポート] をクリックするか、[デバイス] タブの [管理対象デバイスのインポート]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 ドロップダウン リストから [デバイス ソース] を選択します。
 - **手動インポート** – 表示されたボックスに、デバイスのホスト名または IP アドレスのリストを入力するか貼り付けます。
 - **LDAP/Active Directory** – Active Directory や他の LDAP 互換ディレクトリ サービスからデバイスを自動的にインポートするには、LDAP ホスト、ポート、ユーザー ID、パスワード (必要な場合)、およびクエリする DN を入力します。
また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。
 - **ドメイン** – インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名 (たとえば、ABC ドメインの完全ドメイン スキャンには ABC と入力) またはドメイン名の一部とワイルドカード文字 (ABC* とすると、ABC で始まるドメインから全デバイスが返されます) を入力しますドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン \ デバイス」という構文を使用しますたとえば、Sales\WS* は、Sales ドメインの WS で始まるデバイスのみを返します。
ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符 (!) を使用しますたとえば、Sales,!Sales\WS* は、WS で始まるデバイスを除く、Sales ドメインの全デバイスを返します。

- 3 **[インポート]** をクリックします。
- 4 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。
インポートされたデバイスは、**[デバイス]** タブに表示されます。

エージェント配布ウィザード

エージェント配布ウィザードを使用して、HPCAS データベースのデバイスに **Management Agent** を配布します。



Management Agent をデバイスに配布する前に、ページのファイアウォール設定の規則を参照して、必要なファイアウォールの規則が使用されていることを確認してください。

エージェント配布ウィザードを使用して **Management Agent** を配布するには

- 1 ウィザードを起動するには
 - **[デバイス管理]** にある **[全般]** タブの **[配布]** をクリックします。
 - **[デバイス管理]** にある **[デバイス]** タブの **[管理エージェントの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。
 - **[グループ管理]** にある **[グループ]** タブの **[管理エージェントの配布]** ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 利用可能なデバイスがすべて表示されます管理エージェントを配布する各デバイスを選択して、**[次へ]** をクリックしますデバイスのリストの範囲を絞り込むには、**[検索]** 機能を使用します。
- 4 選択したデバイスに関する必要な情報を入力して、**[次へ]** をクリックします。
- 5 ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**[実行：今すぐ]** を選択します。または、**[実行：後で]** を選択して、エージェントを削除する日付と時刻を入力します。

- 6 **[その他のパラメータ]** セクションで、**[はい]** (デフォルト) を選択してエージェントをサイレントでインストールするか、**[いいえ]** を選択し、インストールプロセスでターゲット デバイス上にインストール UI を表示します。
 - ▶ **Management Agent** は、Windows Vista および Windows Server 2008 デバイスには、**[その他のパラメータ]** が選択されているかどうかにかかわらず、サイレントモードでのみ配布されます。
- 7 **[次へ]** をクリックします。
- 8 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。エージェント配布ジョブが作成されました。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

エージェント削除ウィザード

HPCAS データベースにあるデバイスから **Management Agent** を削除するには、エージェント削除ウィザードを使用します。

- ▶ **Management Agent** を削除すると、ソフトウェアやパッチを配布したり、そのデバイスの最新のインベントリ情報を収集したりすることができなくなります。管理対象でないデバイスは、グループまたは **HPCAS** から削除されるまで、それぞれのグループに存在し、配布済みのすべてのソフトウェアを保持します。

エージェント削除ウィザードを使用して **Management Agent** を削除するには

- 1 **[デバイス管理]** の **[デバイス]** タブ、または **[グループ管理]** の **[グループ]** タブからウィザードを起動します。
- 2 管理エージェントを削除するデバイスまたはグループを選択して、**[管理エージェントの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**[実行: 今すぐ]** を選択して、エージェントを削除する日付と時刻を入力します。**[実行: 後で]** を選択して、エージェントを削除する日付と時刻を入力します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。

- 6 要約情報を確認し、[**サブミット**] をクリックします。エージェント配布ジョブが作成されました。
- 7 [**閉じる**] をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザード

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用して、選択したデバイスについてソフトウェアとハードウェア インベントリを探索する、インベントリ 監査ジョブを作成します。

ソフトウェア / ハードウェア インベントリ ウィザードを使用してインベントリを探索するには

- 1 [**デバイス管理**] の [**デバイス**] タブ、または [**グループ管理**] の [**グループ**] タブからウィザードを起動します。

— [**インベントリの収集**]  ツールバー ボタンをクリックして、[**ソフトウェア / ハードウェア インベントリの探索**] を選択します。

- 2 ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、[**実行：今すぐ**] を選択します。または、[**実行：後で**] を選択して、インベントリ探索の日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、[**'x' 時間ごと**]、[**'x' 日ごと**]、または [**'x' 週ごと**] を選択して、ドロップダウン リストから [**間隔**] を選択します。

▶ 反復ジョブ スケジュール オプション ([**'x' 日ごと**] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 3 デバイスの電源をオンにする場合に選択します。ドロップダウン リストで [**はい**] を選択すると、HPCAS は、必要な場合、デバイスの電源をオンにしてインベントリを探索します。
- 4 要約情報を確認し、[**サブミット**] をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました [**閉じる**] をクリックして、ウィザードを終了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、[**現在のジョブ**] タブを使用します。

パッチの適用状況探索ウィザード

パッチ適用状況探索ウィザードを使用して、選択したデバイスおよびグループに対するパッチ適用状況スケジュールを設定します。

パッチ適用状況を探索するには

- 1 [デバイス管理]の[デバイス]タブ、または[グループ管理]の[グループ]タブからウィザードを起動します。

— [インベントリの収集]  ツールバー ボタンをクリックして、[パッチ適用状況の探索]を選択します。

- 2 ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、[実行:今すぐ]を選択します。または、[実行:後で]を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を入力します。反復スケジュールを設定するには、['x'時間ごと]、['x'日ごと]、または['x'週ごと]を選択して、ドロップダウンリストから[間隔]を選択します。

▶ 反復ジョブスケジュールオプション(['x'日ごと]など)は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 3 デバイスの電源をオンにするかどうかを選択します。ドロップダウンリストで[はい]を選択すると、HPCASは、必要に応じてデバイスの電源をオンにします。
- 4 要約情報を確認し、[サブミット]をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました[閉じる]をクリックして、ウィザードを終了します。

終了したら、[レポート]タブを使用して、選択したデバイスまたはグループに関する適用状況レポートを表示します。

電源管理ウィザード

選択したデバイスの電源をオンにしたり、オフにしたり、デバイスを再起動するには、電源管理ウィザードを使用します。

- ▶ リモートからデバイスの電源をオンにするには、コンピュータに **Wake-On-LAN** 機能が内蔵されている必要があります **Wake-On-LAN** は、**HPCA Server** がネットワークにパケットを送信して、管理対象デバイスの電源をリモートからオンにできる管理ツールですデバイスに、リモートの起動機能を有効にするよう **BIOS** を設定する必要があります詳細は、ハードウェアのドキュメントを参照してください **HP** デバイスの **BIOS** 設定は、**HPCA** を使用して変更および配布できます。
- ▶ アウトバンド管理が有効になっている場合は、**HPCA Console** の通常の **Wake on LAN** 機能に加えて、**OOB** 管理のリモート操作機能を使用して **vPro** または **DASH** デバイスに接続できます。
- ▶ **Windows XPe** デバイスで電源オフ機能を選択すると、電源がオフになる前に、1度デバイスが再起動しますこれは、**XPe** デバイスの内部キャッシュをクリアするために必要な、通常の動作です。

リモートからデバイスの電源オン、オフ、および再起動を行うには

- 1 **【電源管理】**  ツールバー ボタンをクリックして、[デバイス管理]の[デバイス]タブ、または[グループ管理]の[グループ]タブからウィザードを起動します。
- 2 ドロップダウンリストから電源管理機能を選択します選択したデバイスの電源オン、オフ、または再起動が行えます。
 - **起動** – 選択したデバイスの電源をオンにします
 - **停止** – 選択したデバイスの電源をオフにします
 - **再起動** – 選択したデバイスを再起動します
- 3 このジョブの実行スケジュールを設定しますウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**【実行：今すぐ】**を選択するか、**【実行：後で】**を選択して、ジョブを開始する日付と時刻を設定します反復スケジュールを設定するには、**【'x' 時間ごと】**、**【'x' 日ごと】**、または**【'x' 週ごと】**を選択して、ドロップダウンリストから**【間隔】**を選択します。
 - ▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (['x' 日ごと] など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。

- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]**をクリックします。
- 5 ジョブが正常に作成されました**[閉じる]**をクリックして、ウィザードを終了します。

保留中の管理ジョブをすべて表示するには、**[現在のジョブ]**タブを使用します。

グループ作成ウィザード

データベースにある管理対象デバイスのグループに、ソフトウェアまたはパッチを配布する必要がありますグループ作成ウィザードを使用して、指定したデバイス、探索したデバイス、またはレポート クエリの一部として返されたデバイスに基づき、デバイス グループを定義します。

グループ作成ウィザードの手順は、作成するグループのタイプにより異なります。

スタティック グループを作成するには

- 1 ウィザードを起動するには、次のいずれかを実行します。
 - **[グループ管理]**の**[全般]**タブから、**[新しいスタティック グループの作成]**をクリックします。
 - **[グループ]**タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** ツールバー ボタン  をクリックします。
- 2 **[次へ]**をクリックして、グループの作成を開始します。
- 3 グループの名前および説明を入力します。
- 4 **[次へ]**をクリックします。
- 5 グループに含めたいデバイスを選択するには、該当する各デバイスの最初のカラムのボックスをチェックします必要な場合、デバイスのリストの範囲を絞り込むには、**[検索]**機能を使用できます。
- 6 **[次へ]**をクリックします。
- 7 要約情報を確認します選択したデバイスの数が、**[デバイス数]**要約と一致することを確認しますグループを変更する必要がある場合、**[前へ]**をクリックします。
- 8 **[作成]**をクリックしますグループが正常に作成されました。
- 9 **[閉じる]**をクリックして、ウィザードを終了します。

ダイナミック ディスカバリ グループを作成するには

探索グループ メンバーシップは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスをベースにしています。

- 1 ウィザードを起動するには
 - [グループ管理]の[全般]タブから、[新しいディスカバリ グループの作成]をクリックします。
 - [グループ]タブから、[新しいグループの作成]  ツールバー ボタンをクリックし、[新しいダイナミック ディスカバリ グループの作成]を選択します。
- 2 [次へ]をクリックして、グループの作成を開始します。
- 3 グループの名前および説明を入力します。
- 4 [次へ]をクリックします。
- 5 探索ソースを選択します。
 - **LDAP/Active Directory** – LDAP ホストおよびポート番号、ユーザー ID、パスワード(必要な場合)、およびクエリする DN を入力します。
また、クエリに適用する、範囲、詳細フィルタ、またはデバイスの制限を選択します。
 - **ドメイン** – インポートするデバイスのネットワーク ドメインをスキャンするには、ドメイン名(たとえば、ABC ドメインの完全ドメイン スキャンには ABC と入力)またはドメイン名の一部とワイルドカード文字(ABC* とすると、ABC で始まるドメインから全デバイスが返されます)を入力しますドメインの特定のデバイスを含めるには、「ドメイン\デバイス」という構文を使用しますたとえば、Sales\WS* は、Sales ドメインの WS で始まるデバイスのみを返します。
ドメインの特定のデバイスを除外するには、感嘆符(!)を使用しますたとえば、Sales,!Sales\WS* は、WS で始まるデバイスを除く、Sales ドメインの全デバイスを返します。
- 6 [次へ]をクリックします。
- 7 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。
 - **実行**: 時間、日、週など、一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを選択します。
 - **間隔**: 指定する間隔(時間、日、または週)を選択します。
 - **開始日**: ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。

— [現在のサーバー時刻] は、HPCAS Server の現在の時刻を表示します。

8 [次へ] をクリックします。

9 要約情報を確認し、[作成] をクリックします。

10 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

探索グループは、LDAP クエリまたはドメイン スキャンの間に発見されたデバイスを含むように作成されます。発見されたデバイスがすでに HPCAS の一部でなかった場合、自動的にデバイス リストに追加されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。

ダイナミック レポート グループを作成するには

レポート グループは、レポート クエリで返されたデバイスを使用して、作成されます。

1 [レポート] 領域のアクション バーからウィザードを起動するには、[新しいダイナミック レポート グループの作成]  をクリックします。

2 [次へ] をクリックして、ウィザードを開始します。

3 グループの名前および説明を入力します。

4 [次へ] をクリックします。

5 ダイナミック グループのリフレッシュ スケジュールを設定します。

— **実行:** 時間、日、週など、一定の間隔でダイナミック グループ メンバーシップを更新するかどうかを選択します。

— **間隔:** 指定する間隔 (時間、日、または週) を選択します。

— **開始日:** ドロップダウン リストを使用して、グループをリフレッシュする日付を選択します。

— [現在のサーバー時刻] は、HPCAS Server の現在の時刻を表示します。

6 [次へ] をクリックします。

7 要約情報を確認し、[作成] をクリックします。

8 レポート クエリの現在のデバイスを含む、レポート グループが作成されます。このグループのデバイス メンバーシップは、設定したリフレッシュ スケジュールに基づいて更新されます。

9 [閉じる] をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア配布ウィザード

ソフトウェア配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにソフトウェアのエンタイトルメント設定と配布を行います。

ソフトウェア配布ウィザードを使用してソフトウェアのエンタイトルメント設定と配布を行うには

- 1 ウィザードを起動するには
 - [ソフトウェア管理]の[全般]タブから、**[配布]**をクリックします。
 - [ソフトウェアの詳細]ウィンドウ、または[グループの詳細]ウィンドウの[ソフトウェア]タブから、**[ソフトウェアの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 **[次へ]**をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 エンタイトルメント設定と配布を行うソフトウェアを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。
- 4 **[次へ]**をクリックします。
- 5 エンタイトルメントが設定され配布の対象となるグループを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。
- 6 **[次へ]**をクリックします。
- 7 ソフトウェア配布ジョブの実行スケジュールを設定します。ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**[実行：今すぐ]**を、ソフトウェア配布の日付と時刻をスケジュール設定するには**[実行：後で]**を選択します。反復スケジュールを設定するには、**[x' 時間ごと]**、**[x' 日ごと]**、または**[x' 週ごと]**を選択して、ドロップダウンリストから**[間隔]**を選択します。
 - ▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (**[x' 日ごと]** など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 8 **[次へ]**をクリックします。
- 9 要約情報を確認し、**[サブミット]**をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 10 現在のソフトウェア配布ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]**タブをクリックします。
- 11 **[閉じる]**をクリックして、ウィザードを終了します。

サービス インポート ウィザード

サービス インポート ウィザードを使用して、HPCAS Server マシンの ServiceDecks ディレクトリからソフトウェア、パッチ、または OS ライブラリにサービスをインポートします。

サービス インポート ウィザードを使用してサービスをインポートするには

- 1 **[サービスのインポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、[ソフトウェア管理]の[ソフトウェア]タブ、[パッチ管理]の[パッチ]タブ、または[OS管理]の[オペレーティング システム]タブからウィザードを起動します。
- 2 インポートするサービスを選択します HPCAS Server の ServiceDecks ディレクトリ内で利用可能なすべてのサービス デッキが一覧に表示されます。
各サービスのファイル名の 4 番目の部分に、そのソフトウェア、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれていますたとえば、PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA は、Orca ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキです。
- 3 要約情報を確認し、[インポート]をクリックしますサービスがインポートされ、HPCAS ライブラリ内で利用可能になります。
- 4 **[閉じる]**をクリックして、ウィザードを終了します。

サービス エクスポート ウィザード

サービス エクスポート ウィザードを使用して、HPCAS ソフトウェア、パッチ、または OS ライブラリから、HPCAS Server マシンの ServiceDecks ディレクトリにサービスをエクスポートします。

サービス エクスポート ウィザードを使用してサービスをエクスポートするには

- 1 エクスポートするサービス(ソフトウェア、パッチ、または OS)を選択します。
- 2 **[サービスのエクスポート]**  ツールバー ボタンをクリックして、[ソフトウェア管理]の[ソフトウェア]タブ、[パッチ管理]の[パッチ]タブ、または[OS管理]の[オペレーティング システム]タブからウィザードを起動します。
- 3 要約情報を確認し、[エクスポート]をクリックしますサービスが、HPCAS Server の ServiceDecks ディレクトリにエクスポートされます。

4 **【閉じる】** をクリックして、ウィザードを終了します。

各サービスのファイル名の 4 番目の部分に、そのソフトウェア、パッチ、または OS のわかりやすい名前が含まれていますたとえば、PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE.ORCA は、Orca ソフトウェア アプリケーション用のサービス デッキです。

ソフトウェア同期ウィザード

ソフトウェア同期ウィザードを使用して、ソフトウェア同期ジョブを作成します。このジョブは、ソフトウェアをインストールしていないグループ メンバーに、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて自動的に配布しますまた、ソフトウェア同期ジョブは、新しいグループ メンバーが全員、エンタイトルメントが設定されたソフトウェアをすべて受信するようにします。

ソフトウェア同期ジョブを作成するには

- 1 **【グループの詳細】** ウィンドウの **【ソフトウェア】** タブで、**【ソフトウェアの同期】** ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 ソフトウェア同期ジョブの実行スケジュールを設定してくださいウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**【実行：今すぐ】** を選択します。または、**【実行：後で】** を選択して、ジョブの日付と時刻を設定します反復スケジュールを設定するには、**【'x' 時間ごと】**、**【'x' 日ごと】**、または **【'x' 週ごと】** を選択して、ドロップダウン リストから **【間隔】** を選択します。
 反復ジョブ スケジュール オプション (**【'x' 日ごと】** など) は、グループ 関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 3 **【起動】** ドロップダウン リストを使用して、グループのデバイスに対して **Wake-on-LAN** を有効にしますこれにより、**HPCA** は、必要なジョブ アクションを実行するためにデバイスの電源をオンにできます。
- 4 要約情報を確認し、**【サブミット】** をクリックします。
- 5 **【閉じる】** をクリックして、ウィザードを終了します。

パッチ配布ウィザード

パッチ配布ウィザードを使用して、お使いの環境にある管理対象デバイスにパッチのエンタイトルメント設定と配布を行います。

パッチ配布ウィザードを使用してパッチのエンタイトルメント設定と配布を行うには

- 1 ウィザードを起動するには、次のいずれかを実行します。
 - [パッチ管理]の[全般]タブで[配布]をクリックします。
 - [パッチの詳細]ウィンドウ、または[グループの詳細]ウィンドウの[パッチライブラリ]領域から、[ソフトウェアの配布]  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 [次へ]をクリックして、ウィザードを開始します。
- 3 配布メソッドを選択します。

適用状況の強制 – どのパッチがターゲット デバイスに適用可能か判断するには、この方法を選択します適用可能なパッチのみがインストールされます新しいパッチがデバイスにエンタイトルメント設定されると、このジョブが次回実行されるときに、そのパッチがインストールされます継続的にパッチ適用状況を強制するには、反復スケジュールを作成する必要があります。

手動選択 – ターゲット デバイスにパッチを配布するには、この方法を選択しますパッチがデバイスに適用できない場合、ジョブはエラーにより終了することがあります反復適用状況スケジュールを作成せずに、1 度だけターゲット デバイスにパッチを配布するには、この方法を使用します。
- 4 エンタイトルメント設定と配布を行うパッチを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。
- 5 [次へ]をクリックします。
- 6 エンタイトルメントが設定され配布の対象となるグループを選択するには、最初のカラムのボックスをチェックします。
- 7 [次へ]をクリックします。
- 8 このジョブの実行スケジュールを設定しますウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、[実行：今すぐ]を選択します。または、[実行：後で]を選択して、ジョブの日付と時刻を設定します反復スケジュールを設定するには、[x' 時間ごと]、[x' 日ごと]、または [x' 週ごと] を選択して、ドロップダウン リストから [間隔] を選択します。

 [適用状況の強制] 配布方法を選択した場合だけ、反復スケジュールが利用できます。

- 9 **[次へ]** をクリックします。
- 10 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 11 現在のパッチ配布ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 12 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

 パッチは、配布された後、デバイスから削除できません。

サービス エンタイトルメント ウィザード

サービス エンタイトルメント ウィザードは、デバイスのグループにソフトウェア、オペレーティング システム、およびパッチ サービスのエンタイトルメントを設定します。

サービス エンタイトルメント ウィザードを使用してグループ エンタイトルメントを追加するには

[パッチ管理] の [パッチ] タブ、または [OS 管理] の [オペレーティング システム] タブからウィザードを起動します。

- 1 グループにエンタイトルメントを設定するパッチを選択して、**[グループ エンタイトルメントの追加]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 2 サービスへのエンタイトルメントを受け取るグループを選択するには、左の列のチェック ボックスをクリックします。
- 3 **[次へ]** をクリックします。
- 4 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 5 現在のソフトウェア削除ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

ソフトウェア削除ウィザード

ソフトウェア削除ウィザードは、選択したデバイスまたはグループからソフトウェアをアンインストールします。

ソフトウェア削除ウィザードを使用してソフトウェアを削除するには

- 1 [ソフトウェアの詳細] ウィンドウまたは[グループの詳細] ウィンドウから、削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[ソフトウェアの削除]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。
- 4 ソフトウェア削除ジョブの実行スケジュールを設定します。ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**[実行: 今すぐ]** を、ソフトウェア削除の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行: 後で]** を選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。
- 7 現在のソフトウェア削除ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

OS 配布ウィザード

OS 配布ウィザードは、オペレーティング システムを管理対象デバイスに配布します。オペレーティング システムの配布には、有人モードと無人モードがあります。配布モードを選択するには、175 ページの「OS 管理」の [設定] タブのセクションを参照してください。

OS 配布ウィザードを使用してオペレーティング システムを配布するには

- 1 [管理] タブの [OS 管理] セクションから、**[オペレーティング システム]** タブをクリックします。
- 2 配布するオペレーティング システムを選択し、**[オペレーティング システムの配布]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 **[次へ]** をクリックして、ウィザードを開始します。

▶ OS 配布用に作成されたグループは、グループ内の全デバイスが同様の、互換性のあるハードウェアを持っているなど、基本的なガイドラインに従う必要があります。

- 4 オペレーティング システムのエンタイトルメント設定および配布用のグループを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 このジョブで使用する OS 配布メソッドを選択します。
 - **ローカル サービスの起動 (LSB) : OS** を配布するために LSB をインストールする場合は、このオプションを選択します。ローカル サービスの起動には、既存のマシンは PXE 対応である必要がなく、各ターゲット デバイスについて、起動の順序を BIOS でローカルに設定する必要がないという利点があります。
 - **ローカル CD または PXE サーバー** : デバイスにオペレーティング システムをインストールするために PXE サーバーまたはサービス CD を使用する場合は、このオプションを選択します。
- 7 **ユーザー データと設定の移行**を行うかどうかを選択する画面が表示されます。OS 配布の前にユーザー データと設定をバックアップし、後でそれらを復元するには、**[はい]** を選択します。オペレーティング システムの配布中に、**Personality Backup and Restore Utility** がサイレントに実行され、ユーザー データがバックアップされます。新しいオペレーティング システムがインストールされた後、エンドユーザーは、**Personality Backup and Restore Utility** を実行してユーザー データを復元する必要があります。エンドユーザーは、**Personality Backup and Restore Utility** で **[オペレーティング システムの移行からの復元]** を選択して、バックアップ中に保存された設定を復元する必要があります。
 - ▶ **Personality Backup** は、Windows 2000、XP、または Vista を実行する移行元コンピュータでのみサポートされています。**Personality Restore** は、Windows XP または Vista を実行する移行先コンピュータでのみサポートされています。さらに、現在のオペレーティング システムと配布されるオペレーティング システム イメージには、USMT 3.0.1 のインストールが含まれている必要があります (第 12 章、「**Personality Backup and Restore**」を参照)。
- 8 このジョブの実行スケジュールを設定します。ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**[実行 : 今すぐ]** を、OS 配布の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行 : 後で]** を選択します。反復スケジュールを設定するには、**[x' 時間ごと]**、**[x' 日ごと]**、または **[x' 週ごと]** を選択して、ドロップダウン リストから **[間隔]** を選択します。
 - ▶ 反復ジョブ スケジュール オプション (**[x' 日ごと]** など) は、グループ関連のジョブを作成するときだけ利用できます。
- 9 追加のジョブ タスクは **[その他のパラメータ]** セクションで設定します。
- 10 **[次へ]** をクリックします。
- 11 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。ジョブが正常に作成され、現在のジョブに追加されました。

- 12 現在の OS 配布ジョブを表示するには、**[現在のジョブ]** タブをクリックします。
- 13 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

インフラストラクチャ配布ウィザード

インフラストラクチャ配布ウィザードを使用して、データ キャッシングなどのリモート サービスが可能になるインフラストラクチャ サービスをインフラストラクチャ サーバーにインストールします。

インフラストラクチャ サービスを配布するには

- 1 [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] セクションにある [サーバー] タブから **[インフラストラクチャ サービスの配布]**  ツールバー ボタンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 配布の認証情報を入力して、**[次へ]** をクリックします。
- 3 インフラストラクチャ サービスをインストールするドライブを選択して、**[次へ]** をクリックします。
- 4 このジョブの実行スケジュールを設定します。ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**[実行：今すぐ]** を、ソフトウェア配布の日付と時刻をスケジュール設定するには **[実行：後で]** を選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 7 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

インフラストラクチャ削除ウィザード

インフラストラクチャ削除ウィザードを使用して、インフラストラクチャ サーバー グループのデバイスからインフラストラクチャ サービスを削除します。

インフラストラクチャ サービスを削除するには

- 1 [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] セクションの [サーバー] タブ ツールバーからウィザードを起動します。

- 2 インフラストラクチャ サービスを削除するデバイスを選択して、**[インフラストラクチャ サービスの削除]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 ウィザードの完了後すぐにエージェントを削除するには、**[実行: 今すぐ]** を選択します。または、**[実行: 後で]** を選択して、削除の日付と時刻を入力します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 要約情報を確認し、**[サブミット]** をクリックします。
- 6 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザード

インフラストラクチャ ロケーション作成ウィザードを使用して、インフラストラクチャ サーバーを割り当てることができる新しいインフラストラクチャ ロケーション（サブネット）を追加します。

新しいロケーションを追加するには

- 1 [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] セクションの [ロケーション] タブ ツールバーからウィザードを起動します。
- 2 **[新しいロケーションの作成]**  ツールバー ボタンをクリックします。
- 3 ロケーションの説明およびこのインフラストラクチャ ロケーションの一部として含めるサブネットを入力しますサブネット アドレス計算機を使用して、どのサブネット アドレスを使用するか決定します。
- 4 **[作成]** をクリックします。
- 5 **[閉じる]** をクリックして、ウィザードを終了します。

9 OS イメージの準備と取得

この章では、ご使用の環境で、オペレーティング システム イメージを準備または取得し、デバイスに配布する方法について説明します。取得したイメージは、**HPCA Server** の `\upload` ディレクトリにアップロードされます。次に **Publisher** を使用して、イメージを **HPCA DB** に保存する必要があります。オペレーティング システムは、後で **Console** を使用して適切なターゲット デバイスに配布できます。

- ▶ 既存の **.WIM** イメージを使用しているか、または **Microsoft WAIK** で新規のイメージを作成する場合は、イメージを取得する必要はありませんから、次の章に進みます。
- ▶ **HPCA Starter** では、シンクライアント オペレーティング システムの配布のみが可能です。

シンクライアント オペレーティング システムについては、次を参照してください。

- [シンクライアント イメージの準備と取得 201 ページ](#)

シンクライアント イメージの準備と取得

次の各セクションでは、サポートされているシンクライアント オペレーティング システムのイメージを準備し取得する方法を説明します。

- [Windows XPe OS イメージ 202 ページ](#)
- [Windows CE OS イメージ 205 ページ](#)
- [Embedded Linux OS イメージ 208 ページ](#)

Windows XPe OS イメージ

次のセクションでは、Windows XPe シンクライアント オペレーティング システムのイメージを準備して取得する方法を説明します。

- [タスク 1 – XPe 参照マシンの準備 202 ページ](#)
- [タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行 202 ページ](#)



シンクライアント デバイス上のイメージを取得し、その後、取得したイメージを容量の大きなフラッシュ ドライブを持つ XPe シンクライアント デバイスに配布できます。これは、リリース ノートのドキュメントに記述されているような一定の制限に従う必要があります。

タスク 1 – XPe 参照マシンの準備

イメージ取得のため XPe シンクライアントを準備するには、以下のものがが必要です。

- HPCA メディア
- XPe Embedded Toolkit CD-ROM
- イメージ準備 CD-ROM

Windows XPe イメージを取得する前に、以下の操作を行う必要があります。

- 1 Windows XPe に管理者としてログインします。
- 2 XPe Embedded Toolkit から、etprep.exe を C:\Windows にコピーします。
- 3 XPe Embedded Toolkit から、fbreseal.exe を C:\Windows\fbfa にコピーします。
- 4 HPCA Agent をインストールします。詳細については、65 ページの「[HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール](#)」を参照してください。

タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかどうかをチェックし、HPCA Agent がインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。

- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が実行され、イメージとその関連ファイルが収集されます。
- 4 次のファイルを作成し、HPCA Server の C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\OSManagerServer\upload にコピーします。

— ImageName.IBR

このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。Windows XPe のイメージは、同等以上のサイズのフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされる時にアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。

— ImageName.EDM

▶ これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるため、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (machineID.log) も upload ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します (シンクライアント デバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの HPCA メディアの Media\iso\roms ディレクトリにある ImageCapture.iso を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、HPCA OS の準備と取得 CD のホームページが開きます。
- 3 **[ブラウズ]** をクリックして \image_preparation_wizard\win32\ ディレクトリを開きます。
- 4 **prep wiz.exe** をダブルクリックします。Image Preparation Wizard では、続行する前に、etprep.exe および fbreseal.exe が利用できるかどうかを確認されます。[よろこ] ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[エンド ユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[同意する]** をクリックします。

- 7 HPCA Server の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、xxx.xxx.xxx.xxx:port という形式で指定する必要があります。OS のイメージ作成用に予約されている HPCA Server のポートは 3469 です。

Image Preparation Wizard が HPCA Server に接続できない場合は、メッセージが表示され、以下の手順を実行する必要があります。

- [はい] をクリックして続行します。
 - [いいえ] をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
 - [キャンセル] をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 8 [次へ] をクリックします。[イメージ名] ウィンドウが開きます。
 - 9 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、HPCA Server の \upload ディレクトリに保存されるイメージ名です。
 - 10 [次へ] をクリックします。イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。
 - 11 イメージ ファイルの説明を入力します。
 - 12 [次へ] をクリックします。[オプション] ウィンドウが開きます。
 - 13 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する

OS のインストール後に HPCA Server に接続し、OS が正しくインストールされたことを確認するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

- 14 デフォルトを受け入れて、[次へ] をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 15 [開始] をクリックします。
- 16 [完了] をクリックします。ウィザードがイメージを準備します。
- 17 [OK] をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整を行います(たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。



デバイスが CD を起動せずに Windows を起動する場合は、202 ページの「[タスク 1 - XPe 参照マシンの準備](#)」からプロセスを再開する必要があります。

- ▶ イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化（特に、空きディスク領域が多くある場合）によるものです。これは、イメージの転送中に行われるため、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 **30 ～ 400 Kbps** ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。
- ▶ 必要に応じて取得できるように、\upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

18 OS Image Preparation Wizard によってネットワークに接続し、**HPCA Server** の \upload ディレクトリにイメージが保存されます。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に **OVCN OS Manager Server** へ送信されました

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します」

19 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

これで、**Publisher** を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージファイルを **HPCA Server** にパブリッシュできるようになりました。

Windows CE OS イメージ

次のセクションでは、**Windows CE** シンクライアントオペレーティングシステムのイメージを準備し、取得する方法を説明します。

- [タスク 1 – CE 参照マシンの準備 205 ページ](#)
- [タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行 206 ページ](#)

タスク 1 – CE 参照マシンの準備

イメージ取得のため **CE** シンクライアントを準備するには、以下のものがが必要です。

- **HPCA** メディア
- イメージ準備 **CD-ROM**

イメージを取得する前に、HPCA Agent を Windows CE デバイスにインストールする必要があります。詳細については、65 ページの「[HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール](#)」を参照してください。

タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかどうかをチェックし、HPCA Agent がインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報（ハードウェアおよび BIOS の機能など）を含むオブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が実行され、イメージとその関連ファイルが収集されます。
- 4 次のファイルを作成し、HPCA Server の C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\OSManagerServer\upload にコピーします。

— ImageName.IBR

このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。Windows CE のイメージは、同等のサイズのフラッシュ ドライブを備えたターゲットマシンに配布できます。このファイルには、イメージがインストールされる時にアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。

— ImageName.EDM



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるため、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (machineID.log) も upload ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した Image Preparation Wizard CD-ROM を参照マシンの CD-ROM ドライブに挿入します(シンクライアントデバイスには、USB CD-ROM ドライブが必要です)。この CD は、お使いの HPCA メディアの Media\iso\roms ディレクトリにある ImageCapture.iso を使用して作成されます。
- 2 自動実行が有効な場合、HPCA OS の準備と取得 CD のホームページが開きます。
- 3 **[ブラウズ]** をクリックして \image_preparation_wizard\WinCE\ ディレクトリを開きます。
- 4 **prepwiz.exe** をダブルクリックします。Image Preparation Wizard が開始されます。
- 5 HPCA Server の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、xxx.xxx.xxx.xxx:port という形式で指定する必要があります。OS のイメージ作成用に予約されている HPCA Server のポートは 3469 です。
Image Preparation Wizard が HPCA Server に接続できない場合は、メッセージが表示され、以下の手順を実行する必要があります。
 - **[はい]** をクリックして続行します。
 - **[いいえ]** をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
 - **[キャンセル]** をクリックして、Image Preparation Wizard を終了します。
- 6 **[OK]** をクリックします。ウィザードがイメージを準備します。

デバイスは、CD-ROM ドライブの Image Preparation Wizard CD から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整を行います(たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に F10 キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。



デバイスが CD を起動せずに Windows を起動する場合は、205 ページの「**タスク 1 – CE 参照マシンの準備**」からプロセスを再開する必要があります。



イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化(特に、空きディスク領域が多くある場合)によるものです。これは、イメージの転送中に行われるため、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 30 ~ 400 Kbps ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。

▶ 必要に応じて取得できるように、\upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

- 7 OS Image Preparation Wizard によってネットワークに接続し、HPCA Server の \upload ディレクトリにイメージが保存されます。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCN OS Manager Server へ送信されました

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します」

- 8 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

これで、Publisher を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージファイルを HPCA Server にパブリッシュできるようになりました。ページの「」を参照してください。

Embedded Linux OS イメージ

次のセクションでは、Embedded Linux オペレーティングシステムのイメージを準備し取得する方法を説明します。

- [タスク 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備 208 ページ](#)
- [タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行 209 ページ](#)

タスク 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備

イメージ取得のため Embedded Linux シンクライアントを準備するには、以下のものがが必要です。

- HPCA メディア
- イメージ準備 CD-ROM

イメージを取得する前に、HPCA Agent を Embedded Linux デバイスにインストールする必要があります。詳細については、65 ページの「[HP シンクライアントでの HPCA Agent のインストール](#)」を参照してください。



シンクライアントデバイスの情報、および NFS を使用してインストールを実行する方法の詳細については、このガイドのインストールの章または ThinClient.tar の README ファイルを参照してください。

タスク 2 – Image Preparation Wizard の実行

Image Preparation Wizard は以下のタスクを実行します。

- 1 マシンに十分な空きディスク領域があるかどうかをチェックし、HPCA Agent がインストールされていることを確認します。十分な空きディスク領域がない場合、Image Preparation Wizard はメッセージを表示して終了します。
- 2 参照マシンに関する情報 (ハードウェアおよび BIOS の機能など) を含むオブジェクトを作成します。
- 3 参照マシンを、作成したイメージ準備 CD から起動したサービス オペレーティング システムから再起動します。Image Preparation Wizard の Linux ベースの部分が実行され、イメージとその関連ファイルが収集されます。
- 4 次のファイルを作成し、HPCA Server の C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\OSManagerServer\upload にコピーします。

— ImageName.DD

このファイルにイメージが含まれます。シンクライアントイメージファイルは、参照マシンのフラッシュ ドライブと同じサイズです。Embedded Linux のイメージは、サイズが同じフラッシュ ドライブを備えたターゲット マシンにしか配布できません。このファイルには、イメージがインストールされるときにアクセス可能な組み込みファイル システムが含まれています。

— ImageName.EDM

このファイルにはインベントリ情報を含むオブジェクトが含まれています。



これらのファイルが転送される間は、オペレーティング システム イメージが転送の間に圧縮されるため、ネットワーク速度は最大速度より遅くなります。

イメージが配布された後、包括的なログ (machineID.log) も upload ディレクトリで利用できます。

Image Preparation Wizard を使用するには

- 1 作成した **Image Preparation Wizard CD-ROM** を参照マシンの **CD-ROM** ドライブに挿入します (シンククライアント デバイスには、**USB CD-ROM** ドライブが必要です)。この **CD** は、お使いの **HPCA** メディアの `Media\iso\roms` ディレクトリにある **ImageCapture.iso** を使用して作成されます。



Linux シンククライアント モデルでは、**CD-ROM** が実行されないように、マウント時にデフォルトで **noexec** オプションが設定される場合があります。これにより、**Image Preparation Wizard** を実行しようとすると、パーミッション エラーが起こったり、実行に失敗したりします。この問題を解決するには、**noexec** オプションを設定せずに **CD-ROM** を再マウントしてください。

- 2 **Image Preparation CD** で、`/image_preparation_wizard/linux` に移動し、`./prepwiz` を実行します。[ようこそ] ウィンドウが表示されます。
- 3 [**次へ**] をクリックします。[エンド ユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 4 [**同意する**] をクリックします。
- 5 **HPCA Server** の IP アドレスまたはホスト名およびポートを入力します。これは、`xxx.xxx.xxx.xxx:port` という形式で指定する必要があります。OS のイメージ作成用に予約されている **HPCA Server** のポートは **3469** です。
Image Preparation Wizard が **HPCA Server** に接続できない場合は、メッセージが表示され、以下の手順を実行する必要があります。
 - [**はい**] をクリックして続行します。
 - [**いいえ**] をクリックして、ホスト名または IP アドレスを変更します。
 - [**キャンセル**] をクリックして、**Image Preparation Wizard** を終了します。
- 6 [**次へ**] をクリックします。[イメージ名] ウィンドウが開きます。
- 7 イメージ ファイルの名前を入力します。これは、**HPCA Server** の `\upload` ディレクトリに保存されるイメージ名です。
- 8 [**次へ**] をクリックします。イメージの説明を入力するウィンドウが開きます。
- 9 イメージ ファイルの説明を入力します。
- 10 [**次へ**] をクリックします。[オプション] ウィンドウが開きます。
- 11 適切なオプションを選択します。

OS のインストール後にクライアント接続を実行する

OS のインストール後に HPCA Server に接続し、OS が正しくインストールされたことを確認するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、OS がインストールされた後、OS 接続は自動的に実行されません。

- 12 デフォルトを受け入れて、**[次へ]** をクリックします。[要約] ウィンドウが表示されます。
- 13 **[開始]** をクリックします。
- 14 **[完了]** をクリックします。ウィザードがイメージを準備します。
- 15 **[OK]** をクリックします。

デバイスは、CD-ROM ドライブの **Image Preparation Wizard CD** から起動されます。このような動作になるように必要な設定の調整を行います (たとえば、BIOS のバージョンによっては、再起動プロセスの間に **F10** キーを押して、設定内の起動順序を変更できます)。



デバイスが CD を起動せずに Windows を起動する場合は、208 ページの「**タスク 1 – Embedded Linux 参照マシンの準備**」からプロセスを再開する必要があります。



イメージのアップロードは、長時間かかるように感じられる場合があります。それは、アップロードではなく、イメージの圧縮と圧縮のための未使用ディスク領域の最適化 (特に、空きディスク領域が多くある場合) によるものです。これは、イメージの転送中に行われるため、ネットワークのパイプはボトルネックになりません。転送速度は、約 **30 ~ 400 Kbps** ですが、プロセッサの速度やネットワーク環境により異なる場合があります。



必要に応じて取得できるように、\upload ディレクトリに格納するファイルのコピーを作成できます。

- 16 OS Image Preparation Wizard によりネットワークに接続され、HPCA Server のイメージが /UPLOAD ディレクトリに保存されます。

アップロードプロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。

「OS イメージが正常に OVCM OS Manager Server へ送信されました

**** CD を挿入している場合、CD を取り出して再起動します」

- 17 参照マシンを再起動して、必要な場合は起動設定を再調整し、元のオペレーティングシステムに戻ります。

これで、Publisher を使用して、管理対象デバイスへの配布のためにイメージファイルを HPCA Server にパブリッシュできるようになりました。

OS イメージのパブリッシュおよび配布

イメージを取得したら、**Publisher** を使用して **HPCA** データベースにそのイメージをパブリッシュします。方法については、**HPCA** ドキュメントのパブリッシュに関する情報を参照してください。

HPCA にパブリッシュするとき、**OS** ライブラリをリフレッシュして、新しいイメージを表示します。**HPCA Console** ツールバーを使用して、選択したデバイスにイメージを配布します。

10 Publisher の使用

Publisher を使用して、HP Client Automation (HPCA) に、ソフトウェア、BIOS 設定、HP SoftPaq、およびオペレーティング システム イメージをパブリッシュします。パブリッシュされたソフトウェアはすべて、メイン HPCA Console の [ソフトウェア管理] にある [ソフトウェア] タブで利用できます。パブリッシュされたオペレーティング システムは、[OS 管理] の [オペレーティング システム] タブ内で利用できます。

ソフトウェアは、パブリッシュした後、環境の管理対象デバイスへエンタイトルメント設定と配布を行う必要があります。

- ▶ Publisher は、HPCA Core のインストール中に HPCA Core に自動的にインストールされます。マシンにエージェントがすでにインストールされている場合、Publisher はエージェントのフォルダにインストールされます。別の場所にインストールする場合は、製品メディアの HP Client Automation Administrator インストール ファイルを使用するか、ソフトウェア ライブラリの HPCA Administrator Publisher サービスを使用できます。詳細については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門 およびコンセプトガイド』の「Manually Installing the HPCA Administrator」を参照してください。

Publisher を起動するには

- 1 Publisher をインストールしたデバイスで、[スタート] メニューを使用して、以下のように移動します。
[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Client Automation Administrator] > [HP Client Automation Administrator Publisher]
- 2 Publisher にログインするには、HPCA のユーザー名とパスワードを使用します。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。

- ▶ パブリッシュ オプションは、ターゲット デバイスおよびインストールしている HPCA ライセンスによって異なります。

214 ページの表 20 に、3 種類のライセンス レベルごとに選択可能なパブリッシュ オプションを示します。

表 20 各 HPCA ライセンスで選択可能なパブリッシュ オプション

パブリッシュ オプション	Starter	Standard	Enterprise
コンポーネントの選択	いいえ	はい	はい
ハードウェア設定	いいえ	いいえ	はい
HP BIOS 設定	はい	はい	いいえ
HP Softpaq	はい	はい	いいえ
OS ADDON/ 追加 POS ドライバ	いいえ	はい	はい
OS イメージ	いいえ	はい	はい
Windows インストーラ	いいえ	はい	はい
シンクライアントのコンポーネントの選択	はい	はい	はい
シンクライアントの OS ADDON/ 追加 POS ドライバ	いいえ	いいえ	いいえ
シンクライアントの OS イメージ	はい	はい	はい

- 次の各セクションでは、ライセンスに応じたパブリッシュ オプションで **Publisher** を使用する方法を説明します [HP Softpaq のパブリッシュ 214](#) ページ
- [BIOS 設定のパブリッシュ 216](#) ページ
- [シンクライアントのパブリッシュ 218](#) ページ

HP Softpaq のパブリッシュ

HP Softpaq は、サポート ソフトウェアの集合です。これには、デバイス ドライバ、設定プログラム、フラッシュ可能な ROM イメージなど、デバイスを最新の状態に保ち、最善のパフォーマンスを発揮させるのに利用可能なユーティリティが含まれます。

SoftPaq は、実行可能 (.EXE) ファイルとして使用できます。

Publisher を使用して、管理対象デバイスに配布するため **HP SoftPaq** を **HPCA** へパブリッシュします。

Softpaq をパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (213 ページの「**Publisher** を起動するには」を参照)。
- 2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。
 - ▶ **HPCA** のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインします。デフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。
- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、**[HP SoftPaq]** を選択して、**[OK]** をクリックします [選択] ウィンドウが開きます。
- 4 パブリッシュする **Softpaq** ファイルを選択します。
 - [要約] セクションには、**Softpaq** が **SSM** 準拠であるかないかなど、選択した **Softpaq** の情報が表示されます。選択した **Softpaq** が **SSM** 準拠でなく、**Softpaq** の一部としてサイレント インストールが含まれていない場合、**Softpaq** の内容を展開して、付属のドキュメントを読む必要があります。必要なファイルをパブリッシュして、指示に従ってインストール方法をセットアップします。
 - [システム情報] ダイアログ ボックスには、選択した **Softpaq** がサポートするすべてのハードウェアが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします [アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 6 **Softpaq** 情報を表示し、必要な場合は変更します。アプリケーション情報は、**Softpaq** ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。
- 7 **[次へ]** をクリックします [要約] ウィンドウが表示されます。
- 8 要約情報を確認し、それで良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 9 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

SoftPaq が **HPCA** にパブリッシュされ、管理対象デバイスへの配布に利用できるようになります。パブリッシュされた **SoftPaq** を、**HPCA Console** の [ソフトウェア管理] にある [ソフトウェア ライブラリ] で確認します。配布された **Softpaq** は、**Application Self-Service Manager** または管理対象デバイスの **HP Softpaq** カテゴリ グループ内にあります。

BIOS 設定のパブリッシュ

Publisher を使用して、クライアント デバイスへ配布するために、BIOS 設定ファイルをサービスとしてパブリッシュします設定ファイルを使用して、BIOS 設定（起動順序など）の更新や変更、またはクライアント デバイスの BIOS パスワードの変更ができます。

BIOS 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) は、**Publisher** のインストールに組み込まれており、デフォルトでは C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\BIOS に配置されますこのファイルを使用して、ターゲット デバイスの BIOS 設定を変更します。

BIOS 設定ファイルのサンプルに必要なオプションが含まれていない、または特定のデバイス用の設定ファイルを作成する場合は、217 ページの「[BIOS 設定ファイルの作成](#)」を参照してください。

BIOS 設定をパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (213 ページの「[Publisher を起動するには](#)」を参照)。
- 2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。
 - ▶ **HPCA** のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインしますデフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。
- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で、**[HP BIOS 設定]** を選択して、**[OK]** をクリックします [選択] ウィンドウが開きます。
- 4 パブリッシュする BIOS 設定ファイルを選択します BIOS 設定ファイルのサンプル (Common HP BIOS Settings.xml) は、デフォルトでは C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\BIOS に配置されます。
- 5 必要な場合は、**[現在の BIOS 管理パスワード]** 領域に BIOS パスワードを入力して確認しますターゲット デバイスに BIOS パスワードがある場合、設定を変更するにはこれが必要です。
- 6 現在の BIOS パスワードを変更する場合、**[BIOS パスワードの変更]** を選択し、新しいパスワードを入力して確認しますこれが必要なのは、クライアント デバイスの BIOS パスワードを変更する場合だけです。
- 7 **[次へ]** をクリックします [BIOS オプション] ウィンドウが表示されます。
- 8 パブリッシュする BIOS 設定を選択するには、BIOS 設定名の左にあるチェック ボックスをクリックします。

- 9 BIOS 設定の値を変更する必要がある場合、設定名をクリックして、必要に応じて使用可能なオプションを調整します。
- 10 **[次へ]** をクリックします [アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 11 アプリケーション情報を表示し、必要な場合は変更しますアプリケーション情報は、設定ファイルから利用できる情報に基づいて、あらかじめ決まっています。
- 12 **[次へ]** をクリックします [要約] ウィンドウが表示されます。
- 13 要約情報を確認し、それで良ければ、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 14 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

BIOS 設定サービスは、HPCA Console のソフトウェア ライブラリで利用できます。

BIOS 設定ファイルの作成

HPCA に付属のファイル以外の BIOS 設定ファイルを使用する場合は、**HP System Software Manager(SSM)** の BIOS 設定ユーティリティを使用して独自の設定ファイルを生成できます。

SSM は、**HPCA Agent (C:\Program Files\Hewlett-Packard\SSM)** と一緒にインストールされます。または、**HP** のサポート サイトからダウンロードできます。

BIOS 設定ファイルを作成するには

- 1 コマンドプロンプトを開き、**SSM BIOS 設定ユーティリティ**があるディレクトリ (デフォルトでは **C:\Program Files\Hewlett-Packard\SSM**) に移動します。
- 2 次のように入力します。

```
BiosConfigUtility.exe /  
GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.xml" /Format:XML
```

このコマンドにより、**MyBIOSconfig.xml** という名前の **XML** ファイルが生成され、**C:\tmp** に保存されます。

XML ではなくテキスト ファイルを作成する場合は、次のように入力します。

```
BiosConfigUtility.exe /  
GetConfig:"C:\tmp\MyBIOSconfig.txt" /Format:REPSET
```

このコマンドにより、MyBIOSconfig.txt という名前のテキスト ファイルが生成され、C:\tmp に保存されます。

- 3 BIOS 設定をパブリッシュする準備ができたなら、216 ページの「BIOS 設定をパブリッシュするには」の手順 6 でこのファイルを選択します。

シンクライアントのパブリッシュ

シンクライアントのパブリッシュでは、次のオプションを選択できます。

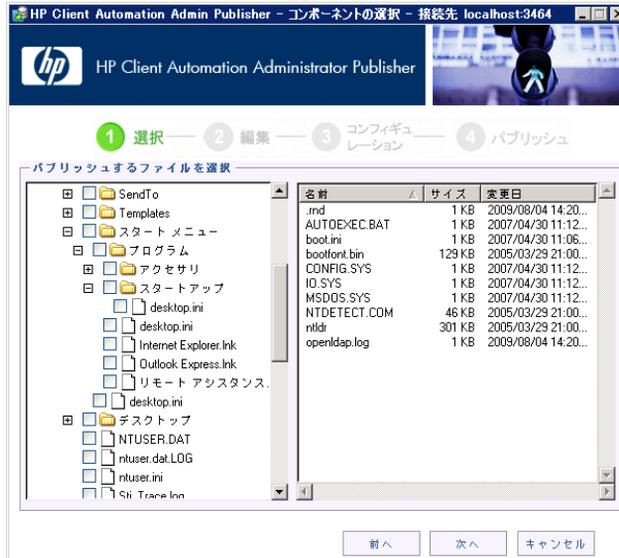
- シンクライアントのコンポーネントの選択でのパブリッシュ 218 ページ
- シンクライアントの OS イメージでのパブリッシュ 220 ページ

シンクライアントのコンポーネントの選択でのパブリッシュ

Windows インストーラ ファイル以外のソフトウェアをパブリッシュするには、[コンポーネントの選択] オプションを使用して、パブリッシュするソフトウェアを選択します。

[コンポーネントの選択] を使用してパブリッシュするには

- 1 Publisher を起動します (213 ページの「Publisher を起動するには」を参照)。
- 2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。
 - ▶ HPCA のユーザー名とパスワードを使用して、Publisher にログインしますデフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。
- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で以下の操作を実行します。
 - [シンクライアントのパブリッシュ] を選択します。
 - ドロップダウン リストから [コンポーネントの選択] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします [パブリッシュするファイルを選択] ウィンドウが開きます。



- 5 パブリッシュするファイルを選択して、**[次へ]**をクリックします。

▶ ソフトウェアがある（パブリッシュ元の）ディレクトリパスは、ソフトウェアが配布されるターゲットデバイスのディレクトリパスになります。

▶ ネットワーク共有が表示されますが、配布中に利用できなくなる場合があるためソフトウェアのパブリッシュには使用しません。

[ターゲットパス]ウィンドウが開きます。

- 6 次の図で示すようにして、インストールポイントを選択します。



- 7 コマンドを入力して、アプリケーションのインストールおよびアンインストールを実行しますたとえば、インストールを実行するコマンドは、`C:\temp\installs\install.exe /quietmode /automatic c:\mydestination` のようになります。

アンインストールを実行するコマンドは、C:\temp\installs\uninstall.exe /quietmode /automati のようになります。

▶ ファイルを右クリックして、インストールまたはアンインストール コマンドとして設定できます。

- 8 **[次へ]** をクリックします [アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
- 9 [アプリケーションの情報] セクションでソフトウェア サービスの情報を入力します。
- 10 **[パッケージを適用する対象システム]** セクションを使用して、特定のオペレーティング システムまたはハードウェアへのサービスを制限しますいずれかのリンクをクリックして、設定可能なオプションを表示します。
- 11 **[次へ]** をクリックします。
- 12 [要約] セクションで、前の手順で指定したサービス情報を確認します設定を完了したら、**[パブリッシュ]** をクリックします。
- 13 パブリッシュ プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックして **Publisher** を終了します。

これで、ソフトウェア サービスを企業へ配布する準備が整いました。

シンクライアントの OS イメージでのパブリッシュ

Image Preparation Wizard を使用して作成されるオペレーティング システム イメージは、HPCA Server の C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\OSManagerServer\upload に保存されます **Publisher** を使用して、管理対象デバイスへ配布するオペレーティング システム イメージ ファイル (.IMG) をパブリッシュします。

次のセクションでは、**Administrator Publisher** を使用してシンクライアントのオペレーティング システム イメージをパブリッシュする方法を説明します。

オペレーティング システム イメージをパブリッシュするには

- 1 **Publisher** を起動します (213 ページの「**Publisher** を起動するには」を参照)。
- 2 ログオン画面で、管理者ユーザー ID およびパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

▶ HPCA のユーザー名とパスワードを使用して、**Publisher** にログインしますデフォルトでは、ユーザー名は **admin**、パスワードは **secret** です。
- 3 [パブリッシュ オプション] 領域で以下の操作を実行します。

- [シンクライアントのパブリッシュ] を選択します。
 - ドロップダウン リストから、[OS イメージ] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします[OS イメージファイルの選択] ウィンドウが開きます。
 - 5 [選択] ウィンドウを使用して、パブリッシュするファイルを探し、選択します (Image Preparation Wizard を使用して作成されるイメージは、HPCA Server の C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\OSManagerServer\upload に保存されます)。
 - 6 続行する前に、[説明] 領域を使用して、ファイルを確認します説明に情報を追加することもできます。
 - 7 [次へ] をクリックします。

.WIM ファイルをパブリッシュすることを選択した場合は、[WIM 配布設定] ウィンドウが開きます .IMG ファイルをパブリッシュする場合は、次の手順に進みます。

 - a [配布方法] ドロップダウン リスト ボックスで、[ImageX] を選択します。
 - b [送信元] ディレクトリは空白のままにしますこれは必須ではありません。
 - c [クライアントメディアのロケーション] で、HPCA Agent メディアの正しいパスに沿って参照します(これは、HPCA メディアの Media\client\default フォルダです)

このファイルをすでにパブリッシュしている場合は、[以前にパブリッシュされた既存のパッケージを使用] を選択し、適切なパッケージを選択できます。
 - 8 [次へ] をクリックします [アプリケーションの情報] ウィンドウが表示されます。
 - 9 [アプリケーションの情報] セクションを使用して、サービスの情報を入力します。
 - 10 [次へ] をクリックします [要約] ウィンドウが表示されます。
 - 11 [要約] 情報を確認して、前の手順で指定したパッケージおよびサービスの情報を検証します情報を確認したら、[パブリッシュ] をクリックします。
 - 12 パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして Publisher を終了します。

これで、企業内の管理対象デバイスへサービスを配布する準備が整いました。

パブリッシュされたオペレーティング システム イメージ サービスは、[OS 管理] セクションのオペレーティング システム OS ライブラリのリストで確認できます。

パブリッシュされたサービスの表示

[管理] タブの [ソフトウェア管理] 領域で、パブリッシュされたソフトウェアを確認します

パブリッシュされたオペレーティング システムは、[オペレーティング システム] 領域に保存されます。

HP Client Automation Administrator Agent Explorer

HP Client Automation Administrator の一部として、**Publisher** と一緒にインストールされる、**Agent Explorer** は、トラブルシューティングや問題解決に役立ちますが、HP サポートからの直接の指示がない場合は使用しないでください。

11 Application Self-Service Manager の使用

HP Client Automation Application Self-Service Manager (Self-Service Manager) は、クライアントに常駐し、ユーザーが許可されたオプションのアプリケーションをインストール、削除、および更新できるようにする製品です。アプリケーションのエンタイトルメントは、HPCA 管理者がユーザーに設定する必要があります。Self-Service Manager では、ユーザーにエンタイトルメントのあるアプリケーションのカタログが表示され、ユーザーは、それらのアプリケーションのインストール、削除、および更新を自分で管理できます。Self-Service Manager は、管理エージェントがクライアント デバイスに配布されたときにそのデバイスにインストールされます。

次の各セクションで、Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用方を説明します。

- [Application Self-Service Manager へのアクセス](#) 224 ページ
- [Application Self-Service Manager の概要](#) 224 ページ
- [Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用](#) 228 ページ
- [ユーザー インターフェイスのカスタマイズ](#) 235 ページ
- [HPCA System Tray アイコン](#) 241 ページ

Application Self-Service Manager へのアクセス

Self-Service Manager ユーザー インターフェイスには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

ユーザー インターフェイスにアクセスするには

- [スタート]>[プログラム]>[HP Client Automation Agent]>[Client Automation Application Self-Service Manager] へと移動します。

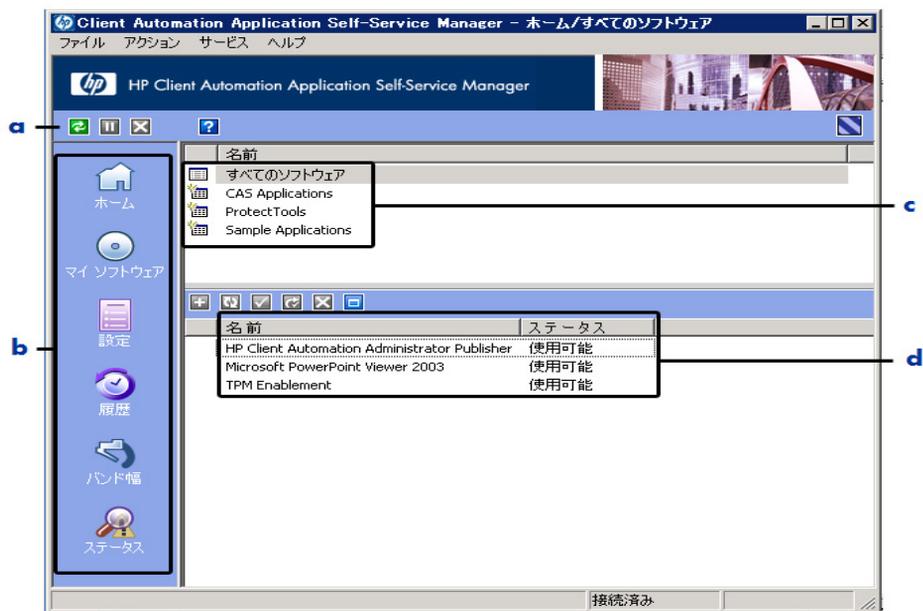
または

- [Client Automation Application Self-Service Manager] デスクトップ ショートカットをダブルクリックします。

Application Self-Service Manager の概要

Self-Service Manager インターフェイス (225 ページの [図 14](#) を参照) には、4 つの主要なセクションがあります。各セクションでは、利用可能なアプリケーションの管理、カタログにあるソフトウェアの情報やステータスの表示、ユーザー インターフェイス表示のカスタマイズができます。

図 14 Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイス



凡例

- a グローバル ツールバー — カタログのリフレッシュや、現在のアクションの一時停止または取り消しができます。
- b メニュー バー — Application Self-Service Manager を使用するときにご利用可能なメニューの選択肢を表示します。
- c カタログ リスト — 使用できるさまざまなソフトウェア カタログの一覧が表示されます。
- d サービス リスト — エンタイトルメントが設定されているアプリケーションの一覧が表示されます。

次に示すセクションでは、ユーザー インターフェイスの各セクションを詳細に説明します。

- 「グローバル ツールバー」(この後のセクション)
- メニュー バー 226 ページ
- カタログ リスト 227 ページ
- サービス リスト 227 ページ

グローバル ツールバー

グローバル ツールバーでは、カタログのリフレッシュ、現在のアクションの一時停止、または現在のアクションの取り消しができます。アクションを一時停止すると、[一時停止] ボタンを再度クリックしてアクションを再開するか、[キャンセル] ボタンをクリックして一時停止したアクションをキャンセルするまで、他のアクションを実行できません。

[グローバル ツールバー] のボタンのうち、現在のアクションで使用できないボタンは、グレー表示になります。

カタログをリフレッシュするには

- 選択したカタログをリフレッシュするには、グローバル ツールバーの [リフレッシュ]  をクリックします。

現在のアクションを一時停止または再開するには

- 現在のアクションを停止するには、グローバル ツールバーの [一時停止]  をクリックします。
- 停止したアクションを再開するには、[リジューム]  をクリックします。(アクションを停止すると、[停止] ボタンがこのボタンに変わります)。

現在のアクションをキャンセルするには

- 現在のアクションをキャンセルするには、グローバル ツールバーの [キャンセル]  をクリックします。

メニュー バー

メニュー バーを使用して、Application Self-Service Manager の設定およびカスタマイズを行います。次のセクションでは、メニュー バーの各アイコンについて説明します。

ホーム：このボタンをクリックすると、ホーム カタログにアクセスできます。

マイ ソフトウェア：このボタンをクリックすると、インストールしたアプリケーションだけが表示されます。

設定：このボタンをクリックすると、Self-Service Manager のさまざまな表示オプション、アプリケーション リスト オプション、および接続オプションにアクセスできます。

このセクションの右上隅にある [OK]、[適用]、または [キャンセル] をクリックして、いつでも変更内容を保持または無視できます。

カタログ リスト

[カタログ リスト] セクションには、使用可能なソフトウェア カタログおよび仮想カタログの一覧が表示されます。

カタログを選択するには

- [カタログ リスト] で、[サービス リスト] セクションに表示するカタログをクリックします。カタログをリフレッシュするには、カタログの名前を右クリックして、ショートカットメニューから **[リフレッシュ]** を選択します。

仮想カタログ

仮想カタログは、HPCA の [ソフトウェアの詳細] で管理者が定義した、デフォルトのカタログのサブセットです。カタログ グループの値が同じサービスは、1つの仮想カタログにグループ化されます。次のイメージは、いくつかのサンプルのカタログを表示しています。

	名前
	すべてのソフトウェア
	CAS Applications
	ProtectTools
	Sample Applications

サービス リスト

[サービス リスト] セクションには、利用可能なアプリケーションが一覧表示されます。インストール済みのアプリケーションの横には、チェック マークが表示されます。カラムの見出しは、必要に応じて変更できます。詳細については、

226 ページの「設定：このボタンをクリックすると、Self-Service Manager のさまざまな表示オプション、アプリケーション リスト オプション、および接続オプションにアクセスできます。」を参照してください。

表 21 [サービス リスト] セクションのボタン

ボタン	アクション	説明
	インストール	選択したサービスをマシンにインストールします。
	検証	選択したサービスのファイルを検証します。
	修復	選択したサービスを修復します。
	削除	選択したサービスをマシンから削除します。
	展開 / 折りたたむ	選択したサービスを展開したり、折りたたみます。



[サービス リスト] セクションのボタンは、選択したアプリケーションに対して使用できない場合、グレー表示になります。

Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスの使用

ユーザー インターフェイスを使用して、ソフトウェアのインストールと削除、利用可能なアプリケーションのカタログのリフレッシュ、およびアプリケーションに関する情報の表示を行います。メニュー バーには、セッション履歴の表示、バンド幅の調整、およびアプリケーションの現在のステータスの表示のためのボタンがあります。詳細については、次の各セクションを参照してください。

- [ソフトウェアのインストール 229 ページ](#)
- [カタログのリフレッシュ 230 ページ](#)
- [情報の表示 230 ページ](#)
- [ソフトウェアの削除 231 ページ](#)

- ソフトウェアの検証 232 ページ
- ソフトウェアの修復 232 ページ
- 履歴の表示 232 ページ
- バンド幅の調整 233 ページ
- ステータスの表示 233 ページ

ソフトウェアのインストール

利用可能なアプリケーションは、サービス リストに一覧表示されます。これらのアプリケーションから 1 つ以上をいつでもインストールできます。

ソフトウェアをインストールするには

- 1 サービス リストで、インストールするアプリケーション名をクリックします。
- 2 **[インストール]** ボタン  をクリックします。

インストールによっては、一連のダイアログ ボックスが表示される場合があります。その場合、表示される指示に従ってください。それ以外の場合は、インストールがすぐに始まります。

 インストールするアプリケーションの名前を右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[インストール]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

インストールの進行状況が、進行状況バーに表示されます。

- インストールをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **[キャンセル]**  をクリックします。
- インストールを一時停止するには、グローバル ツールバーの **[一時停止]**  をクリックします。アクションを一時停止すると、一時停止しているアクションをキャンセルまたは再開するまで、他のアクションを実行できません。

カタログのリフレッシュ

カタログは、**Self-Service Manager** のユーザー インターフェイスにログインするたびにリフレッシュされます。ログインしている間に、使用が認可されているアプリケーションのリストが変わった、またはインストールしたアプリケーションの更新が使用可能になったと考えられる場合は、グローバル ツールバーの **[カタログのリフレッシュ]**  をクリックして、アプリケーションのリストを更新します。

- ▶ ソフトウェア リストの任意のアイテムを右クリックして、表示されるショートカット メニューの **[カタログをリフレッシュ]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

情報の表示

サービス リストには基本的な情報が表示されますが、アプリケーションに関する詳細な情報 (ベンダー、バージョン、サイズ、インストール日など) は、次の方法で取得できます。

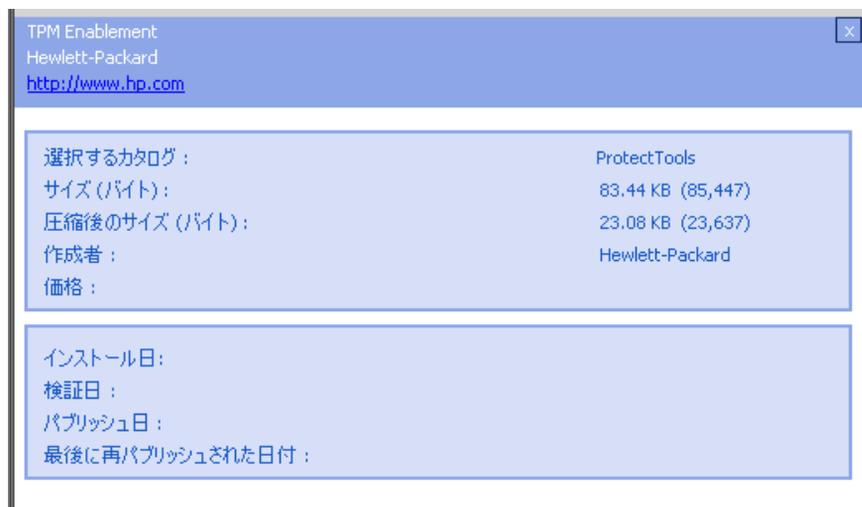
- これらのカラムをサービス リストに追加する。
- 展開したサービス ボックスで、**[拡張情報を表示]**  をクリックする。

メーカーからの詳細情報が必要な場合は、ベンダーのリンクをクリックします。

詳細情報を表示するには

- 1 サービス リストでアプリケーションを選択し、**[拡張情報を表示]**  をクリックします。

- ▶ アプリケーションを右クリックし、表示されるショートカット メニューの **[プロパティ]** をポイントし、**[情報]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。



- 2 サービス リストに戻るには、対応する **[キャンセル]** ボタンをクリックします。

ソフトウェアの削除

コンピュータからアプリケーションを削除するには、**[削除]** ボタン  を使用します。

ソフトウェアを削除するには

- 1 削除するアプリケーションを選択します。
- 2 **[削除]**  をクリックします。
- 3 アプリケーションの削除を確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックします。

 削除するアプリケーションの名前を右クリックして、表示されるショートカットメニューの **[削除]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

ソフトウェアの検証

アプリケーションのインストールをチェックするには

- 1 インストールされている検証対象のサービスをサービス リストで選択します。
- 2 **[検証]** をクリックします。
 - ▶ ソフトウェア名を右クリックし、表示されるショートカットメニューの**[検証]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。
 - 検証でアプリケーションに問題がない場合は、アプリケーションの**[検証した日付]** カラムに検証の日付と時刻が表示されます。
 - 検証でアプリケーションに問題がある場合は、**[ステータス]** カラムに**[破損]** と表示されます。
- 3 ソフトウェアを修復するには、**[修復]** をクリックします。

ソフトウェアの修復

アプリケーションに何らかの問題がある場合、それを修復するには、**[修復]** をクリックします。

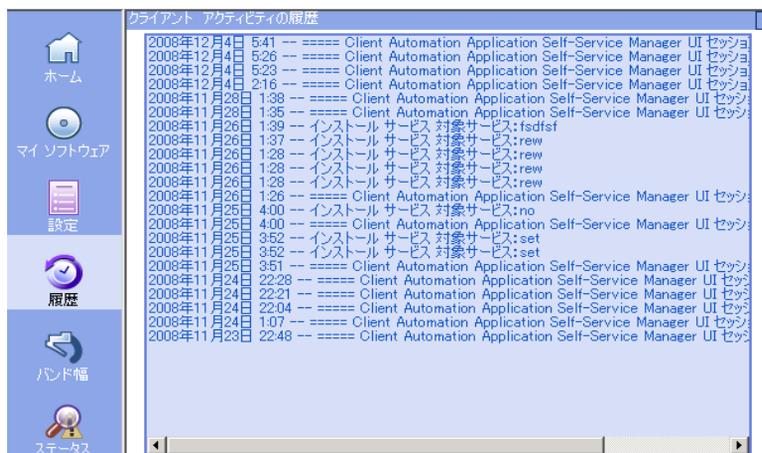
ソフトウェアを修復するには

- 1 修復する必要があるアプリケーションを選択します（該当するアプリケーションには、最初のカラムに**X**、**[ステータス]** カラムに**[破損]** が表示されます）。
- 2 **[修復]** をクリックします。**HPCA** によってアプリケーションの修復に必要なファイルが取得されます。

履歴の表示

- 1 メニューバーの**[履歴]** をクリックして、現在のセッションの履歴を表示します。

図 15 [履歴] ウィンドウ



2 [履歴] ウィンドウを閉じて、サービス リストに戻ります。

バンド幅の調整

メニュー バーの **[バンド幅]** をクリックして、バンド幅のスライダを表示します。この値を変更すると、スロットリングの値が動的に変化します。

バンド幅のスライダを使用してバンド幅の設定を調整するには

- スライダをドラッグして、目的のバンド幅スロットリングの量にまで値を増減して調整します。
- バンド幅スロットリングは、[設定]の[接続オプション]セクションでも調整できます。

ステータスの表示

メニュー バーの **[ステータス]** をクリックすると、サイズ、推定時間、進捗状況、使用可能なバンド幅など、現在のアクションのステータスが表示されます。

図 16 選択したアプリケーションのステータス表示

名前	ステータス		
HP Client Automation Settings Migration Manager	更新可能		
TPM Enablement バージョン 2 Hewlett-Packard http://www.hp.com ダウンロードがキャンセルされました	サイズ 83.44 KB 圧縮後のサイズ 23.08 KB		
転送速度 0 kbps 合計サイズ N/A 受信したバイト数 0 Kb 推定残り時間 00:00:00	ファイルの総数 N/A 受信ファイル数 0 サービスの総数 0 受信サービス数 0		

[ステータス] ウィンドウは、Application Self-Service Manager からドッキングしたりドッキングを解除したりできます。これにより、画面上の任意の位置に [ステータス] ウィンドウを移動できます。デフォルトでは、[ステータス] ウィンドウはドッキングされています。

[ステータス] ウィンドウのドッキングを解除するには

- 1 メニューバーの [ステータス] をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから [ドッキング済み] を選択します。[ステータス] ウィンドウがドッキングされている場合、ショートカットメニューの [ドッキング済み] の横にチェックマークが表示されます。

転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 Kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

Application Self-Service Manager インターフェイスから [ステータス] ウィンドウが分離され、画面上の任意の場所に移動できるようになります。

[ステータス] ウィンドウをドッキングするには

- 1 メニューバーの [ステータス] をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。

- ショートカットメニューの [**ドッキング済み**] をクリックします (チェックマークが表示されていない場合のみ)。

転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	ドッキング済み 0 B	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 B	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウが **Application Self-Service Manager** インターフェイスにドッキングされます。

ユーザー インターフェイスのカスタマイズ

メニュー バーの [**設定**] ボタンをクリックして、利用可能なカスタマイズ オプションを表示します。次のセクションで各カスタマイズ領域について説明します。

- 全般オプション 235 ページ
- サービス リスト オプション 237 ページ
- 接続オプション 240 ページ

全般オプション

Application Self-Service Manager インターフェイスの外観を変更するには、[全般オプション] ウィンドウを使用します。

図 17 [全般オプション] ウィンドウ



表示を変更するには

- メニューを表示する場合は、[メニューを表示]を選択します。
- カタログリストを表示する場合は、[カタログリストを表示]を選択します。
- 各セッションの開始時にオフラインモードで Application Self-Service Managerを使用するかを確認するプロンプトを表示するには、[オフラインモードのプロンプトを表示]チェックボックスをオンにします。
- オプションバーを自動的に非表示にするには、[自動非表示オプションバー]をオンにします。

色を変更するには

- システムの色を使用する場合は、[システムの色を使用]をオンにします。
- カラースキームをカスタマイズする場合は、[色のカスタマイズ]をオンにします。
 - [色のカスタマイズ]をクリックした場合、目的に応じて以下のラベルのボックスをクリックします。

- **[選択色を設定]**。選択した色を変更します。
- **[ボタンの色を設定]**。ボタンの色を変更します。
- **[背景色を設定]**。背景色を変更します。
- **[作業領域の色を設定]**。作業領域を変更します。

サービス リスト オプション

サービス リストの外観を変更するには、**[サービス リスト オプション]** を使用します。

図 18 サービス リスト オプション



サービス リストのカラム名をカスタマイズするには

サービス リストに表示されるカラムをカスタマイズするには、**[カラム]** 領域を使用します。右のカラムには、現在サービス リストに表示されているカラムの名前が一覧表示されます。利用可能な各カラム見出しの説明については、238 ページの「表示のカスタマイズ」を参照してください。

サービス リストにカラムを追加するには

- [使用可能なカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択し、[追加] をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスの一覧に表示されます。

サービス リストからカラムを削除するには

- 1 [表示するカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択します。連続した複数のカラム名を選択するには **Shift** キーを押しながらカラム名をクリックし、連続していない複数のカラム名を選択するには **Ctrl** キーを押しながらカラム名をクリックします。
- 2 [削除] をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスから削除され、元の [使用可能なカラム] ボックスに表示されます。

表示のカスタマイズ

- サービス リストで、現在のサービス アイテムを展開するには、[アクティブなサービス アイテムを展開] チェック ボックスをオンにします。
- 各サービスを仕切るグリッド線付きでサービス リストを表示するには、[グリッド線を表示] を選択します。
- 現在選択しているカタログを展開するには、[アクティブなカタログ アイテムを展開] を選択します。
- [詳細なオペレーションを表示] は現時点では利用できません。

表 22 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
適応バンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の適用最小割合。
警告メッセージ	エンド ユーザーに長いアプリケーション説明または指示のメッセージを表示 (警告 / 延期設定の一部としてオプションのサービス テキスト フィールド)。
作成者	サービスの作成者。
Avis	内部で使用するためだけのサービス ステータス フラグ。
圧縮後のサイズ	圧縮後のサービスのサイズ (バイト単位)。
説明	アプリケーションの簡単な説明。
エラーコード	現在のサービスのステータス。例 : 初期 = 999。メソッドの失敗 = 709。

表 22 サービス リストで利用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
インストール日	アプリケーションがコンピュータにインストールされた日付。
ローカルの修復	ローカルでのデータ修復可能性 (データがローカル コンピュータにキャッシュされているかどうか)。
必須	アプリケーションで定義される必須 / オプション ファイル (内部使用)。
名前	アプリケーションの名前。
オーナー カタログ	アプリケーションの取得元のドメイン名。
価格	サービスの価格。
パブリッシュ日	アプリケーションがカタログにパブリッシュされた日付。
再起動	サービスの再起動設定 (内部使用)。
再パブリッシュ日	アプリケーションがカタログに再パブリッシュされた日付。
予約済みのバンド幅	バンド幅スロットリングを使用するときに使用されるバンド幅の予約済み最大割合。
スケジュールを許可	エンド ユーザーがローカルにアプリケーションの更新スケジュールを変更できるかどうかを指定。
サイズ	アプリケーションのサイズ (バイト単位)。 注意 : アプリケーションを正常にインストールするには、このカラムで表示される空き容量がコンピュータに必要です。
ステータス	アプリケーションの現在のステータス <ul style="list-style-type: none"> • 使用可能 • インストール済み • 更新可能 • 破損
システムのインストール	システム アカウントを使用してアプリケーションがインストールされるかどうかを表示。
スロットリングタイプ	使用するバンド幅スロットリングのタイプ。可能な値は、 ADAPTIVE 、 RESERVED 、または NONE 。
オプション	ステータス ウィンドウを表示するかどうかを決定。
アップグレード日	アプリケーションがアップグレードされた日付。

- 使用するネットワーク バンド幅の最大の割合をスケールに基づいてスライドするには、[**バンド幅を予約**] を選択します。ユーザーは、ダウンロード時に予約バンド幅をインターフェイスで変更できます。
- 使用するネットワーク バンド幅の最小の割合をスケールに基づいて指定するには、[**トラフィックに適応**] を選択します。適応バンド幅は、データダウンロードプロセスの間は変更できません。設定できるのは、ジョブがディスパッチされる前だけです。

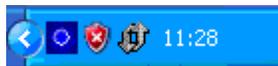
- **プロキシ**

- **Application Self-Service Manager** は、インターネット プロキシが使用されると、それを検出できます。検出されたインターネット プロキシのアドレスは、クライアント コンピュータの IDMLIB ディレクトリにある PROXYINF.EDM に格納されます。IDMLIB のデフォルトのロケーションは、SystemDrive:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib です。次回、HPCA Agent コンピュータが HPCA Server に接続するときには、指定したインターネット プロキシが使用されます。この機能を使用するには、HPCA Agent でインターネット プロキシを使用および検出できるようにする必要があります。

HPCA System Tray アイコン

HP Client Automation システム トレイ アイコンを使用すると、ユーザーは、ステータスや統計情報を確認したり、一時停止やキャンセルの操作を行ったりすることができます。

図 20 HPCA System Tray アイコン



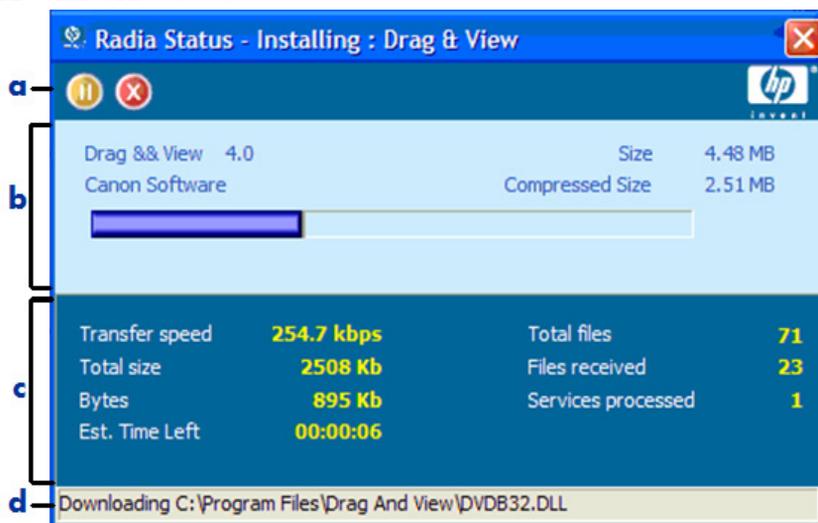
HPCA の状態を表示するには、カーソルをアイコンの上に移動します。

- **アイドル**: アクションが処理中でなく、ユーザーの介入を必要としないとき、アイコンはスタティックです。システム トレイ アイコンは、アイドル状態では非表示になる場合があります。
- **アクティブ**: **Application Self-Service Manager** が実行中のとき、またはユーザーの介入が必要なときに、アイコンはアクティブになります。アイコンの上にカーソルを合わせると、活動情報を示すポップアップが表示されます。重要な通知が発生した場合は、ポップアップが自動的に表示されます。

[HPCA ステータス] ウィンドウ

HPCA System Tray アイコンを左クリックして、[ステータス] ウィンドウを表示します。次の図で示すように [ステータス] ウィンドウが開きます。

図 21 HPCA ステータス



凡例

- a ボタンバー
- b 情報パネル
- c ステータス領域
- d ステータス メッセージ

[ステータス] ウィンドウには次の領域があります。

- **ボタンバー:** [一時停止] ボタン、[キャンセル] ボタン、および HPCA Agent が実行中にアニメーション表示になるロゴがあります。
- **情報パネル:** この領域には、アクティブなアプリケーションに関する情報が表示され、完了したタスクの割合を示す進行状況バーも表示されます。
- **ステータス領域:** 転送速度、送信の合計サイズ、受信したバイト数、送信の推定残り時間、送信するファイルの総数、受信したファイルの数、処理されたサービスの数など、アクティブなプロセスに関する統計が表示されます。

- **ステータス メッセージ領域**：現在のプロセスに関するメッセージが表示されます。
 - **バンド幅設定**：HPCA Server のアプリケーションにバンド幅スロットリングを設定している場合、システム トレイ コンソールのバンド幅トグルボタン  をクリックすると、バンド幅設定用のスライダが表示されます。バンド幅スロットリングの値を変更するには、スライダを調整します。

12 Personality Backup and Restore

Personality Backup and Restore では、個々の管理対象デバイスにあるアプリケーションとオペレーティング システムのユーザー ファイルや設定をバックアップおよび復元できます。ファイルと設定は **HPCA Core Server** に保存され、元のデバイスや新しいデバイスへの復元に利用できます。

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションは、**Microsoft User State Migration Tool (USMT)** に基づいており、バックアップおよび復元プロセスを容易にするために **Hewlett-Packard** が開発したユーザー インターフェイス (**HPCA Personality Backup and Restore Utility**) が含まれています。

USMT の機能とコンポーネントについては、247 ページの「[ユーザー状態移行ツール](#)」で説明します。移行元コンピュータからバックアップに取得するユーザー ファイルおよび設定を定義するには、移行ルールを使用します。

Personality Backup and Restore Utility については、251 ページの「[HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用](#)」で説明します。このユーティリティは、エージェントのインストール時にエージェント コンピュータに配布され、これらのファイルと設定をバックアップおよび復元するために使用されます。



HPCA の最新バージョンにアップグレードした後、ユーザー ファイルおよび設定の新規バックアップを実行する必要があります。以前のバージョンの HPCA を使用して作成されたバックアップは復元できません。

次のセクションでは、お使いの環境で Personality Backup and Restore ソリューションを実装する方法について説明します。

- [要件 246 ページ](#)
- [ユーザー状態移行ツール 247 ページ](#)
- [HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用 251 ページ](#)
- [トラブルシューティング 256 ページ](#)

要件

Personality Backup and Restore ソリューションを実装する前に、お使いの環境が次の要件を満たしていることを確認します。

オペレーティング システム

次のオペレーティング システムを使用する移行元コンピュータから、バックアップを作成できます。

- Windows 2000 Professional Service Pack 4 以降
- Windows XP
- Windows Vista

次のオペレーティング システムを使用する移行先コンピュータに、ファイルおよび設定を復元できます。

- Windows XP
- Windows Vista

ディスク容量

開始する前に、移行元コンピュータ、移行先コンピュータ、および Core Server に、バックアップされるファイルおよび設定を保存できる十分なディスク容量があるかどうかを判断する必要があります。バックアップに必要なディスク容量を推定するには、Microsoft TechNet Web サイトの「データの保存場所の決定」<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc722431.aspx> を参照してください。保存場所は Personality Backup and Restore Utility によって自動的に設定されます。移行元コンピュータ、移行先コンピュータ、Core Server にはそれぞれ、移行されるファイルおよび設定用に十分なディスク容量が必要です。

また、移行先コンピュータでは、移行されるファイルおよび設定が使用する 2 倍のディスク容量が必要です。Core Server には、バックアップ時に作成された、アーカイブ済みユーザー ファイルおよび設定が保存されます。復元時には、アーカイブされたファイルおよび設定が移行先コンピュータの一時的な場所にダウンロードされた後、元の場所に復元されます。復元が正常に行われたら、アーカイブされたファイルおよび設定は、移行先コンピュータから削除されます。

ソフトウェア

次の 2 つのアプリケーションが必要です。

- **Microsoft USMT バージョン 3.0.1**

このアプリケーションを、移行元コンピュータと移行先コンピュータにインストールする必要があります。247 ページの「ユーザー状態移行ツール」を参照してください。



このソリューションでは、Microsoft USMT バージョン 3.0.1 を使用する必要があります。これ以外のバージョンの USMT はサポートされていません。

- **HP Client Automation Personality Backup and Restore Utility**

このアプリケーションを、移行元コンピュータと移行先コンピュータの両方にインストールする必要があります。このアプリケーションは、サポートされている HPCA Personality Backup and Restore プラットフォームのいずれかに対して、Core Console から HP Client Automation Agent が配布されるときに、Agent によって自動的にインストールされます。ただし、Agent を手動でインストールする場合は (『HPCA Application Manager および Application Self-service Manager インストールおよび設定ガイド HPCA Application Manager および Application Self-service Manager インストールおよび設定ガイド』を参照)、Install.ini ファイルのコメントが示すように、このファイルを次のように変更する必要があります。

;Personality Backup and Restore (PBR) をインストールするには、次の行に NVDINSTALLPBR を追加してください (先頭にカンマを付ける)

```
ADDLOCAL=NVDINSTALLRAM,NVDINSTALLRSM,NVDINSTALLRIM,NVDINSTALLLRLAE,NVDINSTALLROM,NVDINSTALLPATCH,NVDINSTALLPLUSHP
```

ここに示されている他のコマンドライン パラメータも、必ずすべて含めてください。

ユーザー状態移行ツール

HPCA Personality Backup and Restore ソリューションは Microsoft ユーザー状態移行ツール (USMT) に基づいているため、Microsoft Technet Web サイトにあるドキュメント (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc722032.aspx>) を参照して、このツールとその機能について理解してください。

このセクションでは、Microsoft USMT について、入手方法、インストール方法、および移行ファイルを使用する方法について説明します。Personality Backup and Restore ソリューションで提供される、バックアップおよび復元時に自動的に USMT を起動する Hewlett-Packard ユーザー インターフェイスの説明については、251 ページの「HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用」を参照してください。

サポートされるファイル、アプリケーション、および設定

USMT では、ユーザー ファイルおよびフォルダ (XP の [マイ ドキュメント] フォルダまたは Vista の [ドキュメント] フォルダなど)、オペレーティング システム 設定 (フォルダ オプションや壁紙設定など)、アプリケーション 設定 (Microsoft Word の設定など) を含むさまざまなデータが移行されます。総合的な一覧については、Microsoft TechNet Web サイトの「USMT 3.0 によって移行されるもの」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc722387.aspx>) を参照してください。

- ▶ アプリケーションを正常に移行するためには、移行元コンピュータと移行先コンピュータのアプリケーションのバージョンが同一である必要があります。これには例外が 1 つあります。Microsoft Office の設定の場合は、移行元コンピュータの古いバージョンから移行先コンピュータの新しいバージョンに移行できます。
- ▶ USMT では、ユーザーがアクセスした、または変更したアプリケーション 設定のみが移行されます。移行元コンピュータのユーザーがアクセスしたことがないアプリケーション 設定は移行されません。
- ▶ フォント、壁紙、スクリーン セーバー設定などの一部のオペレーティング システム 設定は、移行先コンピュータを再起動するまで適用されません。

Microsoft USMT 3.0.1 の入手とインストール

USMT をインストールする理由としては、次のいずれかまたは両方が考えられます。

- 管理者として、USMT の機能に慣れ、ソリューションを個人仕様にするために移行ルールをカスタマイズする方法を学ぶ。
- エンドユーザーとして、管理対象デバイスのファイルおよび設定のバックアップと復元を行う。

Personality Backup and Restore を実装する場合は、バックアップを行う移行元コンピュータと復元を行う移行先コンピュータに **Microsoft USMT 3.0.1** をインストールする必要があります。このセクションでは、このアプリケーションを入手できる場所、およびインストールする方法について説明します。



Microsoft User State Migration Tool バージョン **3.0.1** を使用する必要があります。これ以外のバージョンの **USMT** はサポートされていません。

Microsoft USMT 3.0.1 の入手

アプリケーションを入手するには、Microsoft の Web サイト (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=799ab28c-691b-4b36-b7ad-6c604be4c595&displaylang=en>) にアクセスします。32 ビットと 64 ビットの 2 つのバージョンがあります。お使いの環境に適したバージョンを選択してください。

管理対象デバイスでの USMT 3.0.1 のインストール

管理対象デバイスでは、2 つの方法で USMT をインストールできます。手動でインストールするか、**HPCA Administrator Publisher** を使用してサービスにパッケージ化してから (**Chapter 10, Publisher の使用** を参照)、管理対象デバイスにエンタイトルメントを設定または配布します。USMT は移行元および移行先クライアント デバイスで、デフォルトのインストール ディレクトリ `C:\Program Files\USMT301` にインストールする必要があります。デフォルトのインストール ディレクトリは、32 ビット マシンと 64 ビット マシンでは同じです。

管理対象デバイスのオペレーティング システムに応じて、必ず適切なバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) をインストールしてください。

移行ファイル

Personality Backup and Restore ソリューションでは、次の 3 つの USMT 移行ファイルを使用して、移行に含めるコンポーネントを指定します。

- MigSys.xml - オペレーティング システム設定の移行
- MigApp.xml - アプリケーション設定の移行
- MigUser.xml - ユーザー フォルダおよびファイルの移行

お使いの環境でこのソリューションを実装する前に、これらのファイルを入手し、**HPCA Core Server** に保存する必要があります (250 ページの「**Core Server への移行ルールの保存**」を参照)。

これらのファイルを手に入れるには、サポートされているプラットフォームのいずれかに **USMT** をインストールする必要があります (248 ページの「**Microsoft USMT 3.0.1 の入手とインストール**」を参照)。インストール時にこれらのファイルは `C:\Program Files\USMT301` に配置されます。

配置されたファイルは、編集することも (250 ページの「**ルールの編集**」を参照)、そのまま使用することもできます。

ルールの編集

場合によっては、デフォルトの移行ルールの編集が必要になることがあります。たとえば、特定のアプリケーションの設定を移行しない場合や、特定のファイルタイプを除外する場合です。デフォルトの移行動作を変更するには、移行 XML ファイルを編集する必要があります。これらのファイルをカスタマイズする方法については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc766203.aspx> を参照してください。

Core Server への移行ルールの保存

これらのファイルの編集が終わったら、または編集しない場合でも、ファイルを **HPCA Core Server** の `Data\PersonalityBackupAndRestore\conf` に保存します。この場合の `Data` は、**HPCA Core** のインストール時に指定した、ユーザーが設定できるデータディレクトリです。

- ▶ これらの 3 つのファイルは、変更したかどうかに関わらず、`Data\PersonalityBackupAndRestore\conf` に配置し、**Microsoft USMT 3.0.1** インストールから入手した元のファイルと同じファイル名を使用する必要があります。

ScanState コマンドラインと LoadState コマンドライン

移行ルールは、**Personality Backup and Restore Utility** によって **Core Server** からダウンロードされ、個人データの収集と復元を行う **USMT** 実行可能ファイル **ScanState** および **LoadState** によって使用されます。**ScanState.exe** は、移行元コンピュータの個人データを収集する実行可能ファイルです。**Personality Backup and Restore Utility** で使用される **ScanState** コマンドラインは、次のとおりです。

```
ScanState.exe /i:MigApp.xml /i:MigUser.xml /i:MigSys.xml /o  
/l:ScanState.log /localonly "Agent\Lib\PBR\work\store"
```

この場合の **Agent** は、**Agent** のインストールディレクトリです。

LoadState は、移行先コンピュータに個人データを復元する実行可能ファイルです。**Personality Backup and Restore Utility** で使用される **LoadState** コマンドラインは、次のとおりです。

```
LoadState.exe /i:MigApp.xml /i:MigUser.xml /i:MigSys.xml /  
l:LoadState.log /lac:password /lae  
"Agent\Lib\PBR\work\store"
```

この場合の Agent は、**Agent** のインストール ディレクトリです。

これらのコマンドラインはカスタマイズできませんが、バックアップおよび復元される内容を理解していただくために記載しています。これらの **ScanState** および **LoadState** コマンドライン引数によって、ローカル ユーザー アカウントも含め、システムのすべてのユーザー アカウントが移行されます。復元を実行するときに、移行先コンピュータにローカル ユーザー アカウントがない場合は、**password** というパスワードを使用して、**LoadState** によって作成されます (前述のコマンドラインを参照)。そのため、復元後には、復元されたローカル ユーザー アカウントのパスワードを変更する必要があります。

HPCA Personality Backup and Restore Utility の使用

このセクションでは、**HPCA Personality Backup and Restore Utility** を使用して移行元コンピュータのファイルおよび設定をバックアップする方法と、これらのファイルと設定を移行先コンピュータに復元する方法について説明します。このユーティリティを実行すると、移行時に使用する移行 **xml** ファイルが **Core Server** サーバーから毎回ダウンロードされます (249 ページの「[移行ファイル](#)」を参照)。

開始する前に、**Core Server**、移行元コンピュータ、および移行先コンピュータに、十分なディスク容量があることを確認してください (246 ページの「[ディスク容量](#)」を参照)。

Personality Backup and Restore Utility を起動するには：

- クライアント デバイスで、[スタート]メニューから次のように選択します。
[すべてのプログラム] > HP Client Automation Personality Backup and Restore > Client Automation Personality Backup and Restore Utility。

次のセクションでは、**Personality Backup and Restore Utility** を使用方法について説明します。

- [パーソナリティのバックアップ](#) 252 ページ
- [パーソナリティの復元](#) 253 ページ

パーソナリティのバックアップ

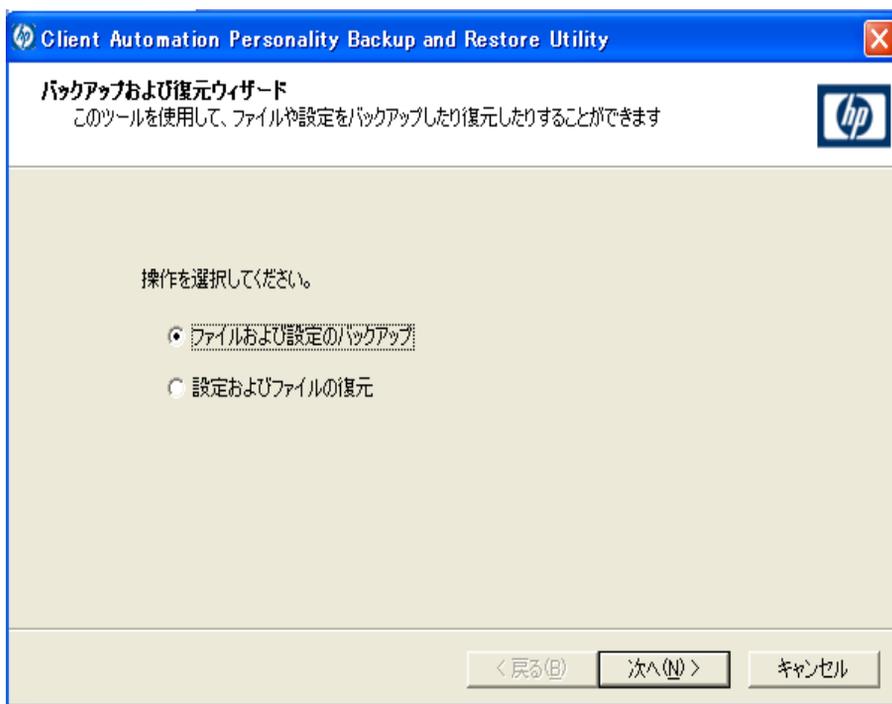
管理者の認証情報があるユーザー アカウントから **Personality Backup and Restore Utility** を実行する必要があります。



正常にバックアップされるように、バックアップを実行する前に、開いているファイルや実行中のアプリケーションはできる限り終了してください。バックアップの実行中には、新しいアプリケーションを起動したり、ファイルを開いたりしないでください。バックアップが失敗する可能性があります。

ファイルと設定をバックアップするには：

- 1 クライアント デバイスで **Personality Backup and Restore Utility** を起動します。バックアップおよび復元ウィザードが開きます。



- 2 **[ファイルおよび設定のバックアップ]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。**[バックアップ]** ダイアログ ボックスが表示されます。

- 3 バックアップするコンピュータの名前を入力します。
- 4 7～15文字のパスワードを入力して、**[次へ]**をクリックします。要約を示すダイアログボックスが表示されます。
- 5 要約情報を確認します。ファイルと設定を復元するときに必要になるため、コンピュータ名と使用したパスワードを記録します。
- 6 **[完了]**をクリックしてバックアッププロセスを開始します。バックアップされるデータの量によっては、このプロセスが完了するまでに数分から数時間かかることがあります。**Personality Backup and Restore Utility** からバックアップの完了が通知されるまで、アプリケーションは終了しないでください。

保管されたファイルおよび設定

ファイルおよび設定のバックアップを行うと、これらは毎回 **Core Server** の `Data\PersonalityBackupAndRestore\backups` に保存されます。この場合の `Data` は、**Core Server** のインストール時に指定した、ユーザーが設定できるデータディレクトリです。コンピュータ名およびユーザーが入力したパスワードのエンコーディングを含む `backups` フォルダに、サブディレクトリが作成されます。復元に必要なすべてのバックアップ情報が、このサブディレクトリに保存されます。

Core Server にあるバックアップデータが削除されることはありません。特定のコンピュータのバックアップデータが不要になった場合は、そのバックアップデータを含むサブディレクトリを、管理者が手動で削除できます。

パーソナリティの復元

管理者の認証情報があるユーザーアカウントから **Personality Backup and Restore Utility** を実行する必要があります。



正常に復元されるように、復元を実行する前に、開いているファイルや実行中のアプリケーションはできる限り終了してください。復元の実行中には、新しいアプリケーションを起動したり、ファイルを開いたりしないでください。復元が失敗する可能性があります。

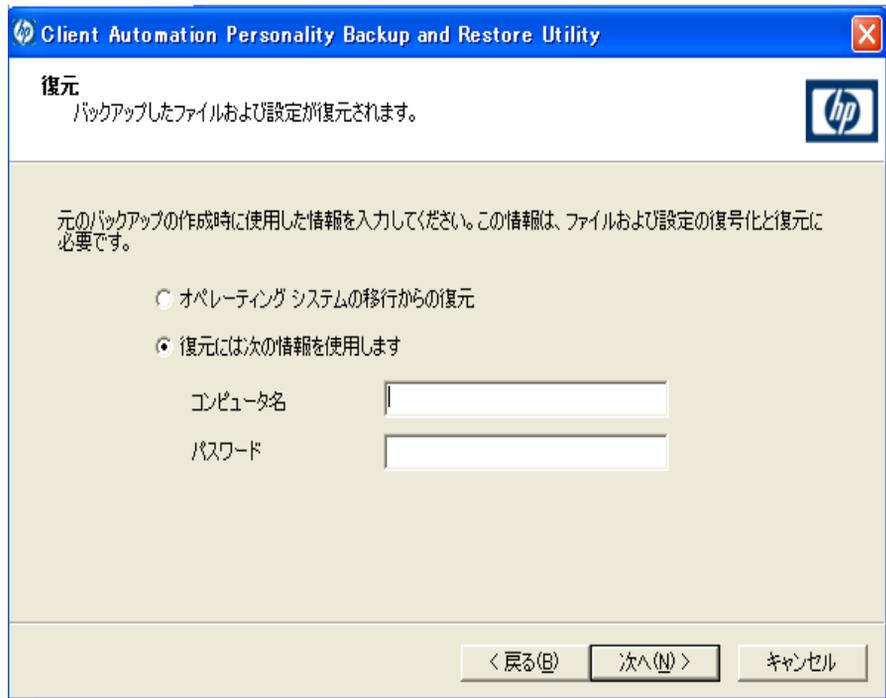
復元手順を開始する前に、設定を移行するすべてのアプリケーションを、移行先コンピュータにインストールする必要があります。(新しいバージョンが使用できる) **Microsoft Office** 以外のすべてのアプリケーションについては、移行元コンピュータにインストールされているものと同じバージョンのアプリケーションを、移行先コンピュータにインストールする必要があります。



バックアップで使用されたドメインと同じ **Windows** ドメインにあるコンピュータに復元してください。また、バックアップで使用されたロケールと同じロケール(例、米国英語)で復元してください。

コンピュータ名とパスワードを使用してファイルと設定を復元するには

- 1 移行先コンピュータで **Personality Backup and Restore Utility** を起動します。バックアップおよび復元ウィザードが開きます。
- 2 **[設定およびファイルの復元]** を選択して、**[次へ]** をクリックします。**[復元]** ダイアログ ボックスが表示されます。



▶ **Starter** ライセンスを使用している場合は、[オペレーティング システムの移行からの復元] オプションはサポートされていません。

- 3 [**復元には次の情報を使用します**] を選択し、バックアップ時に使用したコンピュータ名とパスワードを入力します。[**次へ**] をクリックします。[**要約**] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 [**完了**] をクリックして復元プロセスを開始します。復元されるデータの量によっては、このプロセスが完了するまでに数分から数時間かかることがあります。**Personality Backup and Restore Utility** から復元の完了が通知されるまで、アプリケーションを終了しないでください。
- 5 フォント、壁紙、スクリーンセーバー設定などの一部のオペレーティング システム設定は、移行先コンピュータを再起動するまで適用されません。これらの設定がすべて正常に適用されるように再起動を実行してください。

トラブルシューティング

このセクションでは、バックアップまたは復元が正常に完了しなかった場合に実行できるトラブルシューティング操作について説明します。

バックアップまたは復元が正常に完了しなかった

バックアップまたは復元が正常に完了しなかった場合は、**Agent** の Log ディレクトリにある `pbr.log` で、バックアップまたは復元時に発生したエラーを確認します。デフォルトの Log ディレクトリは `C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Log` です。

また、バックアップと復元時にそれぞれ作成された `ScanState.log` および `LoadState.log` ファイルを確認することもできます。これらのファイルは、**Agent** の Lib ディレクトリの下に `PBR\work\log` ディレクトリにあります。デフォルトの Lib ディレクトリは `C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib` です。

ユーザーがパスワードを忘れたためデータを復元できない

復元を実行するには、**Personality Backup and Restore Utility** でユーザーが入力したコンピュータ名とパスワードの両方が必要です。紛失したパスワードを回復する方法はありませんが、管理者はユーザーが復元を実行できるように新しいパスワードを作成できます。このプロセスは次のとおりです。

- 1 管理者は、ユーザー ファイルと設定が保存されている **Core Server** のバックアップ ディレクトリを見つけます。このディレクトリは、`Data\PersonalityBackupAndRestore\backups` にあります。この場合の `Data` は、**Core** のインストール時に指定した、ユーザーが設定できるデータ ディレクトリです。サブディレクトリには `ComputerName_Encoded ComputerNameAndPassword` という名前が付いています。
- 2 管理者は **Personality Backup and Restore Utility** を使用してバックアップを実行します。このバックアップは、ユーザーがパスワードを忘れたコンピュータでは実行しないでください。バックアップはそれ以外のマシン、できればバックアップの高速化を図るために、ユーザー データが少ないかまったくないマシンで実行します。このバックアップを行うには、管理者は元のバックアップに使用したものと同一コンピュータ名（前述のバックアップフォルダ名の一部）を入力し、復元を実行するエンドユーザーに支給するパスワードを作成する必要があります。

- 3 管理者は、`Data\PersonalityBackupAndRestore\backups` の下に作成された新しいディレクトリを見つけて、そのディレクトリの内容を削除し、手順 1 で説明した元のバックアップ ディレクトリの内容をコピーします。
- 4 エンド ユーザーは、**Personality Backup and Restore Utility** を実行し、元のコンピュータ名と管理者が作成したパスワードを入力して、自分のファイルと設定の復元を行います。

エンド ユーザーが、パスワードを忘れたが過去のバックアップからデータを復元する必要がない場合は、次回バックアップを実行するときに新しいパスワードを入力すれば、そのパスワードを使用して復元を実行できます。

13 よく寄せられる質問

この章では、HPCA およびそのコンポーネントを使用したときに利用できる一般的な管理タスクに関する、よく寄せられる質問を紹介します。

- **HPCA Console** にはどうやってアクセスしますか？ **260** ページ
- どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか？ **260** ページ
- コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか？ **260** ページ
- 自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか？ **261** ページ
- インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか？ **261** ページ
- 管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか？ **262** ページ
- パッチ取得はどのようにして自動化できますか？ **262** ページ
- パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか？ **263** ページ
- 管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか？ **263** ページ
- ライセンス キーはどのようにして更新しますか？ **264** ページ
- OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか？ **264** ページ
- ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか？ **265** ページ
- コンソールを使用せずに **HPCA Agent** をインストールするには、どのようにしますか？ **265** ページ
- **setup.exe** をパブリッシュするには、どのようにしますか？ **266** ページ
- 全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか？ **266** ページ
- ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか？ **267** ページ
- デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか？ **267** ページ
- OS イメージを取得するには、どのようにしますか？ **267** ページ
- OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか？ **268** ページ
- OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか？ **268** ページ

- OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか？ 268 ページ
- OS イメージを配布するには、どのようにしますか？ 268 ページ

HPCA Console にはどうやってアクセスしますか？

HPCA Console にアクセスするには、お使いの環境にある任意のデバイスからブラウザを使用します。

- **http://HPCAhost:3466/** に移動します。ここで、HPCAhost は、HPCA がインストールされているサーバーの名前です。

どのバージョンを使用しているかは、どのようにしてわかりますか？

- HPCA のバージョン情報を表示するには、[操作] 領域にある [インフラストラクチャ管理] の [サポート] ページを使用します。

コンソールのパスワードはどのようにして変更できますか？

各コンソール ユーザーには、コンソール ユーザーを作成するときに管理者が指定した独自のパスワードがあります。コンソール ユーザーのログイン パスワードは、148 ページの「アクセス制御」で変更します。

- 1 コンソール ユーザーのユーザー ID をクリックして、[ユーザーの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 **[パスワードの変更]** をクリックします。
- 3 [パスワードの変更] 領域で、表示されたテキスト ボックスに新しいパスワードを入力し、確認します。
- 4 **[適用]**、続いて **[保存]** をクリックします。

新しいパスワードが保存されます。

自分の環境にあるデバイスの管理を始めるには、どのようにしますか？

デバイスは、管理エージェントが配布されると、管理されます。エージェントを配布するには、そのデバイスを **HPCA** に追加する必要があります。

最初にデバイスをインポートします。

- [デバイス管理]の[一般]タブで[**管理対象デバイスのインポート**]をクリックします。「**デバイス インポート ウィザード**」が開始されます。
- **182** ページのウィザードの手順に従って、デバイスをインポートします。

デバイスがインポートされたら、管理エージェントを配布します。

- [デバイス管理]の[一般]タブで[**管理エージェントの配布**]をクリックします。**183** ページの「**エージェント配布ウィザード**」が開始されます。
- **183** ページのウィザードの手順に従って、管理エージェントを配布します。

エージェントが配布されると、デバイスが管理できるようになり、ソフトウェア、パッチ、およびインベントリ管理の準備が完了します。

インベントリの収集のスケジュール設定は、どのようにしますか？

ハードウェアおよびソフトウェアのインベントリは、「**ソフトウェア/ハードウェア インベントリ ウィザード**」を使用して指定したスケジュールに基づいて収集されます。

- 最初に、インベントリ収集のスケジュール設定を、個々のデバイスについて行うか、グループについて行うかを選択します。[**デバイス管理**]の[**グループ**]セクションまたは[**グループ管理**]の[**グループ**]で選択します。
- ツールバーで、[**インベントリの収集**]  ツールバー ボタンをクリックして、[**ソフトウェア/ハードウェア インベントリの探索**]を選択し、ウィザードを起動します。
- **185** ページのウィザードの手順に従って、デバイスとグループについてソフトウェアおよびハードウェアのインベントリ収集を定義します。



ソフトウェア配布ジョブが完了すると、追加されたインベントリ収集が実施されます。

管理対象デバイスのインベントリ情報は、どのようにして表示できますか？

[レポート] タブを使用して、管理対象デバイスのインベントリ情報を表示します。

- [レポート] タブのホーム ページから、[インベントリ情報] の下にある **[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- ページの左側のツールを使用するか、各リスト項目の条件をクリックしてリストをさらにフィルタします。
- ある 1 つのデバイスの情報を表示するには、**[詳細を表示]**  をクリックします。

パッチ取得はどのようにして自動化できますか？

[設定] タブの [パッチ管理] セクションを使用して、パッチ取得のスケジュールおよび設定を指定します。

- 1 **[取得] の [スケジュール]** タブで、付属のツールを使用して、取得スケジュールを設定します。
 - **実行**: 時間、日、週など一定の間隔でパッチを探索するかどうかを設定します。
 - **間隔**: 具体的な間隔 (時間、日、または週) を選択します。
 - **開始日**: ドロップダウン リストを使用して、パッチ適用状況を探索する日を選択します。
 - **[現在のサーバー時刻]** は、HPCA Server の現在の時刻を表示します。
- 2 終了したら、**[保存]** をクリックして、変更を適用します。[現在のスケジュール] の後に、新しいスケジュールが表示されます。
- 3 **[取得] の [設定]** タブで、各探索期間で取得するブリテンを入力します。ワイルドカード文字 (「MS05*」など) を使用してブリテンの範囲を指定できます。複数のブリテン検索を同時に行うには、コンマで区切ります (MS05*, MS06* など)。
- 4 **[設定]** タブの **[インフラストラクチャ管理]** にある **[プロキシ設定]** に移動します。

- 5 ブリテンの取得元の [Proxy Server のアドレス] と [ポート] を入力します。必要な場合、パッチを取得するためのプロキシユーザー ID およびプロキシパスワードを入力します。
- 6 **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

パッチ適用状況探索スケジュールをどのようにして設定しますか？

- パッチ適用状況探索のスケジュールを指定するには、[デバイス] タブから管理対象デバイスを選択します (または、[グループ] タブからグループを選択します)。
- **[インベントリの収集]**  ボタンをクリックして、**[パッチ適用状況の探索]** を選択し、「パッチの適用状況探索ウィザード」を起動します。
- 186 ページのウィザードの手順に従って、デバイスおよびグループのパッチ適用状況探索のスケジュールを指定します。
- [レポート] タブを使用して、選択したデバイスに関するパッチ適用状況レポートを表示します。

管理対象デバイスすべてにソフトウェアを配布するには、どのようにしますか？

最初に、管理対象デバイスをすべて含むダイナミック レポート グループを作成します。

- [レポート] タブの [インベントリ] の下で、**[管理対象デバイスを表示]** をクリックします。
- 全管理対象デバイスの一覧が表示されます。
- **[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  をクリックします。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- [管理] タブで **[ソフトウェア管理]** をクリックします。
- **[ソフトウェアの配布]** をクリックします。

- これで、ソフトウェア配布ウィザード開始されます。ウィザードの指示に従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。

ライセンス キーはどのようにして更新しますか？

- 1 テキスト エディタを使用して、新しいライセンス ファイル (license.nvd など)を開きます。
- 2 ファイルの内容を、[設定] タブの [ライセンス] ページにある [ライセンス データ] テキスト ボックスにコピーします。
- 3 **[保存]** をクリックして、ライセンス情報を更新します。

OS サービス パックの対象とするデバイスのグループをどのようにして作成しますか？

[レポート] タブを使用して、特定のサービス パックを適用していない全デバイスを含むクエリを作成します。この例では、サービス パック 2 をインストールしていない Windows XP デバイスすべてを含むグループが作成されます。

- 1 [データ フィルタ] 領域で **[インベントリ管理の関連情報]** をクリックします。
- 2 **[OS 関連情報]** をクリックします。
- 3 **[オペレーティング システム]** をクリックして、「*Windows XP*」と入力します。
- 4 **[適用]** をクリックします。Windows XP をインストールしてある全デバイスが表示されます。
- 5 **[OS のレベル]** をクリックして、「!Service Pack 2」と入力します。
- 6 **[適用]** をクリックします。Service Pack 2 をインストールしていない Windows XP デバイスがすべて表示されます。
- 7 **[新しいダイナミック レポート グループの作成]**  をクリックして、グループ作成ウィザードの指示に従い、デバイスのグループを作成します。

ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布するには、どのようにしますか？

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを使用して、ソフトウェアをある 1 つのデバイスに配布します。

- 1 [管理] タブで [ソフトウェア管理] をクリックします。
- 2 [ソフトウェア ライブラリ] をクリックして、パブリッシュされたソフトウェアをすべて表示します。
- 3 ある 1 つのデバイスに配布するソフトウェアの説明リンクをクリックします。[ソフトウェアの詳細] ウィンドウが開きます。
- 4 [デバイス] タブをクリックして、そのソフトウェアを配布するデバイスを選択します。
- 5 [ソフトウェアの配布]  をクリックして、ソフトウェア配布ウィザードを開始します。
- 6 ウィザードの手順に従って、そのデバイスにソフトウェアを配布します。

コンソールを使用せずに HPCA Agent をインストールするには、どのようにしますか？

ネットワークに常時接続しているとは限らないデバイスにエージェントをインストールするには、HPCA メディアに収録されている HPCA Agent インストールプログラムを使用します。

- 1 HPCA インストール メディアの `Media\client\default\win32` ディレクトリにある、`standard-setup.cmd` ファイルを使用します。
- 2 コマンドラインで、「`standard-setup.cmd HPCA_IP_Addr`」と入力します。HPCAS_IP_Addr はお使いの HPCA Server の IP アドレスです。
- 3 **Enter** キーを押します。

Windows インストーラ パッケージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- Publisher を使用して、パブリッシュするデータのタイプに [Windows インストーラ] を選択します。Publisher の手順に従って、Windows インストーラファイルが、管理対象デバイスへの配布に利用できるようにします。

詳細については、Publisher のオンライン ヘルプ、または 第 10 章、「Publisher の使用」を参照してください。

setup.exe をパブリッシュするには、どのようにしますか？

- Publisher を使用して、パブリッシュするデータのタイプに **[コンポーネントの選択]** を選択します。パブリッシュするファイルを選択して、Publisher の指示に従い、管理対象デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

詳細については、Publisher のオンライン ヘルプ、または 第 10 章、「Publisher の使用」を参照してください。

全デバイスがソフトウェアを受信したのは、どのようにしてわかりますか？

- 1 [管理] 領域で [ソフトウェア管理] をクリックします。
- 2 [レポート] タブで **[ソフトウェアの要約]** をクリックします。[レポート] 領域に、全デバイス、管理対象デバイス、および失敗したデバイスの要約が表示されます。

[ソフトウェアの詳細] ウィンドウの [デバイス] タブを使用して、デバイス別のソフトウェアのステータスを表示することもできます。

- 1 ソフトウェアの説明リンクをクリックして、[ソフトウェアの詳細] ウィンドウを開きます。
- 2 **[デバイス]** タブをクリックします。
- 3 [ソフトウェアのステータス] カラムを表示して、どの管理対象デバイスにソフトウェアがインストールされているかを確認します。エンタイトルメントが設定されたデバイスだけが表示されます。

ソフトウェアをユーザーがインストールできるようにするには、どのようにしますか？

ソフトウェア エンタイトルメントをデバイスのグループに追加して、**Application Self-Service Manager** から、ユーザーがそのソフトウェアをインストールできるようにします。

- [管理] タブの [グループ管理] セクションで **[グループ]** タブをクリックします。
- グループの説明リンクをクリックして、[グループの詳細] ウィンドウを開きます。
- **[ソフトウェア]** タブをクリックして、そのグループにエンタイトルメントが設定されている全ソフトウェアを表示します。
- 別のソフトウェアのエンタイトルメントを設定するには、**[ソフトウェア エンタイトルメントの追加]**  をクリックします。
- エンタイトルメントを設定するソフトウェアを選択して、**[エンタイトルメントの追加]** をクリックします。

エンタイトルメントを設定すると、ソフトウェアは、コンソールまたは **Application Self-Service Manager** から個々のデバイスに配布できるようになります。

デバイス適用状況レポートを生成するには、どのようにしますか？

- [レポート] タブを使用して、どのパッチ ブリテンの適用状況を確認するかを指定します。
- [データ フィルタ] で、**[パッチ管理の関連情報]** をクリックします。
- **[パッチ適用状況ステータス]** をクリックします。
- ブリテンの名前または名前の一部を入力して、**[適用]** をクリックします。
- レポート リストの上部にあるツールを使用して、レポートのエクスポートまたは印刷を行います。

OS イメージを取得するには、どのようにしますか？

Image Preparation Wizard を使用して、オペレーティング システム イメージの準備と取得を行います。

- 1 **ImageCapture.iso** ファイルから **Image Preparation CD** を作成します。このファイルは、**HPCA** メディアの `\Media\iso\roms` ディレクトリにあります。

- 2 詳細な手順については、**Image Preparation Wizard** のオンライン ヘルプ、または 第 9 章、「OS イメージの準備と取得」を参照してください。

OS イメージにドライバを追加するには、どのようにしますか？

配布用にオペレーティング システム イメージを取得する前に、予想されるすべてのデバイスのハードウェア設定に対する OEM ドライバがインストールされているか確認することをお勧めします。

- **Microsoft** サポート情報の記事、「[How to Add OEM Plug and Play Drivers to Windows XP](#)」には、**Windows OS** のインストール環境用の OEM ドライバの追加に関する情報が解説されています。

OS イメージをパブリッシュするには、どのようにしますか？

- **Publisher** を使用して、パブリッシュするデータのタイプとして **[OS イメージ]** を選択します。パブリッシュするオペレーティング システム イメージを選択して、**Publisher** の指示に従い、デバイスへの配布にそのファイルが利用できるようにします。

▶ **Image Preparation Wizard** で取得されるイメージは、デフォルトで **HPCA Server** の **C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\OSManagerServer\upload** ディレクトリに格納されます。

詳細については、**Publisher** のオンライン ヘルプ、または 第 10 章、「**Publisher** の使用」を参照してください。

OS イメージを配布するには、どのようにしますか？

最初に、OS イメージを受信する全デバイスを含むスタティック グループを作成します。

- 1 **[グループ管理]** の **[一般]** タブから、**[新しいスタティック グループの作成]** をクリックします。

- 2 グループ管理ウィザードが開始されます。グループ作成ウィザードの手順に従って、グループを作成します。

これで、新しく作成したグループ内のデバイスにソフトウェアを配布できます。

- 1 [管理] タブで **[OS 管理]** をクリックします。
- 2 **[オペレーティング システムの配布]** をクリックします。OS 配布ウィザードが開始されます。
- 3 ウィザードの指示に従って、新しく作成したグループおよび配布するソフトウェアを選択します。OS 管理ジョブが作成されます。

14 トラブルシューティング

次のセクションを使用して、HPCA の使用中に遭遇する一般的な問題のトラブルシューティングを行います。

- [ログ ファイル](#) 271 ページ
- [エージェント配布の問題](#) 273 ページ
- [OS 配布の問題](#) 274 ページ
- [Application Self-Service Manager の問題](#) 275 ページ
- [電源管理の問題](#) 275 ページ
- [パッチ管理の問題](#) 276 ページ
- [HPCA Server のトラブルシューティング](#) 276 ページ
- [ブラウザの問題](#) 280 ページ
- [ダッシュボードの問題](#) 282 ページ
- [その他の問題](#) 284 ページ

ログ ファイル

HPCA の各種ログ ファイルは、サーバー上の C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA 以下の次のディレクトリに格納されています。

- \Agent\Log
- \ApacheServer\logs
- \ApacheServer\apps\cas\logs
- \ApacheServer\apps\console\logs
- \BootServer\logs

- \ClientConfigurationManager\logs
- \ConfigurationServer\log
- \dcs\log
- \DistributedCS\logs
- \Knowledge Base Server\logs
- \ManagementPortal\logs
- \MessagingServer\logs
- \MiniManagementServer\logs
- \MulticastServer\logs
- \OOBM\logs
- \OSManagerServer\logs
- \PatchManager\logs
- \PolicyServer\logs
- \ProxyServer\logs
- \ReportingServer\log
- \tomcat\logs
- \VulnerabilityServer\logs

ログ ファイルのサイズは、時間が経過するにつれて大きくなります。ログには、**HPCA** サービスの動作中に使用されるものもあります。これらのアクティブなログ ファイルを削除しないでください。履歴ログ ファイルは必要に応じてアーカイブしたり削除したりできます。

ログファイルは、**HPCA Core Console** の [サポート] ページの [インフラストラクチャ管理] 領域にある [操作] タブを使用してダウンロードできます。

エージェント配布の問題

次の表は、エージェント配布ジョブの一般的なエラーメッセージおよび問題を解決するための手順を示しています。

表 23 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティング

メッセージ	トラブルシューティングの手順
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由: device にユーザー user として接続するのに失敗しました。コード: No network provider accepted the given network path	HPCA Server では、エージェントインストールメディアをコピーするため、管理共有が作成されます。Windows ファイアウォールなどの個人用のファイアウォールが、この共有をブロックする場合があります。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、3463 番ポートおよびファイルとプリンタ共有サービスが追加されていることを確認します。 ローカルに定義された管理者に対しては、Windows Vista デバイスの管理共有 (C\$) へのアクセスは無効にされています。このため、Windows Vista デバイスはドメインの一部である必要があります。そのドメインの管理者の認証情報は、HPCA Console による Management Agent の配布の間に指定する必要があります。デバイスがドメインの一部でない場合、その他の手順ではローカルの管理者にアクセスを許可する必要があります。詳細な手順については、次の Microsoft サポート技術情報の記事を参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/947232/en-us これらの変更が終了したら、デバイスを再起動します。
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由: device にユーザー user として接続するのに失敗しました。コード: Logon failure: unknown user name or bad password.	エージェント配布ウィザードの間に使用されたログイン認証情報が正しく、ユーザー ID がそのデバイスの管理特権を持っていることを確認します。パスワードは必ず入力してください。Windows XP デバイスでは、簡易ファイルの共有が無効になっていることを確認します。
HPCA Management Agent のインストールに失敗しました。理由: device にユーザー user として接続するのに失敗しました。コード: Logon failure: unknown user name or bad password.	エージェント配布ウィザードの間に使用されたログイン認証情報が正しく、ユーザー ID がそのデバイスの管理特権を持っていることを確認します。パスワードは必ず入力してください。Windows XP デバイスでは、簡易ファイルの共有が無効になっていることを確認します。

表 23 エージェント配布ジョブのメッセージとトラブルシューティング

メッセージ	トラブルシューティングの手順
Connection timed out	HPCA Server は、エージェントをデバイスに配布した後、3463 番ポートを使用して、そのデバイスへの TCP 接続を確立します。このポートが個人用のファイアウォールでブロックされていると、HPCA はデバイスを管理できません。管理対象デバイスのファイアウォール除外リストに、3463 番ポートおよびファイルとプリンタ共有サービスが追加されていることを確認します。
Timeout waiting for rma to register	エージェントは、デバイスにインストールされた後、3466 番ポートを使用して HPCA Server に登録されます。このポートが HPCA Server でファイアウォールによりブロックされていると、HPCA はデバイスを管理できません HPCA Server のファイアウォール除外リストに、3466 番ポートが追加されていることを確認します。

OS 配布の問題

この章では、オペレーティング システム イメージの配布中に遭遇する一般的な問題について説明します。

TFTP サーバーが起動後にシャットダウンする

- 同じコンピュータで他の TFTP サーバーが動作していないことを確認します。

PXE がサブネットを横断できない

- PXE がサブネットを自由に移動するには、DHCP ヘルパーが有効である必要があります。DHCP ヘルパーは、DHCP ポートでのブロードキャスト トラフィックの横断を許可します。通常、ブロードキャストはルーターではオフになっています。

Application Self-Service Manager の問題

このセクションでは、HP Client Automation Application Self-service Manager (ASM) のよくある問題および問題を解決する手順を説明します。

アプリケーションのインストールが失敗し、カタログにはインストールされたと表示される

問題

インストール プログラムが失敗時にゼロを返すと、カタログには、アプリケーションがインストールされたと表示される場合があります。

対処法

ASD は、インストールが成功したかどうかを検出するのに、リターン コードを信頼しています。ASM が失敗を検出するには、インストールはゼロ以外のコードを返す必要があります。

このためには、インストールをコマンド ファイルにラッピングし、正しいコードを返すことでプロセスが成功したかどうかを確認するロジックを使用します。

電源管理の問題

このセクションでは、HPCA の電源管理機能に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

デバイスが HPCA Server からの電源コマンドに応答しない

管理対象デバイスが、HPCA Server からの電源オン コマンドに応答しない場合、ルーターやスイッチなどのネットワーク デバイスの設定に問題があることがあります。

- **Wake on LAN** サポートについて、HPCA Server から管理対象デバイスへのネットワーク パスをテストします。ネットワーク デバイスにリモートの電源オン コマンドを送信するためのサードパーティ製ツールが、いくつかあります。インターネットで「Wake on Lan ツール」を検索すると、この機能をテストするための無料のツールが見つかります。

パッチ管理の問題

このセクションでは、パッチ管理に関連するタスクの問題と対処法を説明しています。

パッチ配布時のエラー

ターゲット デバイスへのパッチの配布時にエラーが発生する場合 (WUA Install Result Code 3 HRESULT \$hresult などのエラー メッセージが表示されます)、パッチの更新を受け取るターゲット デバイスに適切なバージョンの **Windows** インストーラがインストールされているかを確認します。

サポートされている最低限のバージョンに関する詳細については、**95** ページの [パッチ管理](#) を参照してください。

HPCA Server のトラブルシューティング

次のセクションでは、**HPCA Server** に関する問題のトラブルシューティングについて説明します。

- [HPCA Core コンポーネントのトラブルシューティング](#) 276 ページ

HPCA Core コンポーネントのトラブルシューティング

次のセクションでは、**Core Server** のコンポーネントに関連する問題のトラブルシューティングについて説明します。

- [HPCA Cpre の設定ファイル](#) 276 ページ
- [HPCA Core のログ ファイル](#) 279 ページ

HPCA Cpre の設定ファイル

Core Server のインストールでは、さまざまな **Core Server** コンポーネントのデフォルト値が設定されます。これらの値は変更する必要がありませんが、一部の値は **Core Console** で変更できます。次の表では、トラブルシューティングに必要な場合または **HP** テクニカル サポートからリクエストされた場合に備えて、設定ファイルの場所と名前を一覧表示します。

Core Server の製品設定ファイルへのデフォルトのパスは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\xxxxxx です。Core のインストール中に異なるパスを指定した場合、そのパスに従ってください。xxxxxx の値は、次の表の場所カラムの値で置き換えます。

表 24 HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\...)
HPCA コンソール	Apache Server	ApacheServer\apps\console\etc\service.cfg
	Apache Server	ApacheServer\apps\console\etc\proxy.cfg
	Sessionmanager	tomcat\webapps\sessionmanager\WEB-INF\sessionmanager.properties
	Sessionmanager	tomcat\webapps\sessionmanager\WEB-INF\classes\log4j.properties
Configuration Server		ConfigurationServer\bin\edmprof.dat
Distributed Configuration Server	Integration Server	DistributedCS\etc\HPCA-DCS.rc
	product	DistributedCS\etc\dcs.cfg
Messaging Server		MessagingServer\etc\core.dda.cfg
		MessagingServer\etc\patch.dda.cfg
		MessagingServer\etc\rms.cfg
		MessagingServer\etc\usage.dd.acfg
OS Manager Server		OSManagerServer\etc\HPCA-OSM.rc
		OSManagerServer\etc\roms.cfg
		OSManagerServer\etc\roms_upd.cfg

表 24 HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\...)
Patch Manager		PatchManager\etc\HPCA-PATCH.rc
		PatchManager\etc\patch.cfg
Policy Server		PolicyServer\etc\HPCA-PM.rc
		PolicyServer\etc\pm.cfg
Portal	Integration Server	ManagementPortal\etc\HPCA-RMP.rc
	product	ManagementPortal\etc\rmp.cfg
		ManagementPortal\etc\romad.cfg
	OpenLDAP	DirectoryService\openldap
Reporting Server		ReportingServer\etc\cba.cfg
		ReportingServer\etc\ccm.cfg
		ReportingServer \etc\ed.cfg
		ReportingServer\etc\rim.cfg
		ReportingServer\etc\rm.cfg
		ReportingServer\etc\rpm.cfg
		ReportingServer\etc\rrs.cfg
		ReportingServer\etc\rum.cfg
		ReportingServer\etc\scm.cfg
		ReportingServer\etc\vm.cfg
シンクライアント		TC\etc\HPCA-TC.rc
		TC\etc\rmms.cfg

表 24 HPCA Cpre の設定ファイル

HPCA 製品	設定ファイルのタイプ	場所とファイル名 (C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\...)
Tomcat	Enterprise Manager	tomcat\webapps\em\WEB-INF\Console.properties
	Enterprise Manager	tomcat\webapps\em\WEB-INF\classes\log4j.properties
	OPE	tomcat\webapps\ope\WEB-INF\classes\log4j.properties (ログ レベル)
	VMS	tomcat\webapps\vms\WEB-INF\classes\log4j.properties (ログ レベル)

HPCA Core のログ ファイル

Core Server に問題があり、トラブルシューティングのためにそのログ ファイルにアクセスする必要がある場合、Core Console ではすべてのログ ファイルに即座にアクセスできます。

Core Server のログ ファイルを生成するには

- 1 Core Console の [操作] タブで、[サポート] をクリックします。
- 2 [トラブルシューティング] 領域で、[現在のサーバー ログ ファイルをダウンロード] をクリックします。
- 3 WinZip ファイルを開くと、ファイルが展開され、保存されます。

ファイルのすべての内容を理解する必要はありませんが、次の場合のためにこれらのファイルのアクセス方法および表示方法は知っておく必要があります。

- HP サポートにログ ファイルを提出する。
- 「**severe**」ラベルが付与されたエントリを確認する。

ブラウザの問題

次のトラブルシューティングのヒントは、ブラウザで発生する問題に関するものです。

- **F5** キーを使用してページをリフレッシュできない **280** ページ
- **Internet Explorer 6** と **SSL** を使用して **HTTP 1.1** を有効化できない **280** ページ

F5 キーを使用してページをリフレッシュできない

HPCA Enterprise Console の使用時に **F5** ファンクション キーを押すと、起動画面が短く表示され、最後に表示されていたダッシュボード ページに戻ります。現在表示されているページをリフレッシュできません。

解決策：

現在表示されているページをリフレッシュするには、ページ内の  (リフレッシュ) ボタンを使用します。

Internet Explorer 6 と SSL を使用して HTTP 1.1 を有効化できない

HTTP 1.1 が有効な場合、**SSL** が有効である **Internet Explorer 6** を使用して **HPCA Enterprise Console** を実行できません。これは、**Internet Explorer 6** の制限事項です。

解決策：

Internet Explorer 6 で次の手順を実行します。

- 1 **[ツール]**→**[インターネットオプション]**の順にクリックします。
- 2 **[詳細設定]** タブをクリックします。
- 3 画面を下にスクロールして **[HTTP 1.1 設定]** を表示します。
- 4 **[HTTP1.1 を使用する]** チェック ボックスをオフにします。

次に、**Internet Explorer** を閉じて、新しいブラウザ ウィンドウを開きます。現在の **Internet Explorer** のウィンドウをリフレッシュしただけでは問題は解決しません。

代替解決策：**Internet Explorer 7** にアップグレードします。

リモート制御を使用するとブラウザでエラーが発生する

HPCA Enterprise Console から VNC またはリモート アシスタンスのリモート制御機能を開始すると、次のメッセージが表示される場合があります。

Several Java Virtual Machines running in the same process caused an error

この問題は、Java ブラウザ プラグインの既知の欠陥が原因である可能性があります。詳細については、http://bugs.sun.com/view_bug.do?bug_id=6516270 を参照してください。

解決策：

このメッセージが表示された場合、ブラウザで使用している **Java Runtime Environment (JRE)** を、**JRE version 6 update 10** (またはそれ以降) にアップグレードします。

ダッシュボードの問題

次のトラブルシューティングのヒントは、HPCA ダッシュボードで発生する問題に関するものです。

- [ダッシュボード レイアウト設定の削除 282 ページ](#)
- [ダッシュボード ペインのロード状態が終了しない 282 ページ](#)
- [RSS クエリに失敗する 283 ページ](#)

ダッシュボード レイアウト設定の削除

ダッシュボードのレイアウト セッションは、使用しているコンピュータのローカル共有オブジェクト (ブラウザの **cookie** など) として格納されます。現在の設定を削除するには、**Adobe Website Storage Settings Panel** を使用して、**Flash** アプリケーションのローカル ストレージ設定を管理する必要があります。詳細については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.macromedia.com/support/documentation/en/flashplayer/help/settings_manager07.html

ダッシュボード ペインのロード状態が終了しない

HPCA Enterprise Console が 次の両方の製品がインストールされているシステムでその **Reporting Server** がホストされている場合、一部のダッシュボード ペインでは、結果が何も返されないままロード状態がずっと続く場合があります。

- **Microsoft SQL Server (Service Pack 2 が適用済み)**
- **Oracle ODBC クライアント ソフトウェア**

次のバージョンの **Microsoft SQL Server** と **Oracle** クライアントは、同一のシステムにインストールされた場合、**Reporting** と競合することが知られています。

Oracle ODBC Driver Version 10.2.0.1.0

Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 2 (2005.90.3042)

原因がこの問題であることを検証するには

- 1 [コントロールパネル]の[管理ツール]で[イベント ビューア]を開きます。
- 2 左ナビゲーション ペインで [**システム**] を選択します。

- 3 [ソース]カラムが Application Popup になっているイベントを探します。
- 4 イベントに次の説明がある場合、次のエラーが発生していると考えられます。
Application popup: nvdkit.exe - Application Error: ...

解決策：

これらの両方のプログラムを、HPCA Enterprise Console をホストしているシステム上にインストールしないでください。

RSS クエリに失敗する

HPCA ダッシュボード ペインが、コンテンツを提供する RSS フィードに接続できない場合、ペインに次のエラー メッセージが表示されます。

RSS フィード {URL for RSS feed} への接続に失敗しました。HPC Enterprise Manager のプロキシ サーバーが正しく設定され、RSS フィードの購読が正しく設定され、RSS フィードにアクセスが可能か確認してください。

発生した接続の失敗のタイプを判別するには、ダッシュボード ペインの左下隅にある **RSS クエリに失敗しました** というメッセージの上にマウスを置きます。ツールチップに次のいずれかのメッセージが表示されます。

表 25 考えられる RSS フィードの失敗のタイプ

障害の原因	表示されるテキスト
プロキシが設定されていない	リフレッシュ処理中のエラー：接続タイムアウト：接続
Live Network のパスワードが無効	リフレッシュ処理中のエラー：無効な応答：ログイン失敗
フィードに登録していない	リフレッシュ処理中のエラー：ライン -1 のエラー：ファイルの終わりが早すぎます

解決策：

次を確認してください。

- 1 RSS フィードの URL が正しいことを確認する

- 2 RSS フィード サイトにアクセスできる。RSS フィード サイトの URL をブラウザに張り付けて確認します。
- 3 HPCA Enterprise Console のプロキシ設定が正しく指定されている。
- 4 必要に応じて RSS フィードに登録している。フィードに登録するには、エラーメッセージに表示されている URL をクリックします。

その他の問題

次のトラブルシューティングのヒントは、前述の各トピックで解決できない問題に関するものです。

- レポートを開けない 284 ページ
- 追加のパラメータが HPCA ジョブのウィザードで無視される 285 ページ
- 仮想マシンが起動しない 286 ページ
- クエリが限界に達しました 286 ページ

レポートを開けない

このトピックでは、次の問題に対処します。

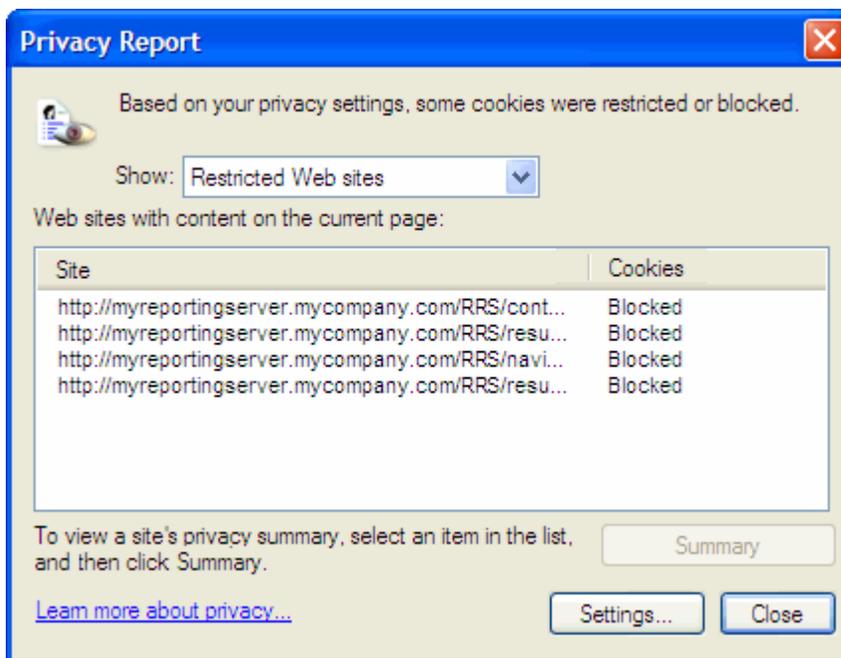
- 1 ダッシュボード ペインの  アイコンをクリックして関連レポートを開く。
- 2 リクエストしたレポートが開かない。
- 3 代わりに [Reporting] ホーム ページが表示されます。

これは、特定の URL がブラウザでブロックされたために発生します。使用しているブラウザのセキュリティ レベルを高く設定している場合、レポートの URL がブロックされることがあります。特定のレポートの URL がブロックされると、Reporting のデフォルトの動作として、ホーム ページが表示されます。

この動作は、Windows 2003 Server プラットフォーム上の Internet Explorer 6 および 7 で最も多く見られます。また、すべてのサポート対象プラットフォームでも発生する可能性があります。

解決策：

- 1 ブロックされた URL のリストを開きます。
たとえば、Internet Explorer 7 では、ブラウザの下側のバーに表示された赤い丸印が付いた目の形のアイコンをクリックします。
次のようなダイアログが表示されます。



- 2 ブラウザのプライバシー設定を使用して、表示するレポートの URL を、cookie の使用が許可されるサイトの一覧に追加します。

追加のパラメータが HPCA ジョブのウィザードで無視される

HPCA ジョブ作成ウィザードの使用時に「追加のパラメータ」を指定する場合、次の形式に従う必要があります。

option=value

この形式を使用しない場合は、追加のパラメータは無視されます。確認ページ（ウィザードの最後のページ）で、追加のパラメータがコマンドラインに含まれていることを必ず確認してください。

仮想マシンが起動しない

ESX バージョン 3.5 Update 2 (ビルド番号 103908) のライセンスの欠陥により、特定の日付以降に仮想マシンが起動できなくなります。

このビルドの ESX を実行している場合に HPCA Enterprise Console から仮想マシンを起動しようとする、次のようなエラーメッセージがコンソールに表示されます。

結果：「マシン '<マシン名 >' の起動に失敗しました」

詳細：「次のタスクの実行時にメソッドのエラーを受信しました

haTask-##-vim.VirtualMachine.powerOn-#####: 一般的なシステム エラーが発生しました： 内部エラー。」

解決策：

ESX バージョン 3.5 Update 2 build 110268 (またはそれ以降) をインストールしてください。

詳細については、この更新に関する VMware の次のリリース ノートを参照してください。

http://www.vmware.com/support/vi3/doc/vi3_esx35u2_vc25u2_rel_notes.html

クエリが限界に達しました

デフォルトでは、Active Directory オブジェクトの最初の 1000 件のメンバーのみが HPCA Enterprise Console に表示されます。1000 件を超えるメンバーを持つ Active Directory オブジェクトを参照しようとする、と、「クエリが限界に達しました」というエラーメッセージが表示されます。

推奨される解決策：

検索機能を使用して、表示されるメンバーを微調整してください。

代替解決策：

HPCA 管理者は、HPCA Enterprise Console の Console.properties ファイルで directory_object_query_limit を指定できます。このファイルは次のディレクトリに格納されています。

<tomcatDir>\webapps\em\web-inf\Console.properties

<tomcatDir> のデフォルト値は次のとおりです。

C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\tomcat

Console.properties ファイルを変更した後は、必ず **HPCA** サービスを再起動してください。



directory_object_query_limit プロパティを変更すると、**HPCA Enterprise Console** のパフォーマンスに悪影響を与える場合があります。

A HPCA Core Server と HPCA Satellite Server での SSL 設定

HPCA Console で設定可能な SSL 設定値の使用方法を十分に理解するには、SSL のさまざまな「構成要素」およびその機能について理解することが重要です。この付録では、HPCA 環境との関連を含めた SSL の概要を示します。詳細は、次のセクションを参照してください。

- [SSL の構成要素 289 ページ](#)
- [HPCA 環境での SSL 290 ページ](#)
- [Console の SSL 証明書フィールド 291 ページ](#)

詳細については、『HP Client Automation SSL 実装ガイド』を参照してください。

SSL の構成要素

次の構成要素の概要については、『HP Client Automation SSL 実装ガイド』の第 1 章を参照してください。

- 証明書
- 認証局
- 証明書の生成
- プライベートキー ファイル
- パブリックキー ファイル

HPCA 環境での SSL

SSL では、ID を確認し、セキュアな通信を実現するための共有**暗号鍵**を確立するために、**デジタル証明書**を使用します。SSL の使用方法は、インフラストラクチャ コンポーネント間の通信方法に応じて異なります。このセクションでは、SSL を有効にすべき 2 つの主な例と、それぞれの例における SSL の役割について説明します。



SSL 認証局、SSL 証明書、および SSL 証明書の生成の詳細については、『HP Client Automation SSL 実装ガイド』の第 1 章を参照してください。

リモート サービスへの SSL 通信のサポート

Core Server と Satellite Server の間の通信をセキュアにする必要がないと想定される場合、それらのサーバー間の SSL 接続は不要です。ただし、Core Server または Satellite Server が、外部サーバー（ベンダーの Web サイトをホストするサーバーなど）、他の HPCA Server、および Active Directory と通信する場合には、セキュアな通信 (LDAPS) が必要です。

これら他のサーバーが主張するとおりの「サーバー」であることを信頼できるようにするため、Core または Satellite は、各サーバーの**パブリックな証明書**または発行**認証局 (CA)** の署名を取得する必要があります。Core または Satellite では、認証局から取得した **CA 証明書ファイル** も必要であり、他のサーバーでそれを入手できるようにして、Core または Satellite からのメッセージを復号化できるようにする必要があります。(Core および Satellite のインストールには、ほとんどの環境に適しているデフォルトの信頼された認証機関 `ca-bundle.crt` のセットが含まれています)。

コンシューマへのセキュアな通信サービスの提供

Core Server と Satellite Server の間の通信をセキュアにする必要がある環境を想定します。この場合、Core はサーバーの役割を持ち、Satellite と共有可能なパブリック証明書が必要になります。Core Server のパブリック証明書には、そのパブリック キー、サーバー名、および (サーバーの ID を証明する) 認証局からの署名が含まれています。

- **パブリック証明書 (サーバー証明書)** は、自分を信頼してもらいたいユーザーすべてに与えることができます。

さらに、各 **Satellite Server** は「クライアント」の役割を持ち、**Satellite** と **Core** の間でメッセージの暗号化と復号化を実行できるように独自の証明書セットが必要になります。証明書は、その **Satellite** を証明するもので、**Core** がその **Satellite** を識別できるようにします。

個々の **Core** と **Satellite** は、メッセージを復号化するために独自のプライベートキーも必要になります。

- **プライベート証明書 (プライベート キー)** は、非公開の状態を維持し、一切共有しないでください。

Console の SSL 証明書フィールド

HPCA Console の [設定] タブの [インフラストラクチャ管理] 領域には、**SSL サーバー** および **SSL クライアント** という 2 つの SSL 証明書領域があります。このセクションでは、2 つの領域の違いとそれぞれの領域の必要性について説明します。HPCA の SSL セットアップを完了するには、この付録の情報を確認してから、152 ページの **インフラストラクチャ管理** を参照してください。

- ▶ **SSL 証明書、SSL 認証局、および SSL 証明書の生成の詳細については、『HP Client Automation SSL 実装ガイド』の第 1 章を参照してください。**

SSL サーバー

パネルのこの領域を使用して、**SSL** を有効にし、**HPCA Server** のプライベートキー ファイル (`server.key`) とサーバー証明書ファイル (`server.crt`) をアップロードして保存します。これらのファイルは、(組織内で) 自己生成されたか、認証局から取得されたものです。これらのファイルの入手方法については、システム管理者にお尋ねください。

- プライベート キー ファイルは、対応するパブリック キーによってセキュアにされたメッセージを復号化するために必要です。
- サーバー証明書ファイルは、**SSL** が有効になっているサーバーがこのホストを識別できるようにするために必要です。

ファイルがアップロードされると (場所を指定して [保存] をクリックすると)、これらのファイルは次の場所に保存されます。

```
C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ApacheServer\conf\ssl
```

デフォルトでは、これらのファイルは上記の名前で保存されますが、ファイル名はカスタマイズできます。

SSL クライアント

パネルのこの領域を使用して、**HPCA Server** の **CA** 証明書ファイル (ca-bundle.crt) をアップロードして保存します。このファイルには、ほとんどの環境で十分な権限を持つ信頼された認証機関のデフォルトのセットが含まれており、**HPCA Server** が **LDAPS** または **HTTPS** のいずれかを介して別のサーバーと通信する場合にのみ必要になります。



認証局から組織に取得された既存の **CA** 証明書ファイルを使用することが可能です。このファイルを入手する必要がある場合は、システム管理者にお尋ねください。

- **CA** 証明書ファイルには、信頼された認証局の署名入り証明書が含まれており、着信クライアントが「信頼できる」ものであることを確認するために必要です。

ファイルがアップロードされると (場所を指定して **[保存]** をクリックすると)、そのファイルは次の場所に保存されます。

C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ApacheServer\conf\ssl.crt
に配置されます。

デフォルトでは、このファイルは上記の名前で保存されますが、ファイル名はカスタマイズできます。

B 2 バイト文字のサポートについて

このセクションでは、サービス オペレーティング システム (SOS) のロケールを設定する、設定の変更を説明します。詳細は、次のセクションを参照してください。

 **Image Preparation Wizard** を使用してイメージを作成するときには、参照マシンとターゲット マシンのロケールが一致する必要があります。たとえば、簡体中国語の OS イメージを作成する場合は、簡体中国語の参照マシンで **Image Preparation Wizard** を実行する必要があります。

- サポートされる言語 293 ページ
- ロケールの変更 294 ページ

 2 バイト文字が必要でない場合は、以下の変更を行わないでください。

サポートされる言語

293 ページの表 26 に、サポートされる言語と有効な言語コードの一覧を示します。

表 26 サポートされる言語とコード

言語	言語コード
韓国語	ko_KR
英語	ja
日本語	ja_JP
中国語 (簡体字)	zh_CN

ロケールの変更

PXE 環境でサポートされている言語にサポートを追加するには

- 1 テキスト エディタを使用して
\は次のように表示されます。

```
DEFAULT bzImage
```

```
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1  
ISVRPORT=3466
```

- 2 **LANG** パラメータを APPEND 行の最後に追加し、有効な言語コードを指定しま
す (293 ページの表 26 を参照)。

結果として、言語が日本語に設定された、次の例のようなファイルが作成さ
れます。

```
DEFAULT bzImage
```

```
APPEND initrd=rootfs.gz root=/dev/ram0 rw ISVR=10.10.10.1  
ISVRPORT=3466 LANG=ja_JA
```

- 3 **default** ファイルを保存して閉じます。

サービス CD-ROM から復元するときにサポートされている言語にサポートを追
加するには

- romsinfo.ini ファイルの **ServiceCD** セクションにある **LANG=xx_XX** を指
定します。

サポートされる言語と有効な言語コードの一覧については、293 ページの表 26
を参照してください。

- romsinfo.ini ファイルは、サービス CD iso の一部です。

Sysprep ファイルの 2 バイト文字サポート

Sysprep で 2 バイト文字サポートを使用する場合は、ファイルを **UTF-8** でエン
コードする必要があります。

索引

A

advanced programmable interrupt controller、APIC 参照
Agent Explorer, 222
APIC, 110
Application Self-service Manager
 ユーザー インターフェイス
 情報の表示, 230
 ソフトウェアの削除, 231
 アクセス, 224
 ユーザー インターフェイス, 223
 カタログのリフレッシュ, 230
 カタログ リスト, 227
 グローバル ツールバー, 226
 サービス リスト, 227
 ソフトウェアのインストール, 229
 メニュー バー, 226
Application Self-service Manager 用のユーザー インターフェイス, 223
[Avis] カラム, 238

C

ca-bundle.crt, 290, 292
CCM_PUBLISHER, 86
CCM_TPM_ENABLEMENT, 86
CMI, 設定, 165

CSV にエクスポート, 55, 74, 87, 99, 106, 121, 156, 163

E

Embedded Linux, 111, 208

H

HAL, 110
Hardware Abstraction Layer、HAL 参照
HPCA Agent
 インストール
 Windows CE, 68
 Windows XPE, 67
 削除
 Windows XPE, 68
HPCA Agent ID, 132
HPCA Application Self-Service Manager
 ユーザー インターフェイス
 ソフトウェアの検証, 232
 ソフトウェアの修復, 232
HPCA System Tray アイコン, 241
HPCAS コンソールへのアクセス, 260
[HPCA ステータス] ウィンドウ, 242
[HPCA ステータス] ウィンドウの情報パネル, 242
HPCA 操作ダッシュボード, 設定, 177

HP Client Automation Administrator
Publisher, 86

HP SoftPaq のパブリッシュ, 214

HP SoftPaq、パブリッシュ, 214

HP インスタント サポート, 170

HP ハードウェア レポート, 133

HTTPS, 292

I

ImageName.EDM, 203, 206, 209

Image Preparation Wizard
使用, 203, 207, 210

J

Job Status, 122

L

LDAPS, 290, 292

Location

インフラストラクチャ サーバーへの割り
当て, 164

削除, 164

新規作成, 163

M

Microsoft 自動更新
重要な情報, 96

O

OS イメージ ターゲット デバイス
要件, 109

OS 管理, 105, 175
オペレーティング システム, 106
過去のジョブ, 120
現在のジョブ, 120
全般, 105

[OS のインストール後にクライアント接続を
実行する] チェック ボックス, 204, 211

OS のサービス パック, 264

OS の詳細, 118
グループ, 119
デバイス, 119
プロパティ, 118
レポート, 120
全般, 118

OS 配布ウィザード, 196

P

prepwiz.exe, 203, 207

Publisher
使用, 213

PXE, 112

PXE ブート, 110

R

RDP, 59

runasuser, 88

S

S.M.A.R.T.
設定, 166
有効化, 166

S.M.A.R.T. 警告
レポート, 132

SCSI, 110

Self-Monitoring、Analysis、および
Reporting Technology S.M.A.R.T. を参照

server.crt, 291

server.key, 291

setup.exe, 266

SSL

Active Directory, 290

ca-bundle.crt, 290, 292

HTTPS, 292

LDAPS, 290, 292

server.crt, 291

server.key, 291

サーバー証明書, 290, 291

証明書, 289

証明書の生成, 289

デジタル証明書, 290

認証局, 289

パブリック キー ファイル, 289

パブリック証明書, 290

プライベート キー, 291

プライベート キー ファイル, 289

SSL の設定

Core Console, 291

Satellite Console, 291

SSM, 215

SSM 準拠, 215

T

TPM

設定, 167

TPM Enablement サービス, 86

U

[UI オプション] カラム, 239

[URL] カラム, 240

V

VNC, 59

W

Windows 2003 Server, 20

Windows CE, 111, 205

Windows XPe, 202

Windows XP Embedded, 111

Windows インストーラ パッケージ, 265

Windows リモート デスクトップ, 59

X

XPe, 111

あ

アウトバンド, 172

アクティブなカタログ アイテムを展開, 238

アクティブなサービス アイテムを展開, 238

新しいロケーションの作成, 163

[圧縮後のサイズ] カラム, 238

[アップグレード日] カラム, 239

い

[色のカスタマイズ] オプション, 236

インスタント サポート, 170

インストール

Application Self-Service Manager ユー
ザー インターフェイスを使用したソ
フトウェア, 229

HPCA Agent

Windows CE, 68

Windows XPE, 67

[インストール日] カラム, 239

- インターネット プロキシの検出, 241
- インフラストラクチャ管理, 155
- インフラストラクチャ サーバー
 - サービス キャッシュ, 159
 - サービス キャッシュの同期, 159
- インフラストラクチャ サーバーの削除, 156
- インフラストラクチャ サーバーの追加, 156
- インフラストラクチャ サーバーの同期, 159
- インフラストラクチャ サービス, 156
- インフラストラクチャ サービスの削除, 157
- インフラストラクチャ サービスの配布, 156
- インベントリ
 - 探索, 58
 - デバイスのグループに対する探索, 77
- インベントリ管理レポート, 132
- インベントリの収集, 75
- インベントリのスケジュール設定, 261
- インベントリの表示, 262
- インベントリの収集, 56
- インポート
 - サービス, 100, 114
 - デバイス, 57

う

- ウィザード, 181
 - OS 配布, 196
 - エージェント削除, 184
 - エージェント配布, 183
 - グループ作成, 188
 - サービス インポート, 192
 - サービス エクスポート, 192
 - ソフトウェア/ハードウェア インベントリ, 185
 - ソフトウェア エンタイトルメント, 195
 - ソフトウェア同期, 193
 - ソフトウェアの削除, 195
 - ソフトウェアの配布, 191
 - デバイスのインポート, 182
- 電源管理, 187
- パッチの適用状況探索, 186
- パッチ配布, 194

え

- エージェント削除ウィザード, 184
- エージェント配布
 - ウィザード, 183
 - サイレント インストール, 184
- エクスポート
 - サービス, 115
- [エラー コード] カラム, 238
- エラーで終了, 122
- エンタイトルメント設定
 - ソフトウェア, 26
 - パッチ, 26, 83

お

- [オーナー カタログ] カラム, 239

か

[価格] カラム , 239

拡張情報を表示 , 230

過去のジョブ

OS 管理 , 120

グループ管理 , 84

ジョブ管理 , 125

ソフトウェア管理 , 93

デバイス管理 , 64

パッチ管理 , 104

仮想カタログ , 227

カタログ

仮想 , 227

選択 , 227

リフレッシュ , 226

カタログのリフレッシュ , 226

カタログ リスト , 227

管理

オペレーティング システム , 105

グループ , 72

ジョブ (job.ckpt) , 120, 121

ソフトウェア , 85

デバイス , 50

パッチ , 95

管理エージェント

グループへの配布 , 76

削除 , 58

デバイスのグループからの削除 , 77

配布 , 23, 53, 57

管理エージェントの削除 , 55, 74

管理エージェントの配布 , 55, 74

管理対象デバイスのインポート , 55

き

休止状態 , 122

く

クイック スタート タスク , 20

グリッド線を表示 , 238

グループ

削除 , 78

スタティック , 73

タイプ , 73

追加

ソフトウェア エンタイトルメント ,
81

パッチ エンタイトルメント , 83

内部 , 73

レポート , 73

ソフトウェアの配布 , 82

作成 , 76

削除

ソフトウェア , 82

ソフトウェア エンタイトルメント ,
81

パッチ エンタイトルメント , 83

探索 , 73

グループ エンタイトルメントの追加 , 100,
114

グループ管理 , 72

グループ , 74

過去のジョブ , 84

現在のジョブ , 84

全般 , 72

グループ作成ウィザード , 188

グループ タイプ , 79

グループの作成 , 25

グループの詳細, 79
os, 80
ソフトウェア, 80
デバイス, 79
パッチ, 80
プロパティ, 79
レポート, 80
現在のジョブ, 80
全般, 79

[グループの詳細] ウィンドウ、タスク, 81
グローバル ツールバー, 226

け

[警告メッセージ] カラム, 238

現在のジョブ

OS 管理, 120
グループ管理, 84
ジョブ管理, 121
ソフトウェア管理, 93
デバイス管理, 64
パッチ管理, 103

[検証日] カラム, 240

こ

小型コンピュータ システム インターフェイス、SCSI 参照

コンソールへのアクセス, 148

コンソール ユーザー

削除, 151
作成, 149
詳細の表示および変更, 150

さ

[サーバーの詳細] ウィンドウ, 159, 160, 161

サービス
インポート, 100, 114
エクスポート, 101, 115

サービス CD, 113

サービス インポート ウィザード, 192

サービス エクスポート ウィザード, 192

サービス エンタイトルメント ウィザード,
195

サービスのインポート, 89

サービスのエクスポート, 89, 101

サービス リスト, 227

オプション, 237
カラムの削除, 238
カラムの追加, 238

サービス リストへのカラムの追加, 238

[再起動] カラム, 239

[サイズ] カラム, 239

[再パブリッシュ日] カラム, 239

削除

HPCA Agent

Windows XPE, 68

サービス リストのカラム, 238

ソフトウェア, 82, 231

パッチ エンタイトルメント, 83

ライブラリからオペレーティング システム,
115

作成

グループ, 76

スタティック グループ, 188

ダイナミック ディスカバリ グループ,
189

ダイナミック レポート グループ, 137,
190

作成しています
新しいロケーション, 163

[作成者]カラム, 238

サポート, 147

し

システムトレイ
アイドル状態, 241
アクティブ状態, 241

システムトレイのアイドル状態, 241

システムトレイのアクティブ状態, 241

[システムの色を使用]オプション, 236

[システムのインストール]カラム, 239

システム要件
HPCA Core
ターゲットデバイス, 50
HPCA Satellite
ターゲットデバイス, 50
ターゲットデバイス, 109

自動更新, 96

手動入力, 182

[使用可能なカラム]リストボックス, 238

詳細なオペレーションを表示, 238

詳細プロパティ, 63

ジョブ管理, 120
過去のジョブ, 125
現在のジョブ, 121
全般, 121

ジョブコントロール, 121

ジョブの一時停止, 121

ジョブの開始, 121

ジョブの再開, 121

ジョブの削除, 122

ジョブの詳細, 124

サービス, 125

ターゲット, 125

詳細, 125

ジョブのスケジュール再設定, 122

ジョブの停止, 122

シンクライアント, 111
イメージの準備と取得, 201
出荷時 OS イメージの配布, 111
要件, 50

す

スケジュール, 設定, 23

[スケジュールを許可]カラム, 239

スタティックグループ, 79
作成, 188
デバイスの追加, 81
デバイスを削除, 81

[ステータス]ウィンドウ
ドッキング, 234
ボタンバー, 242
情報パネル, 242
ステータスメッセージ領域, 243
ステータス領域, 242
ドッキング解除, 234
バンド幅設定, 243

[ステータス]ウィンドウのボタンバー, 242

[ステータス]カラム, 239

[ステータス]ボタン, 233

[ステータス]ウィンドウのステータスメッセージ領域, 243

[ステータス]ウィンドウのステータス領域, 242

[ステータス] ウィンドウのドッキング解除, 234

[ステータス] ウィンドウのバンド幅設定, 243

スロットリング, 240
トラフィックに適応, 241
バンド幅, 241

[スロットリングタイプ] カラム, 239

せ

生成: レポート, 27

接続オプション, 240

設定

CMI, 165

S.M.A.R.T., 166

TPM, 167

スケジュール, 23

OS 配布モード, 176

パッチ取得

スケジュール, 170

設定, 170

設定ファイル, 276

[設定] ボタン, 226

[説明] カラム, 238

前回の同期, 159

前回ログオンユーザー, 63

選択されたインフラストラクチャ サーバーの
サービス キャッシュの同期, 157

全デバイス, 73
group, 109

そ

ソフトウェア

エンタイトルメント設定, 26

グループ エンタイトルメントの追加, 88

検証, 232

削除, 231

修復, 232

配布, 26

パブリッシュ, 24, 218

ソフトウェア/ハードウェア インベントリ
ウィザード, 185

ソフトウェア インベントリ、探索, 58

ソフトウェア管理, 85

ソフトウェア, 86

過去のジョブ, 93

現在のジョブ, 93

全般, 85

ソフトウェア削除ウィザード, 195

ソフトウェアの検証, 232

ソフトウェアの削除, 90

ソフトウェアの修復, 232

ソフトウェアの詳細, 90

グループ, 91

デバイス, 92

プロパティ, 90

レポート, 93

全般, 90

ソフトウェアの同期, 82

ソフトウェア配布ウィザード, 191

た

ターゲット デバイス

定義, 109

ファイアウォール設定, 157

要件, 109

ダイナミック レポート グループ、作成, 137, 190

ダッシュボード, 30

概要, 30

設定, 177

パッチ, 178

HPCA 操作, 177

パッチ管理, 40

ペイン, 30

探索

デバイス, 57

探索グループ, 76

て

データのリフレッシュ, 55, 74, 87, 99, 106, 121, 156, 163

[適応バンド幅] カラム, 238

デバイス

インポート, 22, 53, 57

削除, 61

探索, 57

デバイス管理, 50

過去のジョブ, 64

現在のジョブ, 64

全般, 53

デバイス適用状況レポート, 267

デバイスのインポート, 22

デバイスのグループに対する電源管理, 78

デバイスの削除, 157

デバイスの詳細, 62

os, 63

グループ, 63

ソフトウェア, 63

パッチ, 63

プロパティ, 63

レポート, 64

詳細プロパティ, 63

全般, 62

デバイスの探索, 182

デバイスを削除, 56, 75

電源管理, 56, 60, 75

電源管理ウィザード, 187

と

ドッキングされた [ステータス] ウィンドウ, 234

トラフィックに適応, 241

な

[名前] カラム, 239

は

[バージョン] カラム, 240

バージョン, 260

ハードウェア インベントリ、探索, 58

ハードウェア管理, 165

配布

- オペレーティング システム , 107
- シナリオ、os イメージ , 108
- ソフトウェア , 26, 82, 88, 263
- パッチ , 26, 83, 98, 100
- モード , 108, 196
- PXE を使用する OS イメージ , 112
- 管理エージェント , 23, 53

パッチ

- エンタイトルメント設定 , 26, 83
- エンタイトルメントの削除 , 83
- グループ エンタイトルメントの追加 , 100, 114
- 取得 , 24, 98, 170
- 配布 , 26, 83, 98, 100

パッチ管理 , 95

- パッチ , 99
- 全般 , 98
- 過去のジョブ , 104
- 現在のジョブ , 103
- 設定 , 168

パッチ管理ダッシュボード , 40

- 設定 , 178

パッチ管理レポート , 133

パッチ取得 , 262

パッチ適用状況

- 探索 , 58

パッチ適用状況探索ウィザード , 186

パッチ適用状況探索スケジュール , 263

パッチの取得 , 24, 98, 170

パッチの詳細 , 101

- グループ , 102
- デバイス , 103
- プロパティ , 102
- レポート , 103
- 全般 , 101

パッチ配布ウィザード , 194

パブリッシュ

- OS イメージ , 105
- ソフトウェア , 24, 218

パブリッシュされたサービス , 表示 , 222

[パブリッシュ日]カラム , 239

バンド幅

- スライダ , 233
- スロットリング , 233, 240, 243
- 設定 , 調整 , 233
- 予約 , 241

バンド幅を予約 , 241

ひ

[必須]カラム , 239

表示

- レポート , 27
- Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスでの情報 , 230
- パブリッシュされたサービス , 222

[表示するカラム]リスト ボックス , 238

ふ

ブレード サーバー レポート , 132

プロキシ

- 検出 , 241

へ

ペイン , 30

[ベンダー] カラム , 240

ほ

[ホーム] ボタン , 226

ま

[マイ ソフトウェア] ボタン , 226

め

メニュー バー , 226

ゆ

[ユーザーの詳細] ウィンドウ , 150

よ

[予約済みのバンド幅] カラム , 239

ら

ライセンス キー
更新 , 264

り

リモート制御 , 56, 59

[履歴] ボタン , 232

れ

レポート
生成 , 27
表示 , 27

ろ

ローカル サービスの起動 , 111

[ローカルの修復] カラム , 239

ログ ファイル , 279

ログ ファイル , ダウンロード , 140

ロケーション , 162

ロケーションの削除 , 163

ロケーションの自動作成 (インベントリ データに基づき) , 163

